

## 日本国憲法

大嶽 浩

### 【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の事情や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

### 【授業の目標】

基本的人權の「獲得の歴史」を理解し、人權の「保障の意味」を理解すること。

### 【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 民主主義と人權

初谷良彦

### 【授業の概要】

民主主義の根本原則は人權（人間としての権利）の尊重にある。人權の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人權を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

### 【授業の目標】

政治変動のなかで、民主主義、人權保障などのあり方を基本に立ち返って再考する必要がある。そのためにも、これまで当たり前と思っていた概念が実は複雑な歴史的背景や驚くべき理念をはらんでいることを学ぶ。

### 【授業計画】

- 第1回 民主主義の歴史（ペリクレスからウィルソンまで）
- 第2回 近代民主主義の変容（市民社会から大衆社会へ）
- 第3回 現代民主主義の問題点
- 第4回 国家の正統性について
- 第5回 国家と社会契約の思想
- 第6回 議会制民主主義の歴史
- 第7回 議院内閣制と大統領制
- 第8回 多数決原理と民主主義
- 第9回 民主主義と選挙制度
- 第10回 現代の民主主義体制
- 第11回 人權総論
- 第12回 人間の尊厳と人權
- 第13回 障害者の国務請求権
- 第14回 少数者の人權
- 第15回 平等権

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

概説 デモクラシーと国家（初谷良彦他 成文堂）

### 【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

## 日本国憲法

初谷良彦

### 【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

### 【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることであろう。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかりと学んで欲しいと願っている。

### 【授業計画】

- 第1回 近代国家と憲法
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 人權の歴史
- 第5回 人權の内容・享有主体
- 第6回 人權規定の効力
- 第7回 生命・自由・幸福追求権
- 第8回 法の下での平等
- 第9回 信教の自由と政教分離
- 第10回 表現の自由
- 第11回 人身の自由と刑事手続
- 第12回 国会
- 第13回 内閣
- 第14回 司法制度
- 第15回 地方自治

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

憲法講義 I（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 民主主義と人權

本 秀紀

### 【授業の概要】

日本国憲法は人權と民主主義を保障しているが、その制度と仕組みについて、人權をまろる法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

### 【授業の目標】

「民主主義と人權」をめぐる新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

### 【授業計画】

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目からいくつかを選択する予定だが、そのときのビックリによって変更もありうる（ちなみに2005年度は、「本編」として、性同一性障害、過労死、育児休業、ドメスティック・ヴァイオレンスなどを、「番外編」として、首相の靖国参拝、旧植民地ハンセン病補償訴訟、ピラ配り逮捕と表現の自由、憲法改正問題などを取り上げた）。

- 1 はじめに：「民主主義と人權」って？
- 2 個人の尊重と人權：性同一性障害、同性愛、個人情報保護
- 3 企業社会と人權：過労死、育児休業、労働者差別
- 4 女性と人權：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
- 5 マスメディアと人權：プライバシー侵害、メディア規制立法
- 6 子どもと人權：校則・体罰、少年法、いじめ・児童虐待
- 7 医療と人權：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、代理出産
- 8 外国人と人權：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
- 9 平和と人權・民主主義：米軍再編と自衛隊の海外出動、憲法改正
- 10 ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
- 11 政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、政党法制

### 【評価方法】

学期末の筆記試験を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

### 【参考文献・資料】

テキストブック現代の人權〔第3版〕（川人博編著 日本評論社 2004年）  
ハンドブック国際的ななかの人權問題〔第4版〕（上田正昭編 明石書店 2004年）  
それぞれの人權〔第2版補訂〕（憲法教育研究会編 法律文化社 2005年）  
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

## 哲学的人間論

高畑祐人

### 【授業の概要】

東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

### 【授業の目標】

1. 自然観を考へることがなぜ人間を考へることになるのかを理解し自分の言葉で表現できるようになる。
2. 機械論的自然観と有機体的自然観の違いを理解し自分の言葉で表現できるようにする。

### 【授業計画】

今日の環境問題は、人間と自然の関わり方の問題である。つまり、近代以降、技術の力で自然を自分たちのために利用し破壊し続けて来た結果生じている問題である。自然への関わり方の根底には「自然観」(＝自然の全体的な捉え方)が横たわっている。そうした自然観には人間の生き方が反映されている。したがって、自然との関わり方およびその根底にある自然観を考へ直すことが、人間の善い生き方を考へることにもなるのである。今では近代的・自然科学的な自然観が圧倒的にわれわれの生活を支配しているが、西洋哲学の歴史を紐解けばそれに対立する自然観が脈々と流れていることが分かる。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧し、「自然とのよりよい関わり方＝人間のより善い生き方」の本質的要素を考へてみたい。

1. なぜ自然の哲学か
2. 神話的自然観－ギリシャ神話におけるプロメテウス観の移り変わり
3. ソクラテス以前の自然哲学－タレスからアナクサゴラスまで
4. ソフィストとソクラテス・プラトン
5. アリストテレス
6. デカルト
7. ロマン主義的自然観
8. 進化論的自然観
9. カントの美的自然観

### 【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

西洋哲学史 上・下 (シュヴェーグラー 岩波文庫)  
西洋哲学史 (岩崎武雄 有斐閣)  
哲学の原風景 (荻野弘之 NHKライブラリー)  
野生の歌が聞こえる (レオポルド 講談社学術文庫)  
エマソン論文集 上 (エマソン 岩波文庫)

## ジェンダーと社会 I

國信潤子 星山幸子 佐藤光 林かぐみ 生江明

### 【授業の概要】

この講義は、まずジェンダーとは何かについて解説し、それらが日本社会において、また開発途上国においてどのように現象化しているかを紹介するオムニバス講座である。5名の開発協力の現場で活躍する講師によって日本、トルコ、バングラデシュ、ネパールなどでの現場の開発協力活動を基礎にジェンダー関係の多様性と開発協力におけるジェンダーに敏感な視点とは何かを紹介する。

持続可能な開発、基本的な生活ニーズの確保、参加型開発、地域住民の意識化など、近年の開発論の理論的展開をもとにジェンダー関係の変容を考察する。

### 【授業の目標】

地球規模で格差拡大の見られる先進国と開発途上国の資源分配について考へ、その是正を現場での体験をもとに、ジェンダーに敏感な視点で考へられるようになること。

### 【授業計画】

まず、本講座のコーディネーターである國信(本学教授)がジェンダーとは何か、日本社会におけるジェンダー関係の実態、国際開発におけるジェンダー視点の展開について講じる。次に生江明(日本福祉大学教授)による開発事業の現場からみえる各種統計にみるジェンダー格差の意味を参加型小グループ討議で読み取り、発表、討議する。第三番目の講師は星山幸子(金城学院大学講師)によってトルコ南東部アナトリア地方の綿摘み女性労働者の生活実態とイスラム農村社会にみるジェンダー規範を紹介する。(星山講師は後期のみ) 第四番目の講師はアジア保健研修所(AHI)の佐藤光医師および、林かぐみ研究員によって愛知県日進市にある国際的なNGOであるAHIの活動、つまりアジア諸国で実施されている保健リーダーの参加型学習による医療・保健、ジェンダー平等の促進活動を紹介する。

各講師が3・4回ずつ講義を行うリレー講義である。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

### 【評価方法】

期末のレポート、出席状況、履修態度、感想カード内容などの総合評価による。

### 【テキスト】

資料配布

### 【参考文献・資料】

開発とジェンダー (田中他 国際開発事業団出版刊 2001年)  
ジェンダーと開発論の形成と展開：経済学のジェンダー化の試み (未来社 松村安子著 2005年)

## 現代社会と倫理

大野波矢登

### 【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

### 【授業の目標】

近現代の倫理学の代表的な理論を理解し、現代社会における倫理問題に関する思考能力と表現能力を身につけること。

### 【授業計画】

科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をなすべきかを考へる。具体的には、以下のようなトピックスを1回または2回の授業で順に取り上げていく。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理理論の応用 (道徳的意思決定の方法)
4. 社会の安全性と科学技術者の責任 (クローン技術はどのように応用されるべきか?)
5. 環境倫理学の主張 (自然保護は何をめざしているのか?)
6. インターネット時代の倫理 (知的財産は誰のものか?)
7. 内部告発と社会の浄化 (内部告発は行なうべきか?)

### 【評価方法】

小レポート(3、4回授業時に書いてもらう予定)と期末レポートの成績によって評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座 (新田孝彦著 世界思想社)  
先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境 (加藤尚武著 NHKライブラリー)  
科学技術社会論の技法 (藤垣裕子著 東京大学出版会)

## ジェンダーと社会 II

中島美幸 山下智恵子

### 【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、<女/男>の規範がどのようにテキストにおりこまれていたかを読み解き、さらにテキストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。

(中島美幸兼任講師) 「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師) 現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの観点から検証する。

### 【授業の目標】

文学を始めとして「表現」を分析する能力を高めることで、身近な社会にさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考へる機会とする。

### 【授業計画】

- 第1回 講義の概要
- 第2回 幼い頃に出会った表現
- 第3回 教科書のなかのジェンダー
- 第4回 映画のなかのジェンダー
- 第5回 <ことば>とジェンダー
- 第6回 男性作家のジェンダー
- 第7回 【山下智恵子先生担当】
- 第8回 【山下智恵子先生担当】
- 第9回 表現する女性の困難
- 第10回 『青箱』の女たち
- 第11回 <娘>の表現
- 第12回 <母>の表現
- 第13回 <家族像>を描きなおよす
- 第14回 まとめ

\* 第7回、第8回以外は中島美幸担当。

### 【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

### 【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

## 女性学・男性学

中島美幸

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

### 【授業の目標】

男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

### 【授業計画】

- 第1回 講義概要説明
- 第2回 恋愛と結婚
- 第3回 母になるということ、父になるということ
- 第4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第5回 暴力の根絶
- 第6回 「男らしさ」からの解放
- 第7回 女性と労働
- 第8回 男性と労働
- 第9回 性別分業の歴史と将来
- 第10回 男女をめぐる国際比較
- 第11回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第12回 女性学・男性学の誕生
- 第13回 多様性とエンパワーメント
- 第14回 テスト

### 【評価方法】

毎回の授業の感想と学期末テストで総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

## 大衆文化論

鈴木 互

### 【授業の概要】

大衆に愛され、大衆に浸透した文化について構造的に把握するように試みたい。そのためには、戦後若者世代がどのような動向をしたかを確認する。次いで各世代に共通して見られる「消費」というキーワードを軸に、大衆文化を支える消費社会のあり方を探る。最終的には、21世紀というポスト・モダンの社会でどう生きるかに迫りたい。

### 【授業の目標】

消費社会における戦後若者文化の実態解明を通じて、文化の逆転現象を確認し、人間にとって消費に基づく大衆文化がいかなるものか、その本源に迫りたい。それが今後の各自にとってどういう意味があるかにも触れたい。

### 【授業計画】

- 1 戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
  - 1:1 団塊の世代(1965~1975)
  - 1:2 新人類(1980年代)
  - 1:3 団塊ジュニア(1990年代)
  - 1:4 新人類ジュニア(2005~2015)
- 2 大衆文化を支える消費社会を分析する
  - 2:1 現状認識
  - 2:2 『消費社会の神話と構造』(ボードリヤール)
  - 2:3 人間の本源的な欲求としての消費(G・バタイユ)
- 3 モダンの脱構築=21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

### 【評価方法】

出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を歓迎します。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

## 女性学・男性学

竹信三恵子

### 【授業の概要】

少子化時代に向けて不可欠といわれるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)が、戦後の日本社会でなぜ阻害されてきたのかを、新聞記者としての取材の成果やマスメディアの検証を通じて明らかにし、その実現に向けた方策をさぐる。

### 【授業の目標】

ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要な働き方の仕組みや男女平等のための法制度、男女がともに働いて子育てできる経済・社会構造のあり方を総合的に身につけさせ、両立できる働き方のため個人が将来をどう設計すればいいかを考えさせる。

### 【授業計画】

新聞記事、ビデオを多数使って、以下の4点から戦後の企業社会がワーク・ライフ・バランスを軽視するに至った理由と、その軽視が招いた社会の行き詰まり、今後の企業社会のあるべき方向性を示す。

1. 戦後の日本の経済政策が男女分業に支えられてきた状況とこれを可能にした社会状況~高度経済成長からバブル崩壊まで
2. ワーク・ライフ・バランスヘシフトする海外の変化への日本社会の対応法とその限界~男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワーク・ライフ・バランス」
3. 正社員の減少と成果主義など不安定な働き方の増加と少子化~95年の新日本型経営と雇用不安
4. 仕事と生活を両立できる社会構造の実現~男女が働ける税制と年金制度、福祉・雇用制度とは

### 【評価方法】

出席日数、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

### 【テキスト】

『家事の値段』とは何か(久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年)

### 【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて~新聞女性学入門(田中中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年)、ワークシェアリングの実像~雇用の分配か、分断か(竹信三恵子著 岩波書店 2002年)

## 暮らしの法律

辻田芳幸

### 【授業の概要】

私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大量に儲けた場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品(いわゆるコピー商品)はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

### 【授業の目標】

日常生活がどのような法律問題に関連しているかを分析し、解決の糸口を掴めるようにしたい。

### 【授業計画】

- 第1回 導入(情報社会と知的財産・契約)
- 第2回 特許というシステム
- 第3回 著作権というシステム
- 第4回 Webへの写真掲載と肖像権
- 第5回 インターネット上の名誉毀損
- 第6回 オンラインショッピングと契約法
- 第7回 オンラインショッピングと契約法
- 第8回 インターネット犯罪
- 第9回 著作権ビジネス
- 第10~12回 その他の問題点

### 【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

## 文化人類学

三木 誠

### 【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

### 【授業の目標】

人間の文化の多様性を理解するとともに、文化相対主義的な考え方を身につけ、自文化の客観的な把握と、異文化の正当な理解ができるようにする。

### 【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1. 文化
2. 性別と社会
3. 婚姻と家族
4. 独特の民族文化
5. 宗教と信仰
6. 民族と国家

### 【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

### 【テキスト】

指定せず。

### 【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

## 比較文化論

星山幸子

### 【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

### 【授業の目標】

私たちの生活には、さまざまなモノや考え方にに関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとおして、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

### 【授業計画】

1. 文化と文明
2. 文化の理解
3. 民族と国家と文化
4. ナショナリズムと文化
5. イスラームの文化
6. イスラームとジェンダー
7. トルコの農村の暮らしと文化
8. 南北問題とモノの国際化
9. 食の文化
10. グローバル化とローカル化
11. 異文化交流

### 【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 20%  
期末試験 30%  
期末レポート 50%

### 【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業のなかで参考文献リストを配布する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

## 比較文化論

文 嬉眞

### 【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

### 【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することを目標とする。

### 【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

### 【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

### 【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国際政治論

瀬戸裕之

### 【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対立の時代から、相互依存の時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域に関する紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

### 【授業の目標】

国際関係の基本概念や歴史的展開を理解するとともに、戦争と平和の問題を日本との関係も含めて理解すること。

### 【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 国連の安全保障体制
6. 地域紛争とテロリズム
7. アジアにおける日本の戦争
8. 戦後日本と安全保障
9. アジアと日本の国際協力

### 【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

## 国際交流論

松本一子

### 【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNGOやNPOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

### 【授業の目標】

地球市民としての意識を育むことを目標とする。

### 【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
  - ・自治体と国際交流
  - ・地域の国際化と多文化共生
  - ・地球市民教育
  - ・ネットワークの形成と活用
4. 実践国際交流
  - ・先進的組織運営のさまざまな事例

### 【評価方法】

レポート及び平常点で評価する

### 【テキスト】

オリジナル教材

### 【参考文献・資料】

草の根の国際交流と国際協力 (毛受敏浩編著 明石書店 2003年)  
国際交流の組織運営とネットワーク (榎田勝利編著 明石書店 2004年)

## 初めての外国語2 (フランス語)

清水ベアトリックス

### 【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか? 実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

### 【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、日本語と英語と比較しながら、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。

### 【授業計画】

毎回、担当教員(フランス人)が文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

### 【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

### 【テキスト】

プリント

## 初めての外国語1 (ドイツ語)

藤井たぎる

### 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業の目標】

ドイツ語の文法についての知識を増やすことが目的ではない。使えるドイツ語、通じるドイツ語を習得することが目的である。

### 【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在(および未来)のことがらに関する表現練習を行います。

学習する主な項目は、以下のとおりです。

- (1) 自己紹介、他人の紹介の練習
- (2) 数字に関する練習(ビンゴ・ゲームつき)
- (3) 冠詞の用法と表現練習
- (4) 名詞・人称代名詞の用法と表現練習
- (5) 動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

また、ドイツ・オーストリアの歴史や文化についても、学生の関心があれば、いくつかのビデオを素材にして紹介します。

### 【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価するが、基本的には期末試験の点数を重視する。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 初めての外国語3 (ロシア語)

杉本一直

### 【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業の目標】

1. キリル文字の読み方の習得
2. 名詞の性、形容詞の基本変化の理解
3. 日常会話基礎表現の習得

### 【授業計画】

みなさん、知っていますか? 日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです! 「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか? 映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?) ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人!

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがすいたら...
- g. 自分について話してみよう

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典(白水社)

## 初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

### 【授業の概要】

「初めての外国語4 (スペイン語)」は、スペイン語を始めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

### 【授業の目標】

- ・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。
- ・世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、認識を深める。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞 (性数の一致)
6. 人称代名詞、ser 動詞と estar 動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

### 【テキスト】

授業中に指示。

## 日本と外国の歴史2 (郷土)

秦 達之

### 【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げる。

### 【授業の目標】

受験時の暗記の歴史から脱皮し、考え、愉しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

### 【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものになりたい。

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車 (だし)」「渡辺華山とその周辺」「戦争と女性」「モルフィと魔娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」「尾張藩草莽 (そうもう) 隊」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている (受講者もぜひご協力を)。

### 【評価方法】

出席状況 (特に厳しいので注意!) と単位認定試験の成績などによる。

### 【参考文献・資料】

- 愛知県の百年 (塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著 山川出版社)
- 愛知県の歴史 (三鬼清一郎編 山川出版社)
- 東海・近代へのまなざし (都築亨・大嶋光義編 中部日本教育文化会)

## 日本と外国の歴史1 (日本)

岩口和正

### 【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているのです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

### 【授業の目標】

- (1) 人間の歴史が日々のたえない暮らしの中からつくられることを理解すること
- (2) 家族や親族をめぐりあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶこと
- (3) 歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟すること

### 【授業計画】

- (1) 氏・名字・姓の歴史
- (2) 戸と戸籍
- (3) イエとヤケ
- (4) イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- (5) イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- (6) 家族と親族<日本の親族体系の特徴>
- (7) 婚姻と家族・親族の諸形態1 <妻問婚の特徴>
- (8) 婚姻と家族・親族の諸形態2 <婿取婚と嫁取婚の成立>
- (9) 前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
- (10) 明治民法の成立と日本近代の「家制度」

### 【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

### 【テキスト】

使用しません

### 【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

## 日本と外国の歴史3 (東洋)

土屋 洋

### 【授業の概要】

東洋、特に中国を中心にした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

### 【授業の目標】

たんに通史を学ぶというだけでなく、「日本」にいる我々が「アジア」ないし「中国」の歴史を学ぶとはどういうことなのかを考えたい。「アジア」の歴史への接し方を理解することが目標となる。

### 【授業計画】

1. 期間計画指示・授業内容の説明
2. 歴史学とは何か?: 歴史リテラシーを身につけよう
3. 「アジア」を考えるということ (1)
4. 「アジア」を考えるということ (2)
5. 「中国」の歴史を学ぶとは?
6. 中国近現代史への眼差し: 歴史観の諸相
7. 中国の〈近代〉: 「中国」の創生
8. 中国の〈近代〉と日本
9. 近代日本の中国観
10. 日中戦争を考える: 特に南京事件をめぐって
11. 現代中国と日本: 歴史認識問題をめぐって
12. 現代中国を考える: 特に中国の「民主」をめぐって
13. 21世紀の日本、中国、東アジア

### 【評価方法】

中間レポートと期末テスト (人数によってはレポート)、および随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

### 【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に提示する。

## 日本と外国の歴史4 (西洋)

北村陽子

### 【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

### 【授業の目標】

他者との線引きを行い、異質なものを排除するナショナリズムがどのように発展し、何によって補強されたのか。この点をナショナリズム発祥の地ヨーロッパの歴史を学ぶことで理解すると同時に、その危険性にも留意し、現代社会を建設的に分析する視点をもつようになってほしい。

### 【授業計画】

1. はじめに—国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
  - (1) 「個人」の覚醒：ルネサンス
  - (2) 「他者」の認識：大航海時代
  - (3) 普遍性の否定：宗教改革
3. イギリスの国民国家
  - (1) イギリス国教会の成立と絶対主義国家
  - (2) 二つの市民革命—「イングランド」から「イギリス」へ
  - (3) バクス・ブリタニカ—ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4. アメリカ合衆国の国民国家
  - (1) 対イギリス独立革命
  - (2) フロントニア開拓時代の「他者」認識
  - (3) 奴隷制と南北戦争
5. フランスの国民国家
  - (1) ルイ14世治下における絶対主義の確立
  - (2) フランス革命とナポレオン
  - (3) 「国民」の創出—「単一にして不可分のフランス」成立
6. ドイツの国民国家
  - (1) 三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
  - (2) 対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
  - (3) ビスマルクによる「ドイツ」統一
7. おわりに—20世紀のナショナリズムと国民国家

### 【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより総合的に行う。

### 【テキスト】

とくに定めない。

### 【参考文献・資料】

- 国民国家とナショナリズム (谷川稔 山川出版社)
  - 国民国家を問う (歴史学研究会編 青木書店)
- その他講義中に指示する。

## 東アジアの生活と文化

楊 衛平

### 【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

### 【授業の目標】

中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に提起し、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことが目標とする。

### 【授業計画】

1. 中国の民族構成
2. 儒・仏・道とは
3. 中国の年中行事
4. 医食同源食文化
5. 東西医学の比較
6. 気文化と気功術
7. 飲茶文化と歴史
8. 伝統美術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の百家姓
12. 中国の名勝物語
13. 中国人の考え方

### 【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

- 中国人・文字・暮らし (李順然 東方書店)
- 中国仏・道・儒教史話 (劉克蘇 河北大学出版社)
- 中国伝統文化専論 (劉榮興 河北大学出版社)

## 地域コミュニティ論

安藤純子

### 【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果たす役割と問題点について具体例にふれて講義する。

### 【授業の目標】

今日の地域社会に関する行政上のさまざまな政策や制度を通じて、私たちの生活がいかに地域社会と深く関わっているかを理解することを目的とする。

### 【授業計画】

1. イントロダクション
2. 地域社会の歴史と構造 1
3. 地域社会の歴史と構造 2
4. 地域社会の歴史と構造 3
5. 地方分権とコミュニティ 1
6. 地方分権とコミュニティ 2
7. コミュニティとネットワーク 1
8. コミュニティとネットワーク 2
9. コミュニティ活動の実践例 1
10. コミュニティ活動の実践例 2
12. まとめ

### 【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## ビジネスの世界

伊藤義明

### 【授業の概要】

会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。

“Free, Fair, Global”の3つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的事例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。第一区分では“ビジネスを取り巻く環境変化”を、第二区分では“環境変化に適應する企業組織”を、第三区分では現在“社会から求められる企業経営”について学習します。

(Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。)

### 【授業の目標】

専門分野を問わず、大学生として理解しておくべき経済社会のパラダイムシフトを感覚的にも理論的にも理解出来るレベルを目指す。

### 【授業計画】

- |      |                                |
|------|--------------------------------|
| 第1講  | Introduction：ビジネスモデルと日本の国際競争力  |
| 第2講  | 企業活動の環境変化～                     |
| 第3講  | ～ Free, Fair, Global—規制緩和と自己責任 |
| 第4講  | 制度変革と企業活動～                     |
| 第5講  | ～ 企業を取り巻く社会システムの変化             |
| 第6講  | ～ 商法改正、環境、人口減少社会と労働市場、など       |
| 第7講  | 金融・資本市場の進化とFinancial Literacy  |
| 第8講  | 市場（金融・株式・外国為替マーケット）について        |
| 第9講  | 企業の組織                          |
| 第10講 | ビジネスとは何か？ (その法的要件)             |
| 第11講 | 会社とは何か？ (その法的要件)               |
| 第12講 | 組織の分解と再編 (ITと生産性)、財務の重要性       |
| 第13講 | 企業のマネジメント                      |

### 【評価方法】

学期末テストの成績で評価 (出席率は成績に反映させない)

### 【テキスト】

「ビジネスの世界」(伊藤義明著 栄進堂書店)

### 【参考文献・資料】

特になし、新聞を読むことが望ましい。

## 健康とくすり

永井愼一

### 【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効き方と副作用について理解を深める。

### 【授業の目標】

病気は、主に生体内の受容体や酵素が過剰に反応するために発症し、くすりの多くは、これらの過剰な働きを抑制することで効くことを学ぶ。

### 【授業計画】

- 第1回 受講生に、全授業で学ぶ内容をまとめた「病気とくすりについて」の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、投与方法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 近年発売されたビルなど、医師の処方が必要とする生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）と医者が処方する医療用医薬品を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム
- 第8回 アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
- 第10～12回 生活習慣病のがん、糖尿病などをはじめ、エイズの発症原因とくすりが効くしくみを解説

### 【評価方法】

レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

### 【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。

### 【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介する。

## メンタルヘルス

長谷川純子

### 【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

### 【授業の目標】

心の問題について、大学生の教養として必要と思われるレベルの知識習得を目指す。

### 【授業計画】

1. 心の構造～心をどう捉えるか？
2. 心の発達
3. 脳と心
4. 心の病とは？
5. 心の病のいろいろ
6. ストレスのメカニズムとコーピング

### 【評価方法】

出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし。プリント配布。

### 【参考文献・資料】

講義初日に紹介する。

## メンタルヘルス

太田龍朗

### 【授業の概要】

今や子供から大人まで、多くの人々が心を病んでいるといわれている。心の病は少年期や青年期など世代に特有のものから、時代や社会に要因のあるものもある。臨床的事例をふまえてメンタルヘルスを考える。

### 【授業の目標】

心の健康についていろいろな病を通して考え、身体の病気と同じように、ごく身近なものであることを理解しつつ、正しい知識を修得するとともに、全人的な取り組みの重要性が分かるようにする。

### 【授業計画】

- 概論：第1回 心の病：その歴史
- 第2回 精神症状のとらえ方
- 第3回 精神障害の種類と分類
- 第4回 ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
- 各論：第5回 青年期、思春期にはじまる統合失調症（分裂病）
- 第6回 気分・感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
- 第7回 ストレスとその反応：神経症と心身症
- 第8回 やまらない、止まらない：薬物依存
- 第9回 眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
- 第10回 大人とは異なる児童・小児の障害
- 第11回 老人と高齢者の病：器質性障害
- 総論：第12回 病を前にして：治療、面接、カウンセリング
- 第13～14回 心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
- 第15回 期末試験

### 【評価方法】

おもに期末試験の成績とレポート提出によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

改定 大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編 岩崎学術出版社）

### 【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）  
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

## ライフサイクルと健康

松田秀子

### 【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

### 【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて考える。

### 【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。  
必要に応じて参考資料を配付する。

## スポーツ科学

杉山 和 山本啓子 松田秀子 門間 博 寺田邦昭 丸山治美

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・金曜日を除いて、半期間に2科目を行う。
- ・天候によって科目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	2限	杉山	バドミントン・卓球
	3限	杉山	バレーボール・卓球
	4限	杉山	バレーボール・卓球
火曜日	2限	杉山	バレーボール・卓球
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
水曜日	1限	門間	バドミントン・卓球
	2限	門間	バドミントン・卓球
	3限	門間	バレーボール・バスケットボール
	4限	門間	バレーボール・バスケットボール
木曜日	1限	寺田	バドミントン・卓球
	2限	寺田	スキルトレーニング・バドミントン
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	2限	松田	バドミントン
	3限	松田	バドミントン
	3限	丸山	エアロビクス&フィットネス
	4限	松田	バドミントン
	4限	丸山	エアロビクス&フィットネス

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

杉山 和

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(月曜2限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける

5～8. ミニゲーム

〔バレーボール〕(月曜3限前半・月曜4限前半・火曜2限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
3. サーブとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
4. トス・アタック・ブロック

(アタックカバー・ブロックフォロー)

5～7. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)

〔卓球〕(月曜2限後半・月曜3限後半・月曜4限後半・火曜2限後半)

1. ガイダンス、競技の概略
  2. ラケットのグリップと打法
  3. フォアハンド・バックハンド
- (ロング・ショート・カット・スマッシュ)
4. サーブとレシーブ
  5. シングルスゲーム(審判)
  - 6～7. ダブルスゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

山本啓子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕(火曜3限前半・火曜4限前半・木曜3限前半・木曜4限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
  2. ラケットのグリップと打法
  3. フォアハンド・バックハンド
- (ロング・ショート・カット・スマッシュ)
4. サーブとレシーブ
  5. シングルスゲーム(審判)
  - 6～7. ダブルスゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)

〔バレーボール〕(火曜3限後半・火曜4限後半・木曜3限後半・木曜4限後半)

1. ガイダンス、競技の概略
  2. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
  3. サーブとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
  4. トス・アタック・ブロック
- (アタックカバー・ブロックフォロー)
- 5～7. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

松田秀子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(金曜2限・金曜3限・金曜4限)

1. ガイダンス
2. 記録への挑戦(打ち続けよう)
3. 歴史的ゲームの追体験
4. 用具の特徴(貴重な水鳥の羽根)
5. フォーム作り(格好良いフォームで打とう)
6. 攻撃的なショット(初速はどれくらい?)
7. 守備的なショット
8. 基本の戦術
9. ダブルスのフォーメーション
10. 世界のバドミントンプレイヤーを観よう(VTR)
11. ゲームの特徴(心拍数、運動強度はどれくらい?)
12. ゲームのルールとマナーを身につけよう
13. ハーフコート・ミニゲーム
14. ダブルスゲーム
15. スキルテスト

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

門間 博

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(水曜1限前半・水曜2限前半)
  1. ガイダンス、競技の概略
  2. ラケットとシャトルに慣れる
  3. シャトルをコントロールする
  4. ルールとマナーを身につける
  - 5～7. ミニゲーム
- 〔卓球〕(水曜1限後半・水曜2限後半)
  1. ガイダンス、競技の概略
  2. ラケットのグリップと打法
  3. フォアハンド・バックハンド(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
  4. サーブとレシーブ
  5. シングルスゲーム(審判)
  - 6～7. ダブルスゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)
- 〔バレーボール〕(水曜3限前半・水曜4限前半)
  1. ガイダンス、競技の概略
  2. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
  3. サーブとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
  4. トス・アタック・ブロック(アタックカバー・ブロックフォロー)
  - 5～7. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)
- 〔バスケットボール〕(水曜3限後半・水曜4限後半)
  1. ガイダンス、競技の概略
  2. ボールに慣れる
  3. 基本的な個人技能の確認
  4. チームでの基本的な練習
  5. ルールとマナーを身につける
  - 6～7. ゲーム・スキルテスト

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

寺田邦昭

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(木曜1限前半・木曜2限後半)
  1. ガイダンス、競技の概略
  2. ラケットとシャトルに慣れる
  3. シャトルをコントロールする
  4. ルールとマナーを身につける
  - 5～8. シングルスゲーム・ダブルスゲーム(スコア記録)
- 〔卓球〕(木曜1限後半)
  1. ガイダンス、競技の概略
  2. ラケットのグリップと打法
  3. フォアハンド・バックハンド(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
  4. サーブとレシーブ
  - 5～7. シングルスゲーム・ダブルスゲーム(スコア記録)
- 〔スキルトレーニング〕(木曜2限前半)
 

オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら実施し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。

  1. ガイダンス
  - 2～4. 主にアウトドア種目(フライングディスク、ソフトボール、ゴルフ、サッカー)等を用いての動き作り
  - 5～8. 主にインドア種目(卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール)等を用いての動き作り

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

丸山治美

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・この授業では、1. エアロビクスの特性・効果を理解する 2. エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう 3. 自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知る の3点を目標に行う。
- 〔エアロビクス&フィットネス〕(金曜3限・金曜4限)
  1. ガイダンス
  2. エアロビクスとは何か その理論と特性
  3. 目標心拍数の設定と主観的運動強度
  4. 筋力トレーニング 筋肉と骨格
  - 5～6. ボールを使って
  7. 体脂肪
  8. ウェイトコントロール
  9. 骨を強くする
  - 10～15. エアロビクス ダンス パフォーマンス  
動きづくり練習 発表・相互評価

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

杉山 和 山本啓子 松田秀子 門間 博 寺田邦昭 蛭田秀一

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	杉山	バドミントン
	4限	杉山	バドミントン
火曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
水曜日	1限	門間	テニス
	2限	門間	テニス
	3限	門間	テニス
	4限	門間	テニス
木曜日	1限	寺田	バドミントン
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
金曜日	1限	蛭田	卓球
	2限	松田	テニス・ニュースポーツ
	2限	蛭田	卓球
	3限	松田	テニス・ニュースポーツ
	4限	松田	テニス・ニュースポーツ

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

杉山 和

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バレーボール] (月曜2限・火曜2限)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

[バドミントン] (月曜3限・月曜4限)

1. ガイダンス、競技の概略
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

松田秀子

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[テニス] (金曜2限前半・金曜3限前半・金曜4限前半)

1. ガイダンス
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

[ニュースポーツ] (金曜2限後半・金曜3限後半・金曜4限後半)

1. ガイダンス
- 2～8. ユニホッケー  
ベタンク  
ソフトバレーボール  
ミニテニス

上記のニュースポーツを実践する。

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

山本啓子

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン] (火曜3限・火曜4限・木曜3限・木曜4限)

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験 (シングルスゲーム)
3. ラケットワーク
4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

門間 博

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[テニス]

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる (グリップ、スタンス)
3. グランドストローク (フォアハンドを中心に)
4. グランドストローク (バックハンドを中心に)
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム、スキルテスト

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

寺田邦昭

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
  - ・ニューススポーツについて、2～8週までのうち雨天の場合には9～12週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
  - ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- 【バドミントン】(木曜1限)
1. ガイダンス
  2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
  3. ラケットワーク
  4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
  5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
  6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
  7. ゲームの進め方、ルール説明
  8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム
- 【ニューススポーツ】(木曜2限)
1. ガイダンス
  - 2～3. フライングディスク
  - 4～6. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
  - 7～10. アーチェリー、インディアカ、ミニテニス
  - 11～14. ダーツ、ソフトテニス、ソフトバレー
  15. グループによるニュー・スポーツの創作と発表

### 【評価方法】

70点-(欠席回数/授業実施回数×70点)=出席点  
30点=実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

蛭田秀一

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
  - ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- 【卓球】(金曜1限・金曜2限)
1. ガイダンス
  2. 用具の使用法と安全に関する注意点の説明、連続ラリー、簡易ゲーム
  - 3～6. 卓球における各種基本打法の説明と学習(ルール、姿勢、位置どり、グリップ、スウィング、フットワークなど)、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム
  - 7～11. シングルス・ゲームの進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導
  - 12～13. 一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス・ゲームの進め方の説明と実施
  14. 実技テスト、まとめ
- 上記は標準的な実施計画であり、受講者の技能レベルに応じて順序や時間配分を変更する場合がある。

### 【評価方法】

70点-(欠席回数/授業実施回数×70点)=出席点  
30点=実技点・参加の態度・種目理解度等

## ボランティア論

矢島洋子

### 【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

### 【授業の目標】

様々な困難・不平等が存在する現代社会で実践されているボランティア活動を学び、ボランティアが社会を、そして自らを変えることを理解する。

### 【授業計画】

1. ボランティアの思想
  2. イギリスのボランティア
  3. アメリカのボランティア(1)
  4. アメリカのボランティア(2)
  5. アメリカのボランティア(3)
  6. 日本のボランティアの変遷
  7. 特定非営利活動促進法(NPO法)
  8. 日本のボランティア活動(1)災害とボランティア
  9. 日本のボランティア活動(2)高齢者とボランティア
  10. 日本のボランティア活動(3)障害者とボランティア
  11. 日本のボランティア活動(4)難民とボランティア
  12. 日本のボランティア活動(5)開発とボランティア
  13. ボランティアの課題
- ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

### 【評価方法】

出席、授業中の提出物 30%。  
期末レポート 70%。

### 【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

### 【参考文献・資料】

- ボランティア学を学ぶ人のために(内海成治他編 世界思想社)
- フィランソロビーの思想:NPOとボランティア(林雄二郎他 日本経済評論社)他

## 手話・点字

堀 正和

### 【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

### 【授業の目標】

手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

### 【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

### 【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

### 【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き(日本点字図書館)及び手話教室入門(全日本ろうあ連盟出版局)

## スポーツ文化論

松田秀子

### 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツには教育が関係する
9. スポーツには政治が関係する
10. スポーツには科学が関係する
11. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
12. スポーツには民族性が反映される
13. スポーツには商業主義がつきまとう
14. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
15. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。  
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

## 人類と宇宙

安野志津子

### 【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえて、人類にとっての宇宙についても考察する。

### 【授業の目標】

学生のものの見方が、少しでも科学的に考えられるようにしたい。一方楽しい授業でもありたい。

### 【授業計画】

一地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために一

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

### 【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて（池内了 新書館）
- (2) 星と宇宙の物理学読本（並木雅俊 丸善）
- (3) 見えてきた宇宙の神秘（野本陽代 草思社）
- (4) 太陽 一その素顔と地球環境との関わり（ケネス.R.ラング著 渡辺亮・桜井邦朋訳 シュプリンガー・フェアラーク東京）

## 生き物の世界

服部一三

### 【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

### 【授業の目標】

地球という太陽系第3惑星に住んでいる種々な動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

### 【授業計画】

- |         |                               |
|---------|-------------------------------|
| 第1回     | 1. 生物界の分類                     |
| 第2-6回   | 2. 生物の進化                      |
|         | 3. 植物と人の関わり                   |
|         | 1) 農耕の始まり                     |
|         | 2) 世界の農耕文化                    |
|         | 3) 日本農耕文化の起源と発展               |
|         | 4. 人が手を加えた植物一作物               |
|         | 1) 作物とは?                      |
|         | 2) 世界の作物の起源                   |
| 第7-8回   | 5. 作物改良の原理と方法                 |
|         | 1) 作物改良の原理                    |
|         | (1) メンデルの法則一遺伝学               |
|         | (2) 遺伝の物質的基礎                  |
| 第9回     | 2) 作物の改良方法                    |
| 第10回    | 6. バイオテクノロジー                  |
| 第11-12回 | 1) バイオテクノロジーとは?               |
|         | 2) 作物の改良とバイオテクノロジー            |
|         | (1) 細胞・組織培養                   |
|         | (2) 遺伝子操作                     |
|         | (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか? |
|         | (1) 倫理                        |
|         | (2) 安全性                       |

### 【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。  
生物的自然と人間（平田豊著 開成出版）

## 生命の科学

林博司

### 【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

### 【授業の目標】

生命現象の多くの側面が、物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

### 【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞。
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子进行操作する
10. 細胞进行操作する
11. 器官进行操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

### 【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

### 【テキスト】

指定しない

### 【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

## 環境保護論

田部一史

### 【授業の概要】

現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

### 【授業の目標】

1. さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2. 環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3. 人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

### 【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：人為による砂漠の拡大
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かして
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
- 第8講 いのちのしくみ2・個体レベル：ホメオスタシスと生体防御
- 第9講 環境汚染とがん：自然が想定しなかった物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：内分泌攪乱物質はいのちのつなごを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
- 第12講 生命の多様性：人の手による大量絶滅
- 第13講 美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして

### 【評価方法】

出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。(出席20%、レポート30%、試験50%)

### 【テキスト】

使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 暮らしの化学

永井愼一

### 【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

### 【授業の目標】

身じかな物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき化学構造式を眺めながら理解を深める。

### 【授業計画】

生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりや作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学などの分野からトピックスをとりあげ、図やイラストを多用して、これはなぜ？ どうして？ という【素朴な疑問】に答える。またテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶとともに、病院・診療所でうける最先端医療についても紹介する。

### 【評価方法】

レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

### 【テキスト】

毎回プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介。

## 食品の科学

千葉善根

### 【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

### 【授業の目標】

日常生活で、身近にある食品が化学的(科学的)にどのような意義・性質・機能を持っているかを理解する。

### 【授業計画】

1. 現代食生活の問題点  
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品  
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品  
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品  
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化工品。
5. 無機質と食品  
骨粗鬆症等。
6. ビタミン  
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品  
食品と酵素・微生物との関係。

### 【評価方法】

定期試験にて評価。

### 【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

## 暮らしの化学

佐藤成哉

### 【授業の概要】

日常生活の中には、身近に目にしていながらつい見過ごしてしまっているさまざまな現象が溢れている。それらを探しだし、化学の目で見つめ直して、暮らしを支える知恵としての「役立つ化学」についての講義をクイズや簡単な実験を交えながら行う。

### 【授業の目標】

日頃、我々が目にする現象は、教科科目の項目に分けられない総合的なものである。そのさまざまな現象の中に見つけた「なぜ?」「どうして?」を糸口に広くサイエンスの世界に触れ、知的な楽しさ・おもしろさを通して化学(科学)の目を養う。

### 【授業計画】

1. キッチン化学
2. リビング化学
3. バスルーム化学
4. 玄関化学
5. ガーデン化学
6. 環境化学

一つのテーマについて1回から数回講義するが、授業についての質問や感想および身近な疑問などを適宜出してもらい、授業に反映したい。

### 【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。適宜資料などを配付する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 文学1 (日本)

堀尾幸平

### 【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

### 【授業の目標】

1. 文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2. 日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

### 【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作方法理論
15. 試験

### 【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新日本児童文学論 (堀尾幸平著 中日文化 2,200円)

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 現代の芸術1 (書道)

森美恵子

### 【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

### 【授業の目標】

すぐれた古典の臨書並びに鑑賞を通して、用美一体の書作を習得し、審美眼を得させる。

### 【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

### 【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

### 【テキスト】

書の鑑賞と学び方 (上田桑鳩 教育図書研究会)

## 文学2 (中国)

寺尾剛

### 【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

### 【授業の目標】

中国の歴史と文学に関心を持つ。今後独自に読んでいく際の読み方のコツをつかむ。

### 【授業計画】

毎回、一つのテーマを取り上げ、それにまつわる文学作品を鑑賞していく。

1. 男装の麗人・木蘭の物語
2. 和蕃公主・王昭君の物語
3. 亡国の美女・西施の物語
4. 万里の長城秘話・孟姜女の物語
5. 詩仙李白と酒の歌
6. 詩聖杜甫とそのヒューマニズム
7. 南宋の詩人・陸游～その愛の悲劇
8. 中国の詩人とその妻～悼亡詩の系譜
9. 『封神演義』～中国小説の世界
10. 中国の笑い話～下ネタは下品か?
11. 『論語』の世界～孔子、人生を語る

など。ただし、上記の全てを講義しきれるとは限らず、また、この順序通りに進めるとは限らない。

受講生の反応、あるいは要望に従って内容を変更する可能性もあることをお断りしておく。

### 【評価方法】

出席、平常点と試験。

### 【テキスト】

プリント

### 【参考文献・資料】

教場で指示する。

## 現代の芸術1 (書道)

小川晃治

### 【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

### 【授業の目標】

東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。

漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中しっかりと存在していることを理解、認識すること。

### 【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

### 【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

### 【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

## 現代の芸術 2 (音楽)

志水博子

### 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、いろいろなジャンルの洋楽の名曲を鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

### 【授業の目標】

正しい発声を学ぶ

### 【授業計画】

- 第1回 声の出るしくみを知る (学園歌をうたう)
- 第2回 腹式呼吸と身体をつかい方の練習  
(ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方)
- 第3回 発声練習と歌唱
- 第4回～9回 名演奏家によるオペラ鑑賞 (カルメン、椿姫他)
- 第10回～12回 各自の課題 (ジャンルは問わない) による実技発表とアドバース  
(毎回短時間を使って合唱曲を1曲仕上げる)

### 【評価方法】

授業内での実技演奏 (各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可) と出席状況

### 【テキスト】

楽譜プリントは配布

## 現代の芸術 2 (音楽)

浅田まり子

### 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

### 【授業の目標】

音楽を鑑賞し、演奏しながら、音楽の機能を健康的に活かし、人とコミュニケーションができる音楽を習得することを目標とする。

### 【授業計画】

- 第1講 鑑賞法 (音楽の聴き方)
- 第2講 発声のしくみと声の管理
- 第3講 ヴォイストレーニング1 (自然体)
- 第4講 ヴォイストレーニング2 (呼吸法)
- 第5講 ヴォイストレーニング3 (楽器の確保)
- 第6講 サウンドスケープ (音の風景)
- 第7講 音楽療法1 (歴史と原理)
- 第8講 音楽療法2 (音楽の作用と実践法)
- 第9講 演奏法1 (リズムとメロディー)
- 第10講 演奏法2 (コード・即興など)
- 第11講 合唱と合奏
- 第12講 ～実技演奏発表会

### 【評価方法】

実技 (授業内目標達成度)・感想レポート・出席状況・授業態度

### 【テキスト】

プリント・MUSIK (貸与)

## 現代の芸術 3 (美術)

藤井健仁

### 【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

### 【授業の目標】

近代の美術運動が当時の社会情勢等と密接に連動して生まれていることを知り、現在の文化、流行にも影響を与え続けていることを理解する。

### 【授業計画】

前半

キュビズム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。

後半

小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。  
教材として樹脂パテ等 (¥2500) を各自が購入する。

### 【評価方法】

授業後半に提出する制作物を重視する。

### 【テキスト】

使用しない。配布するプリントのみ。

### 【参考文献・資料】

なし

## 現代の芸術 4 (映画)

吉村英夫

### 【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

### 【授業の目標】

映画をジャンル別とか作家別に鑑賞し、その特質を知る。映画の「今」を迫る傾向のある現代若者気質に対して、歴史的系統的に映画を観ていくことの重要性を語りたい。実作品を観ながら、その表現や技法の特徴にも迫るものにした。

### 【授業計画】

\*ミュージカル映画の「まるごと1本」の鑑賞を中心としながら、ミュージカル映画の楽しさを味わいたい。ミュージカル映画のルーツをたどり、その発展と衰退、さらには『シカゴ』『オペラ座の怪人』等での再生の様子をみていきたい。ただし、現代のミュージカル映画は鑑賞しない。

\*ミュージカルの歴史の学習…オペラから『キャッツ』へ至る歴史を探る。

\*参考上映を予定している作品 (上映作品は変更するかもしれないが、すべてミュージカル映画、音楽映画の傑作秀作である。

『ウエスト・サイド物語』『ハリの恋人』『プラス!』『雨に唄えば』『トップ・ハット』『掠奪された七人の花嫁』『キス・ミー・ケイト』『シェルブールの雨傘』『マイ・フェア・レディ』その他

\*有名なミュージカル映画を部分上映もして、分析や技法的特徴なども学習。

\*延長があることを覚悟してほしい。90分以上の映画を鑑賞するため。

\*長久手での夏期集中講義では、上映作品等、いささかの変更がある。

### 【評価方法】

\*学期末のテスト \*随時提出のレポート \*出席 \*テキストは使用しない

### 【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。5年前から続いており、これは講座生とつくる楽しい交流の広場。

### 【参考文献・資料】

『誰も書かなかったオーディリー』(吉村英夫 講談社プラスα文庫)

## 現代の芸術 4 (映画)

HIGH, Peter B.

### 【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

### 【授業の目標】

- 1) 映画分析のための技術：
  - a. セグメンテーション (SEGMENTATION=映画を見ながら、ノーツの取り方)
  - b. 対極的分析法 (映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画 (1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等) にいるまでのスタイルとストーリーの語り方：
  - a. 「因果的關係」とドラマの盛り上げ方
  - b. FABULA (ファビュラ) = 観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対 SUZHET (シュージェット、つまり「プロット」) = 画面から与えられた「映画のストーリーの世界」を作るための「材料」やヒント
  - c. ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
  - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画における GENRE (ジャンル) の役割

### 【授業計画】

授業のやり方としては、映画 (全体又は部分) を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章 (原稿用紙 2・3 枚程度) にまとめて提出する。

課題: 「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする:

- 1) 「駅馬車」(STAGECOACH, 1939年作品、監督: John Ford)
- 2) 「マルタの鷹」(MALTESE FALCON, 1941年作品、監督: John Huston)
- 3) 「市民ケーン」(CITIZEN KANE, 1941年作品、監督: Orson Welles)
- 4) 「第三の男」(THE THIRD MAN, 1949年作品、監督: Carol Reed)

現代の芸術 4 (映画) の学期末評価は 3 つの宿題に基づく (学期末試験はなし) :

- 宿題 1: 「マルタの鷹」の対極的分析の図 (文章化する必要はない)
- 宿題 2: 「市民ケーン」の対極的分析 (原稿用紙 3-4 枚の文章)
- 宿題 3: 「第三の男」の対極的分析 (原稿用紙 3-4 枚の文章): この三つの宿題は学期末試験として扱われる

### 【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

### 【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

## 伝統芸能

林 和利

### 【授業の概要】

日本の伝統芸能の諸ジャンルのうち、舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など主要なものを中心に取り上げ、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

### 【授業の目標】

各ジャンルの概要・歴史を知り、その価値を認識して、日本人として当然わきまえるべき知識を修得する。

### 【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
2. 日本芸能演劇史概説
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽・舞楽・散楽について
6. 田楽について
7. 猿楽について
8. 能について
9. 狂言について
10. 歌舞伎について
11. 文楽について

また、学外で催される伝統芸能の舞台を種々案内し、各自の判断で鑑賞することを促す。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

学外の伝統芸能を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象にする。

### 【テキスト】

日本文化論序説 (林和利著 青山社)

### 【参考文献・資料】

日本演劇全史 (河竹繁俊著・岩波書店)  
演劇百科大事典 (早稲田大学演劇博物館編・平凡社)

## 現代の芸術 5 (演劇)

海上宏美

### 【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

### 【授業の目標】

現代芸術としての演劇は脱ドラマ化しているため、演劇・ドラマを軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。それにより演劇の現代芸術としての側面を理解する。

### 【授業計画】

1. ドラマからポスト・ドラマ (脱ドラマ) という流れを理解する。
2. ウィリアム・シェイクスピア作「ハムレット」(ドラマ) を見る、理解する。
3. 絵画を参照して演劇と劇場を理解する。
4. 近代的な認識に現れる身体イメージとジェンダーを理解する。
5. ハイナー・ミュラー作「ハムレットマシン」(脱ドラマ) を見る、理解する。
6. ダンスやパフォーマンスも脱ドラマであることを理解する。

授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

### 【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術 (演劇に限定しない) を見ることを求める。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

## 現代マナー論

近藤乃美子

### 【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

### 【授業の目標】

良識ある家庭人であり、自立し誇りを持って行動できる社会人となり、伝統と文化に裏打ちされた広い教養を身に付け、自信を持って国際社会においても活躍できる人材を育成する一端を担うことを目標とする。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. " 洋風
7. 茶菓のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

### 【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

## 現代マナー論

嘉悦祐子

### 【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

### 【授業の目標】

自分の気持ちをどんな形で表現すれば相手に誤解なく伝わるのか、状況に応じたマナーを身につける。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーとは
2. 学生と社会人の違い
3. 第一印象の重要性
4. マナーの五原則
  - ①挨拶
  - ②表情
  - ③態度
  - ④身だしなみ
  - ⑤言葉づかい
5. 電話応対
6. 訪問と来客対応
7. 報告、連絡、相談
8. 文書のマナー

### 【評価方法】

出席状況、授業態度、試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 文章表現

青木 健

### 【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

### 【授業の目標】

書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングとしたい。書くことで新しい自己を発見し、自分の世界を拡げてもらえることがのぞましい。

### 【授業計画】

第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)

第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)

第3回～12回

例文をテキストに、文章の構成、表現技法、話法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。

この間に

課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

### 【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

### 【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊指示します。

## 言語表現

三久保角男

### 【授業の概要】

音声表現。

①日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術 ②読む・話すことの実践と応用 ③言葉の用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

### 【授業の目標】

マルチメディアの発達で直接的な会話をするのが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。自分の意思を効果的に言葉で伝えるための基礎的な技術を身につけられるための方策を考える。

### 【授業計画】

1. 話し言葉概論  
ことばの機能 話し言葉の特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)  
呼吸法 音声器官 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)  
拍と音節 母音と子音 調音 アクセント 環境による音声変化
4. 話し言葉の表現技法  
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 文を読む  
短文の読み 朗読
6. 話しをする  
パブリックスピーキング リポート インタビュー
7. 話し言葉の用法  
言葉事情 言葉の変化 敬意表現

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

### 【評価方法】

筆記試験。随時のレポートも評価に加味する。

### 【テキスト】

毎回、レジュメ・資料を配布する。

## メディア表現

鎌田基子

### 【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

### 【授業の目標】

メディアを通すことにより変化する情報のしくみを理解することと、創造的発想力の基礎を身につけること。

### 【授業計画】

1. どこからどこまでがメディアなのか
2. 「編集」がもつ創造力
3. 「伝える」と変化する
4. 人を動かす力
5. 自分との対話
6. 「コンセプト」の功罪
7. 共感する/させる
8. 心を開かなければならないとき

ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。

状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

### 【評価方法】

レポートによる。

### 【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

## 職業と人生

樋口貴子

### 【授業の概要】

将来の職業選択にあたって参考事項や現代の企業社会の実態、就職するための予備知識などを話します。

### 【授業の目標】

人間的な魅力を備え且つ21世紀を生き抜く自立/自律した職業人として、学生生活を通じて何を感じどう行動すればよいのかを将来の自分のキャリアデザインを描きながら思考を深めます。また、複雑化・高度化する産業社会において仕事にますます専門性が求められる中で、職業人として求められる能力・スキル・心構えなどをケーススタディを交えて学びます。

### 【授業計画】

- 1) 21世紀の人材像
- 2) 職業観
- 3) プロフェッショナル意識
- 4) キャリア発達
- 5) キャリアコンピテンシー
- 6) 自己理解①
- 7) 自己理解②
- 8) コミュニケーション能力
- 9) 自己表現アサーション
- 10) ビジネスマナー
- 11) 職業研究
- 12) 企業研究
- 13) キャリアデザインと目標設定

### 【評価方法】

筆記試験

### 【テキスト】

職業と人生 (樋口貴子著)

### 【参考文献・資料】

なし

## 生涯学習論

藤井基貴

### 【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

### 【授業の目標】

受講者が生涯にわたる学習をみずから計画、実行していくための力量形成をはかることを目標とする。授業では生涯学習に関する基礎知識を解説し、受講者には実際に自己分析、キャリアシート作成などの作業を行ってもらう。

### 【授業計画】

- 1 生涯学習の理念
- 2 生涯発達と発達課題
- 3 戦後日本の教育改革
- 4 生きがいと自己実現
- 5 人生と学習計画
- 6 生涯学習施設の活用
- 7 ボランティアとNPO
- 8 高齢期の課題と学習支援

### 【評価方法】

レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

### 【テキスト】

テキストは使用しない。プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

新しい時代の生涯学習 (関口礼子他編著 有斐閣アルマ)

生涯学習の展開 (香川正弘他編著 ミネルヴァ書房)

参考文献については随時紹介する。

## 一般心理学

青柳真紀子

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業の目標】

「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

### 【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界,1
3. 無意識の世界,2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習,1
7. 学習,2
8. パーソナリティ,1
9. パーソナリティ,2
10. 対人関係,1
11. 対人関係,2
12. 集団の心理

### 【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

随時資料を配布する。

## 一般心理学

加藤智宏

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業の目標】

近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

### 【授業計画】

- a. 知覚と感覚
  - b. ノンバーバルコミュニケーション
  - c. 発達心理学 (ピアジェとエリクソン)
  - d. 学習と記憶
  - e. 忘却と変容
  - f. 防衛機制と無意識
  - g. 心理療法
  - h. 心理テスト
  - i. 個人と集団
  - j. 応用心理学 (犯罪心理学、環境心理学)
- 以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

### 【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

## 一般社会学

長濱一夫

### 【授業の概要】

社会学は人間同士の関係に視座を置いて、個人・社会集団、社会事象について研究する学問である。社会学の領域と一般的研究方法や基礎的知識について概説する。

### 【授業の目標】

社会学的思考法の修得を目指し、現代社会に対する認識力(時代の流れを読む力)を培いたい。

### 【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし(順序は入れ替わることがあります)、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」  
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

### 【評価方法】

試験(レポートor筆記)および出席状況、平常点によって評価します。

### 【テキスト】

使用しません。

## 政治学

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

### 【授業の目標】

現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。

### 【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
  - a 国際社会とは?
  - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
  - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
  - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
  - a 「都市国家」のデモクラシー
  - b 市民社会と大衆社会
  - c 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
  - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
  - b 選挙、官僚、議会
  - c マスメディアとマスコミュニケーション
  - d 議会制デモクラシーと市民
4. 戦後国際社会と日本の政治
  - a 冷戦構造と55年体制
  - b 利権の構造
  - c 外圧と政策決定

### 【評価方法】

試験(教科書と自筆ノートのみ持込可)と出席状況による。

### 【テキスト】

市民政治再考(高島道敏 岩波ブックレット617)

### 【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

## 法学

大嶽浩

### 【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

### 【授業の目標】

「社会あるところに法がある」ことを文学作品を通して理解すること。

### 【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 経済学

細野義晴

### 【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

### 【授業の目標】

経済の基礎理論にとどまらず、経済の実情把握に重点をおいて、わが国の経済の仕組みの変化やそこの課題なども講義し、日々の新聞などで見聞きする経済の動きが十分理解できるようにすることをめざす。

### 【授業計画】

1. 経済のしくみの全体像  
マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
2. 日本の経済と景気  
日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3. 個人のくらしと経済  
個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
4. 企業の経済活動  
企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
5. 政府の経済活動  
財政のしくみと役割、わが国の財政事情と財政政策、など。
6. 金融のしくみと経済  
お金と金融機関の役割、中央銀行の役割と金融政策、金融のビッグバン、など。
7. 日本と世界の経済  
経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割、欧州の通貨統合、など。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】

使用しない(資料配布)。

### 【参考文献・資料】

- (1) What's 経済学(辻正次・八田英二著、有斐閣)
- (2) 入門の入門 経済のしくみ(大和総研著 日本実業出版社)

## 数学

岡田克彦

### 【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

### 【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

### 【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

### 【評価方法】

課題及び試験で評価する。

### 【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

## 物理学

坂井貞彦

### 【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的な法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

### 【授業の目標】

物理学における法則や原理には、新しく発見された観測事実や実験結果を统一的に説明するため考え出されたものが多いことを学ぶとともに、法則や原理が身近ないろいろな現象に関係のあることを理解する。

### 【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 はじめに
- 2 運動と力
- 3 ニュートン力学、力学的エネルギー
- 4 ものの状態、熱と温度、圧力
- 5 熱力学
- 6 振動と波動、音と光
- 7 電気と磁気、電磁波
- 8 相対性理論
- 9 量子力学、粒子性と波動性
- 10 素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クォーク

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

物理のしくみ（改訂新版）（井田屋文夫 ナツメ社）

## 統計学

鈴木有美

### 【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようなかかわっているか、いかに必要かを講義する。

### 【授業の目標】

統計学の基礎的な知識を身につけるとともに、統計解析の基本的な手法について実際の調査・実験データを扱うことによって習得することを目指す。

### 【授業計画】

1. 統計学とは
2. データの性質
3. 度数分布
4. 基礎統計量（1）：代表値・散布度
5. 基礎統計量（2）：尖度・歪度
6. 正規分布
7. 2変数の関係（1）：相関・回帰
8. 2変数の関係（2）：連関
9. 母集団と標本
10. 統計的推定（1）：点推定
11. 統計的推定（2）：区間推定
12. 統計的検定の基礎
13. 平均値の差の検定（1）：t検定
14. 平均値の差の検定（2）：分散分析

### 【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

### 【テキスト】

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本（吉田寿夫著 北大路書房）

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## こども・教育・社会

青木文美

### 【授業の概要】

いかなる意識の高まりによって〈こども〉は〈こども〉として認知されるに至ったか。〈こども〉が自明の存在としてあること、教育や社会を取り巻く制度とは無関係ではない。

講義では、短編小説に描かれた〈こども〉を通して、教育制度、社会制度やそれに伴う人々の意識の向上を確認し、〈こども〉とはいかなる存在であるか考えたい。また、〈こども〉と〈おとな〉の境界が問われる現代、成長過程にある〈こども〉だけでなく、〈おとな〉の存在意義とそのあり方についても考えたい。

### 【授業の目標】

教育制度、社会制度と〈こども〉が自明の存在としてあることとの関係を理解した上で、成長過程にある〈こども〉と〈おとな〉のあり方について考察を深めること。

### 【授業計画】

- 第1回 〈制度〉と〈こども〉
- 第2回 巖本善治訳「不思議の新衣装」
- 第3回 樋口一葉「たけくらべ」
- 第4回 叢書「少年文学」の意義
- 第5回 国木田独步「春の鳥」
- 第6回 泉鏡花「化鳥」
- 第7回 雑誌「赤い鳥」と自由教育主義
- 第8回 有島武郎「一房の葡萄」
- 第9回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」
- 第10回 太宰治「雀こ」
- 第11回 吉行淳之介「夏の休暇」
- 第12回 武田百合子「牛乳」

### 【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし。プリントを配布する。

## 知的所有権

辻田芳幸

### 【授業の概要】

人の創作活動の成果である著作物は、今日、創作者の人格の発露というばかりか、企業などによる投下資本の結晶という意味合いをも濃くし始めている。近時、情報技術（IT）の発達によってこのような傾向が顕著である。

そこで、この講義においては、情報社会における知的所有権の役割について、著作権法を中心に解説することとしたい。具体的には、情報社会においてどのような問題が生じ、それがどのようにして解決されるのか、情報の受信者のみならず発信者として、いかなる点に留意しなければならないかを探求する。

### 【授業の目標】

著作権法の基本的知識とその情報社会における役割を具体的に理解できるようにしたい。

### 【授業計画】

- 第1回 情報社会における知的所有権の役割
- 第2回 著作物
- 第3回 著作者
- 第4回 著作者人格権
- 第5回 著作物の自由利用（私的複製）
- 第6回 著作物の自由利用（その他）
- 第7回 Webへの写真掲載の問題点
- 第8回 出版契約
- 第9～12回 インターネットと法

### 【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

## メディカルサイエンス

多田萬里子

### 【授業の概要】

近年の科学技術の進歩により遺伝子治療・臓器移植など医学も目覚ましい発展をとげてきた。

しかし、社会の変化によって疾患の様子も変わり、特に、ライフスタイルの変化によって増加した生活習慣病、環境汚染物質の生体への影響、新しい感染症などが問題となってきた。

先端医学の現段階について紹介し、多様化する社会でいかにして健康を維持するかを考えていきたい。

### 【授業の目標】

現代の社会で問題となっている、医療技術、疾患などについて科学的に学び、健康の維持に役立てる。

### 【授業計画】

- 次の課題について講義する。
1. 遺伝子診断、遺伝子治療
  2. 生活習慣病：がん・糖尿病
  3. 老化と寿命
  4. 新しい感染症：エイズ・狂牛病
  5. 臓器移植の課題
  6. 生殖医療と生命倫理
  7. 現代社会と健康、環境ホルモンなどの環境汚染

### 【評価方法】

学習態度、レポートなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

- 現代社会と医学（井村裕夫ら編 岩波書店）  
医の現在（高久史磨著 岩波新書）  
先端のゲノム医学を知る（中村祐輔 羊土社）

## 英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 DYCUS, David C. 他

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

### 【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 SUTHONS, Philip 他

### 【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

### 【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション2 (Listening I)

横関美津紀 SUTHONS, Philip 他

### 【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

### 【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション4 (Reading I)

福本明子 STEPHENSON, Brett 他

### 【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

### 【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

### 【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

横関美津紀 DYCUS, David C. 他

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

### 【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・ブランクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. 他

### 【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

### 【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

### 【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

SUTHONS, Philip 他

### 【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

### 【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

### 【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション8 (Reading II)

山田久美子 BROWNING, Jeremy S. 他

### 【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

### 【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

### 【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## ASU TOEIC I A

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC II A

STEPHENSON, Brett PUDWILL, Larry A.

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC I B

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC II B

STEPHENSON, Brett PUDWILL, Larry A.

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## Get together and Talk I

石橋千鶴子 福本明子 太田晶子 二村慎一 WOODMAN, Jo-Anne

### 【授業の概要】

事前英語集中授業、フィールドワーク、合宿、プレゼンテーションなどから構成される英語対話実践セミナー。本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとしてフィールドワーク、合宿、プレゼンテーションに参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

各学期終了時(集中授業期間内 前期: 8/7(月)~11(金)、後期: 2007年2/13(火)~17(土))に実施予定であるが、詳細は掲示および説明会(前期: 6月中旬、後期: 11月下旬の予定)で発表する。指定された期間(前期: 6月末、後期: 12月上旬)に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。

#### \*注意

本科目は申し込み者多数の場合、抽選により履修できない場合もある。また、1年生は学期の合計履修単位数に上限が設定されているので、本科目の履修を希望する場合、余裕を持って登録すること。

### 【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

### 【授業計画】

前期 8/7(月)~11(金)、

後期 2007年2/13(火)~17(土)を予定。

事前英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。

詳細は掲示で発表。

### 【評価方法】

全日程の活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

英文パンフレットなどを使用。

### 【参考文献・資料】

インターネットなどを通して資料は各自検索する。

<履修条件>

- 1) 英語コミュニケーション科目2科目(4単位)以上を取得済みであること。
- 2) 英語でのコミュニケーション実践に十分な「意欲」があること。
- 3) 全日程に出席できること。

## 上級英語セミナー 2006 A

WOODMAN, Jo-Anne WRINGER, Paul

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006A」は受講できない。)

### 【授業の目標】

Woodman

Improved knowledge of idiomatic and colloquial English expressions will allow students to "get" more of what native English speakers are "on about".

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

### 【授業計画】

Woodman

Each lesson will involve a combination of activities (reading, writing, listening and speaking) utilizing new vocabulary.

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

### 【評価方法】

「上級英語セミナー2006A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限(担当教員: WRINGER, Paul)、金曜日1限(担当教員: WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

Woodman: No text required,

Wringer: To be announced.

## Get together and Talk II

NORRIS, Harry T.

### 【授業の概要】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのブロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能(アップルコンピュータ社のiChat)を利用して、キャンベラ大学の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

### 【授業の目標】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

### 【授業計画】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

May (2), 9, 16, 23 and 30. Will be used for real time chat with Canberra University students. Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

### 【評価方法】

Assessment will be based on  
50% Homework and Chat preparation  
50% Participation

### 【テキスト】

No text

### 【参考文献・資料】

<http://www.apple.com/support/isisight/>

## 上級英語セミナー 2006 B

WOODMAN, Jo-Anne WRINGER, Paul

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

### 【授業の目標】

Woodman

Improved knowledge of idiomatic and colloquial English expressions will allow students to "get" more of what native English speakers are "on about".

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

### 【授業計画】

Woodman

Each lesson will involve a combination of activities (reading, writing, listening and speaking) utilizing new vocabulary.

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

### 【評価方法】

「上級英語セミナー2006B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限(担当教員: WRINGER, Paul)、金曜日1限(担当教員: WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

Woodman: No text required,

Wringer: To be announced.

## 上級英語セミナー 2006 C

横山綾子 WOODMAN, Jo-Anne

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006C」は受講できない。)

### 【授業の目標】

横山  
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Woodman  
The objectives of this course are two-fold. Firstly, it will encourage the students to improve their general knowledge of world affairs. Secondly, it will help the students to improve their English discussion skills.

### 【授業計画】

横山  
第1回 通訳一般概論 Sight translation  
第2~10回 The Student Timesからの記事使用(テープ)  
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Woodman  
This course will operate on a 3-week cycle.  
Week 1: Discussion questions based on materials provided by the teacher.  
Week 2: Discussion-based on newspaper/internet articles provided by the teacher.  
Week 3: Discussion-based on newspaper/internet articles prepared by the students.

### 【評価方法】

「上級英語セミナー2006C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限(担当教員:横山綾子)、金曜日4限(担当教員:WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

横山: *The Student Times* その他  
Woodman: No text required.

## 上級英語セミナー 2006 D

横山綾子 WOODMAN, Jo-Anne

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

### 【授業の目標】

横山  
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Woodman  
The objectives of this course are two-fold. Firstly, it will encourage the students to improve their general knowledge of world affairs. Secondly, it will help the students to improve their English discussion skills.

### 【授業計画】

横山  
第1回 通訳一般概論 Sight translation  
第2~10回 The Student Timesからの記事使用(テープ)  
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Woodman  
This course will operate on a 3-week cycle.  
Week 1: Discussion questions based on materials provided by the teacher.  
Week 2: Discussion-based on newspaper/internet articles provided by the teacher.  
Week 3: Discussion-based on newspaper/internet articles prepared by the students.

### 【評価方法】

「上級英語セミナー2006D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限(担当教員:横山綾子)、金曜日4限(担当教員:WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

横山: *The Student Times* その他  
Woodman: No text required.

## 上級英語セミナー 2006 E

難波豊子 CURRAN, Beverley

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006E」は受講できない。)

### 【授業の目標】

Bev Curran  
To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子  
英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

### 【授業計画】

Bev Curran  
Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子  
スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

### 【評価方法】

「上級英語セミナー2006E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限(担当教員:難波豊子)、金曜日5限(担当教員:CURRAN, Beverley)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

授業中に配布、指示する。

## 上級英語セミナー 2006 F

難波豊子 CURRAN, Beverley

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

### 【授業の目標】

Bev Curran  
To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子  
英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

### 【授業計画】

Bev Curran  
In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子  
スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

### 【評価方法】

「上級英語セミナー2006F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限(担当教員:難波豊子)、金曜日5限(担当教員:CURRAN, Beverley)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

授業中に配布、指示する。

## Traditional Arts in Japan

山田久美子 小沢 茂 二村慎一 McGOLDRICK, Gemma

### 【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

### 【授業の目標】

伝統文化に直接接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

### 【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）

尺八

琴

からくり

華道

歌舞伎

能・狂言

などの分野からのゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

### 【評価方法】

レポート 80%（各授業のレポート等）

出席 20%

### 【テキスト】

プリント

## Central Japan

福本明子 山田久美子 小沢 茂 横関美津紀 McGOLDRICK, Gemma

### 【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、社会の中での企業の役割、その活動、経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に際しての、事前・事後の学習もおこなう。

### 【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それをまとめることができるようにする。

### 【授業計画】

ゲストスピーカー

ミツカン酢

日本経済新聞

中部電力

ブラザー工業

ヒルトンホテル

デンソー

太陽科学株式会社 など。

詳しくは、最初の授業の時に説明する。

### 【評価方法】

レポート 80%（各授業のレポート等）

出席 20%

### 【テキスト】

プリント

## Multiculturalism in Aichi

ブイ チ トルン

### 【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住されてきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

### 【授業の目標】

- \* 日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
- \* 行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
- \* 県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
- \* 外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
- \* 在住外国人支援事業を理解すること

### 【授業計画】

- 総論：多元文化社会について
- 各論1：多元文化共生支援事業について
- 総務省および地域国際化協会の政策、事業について（外部講師・東京から）
- 愛知県および愛知県国際交流協会の事業について（外部講師・県内）
- 名古屋市および名古屋国際センターの事業について（外部講師・県内）
- 豊田市および豊田市国際交流協会の事業について（外部講師・県内）
- 経済産業界の事業について（外部講師・県内）
- 各論2：外国人コミュニティからの実態について
- コリアンコミュニティ（外部講師・県内）
- 中国人コミュニティ（外部講師・県内）
- フィリピン人コミュニティ（外部講師・県内）
- ブラジル人コミュニティ（外部講師・県内）
- アメリカ人コミュニティ（外部講師・県内）
- 留学生について（外部講師・県内）
- 外国人研修生の送り出し国からの報告
- タイ王国から（外部講師・タイ王国から）・前期
- ベトナムから（外部講師・ベトナムから）・後期
- 各論3：在住外国人支援事業について
- 生活相談事業について（外部講師・県内）
- 日本語教育支援事業について（外部講師・県内）

### 【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

### 【テキスト】

プリント資料など配布。テキストは授業中適宜に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

## PowerPoint Presentations

NORRIS, Harry T.

### 【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

### 【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

### 【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・アイデアの要約
- ・口頭発表に必要な論理的展開方法
- ・動画・音声・写真などのマテリアルの収集や作成方法
- ・プレゼンテーションソフトの効果的な使用方法

### 【評価方法】

- ・出席状況
- ・プレゼンテーション
- ・ディスカッション参加への積極性

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## 【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

## 【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・新聞・雑誌・パンフレットで活用されている見出し効果やテキストの段落構成について理解する。
- ・英語で短く分かりやすい文章を作る能力を身に付ける。

## 【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・アイデアの要約
- ・英語での自己表現方法
- ・図や表を使った表現方法
- ・タイトルや見出しの効果
- ・文章の段落構成

## 【評価方法】

- ・出席状況
- ・ブックレットなどの完成作品

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## 中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平

### 【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

### 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞“和”、副詞“也”“都”
10. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我们的大学。介詞“给”“在”
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。時の表現、方向補語
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

### 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

### 【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- |      |              |
|------|--------------|
| 第一課  | 発音 (1)       |
| 第二課  | 発音 (2)       |
| 第三課  | 発音 (3)       |
| 第四課  | 発音 (4)       |
| 第五課  | 人称代名詞・“是”    |
| 第六課  | 指示代名詞・数詞・量詞  |
| 第七課  | 形容詞と形容詞述語文   |
| 第八課  | 動詞述語文        |
| 第九課  | “有”・年月日      |
| 第十課  | 場所・時間・数量     |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞         |

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 1 A

大森信徳 張玉玲 曹志偉 周素芬 楊衛平 陳惠貞

### 【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

### 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

### 【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- |      |          |
|------|----------|
| 第一課  | 発音 (1)   |
| 第二課  | 発音 (2)   |
| 第三課  | 発音 (3)   |
| 第四課  | 発音 (4)   |
| 第五課  | あいさつ表現   |
| 第六課  | 時間の表し方   |
| 第七課  | 年齢を言う    |
| 第八課  | 家庭を語る    |
| 第九課  | 自分の家を語る  |
| 第十課  | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く    |
1. オリエンテーション
  2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
  3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
  4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
  5. 現在幾点? 時間表現、語気助詞“了”
  6. 我的家庭。介詞“在”
  7. 谈天氣。天氣表現、選択疑問文、感嘆文、
  8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
  9. 中間テスト
  10. 我的大学。伝聞の表現
  11. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
  12. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」  
結果や程度表現「V+“得”」
  13. 帮我。能願動詞“会”
  14. 假期做什么? 結果補語“好”
  15. まとめ

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈中国語会話 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

### 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 現在幾点? 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天氣。天氣表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 中間テスト
10. 我的大学。伝聞の表現
11. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」  
結果や程度表現「V+“得”」
13. 帮我。能願動詞“会”
14. 假期做什么? 結果補語“好”
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平 陳惠貞

### 【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK 基礎試験の3級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK 試験対策のためには〈HSK 基礎コースA〉か、〈HSK 基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話 2〉と並行した履修が望ましい。

### 【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

### 【授業計画】

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“让”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“过”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“离”、連動文
9. 终于习惯了。感嘆表現 2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一个梦。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春假的计划。未完了の表現、許諾の表現
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 基礎コース A \* 聴解中心

大森信徳 河井昭乃 王麗英 杜英起

### 【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験 HSK (漢語水平考試) に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。試験で要求される 400～1500 前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

### 【授業の目標】

HSK を通じて、中国語の実践能力を高める。HSK 基礎 2 級から 3 級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

### 【授業計画】

12 課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “时点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について  
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK 基礎 A (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 2

大森信徳 張玉玲 曹志偉 周素芬 楊衛平

### 【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK 基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK 試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

### 【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、会話能力のさらなる向上を目指す。日常のさまざまなシーンであられる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

### 【授業計画】

中国語会話 1 をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- |      |            |
|------|------------|
| 第一課  | 部屋を借りる     |
| 第二課  | 換金する       |
| 第三課  | 道を尋ねる      |
| 第四課  | 交通機関を利用する  |
| 第五課  | 市場での買い物の仕方 |
| 第六課  | デパート       |
| 第七課  | ホテル        |
| 第八課  | 郵便局        |
| 第九課  | 電話         |
| 第十課  | 中国人宅に訪問する  |
| 第十一課 | レストラン      |
| 第十二課 | スピーチの仕方    |

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 基礎コース B \* 読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

### 【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験 HSK (漢語水平考試) に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈HSK 基礎コースA〉とほぼ同じであるが、HSK の資格取得に対して特別に関心を示す学生に週 2 回の HSK 対策コースの受講可能を設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK 基礎コースA〉で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことで HSK の合格をより確実なものにしていく。

### 【授業の目標】

HSK を通じて、中国語の実践能力を高める。HSK 基礎 2 級から 3 級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

### 【授業計画】

12 課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”；“形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5. “数量补语”；“头”と“面”など
6. “有字句”；结构助詞“地”など
7. “量词的重叠”；“把字句”など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；“程度补语”など
10. “被字句”；“在・正・正在”など
11. “趋向补语”；“多么”など
12. “复合趋向补语”；“是～还是～”など  
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK 基礎 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 3

河井昭乃 楊 衛平 湯 海鵬

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK 初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK 試験対策のためには<HSK 初等コースA>か、<HSK 初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

### 【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 应该感谢谁。
3. 一件小事。
4. 生日宴会。
5. 中国人的问候语。
6. 在中国过春节。
7. 修自行车的张师傅。
8. 自行车上的宝座儿。
9. 雨披。
10. 服装与色彩。
11. 逛商场。
12. 一个特别的“村”
13. 学汉语趣事。
14. まとめ
15. 復習・テスト

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解3・4 (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

## HSK 初等コースA \*聴解中心

大森信徳 河井昭乃 陳 惠貞 杜 英起

### 【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK 初等試験の4級に受かることめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

### 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK 初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

### 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK 初中等A (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 3

楊 衛平 曹 志偉 杜 英起

### 【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK 初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家庭生活・大学生生活などについて語る事ができる。

### 【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

### 【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
2. 私達の中国語の先生
3. 朝食を食べる
4. タクシーに乗る
5. 宿舎のおばさん
6. 言葉のパートナー

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話3・4 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 初等コースB \*読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉 湯 海鵬

### 【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK 初等コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK 初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK 初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

### 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK 初中等B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 4

河井昭乃 楊 衛平 杜 英起

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

### 【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

### 【授業計画】

1. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2. 連動文の構成。主語+動詞フレーズ1+動詞フレーズ2。
3. 動詞の繰り返しの構造。AA式：说说；A-A式：说一说等等。
4. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6. 名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7. 「宝贝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8. 疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10. 方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心。
11. 語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12. 形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13. 比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14. 特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被の用例”。
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

## HSK 中等上級コースA \*聴解中心

大森信徳 河井昭乃 陳 惠貞

### 【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

### 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 4

楊 衛平 曹 志偉 陳 惠貞

### 【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語るができる。

### 【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

### 【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
2. 旅行に行こう
3. 体を鍛える
4. ついてない一日
5. ダイエット
6. 友情に乾杯

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 中等上級コースB \*読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉 杜 英起

### 【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語作文 1

曹志偉 陳惠貞

### 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

### 【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけではなく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

### 【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

### 【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 中高等級コース 1 A \* 聴解中心

大森信徳 曹志偉

### 【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。

### 【授業の目標】

ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。1課を2回の授業で進めてゆく。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK中高等級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 中高等級コース 1 B \* 読解中心

曹志偉

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは <HSK中高等級コース2A>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が <HSK中高等級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中高等級コースBは読解中心とする。

### 【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

### 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK中高等級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 同時通訳入門 1

大森信徳

### 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。

### 【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしてゆく。

### 【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回授業で進める予定である。

### 【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語作文2

曹志偉 陳惠貞

### 【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

### 【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけではなく、社会に使われている実用な文体を身につけることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

### 【授業計画】

学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

### 【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## HSK 中等高級コース2 B \* 読解中心

曹志偉

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2 A>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2 A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

### 【授業の目標】

HSK（中国語水平考査）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

### 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 中等高級コース2 A \* 聴解中心

大森信徳 曹志偉

### 【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される総合的な中国語の能力を養成する。

### 【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしてゆく。

### 【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回の授業で進める予定である。

### 【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語中等高級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 同時通訳入門2

大森信徳

### 【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2 A>か、<HSK中等高級コース2 B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

### 【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項を身につける。

### 【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回の授業で進める予定である。

### 【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

# 韓国・朝鮮語入門

パク ヨンソン キム ソヨン

## 【授業の概要】

ハングル(韓国・朝鮮の文字)の習得、発音のトレーニング、基礎文法の理解など、韓国・朝鮮語の入門段階を総合的に学習する。入門段階における集中学習の効果(韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じなので、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができる)をねらい、週2回履修を義務づける。

## 【授業の目標】

基礎的名詞および動詞や形容詞を中心に500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

## 【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説
- 第2回～第5回 ハングルの読み書き1～4、まとめ
  - 1) 基本母音字(10個)、挨拶1
  - 2) 基本子音字1(平音9個)、挨拶2
  - 3) 基本子音字2(激音5個)、名詞1
  - 4) 合成子音字(濃音5個)、名詞2
- 第6回～第8回 ハングルの読み書き5～7
  - 1) 合成母音字1(4個)、形容詞1
  - 2) 合成母音字2(7個)、形容詞2
  - 3) 終声子音字(7種)、叙述格助詞
- 第9回～第10回 発音のルールとトレーニング1・2、動詞1・2、表現練習、まとめ
- 第11回～第12回 尊敬形1、平叙文・疑問文1・2、助詞1・2
- 第13回～第14回 尊敬形2、否定文、助詞3・4、まとめ
- 第15回 中間試験
- 第16回～第17回 上称形、平叙文・疑問文および否定文、連結語尾1・2
- 第18回～第20回
  - 1) 勧誘および命令文、転成語尾1
  - 2) 禁止および不可能文、変則活用1、転成語尾2
  - 3) 漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ
- 第21回～第23回
  - 1) 略对上称形、転成語尾3
  - 2) 平常形、先語末語尾1
  - 3) 曖昧形、先語末語尾2
- 第24回～第25回
  - 1) 変則活用2、先語末語尾3
  - 2) 固有数詞、表現練習、まとめ
- 第26回 単位認定試験

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

## 【テキスト】

はじめての韓国・朝鮮語(曹述燮 プリンテック)

## 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

# 韓国・朝鮮語読解1

パク ヨンソン 金由那 姜信和

## 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

## 【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

## 【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、入門講座の復習
- 第2回 サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
- 第3回 明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
- 第4回 喫茶店で。変則1、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
- 第5回 韓国料理屋で。変則2、前置きや状況の表現、逆接の表現、助数詞
- 第6回 道をたずねる。変則3、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
- 第7回 中間試験
- 第8回 地下鉄の駅で。変則4、可能・能力の表現、不可能・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
- 第9回 タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
- 第10回 郵便局に行く。用言の連体形
- 第11回 約束を交わす。状態変化の表現、感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
- 第12回 天気、引用・伝聞の表現、可能性への推測の表現、確認あるいは同意の表現
- 第13回 単位認定試験

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

## 【テキスト】

韓国語中級(李昌圭 白帝社)

## 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

# 韓国・朝鮮語会話1

パク ヨンソン キム ソヨン 李正子 金芝恵

## 【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、対応する能力を養成する。

## 【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

## 【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、こんにちは
- 第2回 韓国は初めてですか
- 第3回 ここが寮です
- 第4回 3月2日からです
- 第5回 どこで売っていますか
- 第6回 MTって何ですか
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 スタンドラップを見せてください
- 第9回 一杯飲みましょう
- 第10回 大学生活はどうですか
- 第11回 よく聞けば勉強になります
- 第12回 誕生パーティをしましょう
- 第13回 単位認定試験

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

## 【テキスト】

始めよう韓国語会話(曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

## 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

# 韓国語能力試験対策1

パク ヨンソン キム ソヨン 姜信和 金美淑

## 【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

## 【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に必ず合格する。

## 【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をととして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、前期の復習  
完全制覇5級・挨拶言葉1
- 第2回 挨拶言葉2、ハングルのカタカナ表記
- 第3回 日本語のハングル表記、基本語彙と文法1
- 第4回 基本語彙と文法2、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
- 第5回 漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞
- 第6回 韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第7回 完全制覇4級・基本語彙と文法1
- 第8回 基本語彙と文法2・各種助詞、数詞・助数詞、過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
- 第9回 基本語彙と文法3・各種活用と変則、接続文、連体形
- 第10回 基本語彙と文法4・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
- 第11回 韓国語の発音、応用問題1
- 第12回 応用問題2
- 第13回 単位認定試験

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

## 【テキスト】

絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験5級・4級(小坂伸顕 白帝社)

## 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語読解 2

キム ソヨン 李 正子 金 美淑 金 芝恵 姜 信和

### 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

### 【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180~250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 初出勤、受動動詞、謙譲動詞、引用あるいは伝聞の表現
- 第3回 順杯、平行動作と逆接の語尾、変則1、動詞の過去の連体形
- 第4回 会食、補助動詞、引用文縮約形
- 第5回 業務報告、推量・勧誘の表現、敬語体の依頼と命令
- 第6回 整理と発展「北韓山で」、漢字音を覚える、音の変化、模擬試験
- 第7回 韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
- 第8回 再会(1)、婉曲・感嘆・非難の語尾表現、進展の語尾表現、会話文の縮約形
- 第9回 再会(2)、曖昧形文の疑問・命令・勧誘表現、意思表示の表現
- 第10回 日本の取材(1)、変則2、目的の表現、義務・必要性の表現
- 第11回 日本の取材(2)、判断あるいは同意の表現、間接疑問、曖昧形文
- 第12回 整理と発展「同僚紹介」、漢字音を覚える、連体形の色々、模擬試験
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

総合韓国語2(油谷幸利・南相櫻 白帝社)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国語能力試験対策 2

金 美淑 金 由那 金 芝恵 李 正子

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

### 【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180~250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に必ず合格する。

### 【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとって習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、3級完全制覇1・基本語彙と文法2
- 第2回 基本語彙と文法2、韓国語文の日本語文訳
- 第3回 各種動詞、各種形容詞、韓国語文の日本語文訳
- 第4回 尊敬形と上称形、命令・勧誘・否定の表現、禁止の命令形
- 第5回 各種連体形、各種助動詞、各種接統詞、時制の表現、選択・許容の表現
- 第6回 試しの表現、可能・不可能の表現、過去の経験の表現
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 意志、意図・計画の表現、決心の表現、依頼・要求の表現
- 第9回 各種否定の表現、禁止の勧誘形、理由・条件の表現、感動・独白・感嘆の表現、未来推量・意志の表現、伝聞
- 第10回 直接話法と間接話法1
- 第11回 直接話法と間接話法2
- 第12回 直接話法と間接話法3、韓国語と漢字、韓国語の発音、まとめ
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験3級(小坂伸頭 白帝社)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語会話 2

パク ヨンソン キム ソヨン 金 美淑 姜 信和

### 【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

### 【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180~250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、そこは行かないでお願いします
- 第2回 週末には何をしましたか
- 第3回 またお電話いたします
- 第4回 料理とか旅行です
- 第5回 資料を探しに一緒に行きませんか
- 第6回 韓国料理ができますか
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 何をしようと思っていますか
- 第9回 どこにいらっしゃいますか
- 第10回 バスか地下鉄に乗っていきます
- 第11回 過ぎた水曜日からです
- 第12回 このバックいくらだった
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

始めよう韓国語会話(曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語読解 3

パク ヨンソン 金 由那

### 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

### 【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240~300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んでも程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 日本語案内放送、変則1、感動・独白・感嘆の表現
- 第3回 日韓間の親近感、引用・伝聞の表現、勧誘表現、引用文連体形、回文連体形
- 第4回 板門店、理由・原因の表現、同等・比喩の表現、仮定の表現、譲歩の表現
- 第5回 韓国映画、変則2、推量の表現
- 第6回 整理と発展「海底トンネルへの期待」、漢字音を覚える、同等・比喩表現
- 第7回 韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
- 第8回 PCバン、変則3、前置き・逆接の語尾、用言の連用形
- 第9回 東大門市場、選択の表現
- 第10回 コリアンタウン、文章の省略形、疑問詞の不定用法、曖昧形文と敬語体
- 第11回 あかすり、用言の名詞形、可能・不可能の表現、思い込みの表現、変則4
- 第12回 整理と発展「祝杯」、漢字音を覚える、音の変化
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

総合韓国語3(油谷幸利・南相櫻 白帝社)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語会話3

パク ヨンソン キム ソヨン

### 【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

### 【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆつくり聞けば十分理解できてハングルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 履修登録と単位数
- 第3回 バイト探し
- 第4回 口座開設と自動振込みの手続き
- 第5回 天気予報そして日本の天候
- 第6回 山つつじと韓国の春
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 韓国の食文化および調理法
- 第9回 博物館めぐり
- 第10回 韓国と日本の庭園文化の比較
- 第11回 郵送：飛行便と船便
- 第12回 夏のヘアスタイル
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

使おう韓国語会話 (曹述燮・金賢珍 プリンテック)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国語能力試験対策3

キム ソヨン 金 芝恵

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

### 【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に必ず合格する。

### 【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、各種発音ルール
- 第2回 受身、使役形、形容詞の動詞化表現、動詞の名詞化表現、読解・カッパの語源
- 第3回 読解・韓国と日本の文化比較、結婚後の複雑な親族呼称、韓国の朝は忙しい
- 第4回 各種活用表現1
- 第5回 各種活用表現2、注意すべき用言とその用例1
- 第6回 注意すべき用言とその用例1、慣用表現、まとめ、中間テスト
- 第7回 模擬試験1、解答と解説
- 第8回 模擬試験2、解答と解説
- 第9回 模擬試験3、解答と解説
- 第10回 聞き取り・書き取り模擬試験1、解答と解説
- 第11回 聞き取り・書き取り模擬試験2、解答と解説
- 第12回 聞き取り・書き取り模擬試験3、解答と解説
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

ハングル能力検定試験準2級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 情報技術基礎Ⅰ

三和義秀 他

### 【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。

### 【授業の目標】

情報技術の基礎として不可欠なインターネット利用技術ならびにデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識を習得する。

### 【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現（2進数、16進数）
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5. 情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作1（電子メール）実習
9. インターネット基本操作2（WWW）実習
10. EXCEL基本操作1 実習
11. EXCEL基本操作2 実習
12. EXCEL基本操作3 実習
13. EXCEL基本操作4 実習

授業は、講義とコンピュータ実習を約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

なお、当該科目については、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

情報技術基礎Ⅰ 2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編 共立出版）

## 情報技術基礎Ⅲ

上原 衛 他

### 【授業の概要】

情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学ぶ。

### 【授業の目標】

WORDによるレポート・論文・ビジネス文書の作成、及びEXCELによる表の操作と関数を利用した編集についての高度なスキルと知識を習得する。また、ACCESSによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

### 【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5. ビジネス情報処理（EXCEL）
6. マクロ操作（1）
7. マクロ操作（2）
8. ACCESSの概要
9. ACCESSの基本操作（1）
10. ACCESSの基本操作（2）
11. ACCESS総合演習（1）
12. ACCESS総合演習（2）
13. まとめ

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。

なお、この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。

### 【テキスト】

情報リテラシーの応用（伊東俊彦他著 近代科学社）

## 情報技術基礎Ⅱ

梅田敏文 他

### 【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけでなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

### 【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識をコンピュータ実習を通して習得する。

### 【授業計画】

1. Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）実習
2. Windows基本操作2 実習
3. WORD基本操作1 実習
4. WORD基本操作2 実習
5. WORD基本操作3 実習
6. WORD基本操作4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT基本操作1 実習
9. POWERPOINT基本操作2 実習
10. POWERPOINT基本操作3 実習
11. 総合課題（プレゼンテーション資料作成1）実習
12. 総合課題（プレゼンテーション資料作成2）実習
13. 情報発信の管理と運用

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

なお、当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

情報技術基礎Ⅱ 2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編 共立出版）

## ネットワーク技術入門

三和義秀 他

### 【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの基礎知識によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

### 【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

### 【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2. ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3. ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4. ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5. ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6. HTMLとホームページ（1）：ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
7. HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、画像の表示
8. HTMLとホームページ（3）：ファイルの管理方法、ハイパーリンクの設定
9. HTMLとホームページ（4）：サウンドの再生と動画の再生
10. ホームページ課題作成（1）
11. ホームページ課題作成（2）
12. CGIプログラミング：CGIの仕組みと特徴
13. セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

### 【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

ネットワークリテラシー（三和義秀著 共立出版）

## プログラミング入門

三和義秀 他

### 【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASIC 言語等を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

### 【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をコンピュータ実習を通じて習得する。

### 【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. 変数とデータ型
6. 順次構造
7. 関数の利用
8. 選択構造
9. 繰り返し構造 (1)
10. 繰り返し構造 (2)
11. 一次元配列
12. 二次元配列
13. 文字列処理

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。また、実習際には記憶メディア (FD、USBメモリ等) が必要になる。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

プログラミング入門 (西荒井学著 共立出版)

## CG 入門

石丸 緑 他

### 【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) を含むデジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CG を効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

### 【授業の目標】

画像や映像についての知識を身につけ、コンピュータ実習を通じて、画像やアニメーション、映像制作などの技術を習得する。

### 【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うトピックスは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Web における情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス 1 : 基礎編
6. コンピュータグラフィックス 2 : アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

ビジュアル情報表現 : デジタル映像表現・Web デザイン入門 (CG-ARTS 協会)

## 情報数学入門

親松和浩 他

### 【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、CG やゲームプログラミングで特に重要な代数幾何の基礎を学ぶ。

### 【授業の目標】

全ての情報処理プログラミングに必要な論理演算、データ量や処理スピードに関する基礎知識を理解し、CG やゲームプログラミングで必要となる三角関数やベクトルの基礎的な計算法を習得する。

### 【授業計画】

以下の項目について、コンピュータを用いた演習を交えて学習する。

1. 集合・命題と制御処理
2. 2進数による情報の表現
3. 三角関数
4. ベクトル
5. 図形の方程式
6. 行列
7. 図形の変換

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

第 1 回目の授業にて指示する。

## 人工知能入門

高橋信明 他

### 【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

### 【授業の目標】

人工知能の学問分野を概観し、人工知能プログラムや知識の表現、推論についての基礎知識を習得する。

### 【授業計画】

1. 人工知能の基本原則と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

第 1 回目の授業にて指示する

## 情報処理技術特殊 I

中野雅晴

### 【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

### 【授業の目標】

基本情報技術者試験の資格取得を目指し、アルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、プログラムを作成するスキルを習得する。

### 【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊III

黒部晃一

### 【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるので、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な体系的な知識を学習する。

### 【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指し、Web技術・デザインに関する基本的な知識を習得する。

### 【授業計画】

テキストや授業内で配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。

1. Webデザイン概論
2. テキスト『Webデザイン』検証
3. HTML
4. JavaScript
5. スタイルシート
6. DreamweaverとFireworks
7. FlashムービーとActionScript
8. Javaアプレット、CGI、XML
9. 平成17年度後期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
10. 平成17年度後期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
11. 平成18年度前期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
12. 平成18年度前期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊II

中野雅晴

### 【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

### 【授業の目標】

ソフトウェア開発技術者試験の資格取得を目指し、高度なアルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、効果的なプログラムを作成するスキルを習得する。

### 【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊IV

黒部晃一

### 【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」（平成18年前期から実施）の合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、Web設計とデザインの高いスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

### 【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指し、さまざまなWeb技法を効果的に活用し、高度なWebサイト制作や開発に応用できるスキルを習得する。

### 【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1. 基本Webテクノロジーとその活用
2. 最新のWebテクノロジーの概要
3. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
4. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
5. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
6. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
7. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
8. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
9. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
10. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
11. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
12. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

# 実践日本語表現法 a・b

外山敦子

## 【授業の概要】

これから大学で学ぶ専門教育の基礎として、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

## 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

## 【授業計画】

- a
  1. 導入 (講義の進め方など)
  2. 話し言葉と書き言葉 (1) (話し言葉と書き言葉の違い)
  3. 話し言葉と書き言葉 (2) (書き言葉としてふさわしい表現、小テスト1)
  4. 書き言葉の技能 基礎 (1) (文の骨組みを抜き出す、小テスト2)
  5. 書き言葉の技能 基礎 (2) (文の骨組みを整える、小テスト3)
  6. 書き言葉の技能 基礎 (3) (呼応関係を確かめる、小テスト4)
  7. 書き言葉の技能 基礎 (4) (接続助詞「が」の使い方、小テスト5)
  8. 書き言葉の技能 基礎 (5) (句読点の使い方、小テスト6)
  9. 書き言葉の技能 基礎 (6) (修飾語と被修飾語、小テスト7)
  10. 書き言葉の技能 基礎 (7) (修飾語の語順、小テスト8)
  11. 書き言葉の技能 応用 (1) (論の要旨をとらえる)
  12. 書き言葉の技能 応用 (2) (文章を要約する)
- b
  1. 書き言葉の技能 発展 (1) (レポートの書き方1)
  2. 書き言葉の技能 発展 (2) (レポートの書き方2)
  3. 書き言葉の技能 発展 (3) (論証の仕方、小テスト9)
  4. 話し言葉の技能 基礎 (1) (敬語の基礎、小テスト10)
  5. 話し言葉の技能 基礎 (2) (敬語の種類と使い方、小テスト11)
  6. 話し言葉の技能 基礎 (3) (間違いやすい敬語表現、小テスト12)
  7. 話し言葉の技能 応用 (1) (相手を考えて話す、小テスト13)
  8. 話し言葉の技能 応用 (2) (電話で話す、小テスト14)
  9. 総合応用 (1) (手紙文とその実例、小テスト15)
  10. 総合応用 (2) (メモの作り方、小テスト16)
  11. 総合応用 (3) (ビジネス文書とその実例1)
  12. 総合応用 (4) (ビジネス文書とその実例2)

## 【評価方法】

出席状況、小テスト、課題提出、学期末試験などにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法 (名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店)

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

# 国文学概論 a・b

山下宏明

## 【授業の概要】

まず古代から近世までの日本文学研究のあり方について話す。さらに明治以後、文献学的研究方法から、文芸学、歴史社会学派へと作者論の歩みをとどる。新批評を転機に読者論に変わることを述べ、以後、記号・構造主義、テキスト論、新歴史主義、ポストコロニアル理論、ジェンダー論、文化論、身体論、口語論などへの展開をたどり、その上で、特に、読者論のための物語の方法を具体的に考察指導する。

## 【授業の目標】

日本文学を学ぶとは、どういうことかを理解させる。あわせて文学テキストの読み方を考えさせる。

## 【授業計画】

特に読者論や文字・口語論を、古典はもちろんのこと、近・現代の小説・物語、さらには映画、演劇にも素材を広げて表現・享受の方法を講義する。

## 【評価方法】

出席状況と、試験に (ノートの持込可) による。

## 【テキスト】

前半の批評史の展望、後半の各論を進める上に必要な作品の部分引用など、各種資料をプリントで用意する。その原資料は、これまでの経験から、ほとんど揃っているが、さらに新しい資料をも追加したり、とりかえを行う。

基本的な参考資料として、

文学とは何か (T・イーグルトン 岩波書店)

物語のディスコース (ジェラルド・ジュネット 風の薔薇社)

新しい文学のために (大江健三郎 岩波書店)

新文学入門 (大橋洋一 岩波書店)

その他を推薦するはずである。

# 国文学史 (1) a・b

日比野浩信

## 【授業の概要】

- a 日本の古典文学を概観する。上代から中古・中世そして近世に区分し、それぞれの時代において重要視されるべき著名な作家・作家を中心に、その背景となった文化についても考えたい。ただし、時間数の都合で、中古・中世を中心に現り上げることとする。
- b 主だった日本の古典文学作品について、その研究史・享受史を概観する。

## 【授業の目標】

- a 単なる作品解説や作品の列挙ではなく、文学史的観点を導入することに主眼を置き、各自が自らの選んだ作品を文学史的に位置付けることを主たる目的とする。
- b 各自が自ら選出した作品の研究史・享受史を把握することを目的とする。

## 【授業計画】

- a
  - 1 上代の文学  
奈良時代
  - 2 中古の文学  
平安前期  
平安中期  
平安後期  
院政期
  - 3 中世の文学  
鎌倉時代  
以下、時間に応じて略述する。  
南北朝時代  
室町時代
  - 4 近世の文学  
江戸時代
- b
  - 1 和歌の研究と享受  
万葉集  
古今和歌集  
歌学
  - 2 物語の研究と享受  
伊勢物語  
源氏物語
  - 3 その他

## 【評価方法】

授業への参加状況・態度による平常点および、学期末の試験、もしもレポートによって評価する。試験レポートは、受講人数や授業進度などを考慮して決定する。

講義中は厳しい態度で臨む。私語・居眠り・飲食・他事を当然のように考えている者は、かなり窮屈な思いをすることになる。

## 【テキスト】

日本古典文学史 (乾安代他著 双文社出版)

## 【参考文献・資料】

平安文学研究ハンドブック (田中登・山本登朗編 和泉書院)

# 国文学史 (2) a

小倉 育

## 【授業の概要】

(近代文学の諸相)：日本の近代文学の諸相を、いくつかのテーマを設定しながら、かなめとなる作家・作品・思潮を検討することによって理解し、あわせて日本文学における「近代」とは何かを考える。

## 【授業の目標】

日本近代文学の諸相について理解を深めるとともに、日本文学における「近代」の実態について把握する。

## 【授業計画】

以下の各テーマにしたがって講義をおこなう。

- 1 〈書く〉ことと〈語る〉こと：三遊亭圓朝『怪談牡丹燈籠』
- 2 〈模写〉の意味：坪内逍遙『小説神髓』・『当世書生気質』  
二葉亭四迷『浮雲』
- 3 〈わたくし〉の発見：森鷗外『舞姫』
- 4 〈こども〉たちの眼差し：永井荷風『狐』  
谷崎潤一郎『小さな王国』  
芥川龍之介『杜子春』
- 5 〈自然〉の発見と人間の内面：島崎藤村『破戒』
- 6 〈新しい女〉と戯画化された主人公：田山花袋『蒲団』
- 7 〈自然の愛〉と〈社会の掟〉：夏目漱石『それから』
- 8 一つの〈語り〉の場をめぐる三つの物語：谷崎潤一郎『碧間』  
森鷗外『百物語』  
芥川龍之介『ひよつとこ』

## 【評価方法】

授業への出席・参加状況、学期末の試験 (自筆ノート持ち込み可・論述問題中心) によって評価する。

## 【テキスト】

- 怪談牡丹燈籠 (三遊亭圓朝 岩波文庫)  
舞姫・うたかたの記 (森鷗外 岩波文庫)  
破戒 (島崎藤村 新潮文庫)  
蒲団・一兵卒 (田山花袋 岩波文庫)  
それから (夏目漱石 岩波文庫)  
近代文学年表 (年表の会 双文社出版)

## 国文学史 (2) b

細谷 博

### 【授業の概要】

文学における「近代」とは何か、「現代」とは何か。われわれ自身の〈読むこと〉の問題として考える。

大正後期から昭和期に至る文学の諸相を、要点となる作家・作品を端的におさえることによってたどりなおし、作品の各部をたしかに味わいつつ考える文学史をめざす。

### 【授業の目標】

近代・現代文学における作家・作品についての正しい知識を得、歴史的理解、文学史的な位置づけについて考察を深める。

### 【授業計画】

- 1) 概論、導入
- 2) 「城の崎にて」他読解
- 3) 「蟹気楼」他読解
- 4) 志賀直哉・谷崎潤一郎・芥川龍之介
- 5) 関東大震災、芥川の死、円本ブーム
- 6) 近代と現代
- 7) 堀辰雄
- 8) 菊池寛
- 9) 横光利一
- 10) 川端康成
- 11) 梶井基次郎
- 12) 太宰治
- 13) 井伏鱒二・大岡昇平
- 14) 三島由紀夫・安部公房
- 15) 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

小僧の神様・城の崎にて (志賀直哉著 新潮文庫)  
河童・或阿呆の一生 (芥川龍之介著 新潮文庫)  
現代日本の文学 (双文社出版)

### 【参考文献・資料】

授業時に指示

## 国文学講義 (1) 上代 a

大浦誠士

### 【授業の概要】

『万葉集』には、バラエティーに富んだ歌が見られるが、それらの歌は、表現形式という観点から見ると、いくつかの類型に分類することができる。歌の始発において、歌はどのような表現の型を持っていたのか、また、その形式はどのように自覚されていたのか。そうした問題を考えることは、歌がどのように始まっていったかのみならず、歌とは何か、表現とは何かを考える上で重要である。

### 【授業の目標】

『万葉集』の和歌を中心として、上代歌謡、平安朝和歌等を視野に入れたつづ、表現形式をキーワードとして、歌の成立と展開の様相を追う。

### 【授業計画】

1. 歌の表現とは何か。
2. 正述心緒と寄物陳思
  - 2-1. 上代歌謡、初期万葉の歌
  - 2-2. 人麻呂歌集の歌
  - 2-3. 後期万葉の歌
  - 2-4. 古今和歌集の歌
3. 譬喩歌
4. 中国詩学と万葉和歌
5. 景と心の表現構造

### 【評価方法】

学期末の試験により評価する。

### 【テキスト】

テキストは特に定めない。授業時にプリントを配布する。

## 国語概説 a・b (音声言語及び文章表現を含む)

増井典夫

### 【授業の概要】

前期中心テーマー日本語の音声・音韻・アクセント

後期の中心テーマー方言と共通語

#### <前期>

日本で使われている言語としてアイヌ語や沖縄の言葉について触れたあと、音声言語という面から、世界の中での日本語の位置を考え、さらには日本語の音韻・アクセント等を考察していく。

#### <後期>

日本語方言学の研究法・調査法をみながら愛知県方言の位置付け、方言と共通語の使い分け、「新方言」といわれる新しい日本語表現等を考えていく。

### 【授業の目標】

日本語について、客観的に分析できるだけの知識を獲得し、また分析できる目を持てるようにする。

### 【授業計画】

講義を行なっていく。

### 【評価方法】

記述式テスト (定期試験)。

### 【テキスト】

国語概説 (佐伯・山内編 和泉書院)

## 国文学講義 (1) 上代 b

島田修三

### 【授業の概要】

(過渡期・異文化としての古代)

『万葉集』の4500首余りの歌は、おおよそ7世紀の半ばから100年間に詠まれた。この100年間は古代社会が激しくシフトして行く時期と重なる。古代律令国家の成立をはじめとして中国文化の流入、生活民俗の変容など多元的なシフトが万葉和歌の成立や成熟に色濃く影響を及ぼしている。本講義では、この100年間の作品を歴史的に追うことによって、文学的問題にとどまらず万葉和歌の歴史社会的な諸問題を考えていくと同時に、異文化としての古代への理解を深めていきたい。

### 【授業の目標】

歴史的な過渡期としての古代、および異文化としての古代をテキストの多面的な読解を通して深め、日本文化への興味と関心を培う。

### 【授業計画】

1. 古代とはどういう時代か
2. 異文化としての古代 1 古代の表現と呪術
3. 異文化としての古代 2 古代和歌と宴
4. 異文化としての古代 3 古代宴席歌と擬女性表現
5. 異文化としての古代 4 古代の男女贈答歌
6. 異文化としての古代 5 古代の旅
- 7~9. 雄略天皇巻頭歌と神婚
- 10~13. 舒明天皇歌と国見

### 【評価方法】

出席状況および前期・後期末それぞれのテストもしくはレポートによって評価する。

### 【テキスト】

(前期・後期)

万葉 文学とその背景 (島田修三他著 おうふう)

### 【参考文献・資料】

授業中に、適宜、指示する。

## 国文学講義（2）中古 a・b

久保朝孝

### 【授業の概要】

前期 a は、物語文学の一方の始発とされる『伊勢物語』を講読する。  
後期 b は、「王朝女流日記」諸作品を講読しながら、その特質について考察する。

### 【授業の目標】

中古文学作品に対する基本的姿勢と読解の基本的方法を身につける。特に本文解釈の多様性の所以と可能性について実践的に理解する。

### 【授業計画】

＜前期＞ a：伊勢物語	
1 導入	8 伊勢物語各章段の精読
2 伊勢物語初段の考察	
	13 伊勢物語各章段の精読
7 伊勢物語初段の考察	14 予備
＜後期＞ b：王朝女流日記	
1 導入	7、8 和泉式部日記
2、3 土佐日記	9、10、11 紫式部日記
4、5 蜻蛉日記	12、13 更級日記
6 枕草子	14 予備

### 【評価方法】

出席状況、課題小テスト、期末レポート及び学外の自主的学習を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

### 【テキスト】

- 前期 a：伊勢物語（校注古典叢書 片桐洋一校注 明治書院 1,400円 税別）  
後期 b：王朝女流日記を学ぶ人のために（久保朝孝編 世界思想社 2,300円 税込）

### 【参考文献・資料】

別途資料を毎授業時に配布する。

## 国文学講義（3）中世 a・b

岩下紀之

### 【授業の概要】

古典文学は元来写本・版本のかたちで享受されてきた。過去の人々と同じかたちで読書することなしに、古典を解釈・鑑賞することはできない。自分の国の作品では、このような原則的な立場での研究が可能なので、この特徴を生かしてほしい。変体仮名の入門を4、5月中に集中しておこなうので、後期からの受講は困難であろう。

散文と韻文に触れてみるべく、前期は、御所本宇治拾遺物語（下）、後期は、御所本百人一首抄を講読する。

### 【授業の目標】

日本の古典的文章の読解力をつけること。つまり初めて見た文章を辞書をたよりに解説できるようにすること。

### 【授業計画】

一方的に教授することを避け、学生にしばしば読ませることにしている。

### 【評価方法】

学期末の試験をもって評価する。

### 【テキスト】

- 御所本うち拾遺物語＜下＞（笠間書院）  
御所本百人一首抄（笠間書院）  
仮名変体集（新典社）

## 国文学講義（4）近世 a・b

阿部一彦

### 【授業の概要】

井原西鶴の浮世草子と近松門左衛門の世話浄瑠璃を読み、近世文学の魅力や面白さを発見し確認していく。

同一事件を題材とした、西鶴の『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」・巻三「中段に見る曆屋物語」と近松の『五十年忌歌念仏』・『大経師昔暦』を読み解き、鑑賞する。両作品の比較検討を通して、それぞれの作品・作者の特色を確認するとともに、浮世草子、世話浄瑠璃という近世文学独自のジャンルの創作方法や成立基盤をも考察していく。

#### ＜前期＞

西鶴の『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」と近松の『五十年忌歌念仏』を読んでいく。

最初に「近世」の社会的・文化的特徴と文学史を概説する。つづいて、西鶴の文学活動をごくおおまかに概説してから、「姿姫路清十郎物語」を精読する。『五十年忌歌念仏』は受講者それぞれが、西鶴の作品と比較しつつ読んでいくこととなる。この成果を前期試験の課題とする。

#### ＜後期＞

西鶴の『好色五人女』巻三「中段に見る曆屋物語」と近松の『大経師昔暦』を読んでいく。

最初に歌舞伎・浄瑠璃の成立史を簡単に説明する。今度は逆に、近松の『大経師昔暦』を精読する。受講者に「中段に見る曆屋物語」を読んでもらう。後期試験では、『大経師昔暦』を論じてもらう。

### 【授業の目標】

近世文学解読のための知識や方法を学び鑑賞の能力を高める。

### 【授業計画】

講義・講読形式で進めていく。

### 【評価方法】

前期、後期ともにレポートによる。

### 【テキスト】

西鶴と近松（松崎仁・白石悌三 和泉書院 1,545円）

## 国文学講義（5）近代 a・b

永井聖剛

### 【授業の概要】

a  
〈近代〉とは何か？ 近代文学がいかに〈近代〉なるものを表象しているのかを検討する。

b  
異界を主題とした文学作品の検討。〈近代〉を相対化する時空としての異界を描くことの意義を考察する。

### 【授業の目標】

文学作品が〈近代〉をいかに表象し、またそれを相対化しようとしたのかを理解する。

〈近代〉において〈わたし〉という存在がいかにして成り立ちうるのかを考える。

### 【授業計画】

- a  
1 問題の所在；近代化と文学  
2 郊外の発見・風景の発見（国木田独歩「武蔵野」「忘れ得ぬ人々」）  
3 言葉と風景（国木田独歩「武蔵野」）  
4 地方・文学・青年というアイデンティティ（田山花袋『田舎教師』）  
5 国民という主体の誕生（田山花袋『田舎教師』）  
6 近代化と文学の想像力（泉鏡花『高野聖』、柳田国男『遠野物語』）  
7 まとめ  
b  
1 問題の所在；どうして〈異界〉なのか  
2 虚構としての自己（谷崎潤一郎「秘密」）  
3 新しい知覚体験と新しい世界（江戸川乱歩「押絵と旅する男」）  
4 疎外と物象化（安部公房『壁』『箱男』）  
5 視覚を否定するということ（安部公房『壁』、江戸川乱歩『盲獣』）  
6 世界の果てはどこにあるか（安部公房『壁』、村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』）  
7 まとめ

### 【評価方法】

授業への出席・参加状況、学期末の試験（論述問題）によって評価する。

### 【テキスト】

- 武蔵野（国木田独歩 新潮文庫）  
田舎教師（田山花袋 新潮文庫）  
高野聖（泉鏡花 新潮文庫）  
壁（安部公房 新潮文庫）  
世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド（村上春樹 新潮文庫）

### 【参考文献・資料】

講義中に指示する。

## 国文学講義 (5) 近・現代 a・b

小倉 斉

### 【授業の概要】

〈小説を楽しく読む方法〉: 「小説を読む」とはどのような行為なのかという課題について、日本の近・現代を代表する小説の精読および方法意識の検討を通して考察し、言語表現としての小説を楽しく読む方法を追究する。

### 【授業の目標】

日本の近・現代を代表する小説の方法意識について理解を深めるとともに、小説の読み方の基礎を学ぶ。

### 【授業計画】

〈前期〉

- 1 「大人」になる悲しみ: 樋口一葉『たけくらべ』
- 2 「青春」のほろにかさ: 夏目漱石『三四郎』
- 3 「物語」の範囲内と範囲外: 森鷗外『雁』
- 4 「小説の小説」という形式: 永井荷風『溷東綺譚』
- 5 「物語」の越境: 谷崎潤一郎『吉野葛』

〈後期〉

- 1 小説の「時空間»: 堀辰雄『風立ちぬ』
- 2 「戦争」の記憶と「子ども」の眼差し: 宮本輝『泥の河』
- 3 「仮面」と「素面」のせめぎ合い: 安部公房『他人の顔』
- 4 「リアリティ (現実性)」との遊戯: 筒井康隆『虚人たち』
- 5 90年代小説の新しさ: 川上弘美『センセイの鞆』

### 【評価方法】

授業への出席・参加状況、学期末の試験 (自筆ノート持ち込み可・論述問題中心) によって評価する。

### 【テキスト】

- 〈前期〉: たけくらべ・にごりえ (樋口一葉 角川文庫)、三四郎 (夏目漱石 新潮文庫)、雁 (森鷗外 新潮文庫)、溷東綺譚 (永井荷風 岩波文庫)、吉野葛・盲目物語 (谷崎潤一郎 新潮文庫)
- 〈後期〉: 風立ちぬ・美しい村 (堀辰雄 新潮文庫)、蜚河・泥の河 (宮本輝 新潮文庫)、他人の顔 (安部公房 新潮文庫)、虚人たち (筒井康隆 中公文庫)、センセイの鞆 (川上弘美 文春文庫)

## 国語学講義 b

増井典夫

### 【授業の概要】

近現代の日本語を対象として、主に「語彙」の面に注目して考えていく。まず「和語」「漢語」「外来語」という枠組みから「語彙」を考え、それぞれの特徴をとらえ、考察していく。

### 【授業の目標】

近現代日本語の特徴を理解し、分析できるだけの知識を獲得することを目指す。

### 【授業計画】

講義を行なう。

### 【評価方法】

記述式テスト (定期試験)。

### 【テキスト】

概説現代日本のことば (佐藤武義編 朝倉書店)

### 【参考文献・資料】

国語概説 (佐伯・山内編 和泉書院)

## 国語学講義 a

犬飼 隆

### 【授業の概要】

古代日本語を対象として、それらを研究するにはどのような資料を用いるか、どのような方法があるか、また、それらの現象には日本語の言語としての特徴がどのようにあらわれているか、さらには、言語に歴史的な変化をもたらす動因は何かなど、具体例にふれながら「考える授業」をめざす。講義形式で行い、毎回まとめの短いレポートを書く。補助プリントを教材として使うが、口頭の説明が主体になるし、授業中に作業を行うときもあるので、ノートを充分にとる必要がある。授業中途の出入り厳禁。守れない者は受講しないように。

### 【授業の目標】

日本語の音韻がCV構造であり、文法が接着語の類型に属すること、そして、それによって日本語史上の様々な現象が説明できることを理解する。

### 【授業計画】

- 第1～2回 日本語の基本的な特徴  
第3回 古代日本語の資料  
第4～8回 古代語の音韻と文字  
第8～13回 古代語の文法と語彙

### 【評価方法】

期末試験と毎回書く小レポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する論文や著述を読むように心がけてほしい。

## 中国文学講義 (1) a・b

寺尾 剛

### 【授業の概要】

<先秦漢魏晉南北朝の文学>  
唐に至るまでの中国の文学の歴史を各時代の代表作を挙げながら概説していく。

<前期>

- ・中国文化の特色・中国人の発想法
- ・『詩経』
- ・『楚辞』
- ・『論語』
- ・秦の統一までの文学史

<後期>

- ・『古詩十九首』
- ・建安文学・曹操・曹植
- ・『出師表』
- ・『蘭亭序』
- ・陶淵明
- ・謝朓
- ・漢代から六朝までの文学史

### 【授業の目標】

唐に至るまでの中国の文学史を理解するとともに漢文の基礎 (文法や文化的背景等) を身につける。(詳細は授業にて解説する)

### 【授業計画】

中国の文学の流れを具体的に作品を読みながら理解していく。時間的に余裕があれば輪読する。  
学外教育活動として中国研修旅行も企画するつもりである (自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬～3月上旬)。

### 【評価方法】

出席、平常点と試験。

### 【テキスト】

中国詩文 (中国詩文研究会編 1,700円)  
及びプリント

### 【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

## 中国文学講義（2）

寺尾 剛

### 【授業の概要】

＜唐代の文学＞

唐詩と唐代伝奇小説を読むことを通じ、中国文学研究の方法を理解してゆく。

- ・唐代文学史
- ・『長恨歌』
- ・『杜子春伝』
- ・その他

### 【授業の目標】

唐王朝の歴史的背景を踏まえつつ、この時代の詩や小説を理解する。（詳しくは授業にて解説する。）

### 【授業計画】

時間的に余裕があれば輪読していく。

学外教育活動として中国研修旅行も企画するつもりである（自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬～3月上旬）。

### 【評価方法】

出席、平常点及び試験。

### 【テキスト】

中国詩文（中国詩文研究会編）  
及びプリント

## 国文学演習 I（1） a・b

島田修三

### 【授業の概要】

〈万葉季節歌群の考察〉

『万葉集』巻10には人麻呂歌集から奈良天平時代の四季の作者未詳歌540首余りがそれぞれ「雑歌」「相聞」の部立に分かれて収録されている。本授業では、この歌群の子細な読解を通して、四季の節会と歌の場の関係、四季の自然風物が初期の和歌に与えた影響、自然観の深化といった諸問題を考えてみたい。

### 【授業の目標】

テキストの丹念な調査や読解、また演習授業における教員と学生の討論を通して、伝統の日本語としての古語を柔軟に読み解く技術と能力を育てる。

### 【授業計画】

〈前期〉 a

第1回～2回 古代の自然観と暦の変遷

第3回～4回 巻10の概観

第5回～10回 春の歌 演習発表

第11回～12回 夏の歌 演習発表

〈後期〉 b

第1回～3回 夏の歌 演習発表

第4回～9回 秋の歌 演習発表

第10回～11回 冬の歌 演習発表

第12回 総括

※原則として一人数首の作品を担当し、指示に従った調査結果のレジュメの用意をしなければならない。発表に基づいて、受講者や島田の質疑が行われる。

### 【評価方法】

出席状況、授業期間中の発表、学期末レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

〈前期・後期〉

萬葉集（訳文篇）（佐竹昭広ほか著 塙書房）

### 【参考文献・資料】

授業中、適宜、紹介する。

## 国文学演習 I（2） a・b

久保朝孝

### 【授業の概要】

元来自撰であったと見られる『紫式部集』を読み解きながら、物語作家の生涯を追跡するとともに、その感性や精神構造の実質を探る。

演習であるから、担当者の発表のみで終わることなく、それに対する質疑・批判、そして回答・反論等が、全員によって躍動的に展開されることを期待する。

なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行（約33,000円）を行う。

### 【授業の目標】

中古文学作品の読解と研究との基礎的方法を、実践的に身につける。

特に作品論の基礎となるべき本文の「読み」（解釈）を、辞書・注釈書等を参照・批判・整理しつつ、自らの力によって築き上げる過程を重視したい。

### 【授業計画】

一、複数のグループを編成する。

二、準備学習。

三、担当範囲を決定する。

毎回2～3首。

四、研究報告→質疑→回答→討論→助言（毎回の授業）

五、学修の成果をレポートにまとめる（期末）。

### 【評価方法】

出席状況、担当範囲についての研究発表（半期に3回程度）、授業中の発言（質問・批判等）、そしてレポート等を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

### 【テキスト】

紫式部日記 紫式部集（新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社 2,700円税別）

## 国文学演習 I（3） a・b

岩下紀之

### 【授業の概要】

和歌のうち、当時の社会や、歌をよむにあたっての慣例を知らないといふと解釈が困難な、恋の歌を教材とする。

＜前期＞

今年は詞花集をとりあげる。新しい歌風を示すこの両集はいろいろな意味で興味深い。古今、新古今には注釈が多いが、その中間に成立した諸集の研究は、まだこれからと感じられることが多い。

そういう条件から、本集にとりくむのはやりがいのあることと思われる。

＜後期＞

前期の教材を継続する予定である。

### 【授業の目標】

古典的な和歌の読解力をつけること。すなわち、初めて見る和歌を辞書をもたよりに読解できるようにすること。

### 【授業計画】

はじめ二回ほど概説と作業を教員が行ない、以後学生に発表させる。

### 【評価方法】

レポートを課する。

### 【テキスト】

新日本古典文学大系 金葉・詞花和歌集（岩波書店 3,600円）

## 国文学演習 I (4) a・b

阿部一彦

### 【授業の概要】

近松門左衛門の<世話浄瑠璃>の典型的な作品である『冥途の飛脚』を影印本を使って解説・鑑賞していく。

金銭と恋愛そして封建制度、そこにおける町人の生きざま(義理と人情)がどのように描かれているかを検証してみたい。『曾根崎心中』・『心中天の網島』をも視野に入れ、現代的視点からも問題にしていこうと思っている。

#### <前期>

最初に近松の生涯についての論文を受講者全員で輪読していく。次に『曾根崎心中』を読み、内容を把握する。作品の要点を指摘するとともに、『世話浄瑠璃』の第一作としてのこの作品の日本の戯曲・文学史上における意義を明確にしておく。文楽の上演をビデオで鑑賞する。

『冥途の飛脚』(影印本)を、受講者が、分担して解説、調査、研究、発表をおこなう。およそ「上の巻」を終えることができるであろう

#### <後期>

引き続き「中・下の巻」に進んでいく。最後に、受講者を三グループに分け、<人物論>・<悲劇論>・<義理と人情>の観点から問題を提起し、全員で討論し、検討していく。外国人向けのビデオを見て総括とする。なお、機会をみて大阪の国立文楽劇場に足を運びたいと思っている。

なお、2月か3月に京都のゼミ旅行を行う。

### 【授業の目標】

近世文学解説のための知識や方法を自らの調査・研究・発表によって学ぶとともに鑑賞の能力をより高める。

### 【授業計画】

受講者の分担による解説・調査・研究を発表する。

### 【評価方法】

自らの分担の発表が評価の対象となる。そのうえ、前・後期ともにレポートを課す。

### 【テキスト】

曾根崎心中・冥途の飛脚(岩波文庫)

## 国文学演習 I (6) a・b

都築久義

### 【授業の概要】

近代の著名な作家を学生の希望に応じてとりあげ、グループ研究する。

#### <前期>

3人(学生の希望でとりあげる作家を決める)

#### <後期>

3人(学生の希望でとりあげる作家を決める)

### 【授業の目標】

近代文学と作家への関心を高め、卒業論文の執筆の動機づけと意欲を持たせる。

### 【授業計画】

グループ(4~5人)を編成して、グループ単位で発表。発表を中心に全員で討議する。

### 【評価方法】

平素の学習態度。

### 【テキスト】

なし。

## 国文学演習 I (5) a・b

小倉 斉

### 【授業の概要】

(近・現代小説の方法—いかに読み、いかに論ずるか—)  
日本の近・現代を代表する小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。担当作品についてそれぞれ読み、話し合い、調べ、分析してきたことを、レジュメにより報告する。自分の〈読み〉と〈考え〉とを大切にしつつ、それを対象化するために、すぐれた論を読み、質疑応答にも積極的に参加することが望まれる。

### 【授業の目標】

「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。

### 【授業計画】

#### <前期>

- 1 〈読む〉という行為および〈読み〉の実例：『追儺』(森鷗外)(2回)
- 2 『怪談牡丹燈籠』(三遊亭圓朝)(3回)
- 3 『金色夜叉』(尾崎紅葉)(4回)
- 4 『明暗』(夏目漱石)(4回)
- 5 『痴人の愛』(谷崎潤一郎)(2回)

#### <後期>

- 1 『仮面の告白』(三島由紀夫)(3回)
- 2 『笹まくら』(丸谷才一)(3回)
- 3 『高丘親王航海記』(澁澤龍彦)(3回)
- 4 『取り替え子』(大江健三郎)(3回)
- 5 『ニッポニアニッポン』(阿部和重)(3回)

### 【評価方法】

学期末のレポートを中心に、授業への参加状況、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

<前期>：怪談牡丹燈籠(三遊亭圓朝 岩波文庫)、金色夜叉(尾崎紅葉 新潮文庫)、明暗(夏目漱石 新潮文庫)、痴人の愛(谷崎潤一郎 新潮文庫)

<後期>：仮面の告白(三島由紀夫 新潮文庫)、笹まくら(丸谷才一 新潮文庫)、高丘親王航海記(澁澤龍彦 文春文庫)、取り替え子(大江健三郎 講談社文庫)、ニッポニアニッポン(阿部和重 新潮文庫)

## 国文学演習 I (7) a・b

酒井晶代

### 【授業の概要】

<日本児童文学の近代>  
皆さんが子どもの頃に親しんだ「児童文学」は、どのような起源を持つのだろうか。本演習では、テキストの読解を中心として、明治から昭和戦前期までの児童文学とその変容を考察する。児童文学は近代以降、一方では教育と、他方では文学と密接な関わりを持ちながら推移してきた。教育史や文学史を中心に、広く社会史・文化史の視座からテキストを精読する試みを通して、児童文学の特質を探り、さらにはジャンルの捉え直しができるか、と考えている。

### 【授業の目標】

文献調査やテキスト読解を通して、明治から昭和戦前期までの児童文学史を把握すると同時に、個々の作品に表れた<子ども—大人>の関係を理解・考察すること(詳細は授業時に説明する)。

### 【授業計画】

最初の数回は通史を読む。その後、時代順に作品を読み進めていく。いずれも、グループによる調査・分析の報告と、参加者間の質疑応答が授業の中心になる。

#### <前期>

- 第1~4回 日本児童文学史概観(明治~大正前期)
- 第5~13回 『日本児童文学名作集(上)』の作品精読

#### <後期>

- 第1~4回 日本児童文学史概観(大正後期~昭和戦前期)
- 第5~12回 『日本児童文学名作集(下)』の作品精読
- 第13回 全体のまとめ

### 【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、各学期末のレポート等により総合的に評価を行う。

### 【テキスト】

日本児童文学名作集(上・下)(桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫)  
はじめて学ぶ日本児童文学史(鳥越信編 ミネルヴァ書房)

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 国語学演習 I a・b

増井典夫

### 【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。

日本語の歴史を考えながら、自分たちの母語（生まれ持っている言葉）である方言の持つ意味を考え、新しい日本語表現の問題やその研究の可能性を考えていく。なお、後期のレポートの一部として、「言葉に関するアンケート調査の実施とその報告」を課す。

### 【授業の目標】

自分なりの研究の目標を見つけ、進められるようにする。

### 【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、前期に1回、後期に1回の発表をもらう。

その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

### 【評価方法】

レポート等によって評価する。

なお、毎時点呼によって出欠席を調査する。

### 【テキスト】

日本語ウォッチング（井上史雄 岩波新書）  
展望現代の方言（真田信治編 白帝社）

## 中国文学演習 I a・b

寺尾剛

### 【授業の概要】

<『三国志』の世界>

中国は歴史を重視するというお国柄もあって、文学と歴史とは不可分の関係にある。本年度は中国の後漢から三国の時代にかけての、いわゆる『三国志』の時代に焦点を当てて研究を進めることにしたい。

基本的には正史『三国志』と小説『三国志演義』との比較研究に重点を置く。

### 【授業の目標】

資料調査能力、資料読解能力の育成を最大の目標とする。

### 【授業計画】

2～3人ずつの班に分かれ、毎回班ごとに事前に調査し、まとめた資料を提出し、それに基づき発表する。

本年は諸葛亮を研究対象とする予定。

学外教育活動として中国研修旅行も企画するつもりである（自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬～3月上旬）。

### 【評価方法】

前後期各1回のレポート提出を求めるが、演習時の発表や発言も考慮して成績評価を行う。

### 【テキスト】

- ・プリント。
- ・漢文研究の手びき四訂増補版（中国詩文研究会 750円）
- ・『正史三国志』第5巻（ちくま文庫 1500円）
- ・『詩歌三国志』（新潮選書 1260円）

### 【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

## 国文学演習 II (1) a・b

島田修三

### 【授業の概要】

〈天季季節歌の考察〉

『萬葉集』巻8には大伴家持をはじめとする奈良天平期の歌人による四季の歌250首余りが「雑歌」「相聞」の部立に収録されている。本授業では、この歌群の子細な読解を通して、四季の自然と各歌人の歌風との関係、大伴家文化圏と歌の場の問題、自然観の個性化といった諸問題を考えてみたい。

### 【授業の目標】

テキストの丹念な調査や読解、また演習授業における教員と学生の討論を通して、伝統の日本語としての古語を柔軟に読み解く技術と能力を育てる。

### 【授業計画】

〈前期〉 a

第1回～2回 巻8の概観

第3回～8回 春の歌 演習発表

第9回～11回 夏の歌 演習発表

〈後期〉 b

第1回～2回 夏の歌 演習発表

第3回～9回 秋の歌 演習発表

第10回～11回 冬の歌 演習発表

第12回 総括

※原則として一人数首の作品を担当し、指示に従った調査結果のレジュメの用意をしなければならない。発表に基づいて、受講者や島田の質疑が行われる。

### 【評価方法】

出席状況、授業期間中の発表、学期末レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

〈前期・後期〉

萬葉集（訳文篇）（佐竹昭広ほか著 塙書房）

### 【参考文献・資料】

授業中、適宜、紹介する。

## 国文学演習 II (2) a・b

久保朝孝

### 【授業の概要】

『紫式部日記』を輪読する。

『紫式部日記』は寛弘五年（1008）秋から同七年正月までを範囲として、紫式部が仕える影子中宮の二度にわたる出産前後の行事や宮廷での見聞等を、女房の立場から克明に記述する。そこに見られる現実凝視の行きつく先はどこか。

作品を読み解きながら、作者自身の内省的記述と客観的描写とが交錯する形で展開する作品構造の意味、あるいは消息（手紙）混入の問題など、この日記が抱えるさまざまな問題について考察する。

なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行（約33,000円）を、また、必要に応じて卒業論文指導を含めたゼミ合宿を行う。

### 【授業の目標】

中古文学作品の読解と研究との応用的方法を、実践的に身につける。

### 【授業計画】

- 一、複数のグループを編成する。
- 二、準備学習。
- 三、担当範囲を決定する（毎回2頁前後）。
- 四、研究報告→質疑→回答→討論→助言（毎回）
- 五、学修の成果をレポートにまとめる。

### 【評価方法】

出席状況、担当範囲についての研究発表（半期に3回程度）、授業中の発言（質問・批判等）、そしてレポート等を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

### 【テキスト】

紫式部日記 紫式部集（新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社 2,700円 税別）

## 国文学演習Ⅱ（3） a・b

岩下紀之

### 【授業の概要】

『とはずがたり』を読み、中世後宮の女流文学を考える。

本年は巻一から読む。

#### <前期>

宮内庁書陵部本の影印本を使用する。この作品の唯一の伝本で江戸期の書写であり、発見されたのが昭和になってからということで、解釈上問題が多い。諸注にも大きなひらきがあり、学生諸君にも新見を提出する可能性がひらけている。

#### <後期>

前期から継続する。

### 【授業の目標】

古写本によって昔の人々が読んだそのままの形で、文章を解説できるようにすること。

### 【授業計画】

はじめに概説と具体的な指示を行なう。

### 【評価方法】

レポートを課する。

### 【テキスト】

とはずがたり 一（笠間書院）

## 国文学演習Ⅱ（5） a・b

小倉 斉

### 【授業の概要】

〈小説の方法—作品をどう読み、どう論ずるか—〉  
日本の近・現代を代表する小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。最終的にはその方法を卒論作成に活かすことが目標である。

### 【授業の目標】

日本の近・現代を代表する小説の精読を通して、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につけるとともに、その方法を卒論作成に活かす。

### 【授業計画】

#### <前期>

- 1 『倫敦塔・幻影の盾』（夏目漱石）
- 2 『疑惑・妖婆』（芥川龍之介）
- 3 『雪国』（川端康成）
- 4 『春の雪』（三島由紀夫）
- 5 『銀河鉄道の夜』（宮沢賢治）
- 6 『乱菊物語』（谷崎潤一郎）

#### <後期>

- 1 『ころも』（夏目漱石）
- 2 『喰う伊右衛門』（京極夏彦）
- 3 『菜穂子・楡の家』（堀辰雄）
- 4 『それから』（夏目漱石）
- 5 『スポーツニクの恋人』（村上春樹）
- 6 『暗室』（吉行淳之介）

### 【評価方法】

学期末のレポートを中心に、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

- <前期>：倫敦塔・幻影の盾（夏目漱石 新潮文庫）、疑惑・妖婆（芥川龍之介 プリント）、雪国（川端康成 新潮文庫）、春の雪（三島由紀夫 新潮文庫）、銀河鉄道の夜（宮沢賢治 新潮文庫）、乱菊物語（谷崎潤一郎 中公文庫）  
<後期>：ころも（夏目漱石 ちくま文庫）、喰う伊右衛門（京極夏彦 中公文庫）、菜穂子・楡の家（堀辰雄 新潮文庫）、それから（夏目漱石 新潮文庫）、スポーツニクの恋人（村上春樹 講談社文庫）、暗室（吉行淳之介 新潮文庫）

## 国文学演習Ⅱ（4） a・b

阿部一彦

### 【授業の概要】

井原西鶴の町人物の傑作、『日本永代蔵』を解説し、考察する。「立身出世談や破滅談を通して金銀万能の町人社会の諸相を鋭く抉りだした」（『近世文学研究事典』）といわれる『日本永代蔵』のなかから十編ほどの短編小説を選び、さまざまな方面から考察を加えていく。

#### <前期>

各短編を受講者が分担して、本文の解説、語釈、口語訳、問題点の指摘と研究、構成と概要、小説としての達成等々の作品研究をおこない、発表する。

#### <後期>

前期に引き続いて作品の研究をする。

それとともに、この作品は<成立論>がとくに問題にされてきているので、その代表的な論文を取り上げて検討していきたい。そのことによって、近世文学「研究」の初歩的な方法の修得の一助としたい。

また卒論執筆に必要な文献・論文の扱い方についても学んでいくことになるであろう。

なお、9月に淑友館でゼミ合宿を行う。

### 【授業の目標】

演習Ⅰを基本とし、卒業論文への橋渡しをして行く。

### 【授業計画】

上記のごとき演習形式で進めていく。

### 【評価方法】

レポートによる。

### 【テキスト】

未定。

## 国文学演習Ⅱ（6） a・b

都築久義

### 【授業の概要】

卒業論文テーマの作家を中心に演習する。

卒業論文の進行状況を考慮して進行する。

### 【授業の目標】

卒業論文が立派に書けるように、調査方法、テーマの設定などを学ぶ。

### 【授業計画】

個人発表。発表内容を中心に討論する。

### 【評価方法】

平素の学習態度。

### 【テキスト】

特になし。

## 国文学演習Ⅱ (7) a・b

酒井晶代

### 【授業の概要】

＜賢治・南吉を読み解く＞

近代日本児童文学が生み出した作家のなかで、今なお読み継がれ、新たな読者を獲得している書き手の代表格に宮沢賢治と新美南吉がいる。「赤い鳥」の影響下で童話を書いた二人にはいくつかの共通点がある反面、相違点もまた数多い。さらに「なぜ読み継がれてきたか」という点に着目すると、賢治・南吉作品の普及史は、戦後の児童文学を考える大きな手がかりの一つにもなるだろう。テキストを丁寧に読むことから出発し、作品の成立事情や受容史、研究史へと視野を広げながら、二人の書き手を通して児童文学をめぐる諸問題を考えていきたい。

### 【授業の目標】

先行研究を踏まえながら、自分なりの視点や方法で賢治・南吉の作品を分析・考察すること（詳細は授業時に説明する）。

### 【授業計画】

「時代」「受容」「教育」「メディア」など、作品ごとにいくつかのキーワードを念頭に置きながらテキストを読み進めていく。グループによる調査・分析の報告と、参加者間の質疑応答が授業の中心になる。

＜前期＞

- 第1～2回 先行研究の調査、研究方法の検討
- 第3～13回 『童話集 風の又三郎』の作品精読

＜後期＞

- 第1～2回 先行研究の調査、研究方法の検討
- 第3～12回 『新美南吉童話集』の作品精読
- 第13回 全体のまとめ

### 【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、各学期末のレポート等により総合的に行う。

### 【テキスト】

- 童話集 風の又三郎（谷川徹三編 岩波文庫）
- 新美南吉童話集（千葉俊二編 岩波文庫）

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 中国文学演習Ⅱ a・b

寺尾 剛

### 【授業の概要】

＜中国古典文学研究法＞

中国の古典文学に関する研究法・調査法の養成に重点を置く。テキストは受講生との相談によって決定するつもりであるが、希望がなければ、唐代伝奇小説『白氏文集』・『宋代詞集』を扱うことにしたい。

＜前期＞

- ・共通のテキストを用い、輪読し討論する。

＜後期＞

- ・卒論の途中経過や自分の関心を持っていることなどをテーマに発表。

### 【授業の目標】

資料調査能力・資料読解能力・論文作成能力の向上を目指す。

### 【授業計画】

前期は輪読形式、後期は発表形式で進める予定。

学外教育活動として、9月に淑友館にて2泊3日のゼミ合宿を行う（全員参加。費用は2万円前後）。また、中国研修旅行も企画するつもりである（自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬～3月上旬）。

### 【評価方法】

レポート及び発表の内容で決める。

### 【テキスト】

- ・プリント
- ・漢文研究の手びき四訂増補版（中国詩文研究会 750円）

## 国語学演習Ⅱ a・b

増井典夫

### 【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。

現代日本語の問題点や方言の問題点等を考えながら、新しい日本語研究の可能性を考えていく。

### 【授業の目標】

卒業論文につながる研究を求めていく。

### 【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、前期に1回、後期に1回の発表をしてもらう。

その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

### 【評価方法】

レポート等によって評価する。

なお、毎時点呼によって出欠席を調査する。

### 【テキスト】

日本語は年速1キロで動く（井上史雄 講談社現代新書）

応用社会言語学を学ぶ人のために（ロング・中井他編 世界思想社）

## 国文学特殊講義 古典基礎 a

久保朝孝

### 【授業の概要】

上代・中古を範囲とし、古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について、毎回一回完結の方式で、具体例に即しながら分かりやすく、いねいに解説する。

### 【授業の目標】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について理解し、知識を身につける。

### 【授業計画】

1. 導入
2. 古典と暦
3. 古典と宗教・民俗
4. 平安貴族の日常
5. 平安貴族の生活環境
6. 古典と文法
7. 古典と国語学
8. 古典と書誌学
9. 古典と文献学
10. 古典と文献資料（1）歴史関係
11. 古典と文献資料（2）辞書事典
12. 古典と文献資料（3）研究書等
13. 古典文学の研究テーマ
14. 予備

### 【評価方法】

出席状況、課題小テスト、期末筆記試験及び学外の自主的学習を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

### 【テキスト】

別冊國文學No.42『古典文学基礎知識必携』（学燈社 1,370円 税込）

### 【参考文献・資料】

別途資料を毎授業時に配布する。

## 国文学特殊講義 古典基礎b

阿部一彦

### 【授業の概要】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について、中世・近世を範囲とし、具体例に即しながら分かりやすく丁寧に説明する。

古典学修に不安を覚える者は、できるだけ履修することが望ましい。

### 【授業の目標】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について理解し、知識を身につける。

### 【授業計画】

1. 日本の伝統文化と現代
2. 〈花・花見〉の文学史
3. 〈文字〉の文学史
4. 古典文学とテキスト―芭蕉自筆本『奥の細道』
5. 古典文学を読む『徒然草』137段
6. 古典文学と時間
7. 古典文学と空間
8. 古典文学と自然
9. 古典文学と芸能
10. 古典文学と絵画
11. 古典文学と出版
12. 文献調査・検索入門

### 【評価方法】

出席及び筆記試験による。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

追って発表する。

## 国文学特殊講義 古典文法基礎

伊藤紫野富

### 【授業の概要】

古文解釈に必要な文法を基礎から学ぶ。用言の活用、助詞、助動詞、敬語法などを、講義を中心に、問題演習を交えながら行う。

### 【授業の目標】

正しい古典解釈の為に、文法の仕組みを正しく理解することを目標とする。

### 【授業計画】

- 第1回 授業内容の説明・文法概略
- 第2回 用言（動詞、形容詞、形容動詞）
- 第3回 助詞（係助詞、接続助詞）
- 第4回 助詞（格助詞、副助詞、終助詞）
- 第5回 問題演習
- 第6回 助動詞（る、らる、す、さす、しむ）
- 第7回 助動詞（き、けり、つ、ぬ、たり、り）
- 第8回 助動詞（ず、じ、む、むず、らむ、けむ）
- 第9回 助動詞（べし、まじ、なり、めり、まし）
- 第10回 問題演習
- 第11回 敬語法
- 第12回 総合問題演習
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

古典文法質問箱（大野晋著 角川ソフィア文庫）  
新古典文法（監修 小町谷照彦 東京書籍）

## 国文学特殊講義 漢文基礎

寺尾剛

### 【授業の概要】

漢文が嫌い、漢文が読めない、漢文の魅力を知りたいといった学生のために特に設けた、漢文の基礎中の基礎を教授する講座。おそらく多くの学生諸君は、高校時代から、漢文句法はただただ暗記するものとして教え込まれてきていてウンザリしていることと思う。この授業はそういった諸君に対して、「なぜ」「どうして」という疑問を徹底的に解きほぐしていくことに主眼を置く。「なぜ漢和辞典は必要なの？」「どうして再読文字なんていう面倒なものがあるの？」などといった根本的な疑問にも答えていくつもりである。そして、この講座が終る段階までには、諸君にも簡単な漢作文が作れるところまでレベルアップさせるというのが本講座の最終目標である。国文学には漢文がつきものである。漢文拒否症からいち早く脱却して、楽しく漢文が読めるようになることを切に願うものである。

### 【授業の目標】

基礎的な漢文読解能力を養う。特に翻訳法、訓読法の習熟を目指す。

### 【授業計画】

漢文法（特に助詞・助動詞・前置詞・接続詞・代名詞）を中心に行なう。折に触れて文化的背景の説明も行なう。

### 【評価方法】

出席、平常点及び試験。

### 【テキスト】

社会人のための漢詩漢文小百科（大修館書店 1,000円）

### 【参考文献・資料】

授業中、随時紹介してゆく。

## 国文学特殊講義 作品講読（古典）a・b

外山敦子

### 【授業の概要】

『源氏物語』の「夕顔」巻を読み進めながら、作中世界を理解するための有職故実、研究の現在及び作品読解の具体的方法について講義する。

### 【授業の目標】

- ・「夕顔」巻にかかわる現在までの研究状況を批判的に摂取する。
- ・平安貴族を支える社会制度や生活慣習に関する知見を蓄える。

### 【授業計画】

基本的にテキストにそって作品を講読しながら、各場面で重要と思われる次のことらについて適宜説明する。

1. 病と信仰
2. 平安貴族の恋
3. 引歌表現
4. 雨夜の品定め
5. 乳母
6. 従者と女房
7. 童
8. 植物
9. 動物
10. 月
11. 史実と物語
12. 説話・伝承
13. ものけ
14. 平安貴族の死
15. 平安貴族の葬送

### 【評価方法】

出席状況、期末試験、学外における自主学習の成果を総合して評価する。

### 【テキスト】

校注源氏物語 夕顔（中野幸一編 武蔵野書院）

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 国文学特殊講義 作品講読(近・現代) a・b

佐々木亜紀子

### 【授業の概要】

夏目漱石の小説を精読し、方法意識の検討を通して、言語芸術の分析方法を習得する。前期には漱石の小説家としての第一作『吾輩は猫である』を取り上げる。初出『ホトギス』への発表や単行本化の経緯など小説生成のあり方を確認しつつ、小説の方法に目を向けて読むことを目指す。後期には『吾輩は猫である』執筆前後の漱石をのちの生活を取材したといわれる『道草』を取り上げる。前期の学習を元に実生活の小説化について考察しつつ読むことを目指す。

### 【授業の目標】

夏目漱石の『吾輩は猫である』と『道草』とを、研究史をふまえたうえで適切な分析方法によって論ずる力を育成する。

### 【授業計画】

- a (前期)『吾輩は猫である』
- 第1講 夏目漱石の生涯について
  - 第2講 『吾輩は猫である』の時代
  - 第3講～第12講 『吾輩は猫である』精読
  - 第13講 単位認定試験

- b (後期)『道草』
- 第1講 夏目漱石の小説について
  - 第2講 『道草』の時代
  - 第3講～第12講 『道草』精読
  - 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

授業への参加態度、提出物の内容、単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

吾輩は猫である(夏目漱石 新潮文庫)  
道草(夏目漱石 新潮文庫)

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国文学特殊講義 源氏物語 a・b

高橋 亨

### 【授業の概要】

文学作品を読む上で必要な諸問題について、『源氏物語』帚木の巻の講読をとらえて論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。本年度は『帚木』(大島本)をテキストとして、文学研究の方法と具体的な諸問題について考えていく。

前期のはじめには、『源氏物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた研究上の問題点を論じていく。和歌と物語との関係、語りの表現法などが中心となる。後期は、語りの表現構造に加えて、芸能論や女性論などより広いテーマに展開していく。

### 【授業の目標】

『源氏物語』を読むための、文法・語法をふまえた歴史社会的な習俗における基礎知識を習得するとともに、平安朝物語についての解釈の方法を身につける。文学作品の読解においては、たんに部分的な解釈をするのではなく、それが作品全体においてどのような位置にあり、どのような意義を持つのかについて考える。

### 【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。

受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

- 1) 長雨はれなきころ。
  - 2) 光源氏のもの恋文。
  - 3) 三つの品の女性論。
  - 4) 中の品の女性。
  - 5) 意外性の魅力。
  - 6) 主婦としての条件。
  - 7) 芸道の比喩。
  - 8) 左馬頭の体験談。
  - 9) 常夏の女の物語。
  - 10) 博士の娘の笑い話。
  - 11) 葵上と光源氏。
  - 12) 方違えと空蝉。
- 以下、物語の展開にそって読解と解説を進める。

### 【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

### 【テキスト】

帚木(大島本)(高橋亨編 おうふう 971円)

## 国文学特殊講義 王朝物語 a・b

高橋 亨

### 【授業の概要】

平安朝物語を読む上で必要な諸問題について、『宇津保物語』俊蔭の巻の講読をとらえて論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。

本年度は『うつほ物語(一)』をテキストとして、物語研究の方法と具体的な個別問題について考えていく。

前期のはじめには、『宇津保物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた読みの諸問題を論じていく。物語と神話や漢文伝承との関係、和歌的な表現法と和文との関係などが中心となる。

後期は、物語の表現と構造に加えて、音楽論や漢詩文をふまえた文学史など、より広いテーマへと展開していく。

### 【授業の目標】

古文読解のための基礎知識と文法的な語法について習得する。使用テキストは本文校訂が底本に基づいた最低限のものであるため、文脈から考えて「かな」に漢字をあてるなど、読解の基礎作業の習得が必要となる。

たんにこれまでに習得した学校文法の知識によるのではなく、テキスト文法というべきものによって解釈し、平安朝物語を読むための有職故実を含めた学力を養成することが目的である。

### 【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。

受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

- 1) 物語の発端の表現構造。
- 2) 遣唐使と平安朝の世界観。
- 3) 平安朝における学問と漢詩文。
- 4) 俊蔭の異界への旅。
- 5) 阿修羅と六道輪廻。
- 6) 平安朝における琴の伝授。
- 7) 恋物語の発端。
- 8) 王朝物語と和歌。
- 9) 孝子譚の反映。
- 10) 貴族社会の物語と「北の方」
- 11) 恋愛と結婚。
- 12) 年中行事と和歌。

物語テキストの読解に沿って、以上のような話題を適時に織り込んでいく。

### 【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

### 【テキスト】

うつほ物語(一)(野口元大・明治書院 2,400円)

## 国文学特殊講義 仏教文化論 a・b

渡辺信和

### 【授業の概要】

日本における文化の発展に多大な影響を与えた仏教は、その渡来から日本独自の仏教思想の形成まで、さまざまな様式と美術を残してきた。本講は日本文学の下地を担うものとしての様々な仏教文化を多方面から確認し、日本文学の基礎的な知識を身につけることを目的とする。

講義には具体的に建築、彫刻、絵画、装飾・模様などを取り上げその背景となる仏教思想を踏まえつつ見ていく。

### 【授業の目標】

日本文学の基礎知識としての仏教文化を明らかにする。インドから中国へ、中国から日本への伝播の中での変容を確認し、日本化した仏教の諸相を明らかにする。実際に寺院建築や、仏教行事を見学することを課題とし、自分の目で歴史と現代の仏教の実態とを学ぶことを目標とする。

### 【授業計画】

最初に仏教文化について定義を行い、前期は仏教の伝播をその造形を中心に、日本に伝来した仏教が、日本化していく過程を見る。

後期は、具体的に建築、荘厳、彫刻、絵画などをあげてその流れを見る。さらに、花祭り(灌仏会)や盆(盂蘭盆会)、などの仏教行事、絵解き、説経などの布教、葬送儀礼などにもふれてみる。

### 【評価方法】

前期、後期ともレポート。

### 【テキスト】

講義時に配布。

### 【参考文献・資料】

仏教上・下(岩波文庫)、仏教説話の源流と展開(岩本裕 1978)、その他至天堂の日本の美術シリーズの各冊など。

## 国文学特殊講義 仏教文学 a・b

渡辺信和

### 【授業の概要】

日本仏教文学とは、日本における仏教思想の影響下に成立した文学作品の謂である。すでに『万葉集』に沙弥満誓の詠歌を見ることができるが、仏教の伝来からそう遅くない時期に文学への取り入れが始まり、爾来長く仏教文学としての文学作品が作られてきた。特に盛んであったのは、院政期から中世前半期で、多く仏教説話集として編纂された。物語や和歌、歌謡、謡曲などに見られる仏教思想も、それらを仏教文学としてとらえることを可能としている。

今年度は、熊野に関わる御伽草子や絵巻を翻刻や影印で読む。前期は『明石物語』を影印で読む。本話は、事件の発端が熊野参詣にあり、道行きの途上で熊野の神による救済があるなど熊野と関わりが深い物語である。後期は『浄瑠璃物語』(『十二段草子』)を影印で読む。本講を通じて、物語としての寺社の利益譚を考え、その仏教意識を探る。

### 【授業の目標】

具体的な作品を通して、日本化した仏教思想の影響下に成立した文学の諸相を分析し、解明する。また、古典を影印で読むことによって筆で書かれた文字に習熟すること、古文の解説を逐語訳ではなく意味をきちんと取った日本語にすることを目的とする。

### 【授業計画】

講義は影印本(阿岸本誓寺蔵本)で行う。講義時に指名して本文の音読、解釈をしてもらい、その文意、背景に存する説話などについて考察する。講義時に「古語辞典」で語義、文法事項を確認し、有職故実について「国語便覧」を参照することがあるので両書を必携とする。前後期とも影印で読むため、崩し字の苦手な人は「くずし字字典」などを用意すること。

前期

第1講は仏教文学概論と「明石物語」について

第2講以下通説

第12講からは諸本の比較や熊野信仰について考える。

後期

第1講は「浄瑠璃物語」と御曹司ものについて

第2講以下通説

読み終えたら、異本について考察を行う。

### 【評価方法】

前期後期ともレポート提出による。講義時の音読・解釈などの発表を斟酌する。

### 【テキスト】

講義時配布

### 【参考文献・資料】

室町時代物語大成、中世小説の研究(市古貞次 1955)

## 国文学特殊講義 和歌・連歌 a・b

岩下紀之

### 【授業の概要】

日本古典文学の核心ともいえるべき、和歌と連歌を、最も代表的な歌論・連歌論の講読を通じて、概観する。

<前期>

藤原定家自筆本近代秀歌の影印本を教材とする。写本の解説の手ほどきをし、あわせて、定家の記述を追って背景の説明を適宜、プリントを配布しつつ説明する。定家歌論を読みとくことはもちろん最終的な目標である。

<後期>

心敬の御所本ささめごと(上)の影印本を教材とする。連歌は現代では縁のうすい文芸となっているので、その概説をおこない、連歌史についても説明する。

### 【授業の目標】

古典的な論書の読解力を養成すること。

### 【授業計画】

上記による。

### 【評価方法】

学期末の試験をもって評価する。

### 【テキスト】

近代秀歌(武蔵野書院)

御所本ささめごと 上(笠間書院)

写本解説がはじめての受講者は仮名変体集(新典社)を購入しておくこと。

## 国文学特殊講義 近代詩 a・b

佐藤洋一

### 【授業の概要】

近現代詩のレトリック・表現論

1. 子どもの詩、少年詩、近現代の詩をとりあげ、詩と詩人の固有な特質と方法を言語・構造・レトリック(言語技術)の観点や、戦後詩以降の現代詩の変遷、1950年代～90年代の歴史的社会的状況との関連等からも考察を行なう。
2. 文化研究・批評(カルチュラル・スタディーズ)の枠組みの中で、「近代」という制度・戦争と国家・メディアと詩人の表現等の視点から近現代詩の意義と位置づけについて考察する。

### 【授業の目標】

日本近現代詩を読む魅力と楽しさ、詩的言語やレトリックにこめられた詩人のメッセージ、優れたコミュニケーション技術、その歴史的文化的意味について理解し、現代に生きる「ことばの力」について考察する。

### 【授業計画】

1. 子どもの詩、谷川俊太郎、中原中也、吉野弘、茨木のり子などを中心に、戦後詩から現代詩の変遷・詩的言語の構造やレトリックを考察するとともに、近現代詩研究の基本的な方法の体得と主体的な課題意識を育成することが主要なねらいの一つである。
2. 前後期とも、配付プリントやテキストによる講義を行う。
3. 前期は「基礎編」として、詩を読む魅力と方法や多様な個性をもつ近現代詩の諸相について述べ、子どもの詩、少年詩、谷川俊太郎の詩的言語について、子ども・生の意識・世界(コスモロジー)・言葉遊びと日本語の探究等の視点から考察する。後期は「展開編」として、谷川俊太郎や中原中也その他の詩をとりあげ、それ以降の現代詩人達との対比の中で考察したり、1950年～90年代の文化的歴史的な状況の中でより深く考察する。

### 【評価方法】

1. 出席率。毎回欠席を確認し講義に対する意欲・講義内容への課題意識や意見等を平常点に加える。
2. 小レポート等。

### 【テキスト】

配布プリント、その他による。テキストは講義で指示。

### 【参考文献・資料】

講義中に指示。

## 国文学特殊講義 現代短歌 a・b

加藤孝男

### 【授業の概要】

依万智さんの『サラダ記念日』が社会現象となったのは、80年代の半ばのことです。それ以降、短歌は、カタカナ書きの「タンカ」として、若い人の間でも注目を集めています。

この講義では、はじめて短歌をつくる人のために、初歩の段階からすすめていきます。創作する楽しさを味わってみて下さい。

### 【授業の目標】

創作するよろこびを味わい、感性を豊かにします。

### 【授業計画】

a. 前期

第1講 短歌の魅力 I

2～3 短歌はなぜタンカになったか。

4～9 携帯電話をつかったタンカのつくりかた。

10～12 短歌の技術、いろいろ。

13～14 まとめ

b. 後期

第1講 短歌の魅力 II

2～3 感動する短歌とは。

4～12 短歌の創作、あれこれ。

13～14 まとめ

### 【評価方法】

作品によって評価します。出席・平常点も重視。

### 【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

## 国文学特殊講義 批評理論 a・b

佐藤洋一

### 【授業の概要】

“実践的”現代・文学批評理論

ー〈批評〉〈方法〉をめぐる近現代文学入門ー

近代・現代の短編小説、児童文学、ファンタジーなどの読解と批評を通して、文学批評理論について検討し、私たちを取り巻く複雑で多面的な「現代」「世界」を文学はどのように描いてきたのか、それを今、どのように読み解いていくかについて講義してゆく。また、現代人の生き方や精神の直面する諸問題や文学作品をめぐるさまざまな課題等も扱っていく。

### 【授業の目標】

文学作品は評論や論文とは異なる形式と方法による、人間と時代についての〈発見と認識〉であり、優れた描写と語りによる〈コミュニケーション技術〉のモデルである。作品に即して読み解き批評する方法を通して、現代・文学批評理論のポイントと今後の課題について理解する。

### 【授業計画】

1. 講義では、江國香織、山田詠美、重松清、村上春樹、辻仁成、梨木香歩などの現代小説の短編の他、童話やファンタジー、アニメーションなどを例にとりあげる。
2. 毎回トピック形式でテーマを設定し作品に即して考察していく。例、「主題は1つか―批評的に読み解く技術」「意識の深層をどう描くか―恐怖とは」「絵本、童話の方法と子ども」「恋愛という〈狂気〉と〈無垢〉」「家族の〈絆〉をとりもどすとは」「19世紀文学と20世紀文学をわけるものとは」「心理描写と20世紀文学の方法」等。

### 【評価方法】

1. 出席率。毎回出欠を確認し講義への意欲・講義内容への課題意識や考察等を平常点に加える。
2. 小レポートの内容等。

### 【テキスト】

講義中に指示します。  
その他、配布プリントによる。

### 【参考文献・資料】

講義中に指示。

## 国文学特殊講義 郷土文学 a・b

都築久義

### 【授業の概要】

郷土の作家と郷土を描いた作品を研究する。

<前期>

郷土出身の作家を10人ほどとりあげる。

<後期>

郷土を描いた作品（近代、古典）を10作品くらいとりあげる。

### 【授業の目標】

愛知・岐阜・三重の東海三県出身の作家や作品を学び、郷土と郷土の文学への関心を高める。

### 【授業計画】

作品、作家を1回ごとに変える。

### 【評価方法】

テストを実施。

### 【テキスト】

プリントを配布。

## 国文学特殊講義 児童文学 a・b

堀尾幸平

### 【授業の概要】

1. 児童文学とは何か。その呼称、特質、形態、研究方法等、児童文学理論を研究する。
2. 児童文学が、どのように発祥、展開してきたか、わが国の文学史を把握し、その今後を展望する。
3. 児童文学をテーマにした小論文を書き、実際に童話を創作する。

### 【授業の目標】

1. 児童文学の定義、形態、特質等を研究し、自己の児童文学観を確立する。
2. 日本の児童文学史を把握し、将来を展望、新しい児童文学を創造する態度と方法を自己のものとする。

### 【授業計画】

〈前期 a〉

1. 児童文学とは何か
2. 明治期の児童文学
3. 三輪弘忠
4. 巖谷小波
5. 大正期の児童文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 児童文学研究史
10. 試験

〈後期 b〉

1. 昭和期の児童文学
2. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
3. 宮澤賢治
4. 新美南吉
5. いぬいとみこ、松谷みよ子
6. 中川李枝子、灰谷健次郎
7. 平成期の児童文学
8. 児童文学論文
9. 創作童話理論
10. 試験

### 【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 国文学特殊講義 日本演劇史

林和利

### 【授業の概要】

日本の演劇史を、古代の神楽から現代の前衛劇にいたるまで、その流れを追って講じる。とくに、伝統演劇である能・狂言・歌舞伎・文楽については詳しく説く。

### 【授業の目標】

日本の演劇・芸能の通史について理解するとともに、主要ジャンルについての知識と演技の実態を習得する。

### 【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
  2. 日本演劇史系統図を示して通史を概説
  3. 演劇の発生について
  4. 神楽について
  5. 伎楽について
  6. 舞楽について
  7. 散楽について
  8. 田楽について
  9. 猿楽について
  10. 能について
  11. 狂言について
  12. 歌舞伎について
  13. 文楽について
- また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により、総合的に評価する。  
学外の舞台芸術を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象とする。

### 【テキスト】

日本文化論序説（林和利 青山社）

### 【参考文献・資料】

演劇百科大事典（平凡社）  
日本演劇史（河竹繁俊 岩波書店）

## 国文学特殊講義 伝統芸能の世界

林和利

### 【授業の概要】

日本の伝統芸能の流れを概説したうえで、能・狂言に的をしぼり、その技芸の本質について詳しく講じる。それと並行して、能の作品を読解しつつ、ビデオで鑑賞する。公演の案内や鑑賞の手ほどきも行う。

### 【授業の目標】

能と狂言の技芸の本質と舞台の鑑賞について知識と理解を深める。

### 【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
  2. 日本芸能演劇史概説
  3. 能・狂言入門・能ビデオ鑑賞1
  4. 名人の芸（男女の演技の両立）・能ビデオ鑑賞2
  5. 〃（見分ける目）・能ビデオ鑑賞3
  6. 〃（レパートリー）・能ビデオ鑑賞4
  7. 〃（引き際）・能ビデオ鑑賞5
  8. 〃（スキのない演技）・能ビデオ鑑賞6
  9. 〃（名人の本義）・能ビデオ鑑賞7
  10. 〃（狂言の名人）・能ビデオ鑑賞8
  11. 狂言の世界
  12. 足拍子の効果
  13. 名古屋の能楽
- 毎回、能の作品を少しずつ読解・鑑賞する。また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもある。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

### 【参考文献・資料】

世阿弥 禅竹（岩波書店）  
岩波講座 能・狂言（岩波書店）

## 国文学特殊講義 文学と映像表現

梶川 忠

### 【授業の概要】

日本映画は、日本文学（特に小説）から題材をたくさん得ている。日本文学が盛んでなければ、あるいは日本映画は、存在できなかったかもしれない。いわば日本文学が母であり、日本映画は子供だといえる。

ただしものごとはいい面ばかりではない。日本文学からいつも養分を吸収していることで、日本映画がひ弱になり、現在の衰退を招いたという人もいる。

そういう判断は、しばらく保留しておこう。ここでは個々の小説とその映画化作品とを比較しながら、小説表現の特色や映像表現の特色を探ってみよう。

### 【授業の目標】

文学ばかりに接していても、文学理解は深まらない。多様なジャンルに接することで文学とは異なる世界が見えてくる。テレビドラマや映画と比較することで小説の特質が明らかになる。

### 【授業計画】

最初の10回くらいは、向田邦子の「あ・うん」の小説・テレビドラマ・映画を細かく検討する。映像そのものに慣れるためである。

次に映画「あ・うん」をみることにする。

### 【評価方法】

2回のレポート（1回10点満点）、映画の報告2回（1回5点）、毎回の授業（テレビドラマ）で提出するコメント（1回2点）、合計50点で採点する。

### 【テキスト】

あ・うん（向田邦子 文春文庫）  
（小説）あ・うん（向田邦子 新潮文庫）

### 【参考文献・資料】

毎回資料を配るので、その回に受け取る。

## 国文学特殊講義 日本映画史

梶川 忠

### 【授業の概要】

学生であるきみたちは、年に何本の日本映画をみるだろうか。日本映画はみなくいいものになっていないだろうか。

実際には、日本映画は、映画が誕生してすぐに世界の第一線にたっている。世界映画史の中で日本映画は重要な一角を占めているのだ。そういう日本映画を、ビデオを活用しながら、少しずつたどってみよう。

### 【授業の目標】

文芸映画という言葉があるように、日本では映画と文学（特に小説）は密接な関係にある。映画の歴史を辿り、日本における映画の役割を知ることで、また日本における映画の役割を知り、比較することで、学生の文学理解がふかくなるはずである。

### 【授業計画】

- |         |  |
|---------|--|
| 第1回     | 日本映画の誕生（明治から大正時代）                                    |
| 第2～4回   | 戦前の日本映画（昭和15年頃まで）<br>様々な現代劇と時代劇                      |
| 第5回     | 戦争と映画（昭和20年まで）                                       |
| 第6～11回  | 戦後の日本映画（昭和40年まで）<br>日本映画の全盛期から衰退期<br>喜劇・メロドラマなどジャンル別 |
| 第12回    | 現在の日本映画  |
| 第13、14回 | 日本の文芸映画  |
| 第15回    | まとめ  |

### 【評価方法】

2回のレポート（1回10点）で採点する。また毎回授業に関連したことでコメントを書かせる。

### 【テキスト】

毎回プリントを配る。

### 【参考文献・資料】

特になし

## 国文学特殊講義 軍記物語 a・b

山下宏明

### 【授業の概要】

平家物語を読む。はじめに研究の現状を概説し、わたくしの課題が物語の琵琶法師の語りにあること、それも中世の芸能としてあることを述べる。そのため江戸時代の語りの譜本の曲節に注目し、能や幸若舞をも視野に入れて平家物語を読む。

### 【授業の目標】

軍記研究における批評の意味を考えさせます。

### 【授業計画】

語り本に即して、物語の概要を説明し、読みの課題を提示する。  
平家琵琶の楽器、曲節について概説する。  
物語の方法について述べる。

### 【評価方法】

試験と出席状況によって評価する。

### 【テキスト】

平家物語 1～4（梶原正昭・山下宏明共編 岩波文庫）

## 国語学特殊講義 ことばの認知科学 a・b

藤田知加子

### 【授業の概要】

認知科学とは、人間の知的活動を、哲学、心理学、計算機科学、神経科学、言語学等の立場から、学際的に探求する学問である。

本講義では、人間の知的活動のうち、特に「ことば」の運用に伴う情報処理活動に着目し、「知覚、記憶、思考、発達（学習）」などの観点から検討を加える。さらに、ヒトの脳についての神経科学的知見を概観し、それを基礎とする言語理解モデルについて講究する。なお、受講者には、授業に出席するだけでなく、その中で実施される各種の実験に積極的に参加することが求められる。

### 【授業の目標】

「ことば」の運用に関わるヒトの神経機構および情報処理活動の概要について理解すること。

### 【授業計画】

前期 (a)

1. 「ことば」に関わる研究分野
2. 「ことば」をめぐる哲学的議論
3. 「ことば」と知覚システム
4. 「ことば」と記憶システム
5. 「ことば」と概念

後期 (b)

6. 「ことば」の運用に関わる脳部位
7. 「ことば」の獲得と喪失
8. 「ことば」の理解に関するモデル
9. 「ことば」の運用規則
10. 「ことば」とコミュニケーション

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。

### 【評価方法】

出席状況と期末試験（あるいはレポート）の成績とによって、総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

## 文章表現 a・b

梅田卓夫

### 【授業の概要】

文章表現の目標を「自分にしか書けないことを、誰にも分かるように書く」ことに置き、ジャンル（詩・小説・評論…）のワクを超えたすべての言語表現に共通する基本事項について学習する。

作品実作の過程で、受講者が自らの言語観・文章観を検討しつつ、より自由で科学的な方法と理論を習得することをめざす。

### 【授業の目標】

1. ことばとの自由で柔軟な関係を回復するためのトレーニングを経て、ことばを操ることのたのしさを体験する。
2. 創造的な文章を旨として、いくつかの作品（作文）を試みる。
3. 文章制作過程の、各段階ごとに制作技法をとりあげ、実作体験しながら学習する。
4. 自己の制作経験をふり返りながら、意識の働きと技法の両面において、普遍的法則をさぐりあてる。
5. その結果を、各自に文章表現法として体系化することを試みる。
6. さまざまなジャンルの多彩な文章に触れて、文章表現の可能性をひろげるようにする。

### 【授業計画】

実作（実習）と理論化のための講義と作品鑑賞、この三つをくり返しながらすめる。

### 【評価方法】

授業の中で制作する作品群、および期末試験によって行う。

### 【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫 997円）  
高校生のための文章読本（梅田卓夫他編 筑摩書房 922円）

## 書道（書写を中心とする） a・b

堀内千恵子

### 【授業の概要】

王羲之を中心の中国書道史、空海を中心とした日本書道史をベースに、臨書、鑑賞などの実技を通して、書法の習得をはかる。ある程度、心眼が高まったところで、創作活動への意欲を高め、個々の感性によった作品を創作し、今日的な書表現はどうあるべきか、芸術としての書の在り方を考えさせる。

<前期>（中国書道史と日本書道史をいれかえる場合もある）

- 中国書道史（古典と臨書 書法と創作）
  - ◇太古～秦代・篆書・書の意義と特質
  - ◇漢代～六朝時代・漢隸の魅力・六朝文化の特徴
  - ◇隋～唐時代・二大書師について
  - ◇宋～現代まで
    - ・多様化した書道・かな・ペン習字
    - ・書道展の鑑賞

<後期>

- 日本書道史（臨書と創作 書法と創作）
  - ◇奈良朝以前・かな・用筆法
  - ◇奈良時代～平安時代
    - ・遣唐使と三筆
    - ・和様体と三蹟・創作（気脈貫通 遅速緩急）
  - ◇鎌倉時代～現代 少字数の作品 多字数の作品・結構法・用墨法・創作方法
    - ・禅林風と和様体 近代詩文の作品
    - ・空海の書法と人
    - ・寛永・幕末の三筆

### 【授業の目標】

書道史、書法を学習し、書技術の向上と、書の創作意欲を高める。

### 【授業計画】

理論（書道史、書論）40分程度 実技 50分程度  
必要に応じて、プリント（顔真卿・良寛・空海等）や手本を配布する。

### 【評価方法】

・出席日数 ・毎回提出の課題の評価（10段階） ・ペン習字 ・創作活動の評価 ・理論のテスト ・レポートなどの評価 以上の内容の総合評価

### 【テキスト】

書道の旅（堀内千恵 株式会社BMC）

## 言語学 a

中尾比早子

### 【授業の概要】

言語はコミュニケーションの中心的な道具である。言語は個人と個人との関係にとどまらず、社会問題や政策にまで深くかかわりをもっている。授業では発音、形（文字）、意味の関係をそれぞれの観点からみていくつもりである。日本語を対象として提示していく。まず、言語を意識し、観察することから始めたい。

### 【授業の目標】

言語学にはどのような分野があるか、言語の一般的特性とは何かなど、言語学の基礎を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

以下の内容を予定している。

1. 言語とは：言語とは何かについて考える
2. 音韻論：文字と音の関係について考える
3. 形態論：言語の単位とは何かについて考える
4. 統語論：文の成り立ち、仕組みについて考える
5. 意味論：言語の意味とは何かについて考える

### 【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する

### 【テキスト】

プリントを配布する

### 【参考文献・資料】

はじめての人の言語学（上山あゆみ著 くろしお出版）  
その他、授業の中で適宜紹介する

## 言語学 b

森本俊之

### 【授業の概要】

私たちは日常、どのように言語的コミュニケーションを成功させているのか。あるいは失敗させているのか。伝達ツールとしての言語を把握するために、言語を、それが発信される状況とのかかわりの中で捉えることで、言語的コミュニケーションのメカニズムと、その参与者（＝私たち）の心のありようを考究することがこの授業の目的である。

### 【授業の目標】

言語運用に関するメカニズムに関する知見の習得と理解、および、状況によって異なりうる「発話の意味」を、そのメカニズムを用いて分析する能力の涵養を目的とする。

### 【授業計画】

まずは発話の形成と理解（「規範的なコミュニケーション」）に関する諸理論の概観と検討から始め、続いて比喻・皮肉・ユーモアなど（「逸脱したコミュニケーション」）の分析や、社会的相互行為としての会話における秩序（「私たちはどのように逸脱を避けるのか」）の検証を行う。

### 【評価方法】

レポート（適宜課す予定）により評価

### 【テキスト】

プリントを配布する

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 外国語としての日本語 I・II

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

日本語の特徴を文法の面から英語を使って考察し、日本語を母語としない人を対象にした日本語教授法を指導する。

### 【授業の目標】

外国語としての日本語の文法基礎知識を得ることが期待される。

### 【授業計画】

日本語テキストおよびビデオ日本語教材を用いて、初級日本語教育で扱う文型、文法事項の英語による具体的指導法を考える。

### 【評価方法】

期末試験および日常の勉強状況により評価を行う。

### 【テキスト】

未定。

\* 「外国語としての日本語II」は、同科目「I」の内容を学習済みであることを前提に、授業を進める。

## 論文

島田修三 久保朝孝 岩下紀之 阿部一彦 小倉 斉  
都築久義 酒井晶代 増井典夫 寺尾 剛

### 【授業の概要】

卒業論文（8単位）の作成について指導する。

### 【授業の目標】

国文学科における4年間の学修の成果として、各自が自由に設定した課題又はテーマに基づき、400字詰め原稿用紙50枚相当分以上の卒業論文を執筆する。

### 【授業計画】

各担当教員が提示する。

### 【評価方法】

提出された卒業論文の学術的及び教育的価値による。

### 【テキスト】

各担当教員の指示による。

### 【参考文献・資料】

各担当教員の指示による。

## 実践日本語表現法 a・b

人見恭司

### 【授業の概要】

これから大学で学ぶ専門教育の基礎として、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

### 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

### 【授業計画】

- a
1. 導入 (講義の進め方など)
  2. 話し言葉と書き言葉 (1) (話し言葉と書き言葉の違い)
  3. 話し言葉と書き言葉 (2) (書き言葉としてふさわしい表現、小テスト1)
  4. 書き言葉の技能 基礎 (1) (文の骨組みを抜き出す、小テスト2)
  5. 書き言葉の技能 基礎 (2) (文の骨組みを整える、小テスト3)
  6. 書き言葉の技能 基礎 (3) (呼応関係を確かめる、小テスト4)
  7. 書き言葉の技能 基礎 (4) (接続助詞「が」の使い方、小テスト5)
  8. 書き言葉の技能 基礎 (5) (句読点の使い方、小テスト6)
  9. 書き言葉の技能 基礎 (6) (修飾語と被修飾語、小テスト7)
  10. 書き言葉の技能 基礎 (7) (修飾語の語順、小テスト8)
  11. 書き言葉の技能 応用 (1) (論の要旨をとらえる)
  12. 書き言葉の技能 応用 (2) (文章を要約する)
- b
1. 書き言葉の技能 発展 (1) (レポートの書き方1)
  2. 書き言葉の技能 発展 (2) (レポートの書き方2)
  3. 書き言葉の技能 発展 (3) (論証の仕方、小テスト9)
  4. 話し言葉の技能 基礎 (1) (敬語の基礎、小テスト10)
  5. 話し言葉の技能 基礎 (2) (敬語の種類と使い方、小テスト11)
  6. 話し言葉の技能 基礎 (3) (間違いやすい敬語表現、小テスト12)
  7. 話し言葉の技能 応用 (1) (相手を考えて話す、小テスト13)
  8. 話し言葉の技能 応用 (2) (電話で話す、小テスト14)
  9. 総合応用 (1) (手紙文とその実例、小テスト15)
  10. 総合応用 (2) (メモの作り方、小テスト16)
  11. 総合応用 (3) (ビジネス文書とその実例1)
  12. 総合応用 (4) (ビジネス文書とその実例2)

### 【評価方法】

出席状況、小テスト、レポート、学期末試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法 (名古屋大学日本語表現研究会編 三弥井書店)

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 英語コミュニケーション2 (Listening I)

LEWIS, Paul HARRIS, Richard S. PUDWILL, Larry A. HAYE, Avril GREENE, Scott R.

### 【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

### 【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

SUTHONS, Philip BROWNING, Jeremy S. HARRIS, Richard S. HAYE, Avril JOLLY, James A.

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身につける。

### 【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション3 (Listening II)

LEWIS, Paul PUDWILL, Larry A. HARRIS, Richard S. GREENE, Scott R. HAYE, Avril

### 【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

### 【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション4 (Reading I)

BROWNING, Jeremy S. SUTHONS, Philip HAYE, Avril  
HARRIS, Richard S. JOLLY, James A.

### 【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

### 【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

### 【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

LEWIS, Paul HARRIS, Richard S. GREENE, Scott R.  
PUDWILL, Larry A. HAYE, Avril

### 【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

### 【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

### 【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

SUTHONS, Philip McGOLDRICK, Gemma HAYE, Avril  
HARRIS, Richard S. LACEY, Charles F.

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

### 【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. PUDWILL, Larry A. HAYE, Avril  
GREENE, Scott R. LEWIS, Paul

### 【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

### 【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

### 【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション8 (Reading II)

LACEY, Charles F. SUTHONS, Philip HARRIS, Richard S.  
HAYE, Avril McGOLDRICK, Gemma

### 【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

### 【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

### 【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## Introduction to American History

DOIRON, Heather

### 【Course description】

The following course will be based on personalities and events that have had an impact on American History. The class will be primarily a discussion, which will involve student presentation and participation.

### 【Course objectives】

To introduce students to America History topics.

### 【Course schedule】

Week 1 : Paul Revere

Week 2 : Slavery

Week 3 : Abraham Lincoln

Week 4 : The Civil War

Week 5 : New Orleans

Week 6 : World War 1

Week 7 : Louis Armstrong

Week 8 : The Kennedy

Week 9-12 : Student presentations

### 【Assessment】

10% attendance  
40% participating  
50% presentation

specific details will be announced at first meeting.

## Introduction to British History

EASLEY, Keith

### 【Course description】

This course deals with British History from its beginnings to the Twentieth Century, concentrating on events, people and places. The links between past and present will be stressed, and the main aim is to increase students' cultural understanding of the UK while developing language skills.

If it is necessary to limit class size, there may be a written test in the first lesson.

Teaching will be by lecture, discussion and small-group work.

### 【Course objectives】

1. To increase students' cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

### 【Course schedule】

Topics to be considered may include:

The Romans and their mark on Britain  
British races: Anglo-Saxons, Celts and others  
Feudal society  
Christianity  
Elizabeth I: war, trade, exploration and culture  
The unification of the UK  
Democracy and expansion in the Eighteenth Century  
Britain, Europe and North America from the Eighteenth Century  
The Industrial Revolution  
The development and decline of the British Empire  
Victorian Britain  
Britain in the Twentieth Century

Each topic will take between one and two weeks, with time given to review and consolidation.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, class participation, homework and examination.

### 【Textbooks】

*An Illustrated History of Britain*, (David McDowall Longman)

## Introduction to Australian History

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course description】

Australian poems, songs, movies, documentaries, and magazine articles are just some of the resources that will be used to introduce the students to Australia's colourful and controversial history. Students will be "exposed to" famous people and incidents that have helped shape Australia.

### 【Course objectives】

The students will be encouraged to familiarize themselves with the people and events which have affected Australia's history.

### 【Course schedule】

Section 1 : The Early Years: "I am Australian" / Banjo Paterson -  
The Man from Snowy River/ Waltzing Matilda etc..  
Section 2 : Shameful Times : Nuclear tests/ The Stolen  
Generation/White Australia Policy/ Unbelievable events etc..  
Section 3 : Influential people - Aboriginal artists/Famous actors/  
Politicians/Women in Public life, and how they have affected  
Australia.

### 【Assessment】

Students will be required to write a number of reports about their reactions to the materials/issues discussed in class. There will also be frequent vocabulary tests, which will emphasize Australian English.

## Current UK

EASLEY, Keith

### [Course description]

This course examines the UK today and aims to deepen students' understanding of Britain and its place in the world while developing language skills. A range of political, social, economic and cultural issues will be considered.

If it is necessary to limit class size, there may be a written test in the first lesson.

Teaching will be by lecture, discussion and small-group work.

### [Course objectives]

1. To increase students' cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

### [Course schedule]

Topics to be considered may include:

Identities and multinationalism  
Britain and Europe: Britain and the USA  
The media  
The English languages  
Democracy  
The making of money  
Devolution: countries and regions in the UK  
Men and women: changes and continuities  
Crime  
Health

Each topic will take between one and two weeks, with time given to review and consolidation.

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, class participation, homework and examination.

### [Textbooks]

The textbook will be announced during the first class.

## Current Australia

WOODMAN, Jo-Anne

### [Course description]

Australian pop music, contemporary dramas, gossip magazines, and TV news programs/documentaries will be used to introduce the students to life Down Under. Emphasis will be placed on trying to understand Aussie language and culture so that the students will feel more affinity with Australia and its people.

### [Course objectives]

This course will encourage the students to become more familiar with modern-day Australia.

### [Course schedule]

Section 1 : Facts and Figures – We will look at a variety of Australian facts and figures which demonstrate some unique characteristics of Australia and its people eg. Pop'n density/concentration; percentage of single mothers; the divorce rate; cost of tertiary education, etc..

Section 2 : What's happening? – popular songs, dramas, and magazine articles will provide the students with an opportunity to delve into the psyche of young Australian people.

Section 3 : What's in the news? – TV news programs/documentaries and newspaper articles will allow the students to become familiar with high profile people and events in contemporary Australia.

### [Assessment]

Students will be required to write a number of reports highlighting the similarities and differences between Japan and Australia. There will also be frequent vocabulary tests -both oral and written.

## Current USA

DOIRON, Heather

### [Course description]

This course will examine people and events that have helped to shape American society. Topics will range from artistic interpretation to feminism. This is primarily a discussion course. Students will be expected to do presentations and participate in class discussions.

### [Course objectives]

To introduce students to issues that are relevant to present day U.S.A.

### [Course schedule]

Week 1 : Who are Americans?

Week 2 : America's Music : Jazz

Week 3 : Civil Rights : Malcolm X, Louis Armstrong, Causis Clay

Week 4 : Feminism : Georgia O'keefe, Mae West, Gloria Steinberg and Madonna

Week 5 : America and the Movie Industry

Week 6 : Vietnam War

Week 7 : American Internationalization

Week 8 : Micheal Moore and 9/11

Week 9-12 : Student Presentations

### [Assessment]

10% attendance  
40% participation  
50% presentation

specific details to be announced at first meeting

## Vocabulary I

COLEBORNE, Bryan

### [Course description]

This is a computer-based course which will use "Powerwords", a computer software package that allows the students to work at improving their knowledge of vocabulary, at a level and pace appropriate for them. Students will have to complete 2 or 3 units per class, and they will also be encouraged to use the system in their free time. In addition, this course will explore vocabulary, and other aspects of language and culture, through analysis of songs, magazine and newspaper articles etc.

Special emphasis will be placed on understanding slang and idiomatic expressions in both informal and formal (business) situations. The students will be encouraged to appreciate the importance of idiomatic expressions in communicating with native English speakers.

### [Course objectives]

To help students improve their use of vocabulary through experience of several different areas of contemporary English usage.

### [Course schedule]

To be decided.

### [Assessment]

Vocabulary tests (oral and written) 80%  
Class participation etc. 20%

### [Textbooks]

To be decided.

### [Reference]

To be decided.

## Vocabulary II

COLEBORNE, Bryan

### 【Course description】

This course will encourage the students to continue developing their vocabulary knowledge with the "Powerwords" computer system. This computer system allows the students to choose a level and speed which is appropriate for them, so it is regarded as a very satisfying and rewarding way to work on vocabulary development. They will also engage in a variety of activities designed to stimulate their interest in learning new words and expressions. Activities may include such things as the analysis of pop music lyrics, articles about famous people, etc.

Throughout the course particular emphasis will be placed on the importance of phrasal and idiomatic expressions, in both business conversation and general conversation settings.

### 【Course objectives】

To continue to help students improve their use of vocabulary through experience of several different areas of contemporary English usage.

### 【Course schedule】

To be decided.

### 【Assessment】

Vocabulary tests (oral and written) 80%  
Class participation etc. 20%

### 【Textbooks】

To be decided.

### 【Reference】

To be decided.

## English Collaboration

NORRIS, Harry T.

### 【Course description】

This is an introductory course for college English education. The aim of this course is to motivate students to learn to use English as a life-skill tool. This will be done through the use of various indoor and outdoors activities. This course will motivate students to learn English through action and need, with minimal use of literary English. This means that students learn English, not by writing or speaking English intentionally, but by participating in various activities. Students are expected to enrich their vocabulary through repetition of use and to become familiar with idiomatic and onomatopoeic expressions.

### 【Course objectives】

The main objective of this course is to show students how to function in a completely English environment. Interacting in English (speaking, listening and thinking) without the use of Japanese.

### 【Course schedule】

In most cases classes will begin with oral explanation followed by the activity. Classes will vary from using the Internet to craft activities, group projects and sports on the field.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance and participation.

### 【Textbooks】

None

### 【Reference】

None

## 英語音声学 I

中郷 慶

### 【授業の概要】

英語の発音の特徴を、日本語と比べながら明らかにする。言語音の分類、母音と子音の体系など、英語音声の基礎的事項を学ぶ。また、英語らしいリズムとイントネーションについても、その理論を学ぶとともに、実践練習を行い定着を図る。

### 【授業の目標】

英語のリズムとイントネーションの仕組みを、日本語との対比で理解し、英文をより英語らしく読めるようになること。

### 【授業計画】

英語（および日本語）音声の特徴の全体像を明らかにするよう、次のような内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーション
2. リズムの担い手と強勢パターン
3. 語強勢と文強勢
4. イントネーションと意味
5. 発音の仕組み
6. 音韻論と音声学

受講生はこれまでに、英語を何年間も学習してきたとしても、おそらく、何が英語の発音の特徴であるのか理解していないように思われるし、十分な発音指導を受けてきたともないと思われる。英語を勉強していくうえで、一度、徹底的に英語の音声を基礎から勉強しておくことは不可欠なことである。この授業はヒアリング力の向上にも役立つであろう。

### 【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

こうすれば英語が聞ける： *Ways to be better listeners*（中郷安浩・中郷慶共著 英宝社）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 英語音声学 II

中郷 慶

### 【授業の概要】

「英語音声学 I」に引き続き、英語（および日本語）の音声の特徴の全体像を、さらに明らかにすることを目標とする。特に、日本人英語学習者にとって発音と聞き取りが難しい個々の音の発音方法を学び、より英語らしく読み、話す実践的練習を、歌・映画・小説の朗読などを題材に行う。

「英語音声学 I」を履修済みであることが望ましい。

### 【授業の目標】

日本人英語学習者にとって発音と聞き取りが難しい個々の音について学び、英語の音節構造・頭韻・脚韻などの理解を深めること。

### 【授業計画】

以下の内容で、講義と実践的練習を行う。

1. シャドーウィングとディクテーション
2. 日本人英語学習者が不得手な子音の発音と聞き取り
3. 日本人英語学習者が不得手な母音の発音と聞き取り
4. 英語の音変化（同化・脱落・連結・縮約など）
5. 英語の音節構造
6. 音節とモーラ

### 【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

こうすれば英語が聞ける： *Ways to be better listeners*（中郷安浩・中郷慶共著 英宝社）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## Writing I (Diary & Daily Life)

MOLOTSI, Prisca

### [Course description]

In this course, students will be given the chance to explore the process of expository writing. In addition to learning how to various aspects of the writing process, students will also learn to generate topics from daily life: topics ranging from personal to historical, cultural, political and socio-economical ones. Students will be expected to keep a diary and are encouraged to write in it on a daily basis. A written group project will also be assigned at the beginning of the semester. This will be collected at the end of the semester. Time to work on the project will be allotted in each class.

### [Course objectives]

To help improve students' English writing skills while teaching them about a variety of topics as they pertain to our daily lives.

### [Course schedule]

- Week 1 : Topic Sentences
- Week 2 : Supporting sentences
- Week 3 : Concluding sentences
- Week 4 : Paragraph writing
- Week 5 : Definition paragraphs
- Week 6 : Introductory paragraphs
- Week 7 : Concluding paragraphs
- Week 8 : Comparison and contrast paragraphs
- Week 9 : Project review
- Week 10: Persuasive paragraphs 1
- Week 11: Persuasive paragraphs 2
- Week 12: Cause and effect paragraphs
- Week 13: Review

### [Assessment]

Grades will be given based on attendance, homework, tests, the journal and the group project.

### [Textbooks]

Will be determined after the class commences

## Writing I (Diary & Daily Life)

LEWIS, Paul

### [Course description]

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

### [Course objectives]

- By the end of this course, students should be able to:
- understand the benefits and styles of regular diary keeping
  - be able to use note form for written English
  - be able to use various forms of prewriting for planning and discussion
  - be able to discuss their diaries freely in groups and pairs in English

### [Course schedule]

- Lessons 1 Note taking styles
- Lessons 2-12 Discussions of topics raised in students' real diaries and imaginary diaries

### [Assessment]

Assessment will be based upon class participation, attendance and the diaries.

### [Textbooks]

No textbooks will be used, but instead students will use handouts.

### [Reference]

None

## Writing I (Diary & Daily Life)

TOFF, Mika

### [Course description]

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

### [Course objectives]

Students will learn to observe their daily lives carefully and to describe their thoughts creatively.

### [Course schedule]

Time will be spent on discussions and exchange of ideas. We will also look at a variety of published diaries and online journals.

### [Assessment]

Assessment will be based on class work and writing assignments.

### [Textbooks]

No textbook required.

## Writing I (Diary & Daily Life)

CURRAN, Beverley

### [Course description]

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

### [Course objectives]

The goal of the course is to teach students how to express their own life experiences as a written narrative in English, and, in the process, learn to think critically, consider the world around them with curiosity, and exchange ideas with each other in English.

### [Course schedule]

- 1 Introduction
- 2 - 3 Life Writing: Writing in the First Person
- 4 - 5 Diary Forms: Written and Electronic
- 6 - 8 Temporal Organization: Time expressions
- 9 - 11 Famous Diaries (Research)
- 12 - 14 Diary Development
- 15 Conclusion

### [Assessment]

Assessment will be based on effort, class participation, written work, and attendance.

### [Textbooks]

No text is required

## Writing I (Diary & Daily Life)

DOIRON, Heather

### [Course description]

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

### [Course objectives]

To teach students the purpose and importance of keeping a diary.

### [Course schedule]

The course is designed to help students express themselves in writing.

Video, music, and readings will be used to encourage written expression. Assignments and homework will be based on class activities. Some group work will be required.

Students will be introduced to keeping a diary of daily events. Through reading other diaries, and listening to transcripts students will be exposed to a methods of recording personal thoughts and events.

- Week 1 : Examples of famous diaries and methods of record keeping.
- Week 2 : Recording personal thoughts using declarative sentences.
- Week 3 : Recording personal thoughts using declarative sentences.
- Week 4 : Interviews using the past tense
- Week 5 : Interviews using the past tense
- Week 6 : review
- Week 7 : Interviews using the future tense
- Week 8 : Interviews using the future tense
- Week 9 : Recording the News
- Week 10 : Note taking
- Week 11 : Note taking
- Week 12 : Review

### [Assessment]

- 60% Assignments
- 40% final project.

Specific details will be announced at first meeting

## Writing II (Paragraph Writing)

MOLOTSI, Prisca

### [Course description]

In this course, students will be given the chance to further develop the skills they learnt in Writing I. Emphasis on paragraph writing and essay writing skills will be made. Students will be expected to keep a diary and are encouraged to write in it on a daily basis. The Internet, videos and newspapers/magazines will be used to generate writing topics and activities.

### [Course objectives]

To help improve students' English writing skills while teaching them about a variety of topics as they pertain to our daily lives.

### [Course schedule]

- Week 1 : Review of basic paragraphs 1
- Week 2 : Review of basic paragraphs 2
- Week 3 : Writing and Essay outline
- Week 4 : Paragraphs describing a sequence of events (chronological order)
- Week 5 : Short essay using chronological time order
- Week 6 : Example paragraphs 1
- Week 7 : Example paragraphs 2
- Week 8 : Descriptive paragraphs
- Week 9 : Narrative paragraphs
- Week 10 : Persuasive paragraphs 1
- Week 11 : Persuasive paragraphs 2
- Week 12 : Paragraphs using similes and metaphors
- Week 13 : Review

### [Assessment]

Grades will be given based on attendance, homework, tests, and the journal.

### [Textbooks]

Will be determined after the class commences

## Writing II (Paragraph Writing)

TOFF, Mika

### [Course description]

In this course the students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

### [Course objectives]

Students will learn to write effective introductions and conclusions, and to support their ideas with persuasive reasons and vivid examples.

### [Course schedule]

Time will be spent on developing essays through revision and discussion of organization.

### [Assessment]

Assessment will be based on the content of the essays written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the essays.

### [Textbooks]

No textbook required.

## Writing II (Paragraph Writing)

LEWIS, Paul

### [Course description]

In this course the students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

### [Course objectives]

By the end of this course, students should be able to do the following:

- gather ideas for essay or paragraph writing
- arrange ideas into a coherent form
- write multiple drafts of a paragraph or essay, adding corrections in subsequent drafts
- use the computer for basic writing and error checking
- peer-check their partner's writing

### [Course schedule]

- Week 1 : Sentences
- Week 2 : Topic sentences
- Week 3 : Brainstorming
- Week 4 : Describing
- Week 5 : Peer feedback
- Week 6 : Giving opinions
- Week 7 : Cause/effect
- Week 8 : Modals
- Week 9 : Narratives
- Week 10 : Comparisons
- Week 11 : Introductions
- Week 12 : Review

### [Assessment]

Assessment will be based on class attendance, participation and student portfolios.

### [Textbooks]

To be announced in the first class

### [Reference]

None

## Writing II (Paragraph Writing)

CURRAN, Beverley

### 【Course description】

In this course students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

### 【Course objectives】

The goal of the course is to teach students to write organized and interesting paragraphs on a variety of topics. Through practice, the students will develop their writing ability and their confidence in express themselves in written English.

### 【Course schedule】

- 1 Introduction
- 2 Parts of a Paragraph
- 3-6 Paragraph Practice
- 7-8 Writing an Introductory Paragraph
- 9-10 Ending a Paragraph
- 11-14 Paragraph Practice
- 15 Reflection

### 【Assessment】

Assessment will be based on effort, class participation, written work, and attendance.

### 【Textbooks】

No text is required

## Writing II (Paragraph Writing)

DOIRON, Heather

### 【Course description】

In this course the students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

### 【Course objectives】

To teach students the dynamics involved in paragraph writing.

### 【Course schedule】

The course is designed to help students learn the art of writing in paragraphs. Through reading, writing, listening and speaking students will be exposed to the rules of making a proper paragraph.

- Week 1 : What is a paragraph?
- Week 2 : What is the subject of your paragraph?
- Week 3 : Listening to a paragraph
- Week 4 : Writing a paragraph
- Week 5 : Group work
- Week 6 : Review
- Week 7 : Making paragraphs connect
- Week 8 : Making paragraphs connect
- Week 9 : Group work
- Week 10 : Class assignment
- Week 11 : Class assignment
- Week 12 : Review

### 【Assessment】

- 60% assignments
- 40% group work

Specific details to be announced at first meeting

## Reading I (Literature)

中島賢二

### 【授業の概要】

Roald Dahl (1916-1990) の童話を題材にして、英文を正確に読む訓練をします。

作者のダールは、世界的に有名な童話作家で、昨年話題になった映画『チョコレート工場の秘密』は、彼の作品が原作になっています。

### 【授業の目標】

- (1) 作中にたくさん出てくる日常会話表現を身に付ける。
- (2) 高校までに習った英文法の復習。
- (3) 作品を味わって読む。

### 【授業計画】

毎回4ページ以上読むことを目標にします。

授業に出る前に自分で読んでみて、自力でわからないところがあった場合は、どこがわからなかったかをきちんと確認しておいてください。

### 【評価方法】

学期末テスト、平常の授業への参加意欲等を総合的に判断します。

### 【テキスト】

*Matilda* (Dahl作 Penguin Books)

## Reading I (Literature)

水岡久

### 【授業の概要】

シェイクスピアの retold された作品を読む。ストーリーの面白さや機知に富んだ名句に接し、作品・作家の背景を知ることによって、いかに深くそして楽しく物語を読んでいけるかを学ぶ。

### 【授業の目標】

読解力を身に付けることが主な目標であるが、テープを聴いたり、ビデオを鑑賞することによって聴解力を養う。併せて、シェイクスピアの言語芸術のすばらしさを知り、劇を通じて人生哲学を学ぶことを目標とする。

### 【授業計画】

(前期) "The Merchant of Venice"

作品を通じて「愛」「結婚」「富」「人種問題」について考察する。  
最初の授業で、シェイクスピアの生涯と作品をビデオで紹介する。

最終の授業で、この喜劇の小論文を課す。

(後期) "Romeo and Juliet"

作品を通じて「運命」や「恋愛」について考察する。  
最初の授業で、シェイクスピアの生涯と作品をビデオで紹介する。  
最終の授業で、この悲劇の小論文を課す。

### 【評価方法】

定期試験の成績、レポート、小論文、出席・予習状況、受講態度などの総合評価を行う。

### 【テキスト】

New Tales from Shakespeare (R. L. Green・川地美子 注解 成美堂)

## Reading II (Linguistics)

田中智之

### 【授業の概要】

英語という言語に関して書かれた英文テキストを読みながら、英語の成り立ちや多様性について学ぶ。

### 【授業の目標】

文法や構文を意識しながら英文を精読することを通じて英文読解力を高めると同時に、英語学・言語学の専門分野への導入となる知識を身につける。

### 【授業計画】

- (1) 英語の先史時代
- (2) 古英語と中英語
- (3) 近代英語とアメリカ英語の誕生
- (4) 現代英語の多様性
- (5) 英語の仕組み (1): 音声学・音韻論
- (6) 英語の仕組み (2): 形態論
- (7) 英語の仕組み (3): 統語論
- (8) 英語の仕組み (4): 意味論

### 【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業時に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## English Grammar I

金子輝美

### 【授業の概要】

高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に生かせるように努力する。多くの英文に触れ、〈理論〉と〈実践〉の両面から、英語表現そのものの理解し、味読できるようにする。次の事項を中心に講義を進める。

1. 現在、過去時制
2. 進行形
3. 完了形
4. 助動詞

### 【授業の目標】

英文法の学習を通して、個別言語としての英語の特質を認識し、実際に英語を読んだり、書いたりする際に英文法の知識を活かせるようにする。

### 【授業計画】

テキストは懇切丁寧に解説されているので、家庭でそれを熟読し、例文を理解し、練習問題を解いてみることを希望する。授業では、難解な部分を解説し、学生に頻繁に質問することによって理解度を確認する。文法のための文法学習ではなく、最終的には、オールラウンドな英語力の涵養を目標とする。多くの英文例に触れるために、補助教材としてプリントを配布する。

### 【評価方法】

座席を指定し、出席状況を重視する。授業態度も成績評価に加味する。課題、小テスト、定期試験前の予備テスト、定期試験を実施する。各試験では、学習事項に関連した応用問題が出されることもある。

### 【テキスト】

「コーパス英文法」(柏野健次・内木場務著 開拓社)  
随時プリントを配布する。

## English Grammar II

金子輝美

### 【授業の概要】

高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に生かせるように努力する。教科書に加えて最新の英字新聞や雑誌などの補助教材を用いて、多くの英文に触れ、〈理論〉と〈実践〉の両面から、英語表現そのものの理解し、味読できるようにする。

5. 仮定法
6. 関係詞
7. 不定詞と動名詞
8. 能動態と受動態

### 【授業の目標】

英文法の学習・研究を通して、個別言語としての英語の特質を明らかにし、英文法の知識を英語を運用する際に最大限に活用できるようにする。

### 【授業計画】

テキストは懇切丁寧に解説されている。家庭でそれを熟読し、例文を理解し、練習問題を解いてみることを希望する。授業では、難解な部分を解説し、頻繁に質問することによって理解度を確認する。基本的な文法事項から英文科学生として学ぶべき文法事項まで、幅広い領域にわたって説明を加えたい。

### 【評価方法】

出席状況を重視する。課題、小テスト、定期試験前の予備テスト、定期試験を実施する。各試験では、学習事項に関連した応用問題が出されることもある。

### 【テキスト】

「コーパス英文法」(柏野健次・内木場務著 開拓社)  
随時プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で随時紹介する。

## 英米思想

柳原佳枝

### 【授業の概要】

文学や言語を学び理解するには、それらの基盤をなすものについての知識が必要不可欠である。

欧米のアイデンティティーを性格づける中心的要素はキリスト教である。

この授業では、英米におけるキリスト教の人間観や価値観を論考する。

なお、授業の進め方については、極めて基本的な内容にとどめること、および、関心や理解を深めるために、具体的な例証を取り上げ解説することに留意する。

### 【授業の目標】

- ・キリスト教に関して知っておきたい常識を得ること。
- ・キリスト教に基づく人間観や価値観を考察すること。
- ・キリスト教が欧米の文化や人々の生き方に及ぼした影響を探求すること。

### 【授業計画】

以下のようなテーマで授業を行う。

- ・聖書
- ・キリスト教
- ・人間の尊厳
- ・キリスト教と欧米文化
- ・事例研究

T.モア、A.リンカーン、マザー・テレサ、他

そのほか、授業毎に約10分間、「聖書と英語表現」として事例を取り上げる。

### 【評価方法】

学期末の試験、および出席・平常点も重視して、総合的に評価する。

### 【テキスト】

配布プリント。その他、授業で指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜配布又は指示する。

## Speaking I

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course description】

This course aims to make the students more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation in English. It will emphasize the vocabulary and other communication skills needed in normal everyday-life situations. The resources and teaching techniques employed will focus on situations relevant to Japanese students, for example: meeting foreigners in social settings; dealing with foreign customers; getting along with a host family during a home stay etc..

Cultural differences, relevant to each topic, will be introduced and discussed.

### 【Course objectives】

To provide ample opportunities for the students to improve their oral communication skills.

### 【Course schedule】

Students will talk about a wide variety of things including: their family; interests; part-time jobs etc.. They will be required to make tape-recordings of their information / opinions as part of the on-going assessment.

### 【Assessment】

Active participation in all class activities will constitute the majority of marks awarded for this course. However, additional points will be awarded for the individual tape-recordings completed for homework.

## ドイツ語 I

濱田義孝

### 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じ西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはCD）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

### 【授業の目標】

初歩的なドイツ語の運用能力を身につけて、ドイツ語で簡単なコミュニケーションがとれることをめざす。

### 【授業計画】

テキストは全10課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1 課を3回の授業で終えるくらいのゆっくりしたペースで進む。

### 【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

グーテ・ライゼ! (新版) (伊藤/クリスタ柴田/末松/山川共著 郁文堂)

### 【参考文献・資料】

エクセル独和辞典 (在問著 郁文堂)

## Speaking II

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course description】

This course aims to develop students' speaking proficiency, with particular emphasis placed on public speaking. The natural progression of speaking to a partner, then to small groups, and finally to larger groups will be the basis on which the class will be structured. Students will be encouraged to choose topics which will allow them to make such a transition relatively easily. Explaining about features of Japan and Japanese culture (in English) will be a key part of the practice sessions, and will provide the students with opportunities to appreciate the fundamentals of speaking in public.

### 【Course objectives】

This course will provide ample opportunities for the students to improve their oral communication skills.

### 【Course schedule】

To be decided.

### 【Assessment】

Classwork (preparation and participation) 70%

Homework (tape recordings) 30%

## ドイツ語 II

濱田義孝

### 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じ西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはCD）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

### 【授業の目標】

初歩的なドイツ語の運用能力を身につけて、ドイツ語で簡単なコミュニケーションがとれることをめざす。

### 【授業計画】

テキストは全10課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1 課を3回の授業で終えるくらいのゆっくりしたペースで進む。

### 【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

グーテ・ライゼ! (新版) (伊藤/クリスタ柴田/末松/山川共著 郁文堂)

### 【参考文献・資料】

エクセル独和辞典 (在問著 郁文堂)

## フランス語Ⅰ

清水ベアトリックス

### 【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）とビデオを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、動詞の活用（現在形）、疑問文、否定文、品質形容詞、指示形容詞、所有形容詞。

### 【授業の目標】

フランス語を日本語と英語と比較し、三ヶ国語の相違点と類似点を学んで、国際的なコミュニケーション・スキルを築く。

### 【授業計画】

毎週、前回の復習をした後、新たな文法のポイントを学ぶ。繰り返して、新しい単語を使って、平易なフランス語の文章を和訳する。会話の練習にビデオを使って、現実な表現を覚える。そして、最後に、生徒の理解率を確かめるため当日の授業の内容について小テストを行う。

### 【評価方法】

定期試験を重視するが、小テスト（毎週）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

### 【テキスト】

*Elle est gourmande*（藤田裕二 朝日出版社）

## ロシア語Ⅰ

杉本一直

### 【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしてくださいね。

### 【授業の目標】

- ・正しい発音の修得
- ・名詞、形容詞の基本変化、動詞現在形変化の理解と活用

### 【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- キリル文字と発音
- 大きな声であいさつしよう
- 買い物に行ってみよう
- 乗り物に乗ろう
- おなかがいっぱいなら...
- 自分について話してみよう
- 好きな音楽について
- 手紙を書こう（本当にロシアへ送るぞ!）

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

## フランス語Ⅱ

清水ベアトリックス

### 【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期のフランス語Ⅰに引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をしたりことにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

いろいろな疑問詞、目的語となる人称代名、いろいろな前置詞、半過去、複合過去、未来形。

### 【授業の目標】

フランス語を日本語と英語と比較し、三ヶ国語の相違点と類似点を学んで、国際的なコミュニケーション・スキルを築く。

### 【授業計画】

毎週、前回の復習をした後、新たな文法のポイントを学ぶ。繰り返して、新しい単語を使って、平易なフランス語の文章を和訳する。会話の練習にビデオを使って、現実な表現を覚える。そして、最後に、生徒の理解率を確かめるため当日の授業の内容について小テストを行う。

### 【評価方法】

定期試験を重視するが、小テスト（毎週）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

### 【テキスト】

*Elle est gourmande*（藤田裕二 朝日出版社）

## ロシア語Ⅱ

杉本一直

### 【授業の概要】

ロシア語Ⅰに引き続き、ロシア語の基礎を学びます。ロシア語Ⅱでは、基礎的な文法事項の習得に重点をおきます。

### 【授業の目標】

- ・名詞格変化の完全理解と活用
- ・動詞過去形変化の理解
- ・関係詞活用法の修得

### 【授業計画】

毎回ひとつの重要な文法事項をクローズ・アップし、ひとつずつじっくり習得していきます。

取り上げる文法事項の主なものは以下の通り。

- ・動詞の過去形
- ・名詞の前置格
- ・名詞の対格
- ・名詞の生格
- ・動詞の不完了体と完了体
- ・関係代名詞と関係副詞

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

## Writing III (E-mail and Business letters)

CURRAN, Beverley

### [Course description]

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as e-mail. The aim of this course will be to ensure that students are able to write a variety of e-mails (for personal communication, business-letters, information enquiries, etc) in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Photo attachments, spreadsheet documents, etc.

### [Course objectives]

The broad objectives of this course are to give students practice and develop their confidence in expressing themselves effectively in written English. More specifically, the goal is to prepare students to communicate in clear and concise English when writing e-mail and other business correspondence.

### [Course schedule]

The course will begin with a survey of some of the computer skills required in business writing, including using the keyboard and word processing. In the first two-three weeks of the course, the emphasis will be on composing short, focused and effective e-mail. We will learn expressions commonly used in a variety of e-mail messages, and also the varying registers that are appropriate for business. In the following weeks, there will be practice attaching files to e-mail; sending photographs; as well as learning to organize your email effectively.

### [Assessment]

Evaluation is based on effort, participation, and the quality of production. Students are responsible for timely submission of all assignments.

### [Textbooks]

No text is required.

### [Reference]

TBA

## Writing III (E-mail and Business letters)

ABE, David

### [Course description]

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as e-mail. The aim of this course will be to ensure that students are able to write a variety of e-mails (for personal communication, business-letters, information enquiries, etc) in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Photo attachments, spreadsheet documents, etc.

### [Course objectives]

- To understand the purpose of the internet
- To understand the difference between spoken and written discourse.
- To understand the way in which knowledge of generic structure of different text types improve writing.

### [Course schedule]

The course will begin with:

- Explain how communicating with others can be a productive learning experience for students.
- List several forms of communication possible on the Web.
- Identify the most common use of the Internet.
- Register for a free e-mail account on the Web.
- Generate, send, retrieve, save, and organize electronic messages.
- Send electronic messages to several persons simultaneously.
- Send and receive electronic messages that include attachments.
- Create folders to store electronic messages.
- Employ proper etiquette in all forms of communication.
- Describe how an online discussion group can be used for instructional purposes.
- Establish access to experts available on the Web to serve as primary sources in the classroom.
- List several emoticons that can be used to express emotion in electronic communications.
- Describe how to manage collaborative student projects that involve other classrooms around the world.
- Explain how to find other classrooms around the world to participate in collaborative student projects.
- Describe how chat sessions can be used by students for productive learning experiences.

### [Assessment]

Assessment will be based on the following:  
attendance, class participation, homework and assignments, midterm and final tests.  
More detailed information will be given in the first class.  
Turn off all mobile phones.

### [Textbooks]

TBA

## Writing III (E-mail and Business letters)

DOIRON, Heather

### [Course description]

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as e-mail. The aim of this course will be to ensure that students are able to write a variety of e-mails (for personal communication, business-letters, information enquiries, etc) in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Photo attachments, spreadsheet documents, etc.

### [Course objectives]

To teach students to write e-mail and business letters in English.

### [Course schedule]

The following course is designed to explore the process of writing different business letters. Several course assignments must be submitted by email.

- Week 1 : Types of business letters
- Week 2 : Writing an order letter
- Week 3 : Writing an inquiry letter
- Week 4 : Writing a complaint letter
- Week 5 : Class assignment
- Week 6 : Review
- Week 7 : Writing a response letter
- Week 8 : Writing an acknowledgment letter
- Week 9 : Writing an adjustment letter
- Week 10 : Writing a resume cover letter
- Week 11 : Class assignment
- Week 12 : Review

### [Assessment]

- 70% Assignments and class work
- 30% Homework

Specific details to be announced at first meeting

## Writing IV (Research Papers)

CURRAN, Beverley

### [Course description]

This course aims to develop students' skills in writing an essay in English. Specifically, it will require the students to choose a contemporary issue (about which they can conduct extensive research) and then write a preliminary essay plan, followed by a fully-fledged essay. The final essay will be expected to emulate the style of college essays in most western universities, complete with quotations, footnotes and references.

Inherent in the course will be the study of paragraph organization, as well as instruction regarding the effective presentation and support of ideas in written English.

### [Course objectives]

The goal of this course is to guide each student through the preparation of a research paper in English, from the selection of a research topic through to the final edit and timely submission of the paper. The emphasis is on students viewing the process of preparing a research paper in three stages -- research (content), writing (expression) and editing (accuracy) -- that each require attention.

### [Course schedule]

1. Introduction to writing a research paper
2. Choosing a suitable topic
3. Outlining a research plan; gathering materials
4. Introduction: essay's mission statement and map
5. Using Quotations and avoiding plagiarism
6. Footnotes and Endnotes
7. Print and Electronic References
8. Conclusion
9. Revising
10. Editing
11. Abstract
12. Oral presentation

### [Assessment]

Evaluation is based on effort and time management, as well as the quality of the research paper.

### [Textbooks]

No text is required.

### [Reference]

TBA

## Writing IV (Research Papers)

DOIRON, Heather

### [Course description]

This course aims to develop students' skills in writing an essay in English. Specifically, it will require the students to choose a contemporary issue (about which they can conduct extensive research) and then write a preliminary essay plan, followed by a fully-fledged essay. The final essay will be expected to emulate the style of college essays in most western universities, complete with quotations, footnotes and references.

Inherent in the course will be the study of paragraph organization, as well as instruction regarding the effective presentation and support of ideas in written English.

### [Course objectives]

To teach students the necessary skills required to write a research paper.

### [Course schedule]

This course is designed to help students present results of the investigation on a selected topic. Students will have the opportunity to gather, interpret, and document information. Emphasis will also be on organizing and communicating ideas in a proper and legit format.

Week 1 : Choosing a topic  
Week 2 : Taking notes  
Week 3 : Using Outlines  
Week 4 : Paper format  
Week 5 : Citing Sources  
Week 6 : Citing Sources  
Week 7 : Work cited page  
Week 8 : Principles of Composition  
Week 9 : Works cited  
Week 10 : Class assignment  
Week 11 : Class assignment  
Week 12 : Final project Due

### [Assessment]

50% homework and assignments  
40% final project  
10% attitude

Specific details to be announced at first meeting

## Presentation I

WRINGER, Paul

### [Course description]

This course will help to develop the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to learn about various strategies, as well as how to use a variety of aids (including PowerPoint software), and to incorporate them into their presentations. Students will be encouraged to choose topics or themes which will facilitate visually exciting and effective presentations.

Preparation is the key to a good presentation, so considerable time will be allocated to preparing for the presentation, in consultation with the teacher.

### [Course objectives]

- To provide students with an opportunity to express their ideas and opinions about a variety of current everyday issues.
- To develop presentation preparation skills, understand the importance of delivery, and to become familiar with a variety of visual aids (including Powerpoint).

### [Course schedule]

Topics for discussion will be organized into five categories or themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society. Each category has topics that explore important values in our lives and will give the students an opportunity to exchange and express their own values, ideas and opinions in pairs, small groups and eventually in a Presentation format.

A substantial part of this course is designed to introduce students to the basic use of PowerPoint, which is the most widely used presentation computer software. The goals of this introduction are as follows:

- Introduction to presentation software
- Basic design skills in presentation
- Integration of text, graphics and images
- Basic drawing skills
- Saving presentations

- Week 1 - 5 : oral communication activities
- Week 6 - 10 : oral communication activities and basic introduction to PowerPoint
- Week 11 - 15 : Development and practice of simple PowerPoint presentation

### [Assessment]

ASSESSMENT will be continual and include the following:

- \* ATTENDANCE
- \* CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- \* HOMEWORK
- \* PRESENTATION

### [Textbooks]

A decision about a suitable textbook will be made after the first week of classes.

## Writing IV (Research Papers)

ABE, David

### [Course description]

This course aims to develop students' skills in writing an essay in English. Specifically, it will require the students to choose a contemporary issue (about which they can conduct extensive research) and then write a preliminary essay plan, followed by a fully-fledged essay. The final essay will be expected to emulate the style of college essays in most western universities, complete with quotations, footnotes and references.

Inherent in the course will be the study of paragraph organization, as well as instruction regarding the effective presentation and support of ideas in written English.

### [Course objectives]

To learn to write a research paper in both MLA and APA standard form. To conduct academic research skills, through accessing online search engines.

To develop reference skills.

### [Course schedule]

The research paper, students must do the following:

- a. Conduct library research and demonstrate proficiency in the use of research technology, including on-line catalog, CD Rom, and other available computerized assists.
- b. Demonstrate proficiency in using standardized indices and reference works, books, periodicals, various electronic source material, and other appropriate resource.
- c. Utilize the following research components: bibliography cards, note cards, outlines, and drafts.
- d. Demonstrate skills in using the MLA and APA style of documentation along with an awareness of the existence of other documentation styles.
- e. Receive instruction through class discussion of plagiarism and its consequences.

### [Assessment]

Assessment will be based on the following: attendance, class participation, homework and assignments, midterm and final tests.

More detailed information will be given in the first class.

### [Textbooks]

TBA

## Presentation I

ABE, David

### [Course description]

This course will help to develop the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to learn about various strategies, as well as how to use a variety of aids (including PowerPoint software), and to incorporate them into their presentations. Students will be encouraged to choose topics or themes which will facilitate visually exciting and effective presentations.

Preparation is the key to a good presentation, so considerable time will be allocated to preparing for the presentation, in consultation with the teacher.

### [Course objectives]

To develop a strategy for organizing and presenting.

To understand some of the factors to consider in determining the difficulty of speaking.

### [Course schedule]

This Course will attempt cover two presentations and a final major project.

### [Assessment]

Assessment will be based on the following: attendance, class participation, homework and assignments, midterm and final tests.

More detailed information will be given in the first class.

## Presentation I

DAVIES, Alun

### [Course description]

This course will help to develop the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to learn about various strategies, as well as how to use a variety of aids (including PowerPoint software), and to incorporate them into their presentations. Students will be encouraged to choose topics or themes which will facilitate visually exciting and effective presentations.

Preparation is the key to a good presentation, so considerable time will be allocated to preparing for the presentation, in consultation with the teacher.

### [Course objectives]

1. Students will practise selecting and narrowing down suitable topics for communication and for later presentations.
2. Students will develop basic research skills connected to their topic of communication.
3. Students will develop and practise basic organizational skills for presentations.
4. Students will learn to use effectively PowerPoint presentation software.

### [Course schedule]

Part of this course is designed to introduce students to the basic use of PowerPoint, which is the most widely used presentation computer software.

- Week 1-5 : oral communication activities
- Week 6-10 : oral communication activities and basic introduction to PowerPoint
- Week 11-15 : Development and practice of simple PowerPoint presentation

### [Assessment]

ASSESSMENT will be continual and include the following:

- \* CLASS PARTICIPATION
- \* HOMEWORK
- \* PRESENTATIONS

### [Textbooks]

A decision about a suitable textbook will be made after the first week of classes.

## Reading III (Newspaper)

DYCUS, David C.

### [Course description]

The purpose of this course is to improve students' ability to read and comprehend the types of texts commonly found in newspapers, with a focus on straight news articles, special columns, and editorials. There will be a focus on developing knowledge of common grammatical patterns and organizational patterns commonly associated with newspaper texts, and there will be an emphasis on topic-specific as well as general vocabulary development. In addition to serving as reading and study material, newspaper texts will also provide topics for discussion and other learning activities.

### [Course objectives]

1. To improve students' ability to recognize common aspects of newspaper article organization and presentation of information.
2. To improve students' knowledge of vocabulary and grammatical patterns common to newspaper articles in general as well as specific content areas.
3. To improve students' ability to "read between the lines" and grasp a writer's intent.

### [Course schedule]

The course will combine a textbook of pre-selected newspaper articles and exercises with current newspaper texts selected weekly from major newspapers with comprehension questions and various exercises added. The combination of texts will provide reading and discussion material, and will also be the basis for regular vocabulary quizzes. Topics will depend on the news events of the day, selected either according to student interests or teaching needs.

### [Assessment]

Assessment will be ongoing. One-third of the grade will be based on attendance and active participation in class activities, one-third will be based on vocabulary/structure quizzes related to the weekly reading material, and one-third will come from tests.

### [Textbooks]

To be announced

## Presentation II

NORRIS, Harry T.

### [Course description]

This course will further enhance the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to refine and improve their presentation skills and strategies (in particular, their prowess with PowerPoint), whilst also demonstrating an improvement in their ability to prepare and deliver an effective presentation. Constructive advice and feedback from other participants will be encouraged.

### [Course objectives]

The main objective for this course is to familiarize students with the capabilities of PowerPoint presentation software. To appreciate and use the software to facilitate more visual and verbal contact with listeners in an English environment.

### [Course schedule]

Students will first be familiarised with teaching aids and how to use them. Short presentations will be given using teaching aids such as Video and OHC (Over Head Camera). Main area of study will be the use of Microsoft PowerPoint and using it as a tool for presentations.

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, research, seminars and reports.

### [Textbooks]

No text, as necessary, however memory in the form of MO, DS or USB memory stick (min 128 meg)

## Reading III (Newspaper)

DOIRON, Heather

### [Course description]

This course will concentrate on developing reading skills, expanding vocabulary, and increasing understanding of newspaper articles written in English. Focus will be on topical as well as practical applications of both common occurring terms and trends.

### [Course objectives]

To encourage students to be more familiar with the contents and topics covered in English newspapers.

### [Course schedule]

Topics that will be considered include:

- World news
- Health and related vocabulary
- Headlines, reading and understanding
- Sports, entertainment news
- Business articles and vocabulary

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, class participation, homework, and various reading and vocabulary quizzes throughout the course.

### [Textbooks]

None

## Reading III (Newspaper)

担当者未定

詳細は、後日掲示にて連絡します。

## Reading IV (Internet)

WRINGER, Paul

### [Course description]

This course is aimed at lower to upper intermediate students of English. An integrated approach will be presented where there will be not only a focus on developing reading and listening skills, but also an inclusion of activities designed to develop the student's speaking and writing abilities. The thematically organized selections of reading material selected from various sources, including the internet, provides a balanced point of view while helping to nurture a range of analytical and critical thinking skills.

Also included are effective vocabulary skills exercises that are designed to increase student's vocabulary while helping them to cope with new words.

### [Course objectives]

- To give students opportunities to read aloud and in private to get the gist of the reading material and to practice establishing meaning through contextual clues.
- To help students develop reading skills they will use throughout their reading careers: skills such as scanning, summarizing, identifying the main idea, and recognizing connectors and other devices.

### [Course schedule]

Each topic will be covered over a two to three week period and will include some of the following themes:

- PEOPLE
- RELATIONSHIPS
- THE WORKPLACE
- FAMILY
- SOCIETY

### [Assessment]

Assessment will be continuous and is based on the following criteria:

- Attendance
- Class participation
- Homework and assignments
- End of semester report

### [Textbooks]

To be decided during the first week of classes

## Reading IV (Internet)

ABE, David

### [Course description]

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as academic research on the web. The aim of this course will be to ensure that students are able to implement internet as tool for research in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Reading CNN global news, and exploring informative web site.

### [Course objectives]

To conduct academic research skills, through accessing online search engines.

### [Course schedule]

The first half of the course will focus on academic research methods. The second half of the course will implement these research methods into two research projects.

### [Assessment]

Assessment will be based on the following:  
attendance, class participation, and two assignments  
More detailed information will be given in the first class.

### [Textbooks]

TBA

## Reading IV (Internet)

DAVIES, Alun

### [Course description]

An integrated approach to English with focus on developing reading and listening skills, but also an inclusion of activities designed to develop the student's speaking and writing abilities. The thematically organized selections of reading material selected from various sources, including the internet, provides a balanced point of view while helping to nurture a range of analytical and critical thinking skills.

Also included are effective vocabulary skills exercises that are designed to increase students' vocabulary while helping them to cope with new words.

### [Course objectives]

1. Students will, under guidance, select suitable Internet materials for classroom communication.
2. Students will develop some appreciation of the structure of English writing and develop techniques for effective reading.
3. Students will learn how to develop and channel reading material into discussion work.
4. Students will develop some understanding of types of vocabulary, particularly lexical chunks.

### [Course schedule]

A variety of topics will be covered over a two to three week period.

### [Assessment]

Assessment will be continuous and is based on the following criteria:  
Class participation  
Homework and assignments

### [Textbooks]

To be decided during the first week of classes

## Academic Writing I

山田幹郎 久野幸子 樗木勇作 若山真幸

### 【授業の概要】

この授業では、英文学科の必修科目である「卒業論文」作成に向けて、レポートや論文執筆のための基本的知識を体得した上で、実際に演習を行い添削指導を受け、同時に文献探索方法を含めた、研究手段・方法の基礎を固めることを目的とする。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

- 1 大学でのレポート・論文とは
- 2 テキスト批評とは何か
- 3 なぜ本（テキスト）を読むのか
- 4 テキスト批評の仕方
- 5 論文とは何か
- 6 レポートとは何か
- 7 論文の構成部分とその順序
- 8 テーマ・問題の設定、本文の組み立て方
- 9 注、引用、文献表のつけかた
- 10 インターネットでの文献検索方法
- 11 レポート提出演習・添削・返却
- 12 論文提出演習・添削・返却

### 【評価方法】

出席・授業態度・授業内演習の態度・課題などを総合的に判断して評価する

### 【テキスト】

レポート・論文の書き方入門（河野哲也 慶應義塾大学出版会 2002）

### 【参考文献・資料】

授業で説明する

## Academic Writing II

DOIRON, Heather

### 【Course description】

This course will concentrate on developing writing skills aimed at non-personal and academic writing. Additionally, writing will be taught as process with emphasis on creating a body of writing, developing, structuring, and editing. It will also include modules on time management for writing assignments.

### 【Course objectives】

To encourage students to develop both practical and proper English writing skills.

### 【Course schedule】

Topics that will be considered include:

- Idea creation
- Developing topics
- Focusing topics
- Understanding the writing process
- Outlining
- Peer review
- Supplying supporting details
- Brainstorming
- Developing language skills through writing

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, class participation, homework, and various writing exercises and vocabulary quizzes throughout the course.

### 【Textbooks】

None

## Academic Writing II

DYCUS, David C.

### 【Course description】

In this course students will work on producing texts with the style and logical organization associated with academic writing. Participants in this class will compare and contrast short academic texts with other types of texts as a way of seeing the differences in styles. These texts will also provide topics for the students to discuss and write about. Students will also study the common generic structure and organizational patterns of academic essays and reports. Summarizing skills and the proper use of citations, quotations, and paraphrases will also be addressed. Students will be expected to demonstrate mastery of these various points in academic essays and reports of their own on both assigned and self-selected topics.

### 【Course objectives】

To improve students' ability to produce texts that meet commonly accepted standards for logical organization and clarity in texts in the academic genre.

### 【Course schedule】

The extent and rate of information covered in the course will depend in part on the ability of the students. The following are examples of what will definitely be covered in the course.

1. Differences and similarities between academic writing and other types of writing.
2. The generic structure of academic English essays and reports and related grammatical aspects and vocabulary.
3. Common text types in academic writing, especially comparison-contrast, cause-effect, analysis, and definition.
4. Useful strategies for writing introductions and conclusions in academic style.
5. Logical development and presentation of ones arguments, as well as producing effective counter arguments.
6. Summarizing and paraphrasing other people's arguments, ideas, and research.

### 【Assessment】

Assessment will be ongoing. One third of the grade will be based on attendance and active participation in class, one third will be based on short homework assignments and quizzes, and one third will be based on longer pieces of writing such as student essays and reports.

### 【Textbooks】

To be announced

## Academic Writing II

担当者未定

詳細は、後日掲示にて連絡します。

## British Culture

EASLEY, Keith

### 【Course description】

英語によるイギリス文化理解のための特別講座  
イギリスの文化全般について、特にイースト・アングリア大学で行われる春期研修へとつながる内容を含みながら、英語聴解・発表力を養成すべく、指導するものである。併せて日本文化を相対化する視点・獲得も意図する。

The course will last for approximately twelve weeks, one period a week. Many of the following subject areas will be considered :

Britain's Contribution to World Culture  
Money and Work  
Language & History  
Education  
Food & Drink  
Traditions, Manners, and Attitudes  
Art, Film and Music  
Britain's Class System.  
Britain & Japan  
Everyday Living

These subjects are not exclusive of one another, & their interconnectedness will be emphasised. Throughout the course, the aim will be to show Britain's place in the World, historically & now. Class size may be limited and there may be a test in the first lesson.

### 【Course objectives】

1. To increase students' cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

### 【Course schedule】

The course will be taught entirely in English. Each week there will be a lecture on one of the topics.

### 【Assessment】

Assessment will be continual, supplemented by a test at the end of the semester, & an individual written project to be completed by each student during the semester.

### 【Textbooks】

None

## Irish Culture

CULLEN, Brian

### 【Course description】

The course will be centered around Irish history, moving from early history up to the formation of the Irish Republic. The culture, traditions and literature of Ireland will also be presented through short readings, videos, puzzles and activities. Most of the factual information will be presented in a source book. Depending on time, some of this material will not be covered in class. Students are encouraged to read further into their areas of interest in the source book or in the other reference materials which are suggested.

The literature of Ireland shall also be introduced through short pieces from famous Irish writers. There will be a mixture of new and old, including Yeats, Patrick Kavanagh, Oscar Wilde, Roddy Doyle and George Bernard Shaw. The songs of Ireland will also be well-represented in the course, linking into the various topics as much as possible.

### 【Course objectives】

This course will increase students' understanding of Irish culture.

### 【Course schedule】

Method: Students will be required to participate actively in class discussions and activities.

### 【Assessment】

Assessment: Grades will be based on participation, homework and a test.

### 【Textbooks】

Text book : An original text compiled by the teacher will be made available before the start of the course.

## American Culture

DYCUS, David C.

### 【Course description】

This course will be a general introduction to the culture, customs, common practices, and common values of the people of the United States of America, and the historical background behind them. The goal of the course is to familiarize class participants with what are commonly termed "mainstream" values and practices (essentially those of the dominant white middle-class) as well as those of the major minority groups which form an increasingly large percentage of the population of the country. A solid understanding of any culture requires a general understanding of major social institutions such as religion, education, and the family, so these topics will also be covered.

### 【Course objectives】

The objective of this course is to provide students with a wide ranging introduction to the general aspects of American culture through the general framework of the values approach to cultural analysis.

### 【Course schedule】

The list below presents the topics which will be discussed in the class but not necessarily the order in which they will be presented.

1. Common American values and attitudes and how they shape the American world view
2. Living history: an overview of certain major events and figures in American history up to the present and which influence modern American culture.
3. Religion and its place in modern American culture
4. Immigration in the past and ethnic relations today
5. The American Indians, past and present
6. The influence of "the West" on American thought
7. Marriage and family relations
8. Schooling
9. Holidays and ceremonial events
10. Communication preferences and style
11. Gender relations
12. Pop/youth culture and its roots

Depending on student interest, other topics may be addressed during the course of the semester.

### 【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation (25%), 2) quizzes (25%), and a final test or presentation (to be determined by the instructor) (50%).

### 【Textbooks】

To be announced

## 比較文化

松本青也

### 【授業の概要】

何気なく喋ったり、行動したりしているつもりでも、私たちは常に自国文化の影響を受けています。「文化」を、集団が共有する価値観や規範の体系としてとらえ、日本人とアメリカ人の考え方や生き方を豊富な事例をもとに比較対照しながら、それぞれの文化の特質を浮き彫りにします。アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

### 【授業の目標】

日米の文化を比較することで、それぞれの文化の特質を認識し、異文化理解を深め、普遍的価値とは何かを考察する。

### 【授業計画】

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則 (CTR)
10. システムとしての CTR
11. 研究対象としての CTR
12. 日本語の衝突と CTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

### 【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

日米文化の特質 (松本青也 研究社)

## 英語学概論

樗木勇作

### 【授業の概要】

英語学の全体像、研究領域の概要、研究課題などについて論じる。英語研究の現状をなるべく平明に紹介し、英語研究への動機を与え基盤を築くことを目標とする。また英語学の論文やレポートの書き方などにも言及する。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

説明 → 練習問題 → 解説

1. 英語学とは 世界の中の英語
2. 統語論 (1) 文の組み立て
3. 統語論 (2) 文法の操作
4. 形態論
5. 音韻論
6. 意味論
7. 語用論
8. 英語史
9. 文体論・コミュニケーション
10. 人間・文化・社会

### 【評価方法】

1. レポート・試験 (50%)
  2. 出席 (30%)
  3. 授業への積極的参加 (20%)
- 問題演習に取り組む姿勢、説明を聞く態度など。  
教科書は各自で所有すること。辞書を必ず持参すること。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

未定

## Phonology & Phonetics

樗木勇作

### 【授業の概要】

英語音韻論・音声学の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、音韻論・音声学の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

1. Spelling and Sounds in English
2. Phonemes
3. The Consonants of English
4. The Vowels of English
5. Phonemes and allophones
6. The Systematicity of Phonology
7. Environment and Contrast
8. Phonological rules
9. Vowel Nasalization in English
10. Vowel Lengthening in English
11. Aspiration in English
12. Flapping in American English
13. English Phonotactics
14. Syllable Stress in English

### 【評価方法】

未定 (最初の授業等で説明する)

### 【テキスト】

未定 (最初の授業等で説明する)

### 【参考文献・資料】

未定 (最初の授業等で説明する)

## 英米文学概論

山田幹郎

### 【授業の概要】

英米の文学作品を分析するためには、文学技法の基礎を学習することが不可欠である。英米文学に対応鑑賞する基本的な態度と知識を論じていく。詩歌、劇作、小説の性質、諸要素が、実際の作品の中でどのように表現されているのかを分析、研究する。また文学の論文やレポートの書き方などにも言及する。

### 【授業の目標】

演劇の歴史的な分析力を涵養すること。

### 【授業計画】

*Everyman* から *My Fair Lady* まで英米の代表的なドラマを解説するテキストにより、いくつかのドラマの分析法を具体的に修得していく。

### 【評価方法】

レポート、小テスト、発表、出席による総合評価

### 【テキスト】

英米演劇入門 (貴志哲雄 研究社)

### 【参考文献・資料】

随時紹介します。

## Phonology & Phonetics

若山真幸

### 【授業の概要】

英語音韻論・音声学の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、音韻論・音声学の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

### 【授業の目標】

英語で使用される音声を学び、日本語との違いを理解する音やリズムのしくみを知り、英語の発音・リスニング能力向上につなげる

### 【授業計画】

- ・ Sounds and Symbols
- ・ Vowels and Consonants
- ・ Syllable Structure
- ・ Phonotactics & phonological rules
- ・ Some phonological differences between American and British English
- ・ Intonation patterns
- ・ Rhythms and Assimilation

これらのテーマに関する文献や資料、あるいは音楽CDを使って講義を進める。

### 【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

### 【テキスト】

未定 (最初の授業等で説明する)

### 【参考文献・資料】

未定 (最初の授業等で説明する)

## Morphology & Syntax

樗木勇作

### 【授業の概要】

英語形態論・統語論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、形態論・統語論の知識を、実際の英語運用に活かせるようさまざまなトレーニングを行う。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

単語がどのように作られ、その単語が組み合わさってどのように「文」になるのかを考察する。学問的には、morphologyは形態論、syntaxは統語論と呼ばれるが、そのような難しい用語は気にせず、身近な日本語の例と比較しながら、語形成や文形成をどのように処理しているか一緒に見つけていきたい。

- ・ことばを構成する要素にはどんなものがあるか?
- ・単語の構成—形態素
- ・様々な語形成
- ・語形成に関する様々な制約
- ・文の形成
- ・文の基本語順とは?
- ・英語と日本語の基本語順の違い?
- ・文の曖昧性はどのように生じるのか?
- ・基本語順とは違う語順の文—疑問文や受動文
- ・その他様々な構文を考察する

### 【評価方法】

レポート+平常点

### 【テキスト】

適時プリントを配付する

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## Morphology & Syntax

若山真幸

### 【授業の概要】

英語形態論・統語論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、形態論・統語論の知識を、実際の英語運用に活かせるようさまざまなトレーニングを行う。

### 【授業の目標】

語・句・文の成り立ちを学習することによって、英語の理解を一層深める。

### 【授業計画】

単語がどのように作られ、その単語が組み合わさって、どのように文になるのかを考察する。学問的には、morphologyは形態論、syntaxは統語論と呼ばれるが、そのような難しい用語は気にせず、身近な日本語の例と比較しながら、我々言語話者が語・文形成をどのように処理しているか一緒に見つけていきたい。

- ・ことばを構成する要素にはどんなものがあるか?
- ・単語の構成—形態素
- ・様々な語形成
- ・語形成に関する様々な制約
- ・文の形成
- ・文の基本語順とは?
- ・英語と日本語の基本語順の違い?
- ・文の曖昧性はどのように生じるのか?
- ・基本語順とは違う語順の文—疑問文や受動文
- ・その他様々な構文を考察する

### 【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

### 【テキスト】

適時プリントを配付する

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## Semantics & Pragmatics

樗木勇作

### 【授業の概要】

英語意味論・語用論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、意味論・語用論の知識を、実際の英語運用に活かせるようさまざまなトレーニングを行う。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

1. Compositional and Noncompositional meaning
2. Ambiguous words
3. Ambiguous sentences
4. Homophony and polysemy
5. Evaluative and Emotive meaning
6. Idioms and Pronouns
7. Identifying the Message
8. Communication Breakdown
9. Literal/Nonliteral Use
10. Indirectness
11. Performative Verbs versus Perlocutionary Verbs
12. Pronoun/Antecedent Agreement: English

### 【評価方法】

未定（最初の授業等で説明する）

### 【テキスト】

未定（最初の授業等で説明する）

### 【参考文献・資料】

未定（最初の授業等で説明する）

## Semantics & Pragmatics

若山真幸

### 【授業の概要】

英語意味論・語用論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、意味論・語用論の知識を、実際の英語運用に活かせるようさまざまなトレーニングを行う。

### 【授業の目標】

言葉の意味や情報構造の概略を学び、英語及び言語コミュニケーションの一層の理解を深める

### 【授業計画】

意味論に関して

- ・Homophony and polysemy（同音異義と多義）
- ・Lexical Ambiguity vs Structural ambiguity（あいまい性）
- ・Metaphor（比喩）
- ・Collocation and grammaticality（コロケーション）

語用論に関して

- ・Information Structures（情報構造）
- ・politeness（丁寧表現）

### 【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

### 【テキスト】

未定（最初の授業等で説明する）

### 【参考文献・資料】

未定（最初の授業等で説明する）

## The Best British/American series

森本素世子

### 【授業の概要】

短編小説、エッセーをよむ。

日本ではあまり馴染みのないインドの英語文学にはどのようなものがあるのかを知ると共に、政治経済等の関わりをも考察しながら現在のインド世界を読む。

### 【授業の目標】

21世紀、世界経済の中心の1つとなるだろうといわれているインド世界を文学からながめながら、インドという大国がもつ良さや問題点をとらえる。

### 【授業計画】

最初にインド文学の流れを概観し、第3週目以降に短編小説、エッセーを各2編読む。

### 【評価方法】

学期末のテスト、レポート

### 【テキスト】

プリントを配布

## 翻訳基礎 I (小説)

森本素世子

### 【授業の概要】

翻訳のためには、まずテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から総合的に作品を理解する。文化的背景を考慮しながら作品の意図を読みとり、翻訳の基礎を学習する。

### 【授業の目標】

ただ英文の作品を読むというだけでなくそれを日本語にすることの難しさを楽しみながらも再認識する。

### 【授業計画】

今回とりあげるのは、インドの英語文学である。インド20世紀を代表する作家の短編をよむ。精読を中心としながら、最終的にはできるだけ熟れた日本語の短編作品ができるようにする。

### 【評価方法】

学期末の試験、提出物。

### 【テキスト】

プリントを配布。

## 翻訳基礎 I (小説)

久野幸子

### 【授業の概要】

翻訳のためには、まずテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から総合的に作品を理解する。19世紀、20世紀の英米の短編小説をとりあげ、作品の意図を読み取り、翻訳の基礎を学習する。

### 【授業の目標】

精読に際し、下記の5項目をも考察し、翻訳に必要な一般的知識を広く学ぶ。

- (1) 小説と女性作家について
- (2) 小説と女性読者について
- (3) 社会における女性の位置
- (4) ジャンルとしての小説
- (5) 時代を解くキーワード

### 【授業計画】

19世紀イギリスの女性作家の短編小説を素材に、翻訳の基礎を学ぶ。

扱う作家はメアリー・シェリー、ジェイン・オースティン、シャーロット・ブロンテなどを考えている。

### 【評価方法】

平常点(出席、受講・発表態度など)と期末テスト、レポートで総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に指示するほか、プリント配布。

## 翻訳基礎 I (小説)

中島賢二

### 【授業の概要】

翻訳のためには、まずテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から総合的に作品を理解する。19世紀、20世紀の英米の短編小説をとりあげ、作品の意図を読み取り、翻訳の基礎を学習する。

### 【授業の目標】

- (1) 英文を正確に読みとる力をつける。
- (2) 日本語に対する感性を高める。

### 【授業計画】

イギリスのミステリー・推理小説の元祖、ウィルキー・コリンズの短編「家族の秘密」を、翻訳出版されている日本語訳と対照しながら、13週で読み通します。

翻訳文を批判的な眼で見、自分なら、ここはこういう風に訳したほうが良い、と考えながら原文を読んでください。

### 【評価方法】

期末テスト、簡単なレポート(1400字)

### 【テキスト】

配布プリント

夢の女・恐怖のベッド(コリンズ作 岩波文庫)

### 【参考文献・資料】

翻訳夜話(村上春樹、柴田元幸著 文春新書)

## 翻訳基礎 II (詩・演劇)

山田幹郎

### 【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

### 【授業の目標】

英詩の読解力を涵養すること。

### 【授業計画】

イギリスの珠玉の詩編の形式と内容を具体的に丹念に分析・解釈し、翻訳していく。

### 【評価方法】

レポート、ショートテスト、朗読、出席回数によります。

### 【テキスト】

英詩鑑賞入門 (新井明 研究社出版)

### 【参考文献・資料】

随時紹介します。

## 翻訳基礎 II (詩・演劇)

山田久美子

### 【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。劇は本来上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

### 【授業の目標】

詩の形式を理解し、朗読することを意識しながら、翻訳する。  
また、演劇を深く理解し、登場人物の気持ちを解釈しながら、翻訳する。

### 【授業計画】

1. いくつかの英米の詩を読み、解釈しながら、翻訳の訓練をしていく。  
また、詩の朗読のテープなどの鑑賞も行う。
2. 演劇とは、どういうものかという基礎的なことを学び、作品を読みながら、舞台上演を意識した日本語にしていく。

### 【評価方法】

出席や受講態度などの平常点とレポート、定期試験などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

*Old Possum's Book of Practical Cats* (T.S. Eliot著 古川弘之編注 音羽書房鶴見書店)

## 翻訳基礎 II (詩・演劇)

柳原佳枝

### 【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

### 【授業の目標】

英米の詩を具体的に分析・解釈し、ふさわしい翻訳を試みる。

### 【授業計画】

本年度この学期は英米の詩をとり上げ研究する。

1. 「詩」とは何か。  
詩形や詩を読むときの留意点などについて検討する。  
(3・4週間)
2. W. WordsworthやR. Frostなどの作品をとり上げ、具体的に作品の理解とふさわしい翻訳を目指す。(10週間前後)

### 【評価方法】

学期末の試験、および平常の授業における出席・活動を重視して総合的に評価する。

### 【テキスト】

*More Poetry Please!* (村田辰夫・Norman Angus編注 南雲堂)

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜配付又は指示する。

## 翻訳基礎 II (詩・演劇)

間瀬欣英

### 【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

### 【授業の目標】

英詩の詩形の基本的理解と比較的易しい英詩の鑑賞を通して、英文学の理解と英語力の一層の向上をはかる。

### 【授業計画】

18世紀に小説が登場するまで、英文学は詩が主流であった。したがって、英詩を抜きにして英文学を語ることはできない。また、英国人は幼い頃からマザーグースをはじめとする詩を口ずさみながら母国語を身につけてきた。この意味で、英詩の学習は英語習得の原点と言えるかもしれない。このような点をふまえ、どう英詩を翻訳するかという観点で学習をすすめていく。

1. Characteristics of English Poetry (英詩の特質): Rhyme (脚韻), Alliteration (頭韻), Meter (歩格), Stanza (節)
2. Four types of English Poems (詩型四種): Iambus (弱強調), Trochee (強弱調), Anapaest (弱弱強調), Dactyl (強弱弱調)
3. Poems of Nature (自然の詩)
4. Poems of The Season (季節の詩)
5. Poems of Flowers (花の詩)
6. Poems of Birds and Animals (鳥と動物の詩)
7. Poems of Night (夜の詩)
8. Poems of Love (愛の詩)
9. Christmas Carols (クリスマス キャロル)
10. Poems of Life (人生の詩)

### 【評価方法】

定期試験、平常の学習状況、小テスト、出席状況等を勘案して総合的に評価する。

### 【テキスト】

*A Shorter Course in Easy English Poems* (Peter Milward編 南雲堂)

## 翻訳演習 I (小説)

久野幸子

### 【授業の概要】

翻訳基礎(小説)で学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くにイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。

### 【授業の目標】

作品を精読したあとで、翻訳を試みるが、下記の5項目をも考慮の対象とする。

- (1) 小説というジャンル
- (2) 小説と作家
- (3) 小説と読者
- (4) 小説と言語
- (5) 小説の技法

### 【授業計画】

19世紀イギリスの女性作家の中編及び長編小説を素材に、それぞれの作品を精読し、十分理解したうえで、重要と思われる部分の翻訳を試みる。扱う作家としては、ジェイン・オースティンとシャーロット・ブロンテなどを考えている。

### 【評価方法】

平常点(出席、受講・発表態度など)と期末テスト、レポートで総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 翻訳演習 I (小説)

中島賢二

### 【授業の概要】

翻訳基礎(小説)で学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くにイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。

### 【授業の目標】

- (1) 英文を正確に読みとる能力を高める。
- (2) 日本語を書く能力を高める。

### 【授業計画】

ウィルキー・コリンズの短編「夢の女」を、翻訳出版されている日本語訳と対照しながら13週で読み通します。翻訳文を批判的に見て、問題点を探します。

隔週ごとに簡単な翻訳の課題を出します。

### 【評価方法】

期末テストと課題

### 【テキスト】

配布プリント

夢の女・恐怖のベッド(コリンズ作 岩波文庫)

### 【参考文献・資料】

翻訳の方法(東京大学出版会)

## 翻訳演習 I (小説)

森本素世子

### 【授業の概要】

翻訳基礎(小説)で学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、広く英米文学を精読し、翻訳を試みる。

### 【授業の目標】

小説を通して、その文学作品の中にかかれた社会を読みとる。

### 【授業計画】

20世紀インド文学を代表する作家、R.K.Narayan他の短編を読む。より熟れた日本語で、作品を訳す訓練をし、一人一人発表してもらう。

### 【評価方法】

学期末テストと提出物、発表による評価

### 【テキスト】

プリントを配布。

## 翻訳演習 II (詩・演劇)

山田幹郎

### 【授業の概要】

翻訳基礎(詩・演劇)で学んだ基礎知識をもとにして、英米の詩・演劇を翻訳する。詩については、その絵画的性、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究する。演劇は、原作または翻訳作を実際に演じることを試みる。

### 【授業の目標】

シェイクスピア喜劇の読解力を涵養すること。

### 【授業計画】

シェイクスピアの代表的な喜劇1編の主な箇所を精読し、翻訳する。

### 【評価方法】

レポート、ショートテスト、朗読、翻訳による総合評価によります。

### 【テキスト】

*Twelfth Night* (安西徹雄 編注 大修館)

### 【参考文献・資料】

随時紹介します。

## 翻訳演習 II (詩・演劇)

山田久美子

### 【授業の概要】

翻訳基礎(詩・演劇)で学んだ基礎知識をもとにして、英米の詩・演劇を翻訳する。詩については、その絵画的性、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究する。演劇は、原作または翻訳作を実際に演じるを試みる。

### 【授業の目標】

詩の解釈をしながら、朗読することを目標に、美しい日本語で表現する。演劇は、登場人物の性格や気持ちを理解し、演じることを意識し、翻訳する。

### 【授業計画】

1. 前期に引き続き、英米の詩を翻訳する。  
朗読して、日本語として自然であるかどうかを確認する。
2. 演劇が総合芸術であることを意識し、演劇作品を翻訳する。  
英語と日本語の両方で、リーディングをしたり演じたりする。

### 【評価方法】

出席や受講態度などの平常点とレポート、定期試験などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリント

## 翻訳演習 II (詩・演劇)

間瀬欣英

### 【授業の概要】

翻訳基礎(詩・演劇)で学んだ基礎知識をもとにして、英米の詩・演劇を翻訳する。詩については、その絵画的性、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究する。演劇は、原作または翻訳作を実際に演じるを試みる。

### 【授業の目標】

劇文学の理解と、英語で書かれた優れた戯曲の鑑賞。英国劇文学の古典、シェイクスピアの作品にふれて英語と英文学の理解をさらに深める。

### 【授業計画】

劇の翻訳という観点から、シェイクスピアの詩劇 *Julius Caesar* をとり上げる。これは共和制から帝政への過渡期の古代ローマの史実に依拠したシェイクスピアの最初のローマ史劇である。比較的短い劇であるが、シェイクスピア文学の特質が多彩にもりこまれている。わかり易く、シェイクスピア入門の書として適切なものとされている。原作に直接とりくむわけであるから真剣な取り組み姿勢が求められるが、得るところも非常に大きいと思う。

1. The plot to assassinate Caesar (シーザー暗殺の陰謀)
2. Brutus' anguish and his wife's love (ブルータスの苦悩と妻ポーシャの愛)
3. Brutus' address to Roman citizens (ローマ市民に対するブルータスの演説)
4. Antonius' address and its exquisite rhetoric (アントニーの演説とその絶妙のレトリック)
5. The outbreak and end of the war (戦いの勃発と終焉)
6. Brutus' humanity (ブルータスの人間的評価)

### 【評価方法】

定期試験、平常の学習状況、小テスト、出席状況等を勘案して総合的に評価する。

### 【テキスト】

*Julius Caesar* (by Shakespeare, 大塚高信 解説注釈、研究社)

## 社会言語学 I

DONAHUE, Ray T.

### 【Course description】

An entrance into the interface of language, communication and community. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

### 【Course objectives】

- 1 to learn basic concepts and principles of sociolinguistics and intercultural communication;
- 2 to increase perceptual skill and cultural awareness
- 3 to learn basic discourse analysis
- 4 to improve English comprehension skills through an academic content study

### 【Course schedule】

Tentatively, the course schedule follows but the instructor reserves the right to make changes where appropriate.

- 1 Course Introduction
- 2
- 3 Language, Society, and Ethnicity
- 4
- 5 Concepts of Culture
- 6
- 7 Mind, Mass Media and Culture
- 8
- 9 Prisms of Perception
- 10
- 11 Cross-Cultural Applications
- 12

### 【Assessment】

Class participation and assignments 25%; tests 75%

### 【Textbooks】

To be announced in class.

## 社会言語学 II

DONAHUE, Ray T.

### 【Course description】

A further entrance into the interface of language, communication and community. This course is a continuation of 社会言語学 I. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

### 【Course objectives】

- 1 to learn basic concepts and principles of sociolinguistics and intercultural communication;
- 2 to increase perceptual skill and cultural awareness
- 3 to learn basic discourse analysis
- 4 to improve English comprehension skills through an academic content study

### 【Course schedule】

Tentatively, the course schedule follows but the instructor reserves the right to make changes where appropriate.

- 1 Introduction
- 2
- 3 Multicultural Identities
- 4
- 5 Linguistic Profiling
- 6
- 7 Ethnicity, Power, and Society
- 8
- 9 Bilingual Dilemmas
- 10
- 11 Creativity and Culture
- 12

### 【Assessment】

Class participation and assignments 25%; tests 75%

### 【Textbooks】

To be announced in class.

## History of British & American Literature I・II

EASLEY, Keith

### 【Course description】

19世紀までのイギリス文学の概略を学習する。どんな時代背景のなかで文学が育っていったのかを理解し、さらに文学の流れを読み取る。

We will study British literature historically from its beginnings through the mid-Victorian Period. We will focus on the literature itself, from Beowulf through Dickens, reading poetry, fiction, and plays.

### 【Course objectives】

1. To increase students' understanding of British literature within the context of its history.
2. To develop students' language skills.

### 【Course schedule】

(FIRST SEMESTER) I

From the Anglo-Saxon Period through the 16th century, focusing on Beowulf, Chaucer, and Shakespeare.

(SECOND SEMESTER) II

From the Metaphysicals through the mid-Victorian Period, focusing on Swift, Blake, Wordsworth, Keats, and Dickens.

### 【Assessment】

Each semester will include several tests, course-work and a final examination. If it is necessary to limit class size, there may be a test in the first lesson.

### 【Textbooks】

*Past Into Present* (Gower, Longman)

## 映像メディア英語 I

若山真幸

### 【授業の概要】

本授業では、音声・映像メディアを通して、「実際の英語」に触れる機会を増やして英語のリスニング力や活きた表現を習得する。

### 【授業の目標】

- (1) 英語学の知識（音声・音韻・形態・談話）を使って、英語のリスニング力を高めるコツを理解する。
- (2) 映像メディアを使って、これまで学習した英語表現・文法事項を再確認したり、基本的な文法項目を再確認する。
- (3) テレビ放送やインターネットなどの身近な「メディア」の英語学習に有効な利用方法を考え、グループごとのプレゼンテーションを行う。

### 【授業計画】

- (1) ビデオ・音楽教材を使った英語のリスニング・ディクテーション
- (2) 映像教材の中に隠された英語やことばのしくみを見つけだす
- (3) メディア教材などの収集の方法・実演
- (4) プレゼンテーション

### 【評価方法】

出席状況、レポート等の課題、プレゼンテーションなどで評価する

### 【テキスト】

適時メディアマテリアルを提示したり、補助のプリントを配付する

### 【参考文献・資料】

何かあれば授業中に随時紹介する

## History of British & American Literature I・II

進藤鈴子

### 【授業の概要】

20世紀までのアメリカ文学の概略を学習する。イギリス、フランスの植民地から、現代のアメリカ合衆国に発展した新しい国の軌跡を追い、その政治、文化社会からどのように文学作品が生まれてきたのかを理解する。

### 【授業の目標】

アメリカ文学が、その社会や市民の精神をどのように反映し、その形成にどのように関わってきたのかを総合的に理解すること。

### 【授業計画】

テキストを用いますので必ずテキストを用意して下さい。

前期は下記の内容について講義・説明します。

植民地時代の文学

ロマンティシズム時代の文学

後期は下記の内容について講義・説明します。

リアリズム時代の文学

第二次世界大戦後

### 【評価方法】

レポートまたはテストの結果に各自の出席状況を加味して評価します。

### 【テキスト】

アメリカ文学史入門（大橋吉之輔著 研究社、2000年）

## 映像メディア英語 II

若山真幸

### 【授業の概要】

- (1) 英語学の知識（音声・音韻・形態・談話）を使って、英語のリスニング力を高める。
- (2) 映像メディアの中から、これまで学習した英語表現・文法事項を再確認したり、英語学の新たな知識を習得する。
- (3) 自分たちで「マテリアル」を収集・作成したりして、最終的には一つの作品としてプレゼンテーションする能力を磨く。

### 【授業の目標】

- (1) 英語力の知識（音声・音韻・形態・談話）を使って、英語のリスニング力を高めるコツを理解する。
- (2) 映像メディアを使って、これまで学習した英語表現・文法事項を再確認したり、基本的な文法項目を再確認する。
- (3) テレビ放送やインターネットなどの身近な「メディア」の英語学習に有効な利用方法を考え、グループごとのプレゼンテーションを行う。

### 【授業計画】

- (1) ビデオ・音楽教材を使った英語のリスニング・ディクテーション
- (2) 映像教材の中に隠された英語やことばのしくみを見つけだす
- (3) コンピュータを使ったビデオ・音楽メディア作成
- (4) プレゼンテーション

### 【評価方法】

出席状況、レポート等の課題、プレゼンテーションなどで評価する

### 【テキスト】

適時メディアマテリアルを提示したり、補助のプリントを配付する

### 【参考文献・資料】

何かあれば  
授業中に随時紹介する

## 映画で読むイギリス文化 I

EASLEY, Keith

### 【Course description】

British Culture in Films

This course uses films to consider aspects of British culture and to deepen students' understanding of the UK. Since it is partly literature-related, it also aims to explore the links between film and literature, and to encourage students to develop their interest in reading British literature.

### 【Course objectives】

1. To provide cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

### 【Course schedule】

There will be four blocks or sections, each centred on the showing of at least parts of a particular film. Key themes will be discussed at the beginning and end of each section, along with explanation and classwork on the cultural aspects of the films. There will be regular reviews for revision purposes and to bring out cultural links between the sections.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and a final examination.

### 【Textbooks】

No textbook.

The film/video list will be announced at the beginning of the course.

## 映画で読むアメリカ文化 I

中村栄造

### 【授業の概要】

この授業の目的は、主に映画、その他の映像メディアを通じてアメリカの文化や歴史に対する認識を深めることにある。特に文学作品が原作となっている映画等を鑑賞し、その歴史的、文化的意義を考察する。

### 【授業の目標】

表象芸術の一形態である映画が、文化理解のうえで非常に有効なツールであることを理解する。

### 【授業計画】

1. 『クルーシブル』、『緋文字』に見るビューリタン文化の陥穽
2. 『リップ・ヴァン・ウインクル』、『スリーピー・ホローの伝説』とフランクリン的価値
3. 『モヒカン族の最後』とアメリカン・ヒーロー
4. 『ウォルデン』と超越主義
5. 『赤死病の仮面』と時間の問題
6. 『白鯨』とロマンティズムの限界

### 【評価方法】

定期試験およびレポート

### 【テキスト】

プリント配布

## 映画で読むイギリス文化 II

久野幸子

### 【授業の概要】

さまざまな映画を用いて、イギリス文化の豊かで多面的な様相を知り、現代イギリス社会の理解を深めることを目指す。また、名作と呼ばれる映画には、優れた文学作品をもとに作られたものも多いので、映画と原作の文学作品との関係も考察したいと考えている。

### 【授業の目標】

下記の3項目を中心に現代イギリス人社会について学んだあと、

- (1) 連合王国としてのイギリス
  - (2) イギリス社会 (階層・階級、新旧価値観の対立)
  - (3) イギリスと大英帝国 (移民とポスト帝国主義)
- (文芸) 映画を鑑賞し、主題を考え、イギリス文化の諸相を探す。

### 【授業計画】

扱う映画の概略を学び、次に映画を鑑賞し、主要テーマはなにか、映像からどのようなイギリス文化を読み取ることができるのか、などについて、クラス討議で内容理解を深めたのち、各自の興味に応じてテーマを選び、レポートにまとめてもらう予定である。

### 【評価方法】

平常点 (出欠、発表、授業中の発言など) とレポートで、総合的に判断する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中指示するほか、プリント配布。

## 映画で読むアメリカ文化 II

中村栄造

### 【授業の概要】

この授業の目的は、主に映画、その他の映像メディアを通じてアメリカの文化や歴史に対する認識を深めることにある。特に文学作品が原作となっている映画等を鑑賞し、その歴史的、文化的意義を考察する。

### 【授業の目標】

表象芸術の一形態である映画が、文化理解のうえで非常に有効なツールであることを理解する。

### 【授業計画】

1. 『トム・ソーヤの冒険』と『ハックルベリー・フィンの冒険』にみる「アメリカ社会の成長」の寓話
2. 『デージー・ミラー』にみるアメリカとヨーロッパの対比
3. 『華麗なるギャッビー』とアメリカの夢と挫折
4. 『怒りの葡萄』とプロレタリアートの悲劇
5. 『老人と海』にみる男のロマン (とその虚構性) について
6. ジェンダーの視点から見る『エイリアン』

### 【評価方法】

定期試験、レポート

### 【テキスト】

プリント配布

## Advanced Literature I (British)

CURRAN, Beverley

### 【授業の概要】

19、20世紀のイギリス文学を研究する。イギリス文学の伝統と新しい文学がどのように融合していったのか、19、20世紀の作品を通して探っていく。

### 【授業の目標】

This goal of this course is to watch or read together and talk about contemporary literature and film in Britain, and, in the process, improve listening and the expression of ideas in spoken and written English

### 【授業計画】

1. Introduction
- 2-4. Hanif Kureishi: *My Beautiful Launderette*
- 5-7. Donald Cammell: *Performance*
- 8-9. Poetry as Performance: Linton Kwesi Johnson
- 10-11. Irvine Welsh: *Trainspotting*
- 12-13. Dance Performance: *Billy Elliott*

### 【評価方法】

Assessment will be based on effort, willingness to discuss ideas and express them in written assignments, and attendance.

### 【テキスト】

no text

### 【参考文献・資料】

TBA

## English Linguistics I

中野弘三

### 【授業の概要】

英語学の特定の研究課題に焦点をあて、掘り下げて幅広い視点から考察する。集められたデータをもとに、整合性のある理論構築へ向けて探求する手法を学ぶ。

### 【授業の目標】

動詞の意味論をテーマとして、英語動詞の意味分析法の理解を目指す。伝統的な動詞の意味分析から、新しい言語理論に基づく最近の動詞意味論に至るまで、文の中心要素である動詞の意味の分析方法を紹介し、動詞の意味分析の有用性や問題点を知ってもらう。

### 【授業計画】

- 1) 英語動詞の分類 (1)
- 2) 英語動詞の分類 (2)
- 3) 英語動詞の分類 (3)
- 4) 動詞の種類と副詞表現 (1)
- 5) 動詞の種類と副詞表現 (2)
- 6) 動詞の種類と完了形 (1)
- 7) 動詞の種類と完了形 (2)
- 8) 動詞の種類と進行形 (1)
- 9) 動詞の種類と進行形 (2)
- 10) 動詞と項構造 (argument structure) (1)
- 11) 動詞と項構造 (argument structure) (2)
- 12) 項の意味役割 (1)
- 13) 項の意味役割 (2)
- 14) 動詞の意味と統語構造
- 15) 期末試験

講義内容をよりよく理解してもらうために、時折練習問題を用意し、宿題とする。

### 【評価方法】

主として期末試験により評価する。

### 【テキスト】

プリントを使用する。

### 【参考文献・資料】

*Meaning and the English Verb* (2nd Edition) (1987) (G.N. Leech ひつじ書房)  
*The English Verb* (2nd Edition) (1987) (F.R. Palmer Longman)  
語の意味と意味役割 (2001) (米山三明・加賀信宏著 研究社)

## Advanced Literature II (American)

CURRAN, Beverley

### 【授業の概要】

20世紀アメリカ文学を研究する。文化・文学の後進国であったアメリカが、どのような作家と作品によって世界に認められる文学を作り上げていったのか、その歴史を追いながらアメリカ20世紀文学の特徴を考察する。

### 【授業の目標】

This goal of this course is to read together and talk about contemporary literature in the United States and Canada and, in the process, improve listening and the expression of ideas in spoken and written English.

### 【授業計画】

1. Introduction: African-American Writing
- 2-3. James Baldwin
- 4-6. Toni Morrison
- 6-7. August Wilson
8. Introduction: African-Canadian Writing
9. Rinaldo Wilcott
- 10-11. Djanet Sears: *Harlem Duet*
- 12-13. George Elliot Clarke: *Whydah Falls*
14. Music
15. Closure

### 【評価方法】

Evaluation will be based on extent of engagement and effort made in class discussion and written assignments.

### 【テキスト】

No textbook.

## English Linguistics II

中野弘三

### 【授業の概要】

英語学の特定の研究課題に焦点をあて、掘り下げて幅広い視点から考察する。理論構築のみではなく、コーパス等を駆使し英語のデータをなるべく多く集め、丁寧に分析していく手法を学ぶ。

### 【授業の目標】

English Linguistics I に続いて、動詞の意味論をテーマとして、英語動詞の意味分析法の理解を目指す。文の中心要素である動詞の意味の分析方法を紹介し、動詞の意味分析の有用性や問題点を知ってもらう。

### 【授業計画】

- 1) 動詞の意味と交替現象 (1)
- 2) 動詞の意味と交替現象 (2)
- 3) 動詞の意味と交替現象 (3)
- 4) 意味役割と連結規則 (1)
- 5) 意味役割と連結規則 (2)
- 6) 意味役割と連結規則 (3)
- 7) 動詞句の意味表示 (1)
- 8) 動詞句の意味表示 (2)
- 9) ComeとGoの意味論 (1)
- 10) ComeとGoの意味論 (2)
- 11) Come、Goと「行く」、「来る」の比較
- 12) 法助動詞の意味論 (1)
- 13) 法助動詞の意味論 (2)
- 14) 法助動詞の意味論 (3)
- 15) 期末試験

講義内容をよりよく理解してもらうために、時折練習問題を用意し、宿題とする。

### 【評価方法】

主として期末試験により評価する。

### 【テキスト】

プリントを使用する。

### 【参考文献・資料】

*Meaning and the English Verb* (2nd Edition) (1987) (G.N. Leech ひつじ書房)  
*English Verb Classes and Alternations* (1993) (Beth Levin The University of Chicago Press)  
語の意味と意味役割 (2001) (米山三明・加賀信宏著 研究社)

## Interlingual Communication I

WOODMAN, Jo-Anne

### [Course description]

This course aims to engage the students in discussions about contemporary Japanese culture, whilst also providing them with some opportunities to compare and contrast their own environment with that of people in other countries.

Students will have to talk about (and explain) aspects of Japanese culture and lifestyle in English, so the participants will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture and cultural differences.

Students who have already travelled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

### [Course objectives]

The students will be encouraged to familiarize themselves with the way foreigners see Japanese culture.

### [Course schedule]

To be announced.

### [Assessment]

PREPARATION 40%  
PARTICIPATION 40%  
ATTENDANCE 20%

## Creative Writing I

COLEBORNE, Bryan

### [Course description]

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic and dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading and critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course may be limited in number. Prospective students are advised to bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing.

### [Course objectives]

To help students improve their writing through the use of imagination and a developed critical awareness of their techniques of composition.

### [Course schedule]

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

### [Assessment]

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.

There will be no final test.

### [Textbooks]

NONE.

### [Reference]

To be decided.

## Interlingual Communication II

WOODMAN, Jo-Anne

### [Course description]

Interlingual Communication I should be regarded as a kind of prerequisite for this course because the students will build on the ideas and theories developed in the earlier course. Furthermore, students will endeavor to discover the key to "good" communication by analyzing problems in cross-cultural communication. Areas of study will include such things as: misunderstandings caused by Japanese English words and expressions; misinterpretation of gestures; and other cultural conundrums.

### [Course objectives]

The students will be encouraged to develop mutual empathy with foreigners, so as to facilitate better interaction.

### [Course schedule]

To be announced.

### [Assessment]

Preparation 40%  
Participation 40%  
Attendance 20%

## Creative Writing II

COLEBORNE, Bryan

### [Course description]

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic and dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading and critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course may be limited in number. Prospective students are advised to bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing.

### [Course objectives]

To help students improve their writing through the use of imagination and a developed critical awareness of their techniques of composition.

### [Course schedule]

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

### [Assessment]

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.

There will be no final test.

### [Textbooks]

NONE.

### [Reference]

To be decided.

## 日英対照言語学Ⅰ

出嶋真由美

### 【授業の概要】

日本語と英語の共通点・相違点等について、通言語的観点から学ぶ。学習者は表層上の違いの奥に潜む、自然言語としての共通点を学び、両言語の特徴を客観的視点から捉えなおすことが期待される。

### 【授業の目標】

一定の一般言語理論を枠組みとして仮定した上で、日本語と英語の共通点・相違点等について学ぶ。その際、両言語の表面的な相違の背後に潜む、自然言語としての共通点に注意を向けることにする。微妙な言語直感を働かすことができる日本語を頼りにしながら、英語の輪郭を掴むことを目指す。

### 【授業計画】

1. 形態論とレキシコン
2. 形態論とレキシコン
3. 形態論とレキシコン
4. 統語論 生成文法
5. 統語論 生成文法
6. 統語論 生成文法
7. 統語論 機能主義
8. 統語論 機能主義
9. 統語論 機能主義
10. 意味論
11. 意味論
12. 意味論
13. 総括

### 【評価方法】

出席、授業への参加度、学期末試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

日英対照による英語学概論（西光義弘編集 くろしお出版）

### 【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。

## 専門演習Ⅰ

山田幹郎

### 【授業の概要】

英国ルネサンス演劇研究Ⅰ  
英国における初期演劇の展開を概観するなかで、主として16世紀の劇作家たちの作品を読みます。

### 【授業の目標】

英国初期演劇の解読力を涵養すること。

### 【授業計画】

今年度はG. ビールの喜劇を丹念に読み解き、時代背景を踏まえて人物達の劇的社会的な意味合いを考察していきます。

### 【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価します。

### 【テキスト】

プリントによります。

### 【参考文献・資料】

授業時に指示します。

## 日英対照言語学Ⅱ

出嶋真由美

### 【授業の概要】

日本語と英語の共通点・相違点等について、通言語的観点から学ぶ。学習者は自然言語としての共通点をもちに、相違点はどこから生ずるのか、一定の説得力のある説明原理からのアプローチを行う。両言語の特徴を客観的視点から捉えなおすことが期待される。

### 【授業の目標】

一定の一般言語理論を枠組みとして仮定した上で、日本語と英語の共通点・相違点等について学ぶ。その際、両言語の表面的な相違の背後に潜む、自然言語としての共通点に注意を向けることにする。微妙な言語直感を働かすことができる日本語を頼りにしながら、英語の輪郭を掴むことを目指す。

### 【授業計画】

1. 音声学
2. 音声学
3. 音声学
4. 音韻論
5. 音韻論
6. 音韻論
7. 語用論
8. 語用論
9. 語用論
10. 英語史
11. 英語史
12. 日本語史
13. 総括

### 【評価方法】

出席、授業への参加度、学期末試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

日英対照による英語学概論（西光義弘編集 くろしお出版）

### 【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。

## 専門演習Ⅰ

池谷敏忠

### 【授業の概要】

近代アメリカの代表的な詩人の重要な詩を取り上げ、絵画的、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究します。

### 【授業の目標】

授業にて明示します。

### 【授業計画】

前期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

A. Bradstreet  
F. Freneau  
R. W. Emerson  
and others

後期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

E. Dickinson  
J. Miller  
J. Kilmer  
and others

プリントを用いて輪読、解説し、討論もします。

### 【評価方法】

レポートまたはテストと出席状況を加味して評価します。

## 専門演習 I

橋木勇作

### 【授業の概要】

#### 現代英語学 I

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見出すこと、英語力を向上させることを目標とする。英語を言語学的な点から研究している論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュース等を教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

1. 英字新聞 (Reading & Discussion)
2. リスニング練習
3. テキストの解説
4. 英語プレゼンテーション
5. 英語発音トレーニング
6. コーパスを使用した言語研究入門

### 【評価方法】

レポート+小テスト+平常点 (出席・授業態度)。

### 【テキスト】

*Linguistics An Introduction to Language and Communication FIFTH EDITION* (Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$35.00 (paper))

## 専門演習 I

COLEBORNE, Bryan

### 【Course description】

This seminar will introduce students to selected works of Irish writing, in English and in English translation, in the broad context of Irish history. It will also direct attention to the use of the English language in Ireland and invite students to deepen their understanding of Irish culture through an experience of other art forms. Students will be encouraged to develop their own interests and to explore the nature of the Irish mind and experience.

### 【Course objectives】

To assist students to develop their understanding of Irish writing and culture and to make a critical analysis of their responses.

### 【Course schedule】

In the first semester we will offer a broad introduction to the course, concentrating on short, accessible forms. In the second semester we will aim at building on this foundation by studying longer works, in extract and as a whole.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with participation in class, minor exercises, oral reports and presentations used to evaluate students' progress.

### 【Textbooks】

To be decided.

### 【Reference】

To be decided.

## 専門演習 I

久野幸子

### 【授業の概要】

16世紀から現代までの英文学作品から数編を選び、原作を読み解くと同時にそれらが書かれた時代との関係を、歴史的、社会的、文化的視点から考察する。

英文学作品は映像化されている場合が多いので、視聴覚教材を多用する予定である。

### 【授業の目標】

- (1) 英文学についての基礎的知識の修得(1)
  - (2) 原作の精読
  - (3) 作品の歴史的背景の理解
- 上記3項目について、随時、実行・実践してもらう予定。

### 【授業計画】

<英文学と新世界>をテーマに、16世紀から18世紀までの英文学から作品を選ぶ。原作を深く読む愉しさを実感することを目指す。

### 【評価方法】

平常点 (出席、受講・発表態度、教室での発言など) と筆記テストで総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に指示するほか、プリント配布。

## 専門演習 I

若山真幸

### 【授業の概要】

英語学・言語学の観点から、日英語における文法的・表現的差異を考察する。日本人話者による英語の間違いにどんなものがあり、それらがどうして起きるのかを英語学や言語学の専門的な知識を使って説明する。そうした間違いがどのようなコミュニケーションギャップを引き起こすのかも考察したい。

### 【授業の目標】

専門的な知識を使って、英語をより幅広い観点から眺め、高度な専門的知識を得る。

日常生活にあふれた英語の例を集め、理論的知識の再確認をする。

### 【授業計画】

- ・序章
  - ことばのしくみ (語・意味・統語の関係)
- ・文献講読
  - 以降、トピックに関する文献を講読する
- ・他
  - 音楽やビデオを使って英語に触れる
  - 英語の辞書を活用した短い作文・会話の練習なども行う
  - 文献資料の収集方法、発表の仕方などにも触れる

### 【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## 専門演習 I

五島幸一

### 【授業の概要】

文化がどのように私たちの日常的な行動に影響を与えているかという事象について、コミュニケーションの視点から考えていく。とくに、英語圏との文化の違いについて、人の言語行動や非言語行動を通して考察する。ありふれた日常の行動を通して、文化をどのように理解したらいいのかを考える。

### 【授業の目標】

文化とコミュニケーションは不即不離の関係であり、私たちの日常の言語行動または非言語行動がどのように文化として捉えることができるかを理解できるようにする。

### 【授業計画】

最初は、コミュニケーションの基礎的な事柄を学び、その後、文化という視点を組み入れ、具体的な事象を考察する。例えば、広告やニュース報道などマスメディアを通じたコミュニケーションのあり方から謝り方や弁解の仕方まで、様々な領域でどのような文化の違いがあるかを調べていく。

### 【評価方法】

授業では学生の発表やディスカッションもありますので、積極的に授業に参加すること。

授業への参加度、レポート、発表などを考慮します。

### 【テキスト】

異文化コミュニケーション (古田監修 石井・岡部・久米著 有斐閣選書)

### 【参考文献・資料】

「異文化を読む」(岡部朗一 南雲堂)

## 専門演習 I

小泉 直

### 【授業の概要】

最近の文法研究で得られた成果を盛り込みながら、日本人が苦手とする文法事項を中心に英文法を再考する。

また、平行して語彙力の強化も行う。

### 【授業の目標】

英文法に関する知識の補強

### 【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、その後必要に応じて補足説明を加えていく。

取り上げる予定の文法項目

- 1 有標性 (markedness)
- 2 反対語と否定辞 (opposites & negatives)
- 3 ダイクシス (deixis)
- 4 指向 (orientation)
- 5 法助動詞 (modal verbs)
- 6 時制と相 (tense & aspect)
- 7 動詞の相 (aspect in verbs)

### 【評価方法】

平常点 (出席状況や授業での発表) と学期末の試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

10日間意味旅行 (Th. R. Hofmann・影山太郎 くろしお出版)

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 専門演習 I

柳原佳枝

### 【授業の概要】

<英文学とキリスト教文化1>

文学や言語を研究するには、その背景、(文化、社会、時代、更には気候・風土なども含めて)を知ることが非常に大切である。欧米の文化の根底をなすもの一つはキリスト教の信仰や精神である。英語という言語そのものにも、又その文学にも、聖書やキリスト教世界の諸相が深く関わっている。この専門演習では、その点を重視しながら、英文学の研究を深める。

### 【授業の目標】

キリスト教との関わりに留意しながら、英詩の理解や鑑賞を深めると共に、英文学の基礎的知識を習得することを目指す。

### 【授業計画】

C. G. Rossettiによる詩を取り上げる。多くの作品にみられる信仰・希望・愛、そして生と死のテーマ、更に色彩豊かな描写など、様々な視点から作品の理解を深める。

### 【評価方法】

期末のレポートと平常点 (事前の準備、活潑な意見の発表、授業に参加する積極的姿勢など)で総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを配付する。

### 【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

## 専門演習 I

丹羽都美

### 【授業の概要】

日本語と比較しながら、英語の構造・意味の構成のあり方、実際に使う場面で働く心理的な事柄などを理解することによってさら英語を理解しその実用の場面に活かせるよう一歩踏み込んだ研究をする。その基礎編となる。

### 【授業の目標】

英語の構造英語に関する知識を深めると共に、実用の場面でその知識が活かされるようにするための基礎の確認及び自分の研究内容の精選をする。

### 【授業計画】

- 第1回～第8回 統語論・語用論を中心とした英語の様々な側面について資料などに基づき考察する。
- 第9回～第13回 各自の研究を口頭で発表する。これをもとにレポートを作成する。

### 【評価方法】

出席、研究発表、レポート等を総合して評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

### 【参考文献・資料】

論文の教室レポートから卒論まで (戸田山 和久 日本放送出版協会)

## 専門演習 I

今井加寿

### 【授業の概要】

20世紀 アメリカ小説の研究 I  
20世紀アメリカ文学を代表する作家たちの短編作品を集めたアンソロジーを読む。

### 【授業の目標】

作品を読み進めながら、  
1. 作品の書かれた時代背景：作家が描こうとしたアメリカの社会的環境や時代の精神についての考察、  
2. 作家の個性：作家のそれぞれの生い立ちや環境、考え方をリサーチ研究、  
3. 作品のもつ普遍的なメッセージについての考察、  
4. 作品と「私」：今現在、読み手となっている「私」が作品から何を学ぶことが出来るのか、  
の主に4点について考察し、ゼミの仲間たちとともにアメリカ文学の持つ時代を超えたエネルギーを共感できることを希望する。

### 【授業計画】

授業方法は、作品を2、3人のグループで担当し、順番に責任を持って発表していく。  
尚、余裕をもって準備できるように、発表の前にレジメを提出すること。  
前期作品：Katherine Anne Porter：“The Grave”，Earnest Hemingway：“Indian Camp”，John Steinbeck：“The White Quail”，Erskine Caldwell：“The Strawberry Season”，William Saroyan：“Snake”。

### 【評価方法】

授業参加態度、発表などの平常点と学期毎のレポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

AMERICAN ACCENT: Selected Short Stories, アメリカ短編珠玉選  
西村満男編、南雲堂、2004年(49刷)、¥2,200  
MLA 英語論文の手引き(第5版)  
J.ジバルディ編著・原田敬一監修・原田謙治訳編、北星堂、¥2,600  
その他プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

## 専門演習 II

池谷敏忠

### 【授業の概要】

近代アメリカの代表的な詩人の重要な詩を取り上げ、絵画性、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究します。

### 【授業の目標】

授業にて明示します。

### 【授業計画】

前期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

A. Bradstreet  
F. Freneau  
R. W. Emerson  
and others

後期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

E. Dickinson  
J. Miller  
J. Kilmer  
and others

プリントを用いて輪読、解説し、討論もします。

### 【評価方法】

レポートまたはテストと出席状況を加味して評価します。

## 専門演習 II

山田幹郎

### 【授業の概要】

英国ルネサンス演劇研究 I

専門演習 I の継続。英国における初期演劇の展開を概観するなかで、主として16世紀の劇作家たちの作品を読みます。

### 【授業の目標】

英国初期演劇の解読力を涵養すること。

### 【授業計画】

G. ビールの喜劇を丹念に読み解き、時代背景を踏まえて人物達の劇的社会的な意味合いを考察していきます。

### 【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価します。

### 【テキスト】

プリントによります。

## 専門演習 II

樗木勇作

### 【授業の概要】

現代英語学 I

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見つけ出すこと、英語力を向上させることを目標とする。英語を言語学的な点から研究している論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュース等を教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

1. 英字新聞 (Reading & Discussion)
2. リスニング練習
3. テキストの解説
4. 英語プレゼンテーション
5. 英語発音トレーニング
6. コーパスを使用した言語研究入門

### 【評価方法】

レポート+小テスト+平常点(出席・授業態度)。

### 【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and Communication FIFTH EDITION (Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$35.00 (paper))

## 専門演習 II

久野幸子

### 【授業の概要】

16世紀から現代までの英文学作品から数篇を選び、原作を読み解くと同時にそれらが書かれた時代との関係を、歴史的、社会的、文化的視点から考察する。英文学作品は映像化されている場合が多いので、視聴覚教材を多用する。

### 【授業の目標】

- (1) 英文学についての基礎的知識の修得(2)
  - (2) 歴史と文学との関係の考察
  - (3) 小説というジャンルについての考察
  - (4) 小説の技法への理解
- 上記4項目についても、随時、実行・実践してもらおう予定である。

### 【授業計画】

<英文学と帝国主義>をテーマに、19世紀から現代までのイギリス小説から作品を選ぶ。今期は原作を読むことに加え、文献リサーチ法も学び、どのようにして研究レポートにまとめるのかも各自体験してもらう。個別発表やクラス討議などの場を多く用意する予定である。

### 【評価方法】

平常点(出席、受講・発表態度など)と期末の筆記テスト、レポートで総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に指示するほか、プリント配布。

## 専門演習 II

若山真幸

### 【授業の概要】

英語学・言語学の観点から、日英語における文法的・表現的差異を考察する。日本人話者による英語の間違いにどんなものがあり、それらがどうして起きるのかを英語学や言語学の専門的な知識を使って説明する。そうした間違いがどのようなコミュニケーションギャップを引き起こすのかも考察したい。

### 【授業の目標】

専門的な知識を使って、英語をより幅広い観点から眺め、高度な専門的知識を得る。

日常生活にあふれた英語の例を集め、理論的知識の再確認をする。

### 【授業計画】

- ・序章  
ことばのしくみ(語・意味・統語の関係)
- ・文献講読  
以降、トピックに関する文献を講読する
- ・他  
音楽やビデオを使って英語に触れる  
英語の辞書を活用した短い作文・会話の練習なども行う  
文献資料の収集方法、発表の仕方などにも触れる

### 【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## 専門演習 II

COLEBORNE, Bryan

### 【Course description】

This seminar will introduce students to selected works of Irish writing, in English and in English translation, in the broad context of Irish history. It will also direct attention to the use of the English language in Ireland and invite students to deepen their understanding of Irish culture through an experience of other art forms. Students will be encouraged to develop their own interests and to explore the nature of the Irish mind and experience.

### 【Course objectives】

To assist students to develop their understanding of Irish writing and culture and to make a critical analysis of their responses.

### 【Course schedule】

In the first semester we will offer a broad introduction to the course, concentrating on short, accessible forms. In the second semester we will aim at building on this foundation by studying longer works, in extract and as a whole.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with participation in class, minor exercises, oral reports and presentations used to evaluate students' progress.

### 【Textbooks】

To be decided.

### 【Reference】

To be decided.

## 専門演習 II

五島幸一

### 【授業の概要】

文化がどのように私たちの日常的な行動に影響を与えているかという事象について、コミュニケーションの視点から考えていく。とくに、英語圏との文化の違いについて、人の言語行動や非言語行動を通して考察する。ありふれた日常の行動を通して、文化をどのように理解したらいいのかを考える。

### 【授業の目標】

文化とコミュニケーションは不即不離の関係であり、私たちの日常の言語行動または非言語行動がどのように文化として捉えることができるかを理解できるようにする。

### 【授業計画】

最初は、コミュニケーションの基礎的な事柄を学び、その後、文化という視点を組み入れ、具体的な事象を考察する。例えば、広告やニュース報道などマスメディアを通じたコミュニケーションのあり方から謝り方や弁解の仕方まで、様々な領域でどのような文化の違いがあるかを調べていく。

### 【評価方法】

授業では学生の発表やディスカッションもありますので、積極的に授業に参加すること。

授業への参加度、レポート、発表などを考慮します。

### 【テキスト】

異文化コミュニケーション(古田監修 石井・岡部・久米著 有斐閣選書)

### 【参考文献・資料】

「異文化を読む」(岡部朗一 南雲堂)

## 専門演習 II

柳原佳枝

### 【授業の概要】

＜英文学とキリスト教文化＞

文学や言語を研究するには、その背景、(文化、社会、時代、更には気候・風土なども含めて)を知ることが非常に大切である。欧米の文化の根拠をなすものの一つはキリスト教の信仰や精神である。英語という言葉そのものにも、又その文学にも、聖書やキリスト教世界の諸相が深く関わっている。この専門演習では、その点を重視しながら、英文学の研究を深める。

### 【授業の目標】

キリスト教との関わりに留意しながら、小説や児童文学などの作品分析や解釈、鑑賞力を高めると共に、英文学の基礎的知識を習得することを目指す。

### 【授業計画】

異なる作家の小説及び児童文学などを数編取り上げ、キリスト教に関わる主題や背景などを考察しながら、作品研究を進める。

### 【評価方法】

期末のレポートと平常点(事前の準備、活潑な意見の発表、授業に参加する積極的姿勢など)で総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業時に指示し、プリントも配付する。

### 【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

## 専門演習 II

丹羽都美

### 【授業の概要】

日本語と比較しながら、英語の構造・意味の構成のあり方、実際に使う場面で働く心理的な事柄などを理解することによってさら英語を理解しその実用の場面に活かせるよう一歩踏み込んだ研究をする。

自分の選んだ研究内容についてさらなる考察を行い、また、研究発表を通じて互いにアドバイスを与えながら研究を進めていく。

### 【授業の目標】

英語の構造・意味・語用論の中から自分の研究内容をさらに深めていく。

### 【授業計画】

第1回～第5回 前期に提出されたレポート等をもとに、研究内容に関するさらなる考察・解説等を加える。

第6回～第13回 研究発表・講評を中心に展開するが、必要に応じて研究内容に応じた講義を行う。

### 【評価方法】

出席、研究発表、レポート等を総合して評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

### 【参考文献・資料】

論文の教室レポートから卒論まで(戸田山 和久 日本放送出版協会)

## 専門演習 II

小泉直

### 【授業の概要】

最近の文法研究で得られた成果を盛り込みながら、日本人が苦手とする文法事項を中心に英文法を再考する。

また、平行して語彙力の強化も行う。

### 【授業の目標】

英文法に関する知識の補強

### 【授業計画】

専門演習Iで取上げた文法事項の中から特に重要と思われるものをいくつか選び出し、理解の深化を目指す。

どの文法項目を取上げるかについては授業の開始時に通知する。

### 【評価方法】

平常点(出席や授業での発表)とレポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 専門演習 II

今井加寿

### 【授業の概要】

20世紀 アメリカ小説の研究 I

20世紀アメリカ文学を代表する作家たちの短編作品を集めたアンソロジーを読む。

### 【授業の目標】

作品を読み進めながら、

1. 作品の書かれた時代背景：作家が描こうとしたアメリカの社会的環境や時代の精神についての考察、
2. 作家の個性：作家のそれぞれの生い立ちや環境、考え方をリサーチ研究、
3. 作品のもつ普遍的なメッセージについての考察、
4. 作品と「私」：今現在、読み手となっている「私」が作品から何を学ぶことが出来るのか、

の主に4点について考察し、ゼミの仲間たちとともにアメリカ文学の持つ時代を超えたエネルギーを共感できることを希望する。

### 【授業計画】

授業方法は、作品を2、3人のグループで担当し、順番に責任を持って発表していく。

尚、余裕をもって準備できるように、発表の前にレジュメを提出すること。

後期作品：Eudora Welty：“A Curtain of Green”，Irwin Shaw：“The Girls in Their Summer Dresses”，Carson McCullers：“The Sojourner”，Truman Capote：“Miriam”

### 【評価方法】

授業参加態度、発表などの平常点と学期毎のレポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

AMERICAN ACCENT: Selected Short Stories, アメリカ短編珠玉選

西村満男編、南雲堂、2004年(49刷)、¥2,200

MLA 英語論文の手引き(第5版)

J.ジバルディ編著・原田敬一監修・原田謙治訳編、北星堂、¥2,600

その他プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

## 外国語としての日本語 I・II

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

日本語の特徴を文法の面から英語を使って考察し、日本語を母語としない人を対象にした日本語教授法を指導する。

### 【授業の目標】

外国語としての日本語の文法基礎知識を得ることが期待される。

### 【授業計画】

日本語テキストおよびビデオ日本語教材を用いて、初級日本語教育で扱う文型、文法事項の英語による具体的指導法を考える。

### 【評価方法】

期末試験および日常の勉学状況により評価を行う。

### 【テキスト】

未定。

- \* 「外国語としての日本語II」は、同科目「I」の内容を学習済みであることを前提に、授業を進める。

## 海外セミナーII

大野光子 EASLEY, Keith

### 【授業の概要】

<イギリス文化・英語春期研修>  
春期休暇期間中に、本学交流提携大学であるイギリスのリーズ・メトロポリタン大学において、4週にわたり英語及び英国の歴史・文化・文学の総合指導を受ける。本学における事前研修の後、現地では他国からの留学生とともに、英語能力別の少人数クラスで学習。修了者には、2単位が認定される。  
2006年度の予定は下記の通り。

2月中旬～3月初旬

4週間のLMU英語・英国文化研修  
バスにてロンドンに移動。見学後、帰国

午前及び午後：主に教室内学習  
午後または夜：見学または観劇等

合計約60時間の学習

週末は、周辺旧跡名勝地等見学  
現地では、ホームステイ

### 【授業の目標】

General English Course

- \* to improve your general understanding and use of English for work, pleasure or study
- \* as a way of improving your English level in order to prepare for further study
- \* for the culturally different experience of living in England and being part of a British University

### 【授業計画】

具体的内容は、英文学科ホームページにリンクしたリーズ・メトロポリタン大学言語学部による本学学生用特別指導プログラム(春期4週間)を参照のこと。本学教員は原則的に同行しない。従って、全期間にわたり、全ての指導は現地教員により英語で行われる。

### 【評価方法】

現地教員の評価により、本学が単位を認定する。

### 【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、事前に「British Culture」、「Irish Culture」または「Introduction to British History」、「Current UK」を受講し、単位を取得することが条件となる。

### 【参考文献・資料】

出発前研修中に指示する。

## 海外セミナーI

樗木勇作 NORRIS, Harry T. WOODMAN, Jo-Anne

### 【授業の概要】

Students will be in an English Emersion course with University of Canberra (=UC). Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. UC will organise home-stay for the entire period in Canberra.

\* 一般的な英語集中コースに加えて、オーストラリアの文化・歴史・本・テレビ番組・映画・言語等に触れる授業も予定している。この研修参加には、英文学科の「Current Australia」、「Introduction to Australian History」を単位取得済みか受講中であることが条件となる。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and Questacon.

The course will conclude with a 2 day excursion to Sydney, including sight seeing and a theatre show.

### 【評価方法】

Assessment will be based on UC's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

### 【テキスト】

No text, as necessary worksheets will be given.

You will need a passport!

## English 301 a・b

LEWIS, Paul

### 【Course description】

During this course, students will practice listening and speaking activities intended to increase their ability to communicate in a wide variety of situations. In particular we shall focus the importance of asking and answering questions when learning a language. At the same time, efficient and effective strategies for learning vocabulary will be considered. The aim of this course is to improve fluency, flexibility, and confidence in English.

The course will be presented entirely in English.

### 【Course objectives】

The course objective is to provide students with opportunities to express themselves in an English-speaking class environment.

### 【Course schedule】

Students will work mostly in groups or pairs, practising the strategies outlined above. Among other activities, we shall look at information exchange and negotiation, problem solving, and occasionally role-plays.

### 【Assessment】

Assessment will be according to class participation, attendance, and occasional homework reports. No test will be given.

### 【Textbooks】

No textbook will be used.

## 【Course description】

In this course, students will examine language and methods of communication within the context of different cultures. In particular, we shall look at idiomatic language, customs, and non-verbal communication. In some cases, extracts from popular films will be used to demonstrate similarities and differences.

## 【Course objectives】

At the end of the course, students will have a wider understanding of the cultural and pragmatic context surrounding language, rather than just its grammatical or functional aspects. Such skills and knowledge are very useful for anyone planning to study abroad or work in a large, international company.

## 【Course schedule】

Weeks 1-15: Various aspects of pragmatics in context, including film extracts, role play, and discussion.

## 【Assessment】

Assessment will be according to class participation, attendance, and occasional homework reports. No test will be given.

## 【Textbooks】

To be announced.

## 【Reference】

None.

## 英米文学特殊講義Ⅱ a・b

柳原佳枝

## 【授業の概要】

聖書はまず何よりも信仰の目をもって読まなければならない「聖なる書」である。しかし、3千年をこえる歴史をもつ「書物の中の書物」は、信仰の境をこえて広く人類の文化に深い影響を及ぼしてきた。

この講義では「聖書の中の女性たち」をテーマとし、聖書の中に描かれる様々な女性像を読み取りたいと思う。

## 【授業の目標】

- ・英文学に深い影響を及ぼしてきた聖書にふれる機会をもつこと。
- ・聖書に登場する様々な女性を通して、「女性」更に「人間」について学ぶこと。

## 【授業計画】

前期

- ・聖書についての基礎知識
- ・旧約時代の女性たち  
エバ、サラ、デボラ、ルツ、エステル、他

後期

- ・イエスに逢った女性たち  
マルタとマリア、サマリアの女性、ヴェロニカ、マグダラのマリア、他
- ・神の母マリア
- ・聖書とフェミニズム

## 【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度など）、レポート、各学期末の試験、などにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

必携参考資料として：聖書一和英対照「和文/新共同訳、英文/Today's English Version」（日本聖書協会）

その他プリントを配付する。

## 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 英文学講義Ⅱ a・b

柳原佳枝

## 【授業の概要】

聖書やキリスト教の信仰が英文学に多大な影響を及ぼしてきたことは周知のことである。この講義では、特に個々の作品にみられるキリスト教的要素や背景などに視点をおいて、作品の鑑賞や考察を深めていきたい。

## 【授業の目標】

3年次までに培ってきた英米文学語学の知識や運用能力を深めること。

## 【授業計画】

前期は宗教詩、後期には小説・物語、随筆などの抜粋を取り上げる。

前期、後期共に、輪読やディスカッションを基にし、講義と共に演習を行って授業を進める。

## 【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度など）、各学期末のレポートなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリントを配付する。

## 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 英語学特殊講義Ⅱ a・b

大室剛志

## 【授業の概要】

現代英語の構造を生成文法理論に立脚して学ぶ。前期は現代英語の統語構造について、英語の主要構文を取り上げて、具対的な統語分析を見ながら、学ぶことにする。後期は生成文法の意味論といえる概念意味論の基本的なメカニズムについて学び、現代英語の意味構造について理解を深める。

## 【授業の目標】

生成文法理論に立脚して現代英語の構造を学ぶ。前期は現代英語の統語構造について学ぶ。英語の主要構文を取り上げ、各構文についての具対的な統語分析を見ながら、現代英語の統語構造を学ぶ。後期は概念意味論の基本的なメカニズムについて学び、現代英語の意味構造について理解を深める。

## 【授業計画】

前期

文法の枠組み、時と時制、ムードとモダリティ、アスペクト、動詞のクラスと交替現象。名詞句移動、疑問詞移動、関係節、There構文、分裂文とBe動詞構文、話題化構文と右方移動構文、省略現象、That補文と不定詞補文、コントロール現象、動名詞と派生名詞、叙述関係、Tough構文と目的節、程度表現と比較構文、名詞句の解釈、代用表現、極性現象、文副詞とVP副詞、理由節条件節譲歩節、数量詞と作用域、遂行動詞と発話行為

後期

(1)概念意味論が対象とする意味と概念意味論が満たすべき2つの条件(2)概念意味論が仮定する文法全体の枠組み(3)1つの語が持つさまざまな意味(4)異なった概念範疇にまたがって見られる共通の性質(5)単純な意味素性では記述できない概念(6)基本的な関数項構造(7)概念構造と統語構造との対応(8)部分の意味から全体の意味へ(9)主題役割の資格と選択制限(10)項融合と制限的修飾(11)主題基準と項束縛(12)縮約表記法

## 【評価方法】

出席状況と授業参加度と単位認定試験の成績により総合的に評価する。

## 【テキスト】

前期 英語の主要構文（中村捷、金子義明編 研究社）

後期 入門 生成言語理論（田中伸一・阿部潤・大室剛志著 ひつじ書房）

## 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## インターリンガルコミュニケーション a・b

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course description】

This course aims to engage the students in discussions about contemporary Japanese culture, whilst also providing some introductory training for basic interpreting.

Students will have to talk about, and explain, aspects of Japanese culture and lifestyle in English. Participants in the course will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture as well as cultural differences.

Students who have already travelled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

### 【Course objectives】

The students will be encouraged to familiarize themselves with the way foreigners see Japanese culture.

### 【Course schedule】

Section 1. Topics. "How to Survive in Japan"

Section 2. Topics. "Show and Tell"

Section 3. Topics. Cultural conundrums.

Section 4. Topics. Student videos/ "Show and Tell"

### 【Assessment】

The assessment procedure will be outlined in the first lesson.

### 【Textbooks】

None

## 英文学講義演習Ⅱ a・b

柳原佳枝

### 【授業の概要】

<英文学とキリスト教文化Ⅱ>

3年次の<英文学とキリスト教文化Ⅰ>に引き続き、英文学とキリスト教文化の関わりに視点をおいて英文学の作品研究を進める。

### 【授業の目標】

3年次までに培ってきた英文学に関わる知識と、個々の作品に対する分析や解釈、また鑑賞力を、更に深めること。

### 【授業計画】

受講学生による読解や意見の発表、及びレポートを中心に、授業担当者が適宜補足する。

〈前期〉

J. Donne, W. Blake, J. H. Newman, などによる宗教詩を取り上げ、そこにみられる心象や象徴などについて検討し、詩想を考察する。

〈後期〉

C.S.Lewis, G. Greene, などによる作品を取り上げ、その特性を考察する。題材は受講学生が選択し、レポートを担当する。

### 【評価方法】

期末のレポートと平常点（事前の準備、活発な意見の発表、担当した課題についてのレポートの成績、など）で総合的に評価する。

### 【テキスト】

前期：プリントを配布する。

後期：授業時に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

## クリエイティブライティング a・b

EASLEY, Keith

### 【Course description】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic and dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading and critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course may be limited in number. Prospective students are advised to bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing.

### 【Course objectives】

To help students improve their writing through the use of imagination.

### 【Course schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

### 【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.

There will be no final test.

### 【Textbooks】

NONE.

## 英文学講義演習Ⅱ a・b

山田幹郎

### 【授業の概要】

英国ルネサンス演劇研究Ⅱ（シェイクスピア）

この科目はシェイクスピアコーナーです。

### 【授業の目標】

シェイクスピア悲劇の基礎的な研究をすること。

### 【授業計画】

aでは*Othello* その他関連作品を読みます。

bでは*Othello* 批評史を概観しながら具体的に作品批評のあり方を探究します。

個々人並びにグループによるさらなる学習研究発表の場にしましょう。

### 【評価方法】

平常点とレポート（あるいはテスト）により総合評価します。

### 【テキスト】

*Othello*（笹山隆 編注 大修館書店）

その他プリントによります。

### 【参考文献・資料】

授業時に指示します。

## 英文学講義演習Ⅱ a・b

久野幸子

### 【授業の概要】

イギリス小説とそれらが書かれた時代との関係を、社会の諸制度、政治、経済、宗教、生活習慣などさまざまな視点から検討・考察する。視聴覚教材も多用する予定である。

### 【授業の目標】

- (1) 小説の技法
- (2) 風刺の芸術
- (3) 小説家の社会的役割

上記3項目について、随時、広く深く考察する。

### 【授業計画】

前期はジョージ・オーウェルの小説を輪読形式で精読する。後期は作家や作品と当時の社会との関係を考察する。個別発表やクラス討議などの場を多く用意する。

### 【評価方法】

平常点（出席、受講・発表態度など）と期末の筆記テスト・レポート及び小論文で総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する他、プリント配布。

## 英文学講義演習Ⅱ a・b

COLEBORNE, Bryan

### 【Course description】

This seminar will continue to introduce students to selected works of Irish writing, in English and in English translation, in the broad context of Irish history. It will deepen an understanding of the use of the English language in Ireland and invite students to develop their knowledge of Irish culture through an experience of other art forms. Students will be encouraged to extend their own interests and to examine the nature of the Irish mind and experience.

### 【Course objectives】

To assist students to continue in their understanding of Irish writing and culture and to develop a critical analysis of their responses.

### 【Course schedule】

In the first semester we will consolidate what has already been learned of Irish culture and commence the study of extended forms. In the second semester we will aim at building on this foundation by studying complete works of significant writers.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with participation in class, minor exercises, oral reports and presentations used to evaluate students' progress.

### 【Textbooks】

Students will be guided to specific texts after preliminary reading in the anthologies below, with particular emphasis placed on The Field Day Anthology.

### 【Reference】

*An Duanaire 1600-1900: Poems of the Dispossessed* (eds. Sean O Tuama and Thomas Kinsella (1985))  
*The Field Day Anthology of Irish Writing, Vols I-V* (ed. Seamus Deane and others, I-III, (1991); ed. Angela Bourke and others, IV-V, (2002))  
*The Oxford Book of Ireland* (ed. Patricia Craig (1998))

## 英文学講義演習Ⅱ a・b

山田久美子

### 【授業の概要】

アイルランドの歴史、文化などの関わりを考察しながら、20世紀アイルランドの詩や演劇などの文学作品を読み、文学批評を行う。

### 【授業の目標】

アイルランド文学の特徴を捉え、各自の研究テーマに沿って作品を分析し、発表する。

アイルランドの詩や小説の朗読や演劇などを実際に行い、理解を深める。

### 【授業計画】

前期

J. M. Synge, J. Joyce, S. Beckett, G. B. Shawなどの作品を取り上げ、具体的に文学批評の方法を学ぶ。  
学生それぞれが選択した作品とテーマについて発表し、全員でディスカッションする。

後期

アイルランドの歴史、文化などを考察しながら、アイルランドの詩、小説、演劇作品を研究し、朗読/演劇発表する。さらにゼミ論文集を作成する。

なお、前・後期、アイルランド文学講演や朗読会への参加などの学外教育が行うこともある。

### 【評価方法】

平常点（積極的な受講態度・出席状況・研究発表）とレポートなどにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリント配布

### 【参考文献・資料】

講義時に指示する。

## 英語学講義演習Ⅱ a・b

樗木勇作

### 【授業の概要】

現代英語学Ⅱ

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマについての考察を深めること、英語力を向上させることを目標とする。英語の言語学的な研究など、英語についての各自の研究テーマを、英語でプレゼンテーションする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュース等を教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

1. VOA (Reading & Discussion)
2. リスニング練習
3. テキストの解説
4. 英語プレゼンテーション (Power Point)

### 【評価方法】

レポート+小テスト+平常点（出席・授業態度）。

### 【テキスト】

*Linguistics An Introduction to Language and Communication* FIFTH EDITION (Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$35.00 (paper))

## 英語学講義演習Ⅱ a・b

若山真幸

### 【授業の概要】

生成文法の観点から、英語の意味と文の構造の結びつきについて考察する。我々がことば（英語や日本語）をどのように理解し、どのように「文」として具現するのかを中心トピックとして文献を講読する。また、そうしたメカニズムが実際の英語に反映されているのを知るためにも、新聞・雑誌などのメディア・音楽・映画等の英語にも出来るだけ多く触れるようにしたい。

### 【授業の目標】

普段触れている言葉の理解を専門的知識を使っていっそう深める

### 【授業計画】

- ・序章
  - ことばのしくみ（語・意味・統語の関係）
  - ことばの習得はどのように行われるのか
- ・文献講読
  - 以降、トピックに関する文献を講読する
- ・他
  - 音楽やビデオを見ながら英語に触れる
  - 英語の辞書を活用した短い作文・会話の練習なども行う
  - 文献資料の収集方法、発表の仕方などにも触れる

### 【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## 英語学講義演習Ⅱ a・b

小泉直

### 【授業の概要】

英文で書かれた文法書を、特に日本人が苦手とする文法事項を中心に精読し、英文法に関する知識を深めることを目指す。

使用する文法書は最新の文法研究の成果を取り入れているだけでなく、旧来の規範的な立場を排し、徹底的な事実中心主義の立場から解説を行っているので、新しい文法観の形成にも役立つものと思われる。

### 【授業の目標】

英文法に関する知識の補強

### 【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、その後必要に応じて補足説明を加えていく。

取り上げる予定の文法事項

前期：冠詞、時制と相、法助動詞、条件文

後期：前置詞と不変化詞、間接目的語、不定詞と動名詞、語法

### 【評価方法】

平常点（出席状況や授業での発表）と章ごとに課す課題とにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に随時プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 英語学講義演習Ⅱ a・b

丹羽都美

### 【授業の概要】

英語学講義演習Ⅰ a・bで研究した内容をさらに探求していく。各自の研究対象についての調査・研究を進める中で自分の研究内容についての知識を深めると共に、英語の様々な側面についてもそして言語というものについても理解を深めていく。

### 【授業の目標】

英語について構造・意味等の側面から、これまでより一歩踏み込んだ分析することにより、英語の言語・社会・文化というものと、同時に自分たちの言語・社会・文化というものに対して新たな理解ができることで、道具としての言語を使いこなせるよう自分自身を豊かにしていくこと。

### 【授業計画】

<前期 a>

第1回～第5回 統語論・語用論を中心とした英語の様々な側面について資料などに基づき考察する。

第6回～第12回 各自の研究を口頭で発表する。これをもとに論文・レポートを作成する。

<後期 b>

第1回～第3回 前期までの研究内容について、さらなる考察・解説等を加えながら研究を進める。

第4回～第12回 研究発表・講評を中心に展開するが、必要に応じて講義を行う。

### 【評価方法】

出席、研究発表、レポート等を総合して評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

### 【参考文献・資料】

論文の教室レポートから卒論まで（戸田山 和久 日本放送出版協会）

## 米文学講義演習Ⅱ a・b

池谷敏忠

### 【授業の概要】

現代アメリカの代表的詩人の重要な詩を取り上げ、絵画的、音楽性などを多角的に探究して、思想、情緒を研究します。

### 【授業の目標】

授業にて明示します。

### 【授業計画】

前期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

Wallace Stevens

Robert Frost

W. C. Williams

and others

後期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

T. S. Eliot

Robert Bly

James Wright

and others

プリントを用いて講義・解説し、討論もします。

### 【評価方法】

レポートまたはテストと出席状況を加味して評価します。

### 【テキスト】

信頼できる原書のプリント。

## 米文学講義演習Ⅱ a・b

今井加寿

### 【授業の概要】

20世紀 アメリカ小説の研究 Ⅱ  
20世紀を代表するアメリカの女性作家、Willa CatherのMy Antoniaを読む。

### 【授業の目標】

- 作品を読み進めながら、
1. 作品の書かれた時代背景：  
スラブ系新移民の増大、ネブラスカ開拓政策などCatherが描こうとしたアメリカの社会的環境や時代の精神について、
  2. Catherの個性：生い立ちや環境、考え方について、
  3. 作品のもつ普遍的なメッセージについて、
  4. 作品と「私」：今現在、読み手となっている「私」が作品から何を学ぶことが出来るのか、

の主に4点について考察し、ゼミの仲間たちとともにアメリカ文学の持つ時代を超えたエネルギーを共感できることを希望する。

### 【授業計画】

前期：  
Book I  
後期：  
Book II, III, IV

### 【評価方法】

授業参加態度、発表などの平常点と学期毎のレポートによって総合的に評価します。

### 【テキスト】

Willa Cather, *My Antonia*. (出版社 未定)

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介します。

## 論文

山田幹郎 池谷敏忠 樗木勇作 久野幸子 COLEBORNE, Bryan 若山真幸  
山田久美子 柳原佳枝 丹羽都美 小泉直 今井加寿

### 【授業の概要】

各自が選定したテーマに関して、「論文」担当者（ゼミ担当教員）の指導のもとに卒業論文を完成させる。なお、論文は英語で書き、ワープロを使用するのが望ましい。

### 【授業の目標】

授業にて明示する

### 【授業計画】

「論文」担当者の指示に従い、「論文」を受講する。さらに、次の各締切日は厳守しなくてはならない。

5月10日(水)	午後4時	提出締切
	論文骨子(2~3ページ)	
7月12日(水)	午後4時	提出締切
	論文梗概(5~6ページ)	
10月11日(水)	午後4時	提出締切
	論文初稿(約30ページ)	
12月13日(金)	午後4時	*提出締切
	論文	

\*12月13日の提出については、11月下旬に掲示で確認すること

### 【評価方法】

「論文」担当者を中心に、題目の選定、論旨の展開、文章表現法、注のつけ方等に着目し、総合的に評価する。

### 【テキスト】

各担当教員の指示に従うこと。  
論文の書き方の一般的な説明については、以下の図書を参考にするとよい。  
英文科学生必携ハンドブック(研究社)  
MLA新英語論文の手引(北星堂)  
卒論を書こう(棚木伸明 三修社)

## 実践日本語表現法 a・b

人見恭司

### 【授業の概要】

これから大学で学ぶ専門教育の基礎として、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

### 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

### 【授業計画】

- |     |                                      |  |  |
|-----|--------------------------------------|--|--|
| a   |                                      |  |  |
| 1.  | 導入 (講義の進め方など)                        |  |  |
| 2.  | 話し言葉と書き言葉 (1) (話し言葉と書き言葉の違い)         |  |  |
| 3.  | 話し言葉と書き言葉 (2) (書き言葉としてふさわしい表現、小テスト1) |  |  |
| 4.  | 書き言葉の技能 基礎 (1) (文の骨組みを抜き出す、小テスト2)    |  |  |
| 5.  | 書き言葉の技能 基礎 (2) (文の骨組みを整える、小テスト3)     |  |  |
| 6.  | 書き言葉の技能 基礎 (3) (呼応関係を確かめる、小テスト4)     |  |  |
| 7.  | 書き言葉の技能 基礎 (4) (接続助詞「が」の使い方、小テスト5)   |  |  |
| 8.  | 書き言葉の技能 基礎 (5) (句読点の使い方、小テスト6)       |  |  |
| 9.  | 書き言葉の技能 基礎 (6) (修飾語と被修飾語、小テスト7)      |  |  |
| 10. | 書き言葉の技能 基礎 (7) (修飾語の語順、小テスト8)        |  |  |
| 11. | 書き言葉の技能 応用 (1) (論の要旨をとらえる)           |  |  |
| 12. | 書き言葉の技能 応用 (2) (文章を要約する)             |  |  |
| b   |                                      |  |  |
| 1.  | 書き言葉の技能 発展 (1) (レポートの書き方1)           |  |  |
| 2.  | 書き言葉の技能 発展 (2) (レポートの書き方2)           |  |  |
| 3.  | 書き言葉の技能 発展 (3) (論証の仕方、小テスト9)         |  |  |
| 4.  | 話し言葉の技能 基礎 (1) (敬語の基礎、小テスト10)        |  |  |
| 5.  | 話し言葉の技能 基礎 (2) (敬語の種類と使い方、小テスト11)    |  |  |
| 6.  | 話し言葉の技能 基礎 (3) (間違いやすい敬語表現、小テスト12)   |  |  |
| 7.  | 話し言葉の技能 応用 (1) (相手を考えて話す、小テスト13)     |  |  |
| 8.  | 話し言葉の技能 応用 (2) (電話で話す、小テスト14)        |  |  |
| 9.  | 総合応用 (1) (手紙文とその実例、小テスト15)           |  |  |
| 10. | 総合応用 (2) (メモの作り方、小テスト16)             |  |  |
| 11. | 総合応用 (3) (ビジネス文書とその実例1)              |  |  |
| 12. | 総合応用 (4) (ビジネス文書とその実例2)              |  |  |

### 【評価方法】

出席状況、小テスト、レポート、学期末試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法 (名古屋大学日本語表現研究会編 三弥井書店)

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実践に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

### 【授業の目標】

「図書館情報学概論Ⅰ」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

### 【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの世界  
図書館の館種ごとの特質/情報システムとしての図書館
2. 協力と競合  
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
3. 図書館員と情報専門職の世界
4. 図書館情報学の未来

### 【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の履修を認めない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第2版 (丸善)

## 図書館情報学概論Ⅰ

村主朋英

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

### 【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

### 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学/情報学/図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念  
情報概念の歴史/定義の多様性と現象の多面性  
構造的な理解: 認知とところ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程
4. 情報の流通過程  
情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程

### 【評価方法】

定期試験

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の履修を認めない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第2版 (丸善)

## 卒業論文ゼミⅠ

伊藤真理

### 【授業の概要】

卒業論文執筆に向けて研究準備を行う。人文学分野の情報サービスを中心として、各自の興味のあるテーマについて関連文献の収集、分析を行い、卒業論文テーマの決定および研究方法を検討する。

### 【授業の目標】

自分のテーマに沿った適切な学術論文を検索・収集し、各論文の研究目的、対象範囲、調査結果、考察について批判的に読み取ることができるようになる。

研究論文の内容を把握し、それをレジュメにまとめて発表し、また他者の発表について、自分の意見を論理的に述べることができるようになる。

### 【授業計画】

- はじめに、学術文献収集について演習をまじえながら概説する。次に、調査・研究の進め方について説明し、研究論文の読み方について学ぶ。
- 各履修者は研究計画を立て、各自の関心テーマに基づいて、4年次での卒業論文作成作業に必要な文献収集を行う。
- 文献リストに基づいて、研究論文を読み、レジュメを作成して授業内で報告する。各自の報告を履修者全員で討議、検討することにより、研究テーマ、調査方法決定の準備段階とする。

### 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

### 【テキスト】

使用せず。

## 卒業論文ゼミ I

岡澤和世

### 【授業の概要】

情報学の誕生とその時代背景を振り返り、その軌跡を共通認識として、情報行動を中心に情報システムとの関係を論じる。

特に、社会と人間と情報を中心テーマに、人間と機械のインターフェースや人への影響などの問題点を利用者の観点から評価し、社会と人間と機械の賢明な関係を模索する。講義中心の授業よりも、自主的な参加型授業を行う。

オリエンテーション

#### 1. 情報学の起源

1) 図書館学の歴史と教育 2) Meadowsの考え 3) Sheraの考え

#### 2. 情報学の研究範囲

1) 情報学の基準 2) B. C. Vickeryの範囲 3) 情報学の主要論文

#### 3. 情報学の基礎

1) B. C. Brookes 2) 社会と情報 3) 情報の研究-F. Machlupら

#### 4. 課題と展望

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

講義は教科書を使って共通確認を共有する。その後、各自の意見や考えを出し合い討論する。

新聞記事などを使って人間・メディア・社会についての問題を考える。

### 【評価方法】

レポート 卒業論文

### 【テキスト】

情報学講義ノート 1

情報学講義ノート 2

## 卒業論文ゼミ I

西荒井学

### 【授業の概要】

情報システムの構築に必要な情報処理技術、ならびにプログラミング技術に関わる問題を扱う。この範囲内で受講者各自が設定すべき卒業論文のテーマについての指導を行っていく。

### 【授業の目標】

受講者全員が、4年次での卒論作成作業に問題なく移行できるように準備をする。特に、事前の情報収集と卒論テーマの決定が重要な4年次への足掛かりとなる。

### 【授業計画】

- 1) 卒業論文の書き方
- 2) テーマの選び方
- 3) 基本図書の調査と内容紹介
- 4) 先行研究についての調査と紹介
- 5) 卒論テーマの決定と研究方法

受講者各自が、指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。これら作業内容に関して、作業方法、作業結果、問題点などについて、各自が報告する。

報告された内容については、受講者全員で検討していく。なお、情報処理技術ならびにプログラミング技術における新しい専門用語などについても、折りに触れて学習していく。また、4年次での卒論中間発表は、図書館情報学特殊演習ゼミ学生と合同で実施するゼミ合宿（2泊3日）の場に行う場合がある。

### 【評価方法】

提示課題についての進捗状況、提示課題の報告内容、平常の作業活動内容、課題レポートなどによって総合評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 卒業論文ゼミ I

菅野育子

### 【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

### 【授業の目標】

図書館情報学において、どのような問題が存在しているかを文献講読から理解すること。

### 【授業計画】

3年後期から開始されるゼミでは、3年次中に研究テーマを決定する。この間は、関連文献を探査し、主要な文献のレビューを行ない、その内容をレジュメとともに口頭で発表する。4年次（卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ）からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。既往研究も参考にしながら、調査方法を検討した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

### 【評価方法】

研究への取り組みとゼミでの発表内容から評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 卒業論文ゼミ I

林 博司

### 【授業の概要】

生命現象の中心である自己複製、種の多様化、環境への適応等の現象を司っている情報を整理し、新しい情報を産み出す事を目的として卒論をかく。取り上げる問題には脳神経系、内分泌系、免疫応答系、消化栄養系、生殖系がある。これらに関する情報整理、データベースの利用と開発を理解する。

上記の身体情報システムについての疾患と予防・治療・原因の整理。

遺伝情報を変化させるバイオテクノロジー技術の整理。

突然変異・遺伝子組み換えに関する情報の整理。

環境破壊因子・環境改善策・地球環境の変化等に関する政策と活動の整理。

ゲノム解析、ゲノムの機能解析に関する知見の整理。

以上のトピックス以外の生命情報に関する研究に関しても、各人の興味あるテーマを選んで、それらの歴史・現状・問題点を関連論文の収集、整理を通じて分析する。

基本的には卒論をスタートさせるための基盤の検討とテーマの選択を目的とし、そのための準備である。

### 【授業の目標】

関連論文、総説を収集し理解し、随時まとめた原稿を討論の対象とし、論文にするための方法を考察する。卒業論文作成に役立つ資料と論議の進め方を学習する。英文の要旨の作成を行う。

### 【授業計画】

関連論文、総説を収集し理解し、随時まとめた原稿を討論の対象とし、論文にするための方法を考察する。卒業論文作成に役立つ資料と論議の進め方を学習する。英文の要旨の作成を行う。

### 【評価方法】

まとめた原稿を提出し、その内容と発表を以って評価し、学期の間の進歩を高く考慮する。出席とゼミ活動を含めた総合評価とする。

### 【テキスト】

特に定めません。日経サイエンスなどの科学雑誌に注目して下さい。

## 卒業論文ゼミⅠ

三和義秀

### 【授業の概要】

インターネット上の情報検索システムの仕組みやその応用技術を理解し、既存の情報検索システムの機能を評価しながら本質的な問題点を探る。具体的には、次の範囲内で各自の卒論テーマの決定、及び卒論執筆に向けての準備作業の指導を行う。

- (1)ハイパーテキストが応用されているシステム（CD-ROM百科事典、WWWなど）の機能の評価。
- (2)CGI（Common Gateway Interface）、またはJSP（Java Sever Pages）を採用してのサーバサイド・プログラミングによる情報検索システムの試作。
- (3)感性情報を対象とした検索システムの試作と評価。

### 【授業の目標】

インターネット上の情報検索システムの仕組みやその応用技術、及び感性情報検索の技術を理解し、サーバサイド・プログラミングのスキルを習得する。

### 【授業計画】

講義及びコンピュータを使った実習に進める。

### 【評価方法】

レポートにて評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 卒業論文ゼミⅠ

山崎茂明

### 【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。卒業論文テーマの明確化のために、関連文献の収集とレビューを行ない、調査対象の特定と方法について検討する。そして、論文発表と口頭発表のためのプレゼンテーション技法について学ぶ。

### 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

### 【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

### 【評価方法】

卒業論文、レポート。

### 【テキスト】

講義内容に関する基本文献を随時配付する。

## 卒業論文ゼミⅠ

村主朋英

### 【授業の概要】

卒業論文のための研究の準備を行う。

各自のテーマに関する基礎的な調査を通じて各自の問題意識を醸成する。

### 【授業の目標】

基礎的な調査を通じて各自の知識と問題意識とを深める。

### 【授業計画】

1. 仮テーマ決定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 事象の調査(基本的事項の把握)
4. 基本文献リスト(書誌)の作成

### 【評価方法】

平常点(出欠、課題の提出状況)、最終レポート

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版(丸善)

## 卒業論文ゼミⅡ

伊藤真理

### 【授業の概要】

3年次に設定した各自のテーマに従って、学術論文を作成するための指導を行う。履修者全員による発表・討議を通して研究を進め、卒業論文をまとめていく。

### 【授業の目標】

調査などを実施し、データを分析・評価することができる。

### 【授業計画】

3年次から継続している先行研究のレビューのまとめと批判的考察を行う。図書館情報学分野でのさまざまな調査方法について概説する。調査方法を把握した上で、各自のテーマに適切な調査などについて履修者全員で討議、検討する。

卒業論文の執筆に必要な論文作成方法について概説する。

### 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

### 【テキスト】

使用せず。

## 卒業論文ゼミⅡ

岡澤和世

### 【授業の概要】

現在既存の情報システムが利用者の多様な要求に応えられない理由を明らかにし、情報技術へのヒューマン・ファクターと人間工学の導入の必要性を指摘する。利用者を中心に据えた情報技術の方法と道具を考察する。ゼミの目的は変動の激しい情報環境に生きている私たち利用者が、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解能力（リテラシー）を習得し、活用する方法を考察することである。

#### <前期>

オリエンテーション：情報環境

1. 情報と知識を結ぶ鎖
2. 情報アクセス
3. 情報瞬間
4. 情報と文化の関係
5. 情報メディア
6. 書物の歴史
7. 図書館の役割
8. 情報と女性
9. レポートの書き方

#### <後期>

オリエンテーション：卒論について

1. 情報環境
2. 情報学の歴史
3. 情報過多現象
4. 人間工学
5. インターネット
6. 情報政策
7. 情報の要求と利用
8. 情報社会の展開過程
9. 将来の情報環境

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

前期は講義を中心に行なう。後期は各自の卒論テーマに従って解説する。

### 【評価方法】

レポート。卒業論文。出席回数。

### 【テキスト】

情報学講義ノート〈1〉(岡澤和世 敬文堂)

インフォ・リッチ：インフォ・ブア (Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997)

## 卒業論文ゼミⅡ

西荒井学

### 【授業の概要】

3年次履修科目である卒業論文ゼミⅠにおいて、各自が設定した卒業論文のテーマに従い、卒論指導を行う。

### 【授業の目標】

決められた卒論執筆要綱に準じ、決められた卒論提出期限に間に合うべく、各自の研究テーマに従い卒論卒論研究・作成作業を行う。

### 【授業計画】

- 1) 卒業論文タイトルの決定 (4月)
- 2) 卒論(章)の構成 (5月上旬)
- 3) 文献リスト作成 (5月下旬)
- 4) 卒論(節)の構成 (6月)
- 5) 1節分の論文執筆仮提出 (7月下旬)
- 6) 中間発表 (8月下旬～9月上旬)
- 7) 卒論仮提出 (11月中旬)
- 8) 卒論本提出 (12月中旬)

受講者各自が、卒論作成年間スケジュールに従い、それぞれ指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。受講者各自の卒論テーマに関する問題点について、受講者同士互いに発表、討論していくことにより、卒論完成に向けての相乗効果を図っていく。なお、中間発表は、夏期休暇中に合宿に行う場合もあるので、注意すること。

### 【評価方法】

卒論作成作業の進捗状況、報告内容などについても一部考慮しない訳ではないが、その大半は提出卒業論文の内容により評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 卒業論文ゼミⅡ

菅野育子

### 【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

### 【授業の目標】

研究目的に基づく調査の計画と実施。

### 【授業計画】

4年次からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。3年次で検討した既往研究も参考にしながら、調査方法を吟味した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

### 【評価方法】

研究への取り組みと卒業論文の内容から評価する。

### 【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

## 卒業論文ゼミⅡ

野添篤毅

### 【授業の概要】

3年後期に行った卒業論文ゼミⅠによって、絞り込まれた卒業研究のテーマに沿って調査・研究、論文作成の指導を行う。

### 【授業の目標】

卒業研究の完成を目指す。

### 【授業計画】

毎回、自己のテーマについてのレポートをまとめ、発表し、討論していく。

### 【評価方法】

ゼミへの参加度および毎回のレジュメ。

### 【テキスト】

その都度、指示する。

## 卒業論文ゼミⅡ

林 博司

### 【授業の概要】

卒業論文ゼミⅠの期間に各自が設定した研究テーマに基づき卒業論文を完成させる。そのために各自で文献の収集、データの整理、問題点の把握、論旨の展開を行う。このゼミでは、こうした作業の進行状況を随時報告し、他の構成員らから建設的な批判を受け、論文をより深いものとするを目的とする。

### 【授業の目標】

論文を書くために必要な実験、データ集めなどを行う。

### 【授業計画】

11月中旬までにドラフトが完成するよう、各学生に応じた方法で弾力的に指導する。

### 【評価方法】

各学生の積極性を重視し、楽しく学ぶ人を評価する。

### 【テキスト】

特に定めない。必要に応じて配布資料を教員が用意する。

## 卒業論文ゼミⅡ

三和義秀

### 【授業の概要】

各自の卒業研究のテーマに従った先行研究の紹介、その内容理解、及びシステム構築に必要なとなるプログラミング技術の指導を行う。

### 【授業の目標】

先行研究の内容の理解を深め、各自の研究の独創性について考察する。

### 【授業計画】

- (1) 各自の研究テーマに関連する先行研究文献の探索
- (2) 各自の研究テーマに即した個別指導
- (3) 各自の研究内容、及び進捗のプレゼンテーション

### 【評価方法】

卒業研究の中間発表にて評価する

### 【テキスト】

授業中に指示する

## 卒業論文ゼミⅡ

村主朋英

### 【授業の概要】

卒業論文のための研究過程に沿って指導する。

まず、図書館情報学の特徴および動向について整理・再確認する。つぎに、他分野を含む各自のテーマの関連主題領域を同定する。その上で、先行研究を網羅的に調査・分析し、テーマを明確化する。そして、研究方法を策定し、実質的な研究を開始する。

### 【授業の目標】

図書館情報学および各自のテーマの関連主題領域について、理解を深める。そして、研究動向を踏まえて各自のテーマを明確化し、研究方法について吟味する。

### 【授業計画】

1. 図書館情報学の特徴および動向
2. 関連主題領域の同定
3. 先行研究の分析、研究動向の把握
4. 問題設定
5. 研究方法の決定
6. プレゼンテーション（中間発表会）

### 【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）。

### 【テキスト】

使用せず。

## 卒業論文ゼミⅡ

山崎茂明

### 【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。4年次後期には、論文テーマについての文献レビューや調査データについて、さらに発表と討論を積み重ね卒業論文をまとめていきます。

### 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

### 【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

### 【評価方法】

卒業論文、レポート。

### 【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

## 卒業論文ゼミⅢ

伊藤真理

### 【授業の概要】

履修者各自で設定したテーマに従って、卒業論文を作成するための指導を行う。履修者はこれまでの発表・討議を通して進めてきた研究を論文としてまとめる。

### 【授業の目標】

収集および分析したさまざまな文献やデータを用いて、論理的で明解な記述ができる。

客観性と独自性を持った論文の作成ができる。

### 【授業計画】

卒業論文の文章表現法、執筆規程、引用などについて授業を行い、個別指導を中心として、論文作成を進める。

### 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

### 【テキスト】

使用せず。

## 卒業論文ゼミⅢ

岡澤和世

### 【授業の概要】

現在既存の情報システムが利用者の多様な要求に応えられない理由を明らかにし、情報技術へのヒューマン・ファクターと人間工学の導入の必要性を指摘する。利用者を中心に据えた情報技術の方法と道具を考察する。ゼミの目的は変動の激しい情報環境に生きている私たち利用者が、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解能力（リテラシー）を習得し、活用する方法を考察することである。

#### <前期>

オリエンテーション：情報環境

1. 情報と知識を結ぶ鎖
2. 情報アクセス
3. 情報瞬間
4. 情報と文化の関係
5. 情報メディア
6. 書物の歴史
7. 図書館の役割
8. 情報と女性
9. レポートの書き方

#### <後期>

オリエンテーション：卒論について

1. 情報環境
2. 情報学の歴史
3. 情報過多現象
4. 人間工学
5. インターネット
6. 情報政策
7. 情報の要求と利用
8. 情報社会の展開過程
9. 将来の情報環境

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

前期は講義を中心に行なう。後期は各自の卒論テーマに従って解説する。

### 【評価方法】

レポート。卒業論文。出席回数。

### 【テキスト】

情報学講義ノート〈3〉(岡澤和世 敬文堂)

インフォ・リッチ：インフォ・ブア (Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997)

## 卒業論文ゼミⅢ

菅野育子

### 【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

### 【授業の目標】

調査結果の分析・考察を通して、卒業論文を完成させ、卒業論文発表会で研究内容を発表すること。

### 【授業計画】

4年次からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。3年次で検討した既往研究も参考にしながら、調査方法を吟味した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

### 【評価方法】

研究への取り組みと卒業論文の内容から評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 卒業論文ゼミⅢ

西荒井学

### 【授業の概要】

3年次履修科目である卒業論文ゼミⅠにおいて、各自が設定した卒業論文のテーマに従い、卒論指導を行う。

### 【授業の目標】

決められた卒論執筆要綱に準じ、決められた卒論提出期限に間に合うべく、各自の研究テーマに従い卒論卒論研究・作成作業を行う。

### 【授業計画】

- 1) 卒業論文タイトルの決定 (4月)
- 2) 卒論(章)の構成 (5月上旬)
- 3) 文献リスト作成 (5月下旬)
- 4) 卒論(節)の構成 (6月)
- 5) 1節分の論文執筆仮提出 (7月下旬)
- 6) 中間発表 (8月下旬～9月上旬)
- 7) 卒論仮提出 (11月中旬)
- 8) 卒論本提出 (12月中旬)

受講者各自が、卒論作成年間スケジュールに従い、それぞれ指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。受講者各自の卒論テーマに関する問題点について、受講者同士互いに発表、討論していくことにより、卒論完成に向けての相乗効果を図っていく。なお、中間発表は、夏期休暇中に合宿にて行う場合もあるので、注意すること。

### 【評価方法】

卒論作成作業の進捗状況、報告内容などについても一部考慮しない訳ではないが、その大半は提出卒業論文の内容により評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 卒業論文ゼミⅢ

野添篤毅

### 【授業の概要】

3年後期に行った卒業論文ゼミⅠによって、絞り込まれた卒業研究のテーマに沿って調査・研究、論文作成の指導を行う。

### 【授業の目標】

卒業論文の完成を目指す。

### 【授業計画】

毎回、自己のテーマについてのレポートをまとめ、発表し、討論していく。

### 【評価方法】

ゼミへの参加度および毎回のレジュメ。

### 【テキスト】

その都度、指示する。

## 卒業論文ゼミⅢ

林博司

### 【授業の概要】

卒業論文ゼミⅠの期間に各自が設定した研究テーマに基づき卒業論文を完成させる。そのために各自で文献の収集、データの整理、問題点の把握、論旨の展開を行う。このゼミでは、こうした作業の進行状況を随時報告し、他の構成員らから建設的な批判を受け、論文をより深いものとするを目的とする。

### 【授業の目標】

卒業論文を書き上げる。

### 【授業計画】

11月中旬までにドラフトが完成するよう、各学生に応じた方法で弾力的に指導する。

### 【評価方法】

各学生の積極性を重視し、楽しく学ぶ人を評価する。

### 【テキスト】

特に定めない。必要に応じて配布資料を教員が用意する。

## 卒業論文ゼミⅢ

三和義秀

### 【授業の概要】

卒業研究を完成するために、各自のテーマに従った先行研究の理解を深め、システム構築のためのプログラミング、及び卒業論文の執筆を行う。

### 【授業の目標】

卒業研究のためのプログラミング、及び論文執筆を完了する。

### 【授業計画】

- (1) 各自の研究テーマに即した個別指導
- (2) 研究の進捗に関するプレゼンテーション
- (3) 卒業論文の執筆要領の指導

### 【評価方法】

卒業論文にて評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 卒業論文ゼミⅢ

村主朋英

### 【授業の概要】

卒業論文のための研究過程に沿って指導する。  
研究計画を実施に移す。そこで得られた成果を分析・考察する。最後に、研究全体の過程を整理し、卒業論文を企画・執筆する。

### 【授業の目標】

計画的に作業を進め、得られた成果を厳正に分析・考察する。そして、成果を過不足なく表現した論文を構築する。

### 【授業計画】

1. 研究計画の実施
2. 研究成果の分析・考察
3. 論文の企画・執筆

### 【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）。

### 【テキスト】

使用せず。

## 卒業論文ゼミⅢ

山崎茂明

### 【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。4年次後期には、論文テーマについての文献レビューや調査データについて、さらに発表と討論を積み重ね卒業論文をまとめていきます。

### 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

### 【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

### 【評価方法】

卒業論文、レポート。

### 【テキスト】

講義内容に関する基本文献を随時配付する。

## 図書館情報学特殊演習Ⅰ

伊藤真理

### 【授業の概要】

インターネットが普及している今日の環境において、情報の組織化（メタデータ）とその利用の意義について理解を深めることを目的とする。人文社会科学分野の電子情報資源を対象として、メタデータ作成およびその提供や利用について検討する。

### 【授業の目標】

メタデータについてのさまざまな用語を理解し、ダブリン・コアフォーマットを用いてメタデータの作成ができる。

### 【授業計画】

3年次では、電子情報資源の組織化に関する基礎的な知識の習得を中心とする。前半はメタデータの種類や特徴、電子情報資源を対象とした様々な記述フォーマットについての基礎知識を学び、後半はメタデータやメタデータを利用したシステムなどの事例に関する文献を読み、理解を深める。

### 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 図書館情報学特殊演習Ⅰ

岡澤和世

### 【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。  
今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

- オリエンテーション：情報環境
1. 情報環境とニューメディア
  2. 情報メディア
  3. 情報アクセス
  4. 情報不均衡
  5. 情報と知識を結ぶ鎖
  6. 記憶と情報
  7. ニューラル・ネットワーク
  8. 言語と会話
  9. 書物の歴史
  10. 女性と情報
  11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
  12. 情報の質
  13. 情報過多
  14. 情報と文化の関係
  15. 情報と漫画
  16. 情報と広告
  17. 情報とテレビ
  18. 情報の一極集中化
  19. 社会変化
  20. 情報社会の展開過程と現状

### 【評価方法】

小論文と出席日数。

### 【テキスト】

情報学講義ノート〈1〉（岡澤和世 敬文堂）  
インフォ・リッチ：インフォ・プア（Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997）

## 図書館情報学特殊演習Ⅰ

菅野育子

### 【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員でガイドを共同作成する。ガイド作成は以下のような段階で行なう。

- (1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- (2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジュメと口頭で発表する
- (3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- (4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- (5) ガイドの構成やレイアウトを検討する
- (6) ガイドに採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査を行なう

### 【授業の目標】

図書館や博物館の動向を文献講読から理解すること。

### 【授業計画】

3年次の半期間は、ガイド作成のための基礎知識をゼミ生全員で共有するために、文献の探索、講読、口頭発表を繰り返す。それと同時に、ガイドの構成や内容についてコンセンサスを得るために話し合いを定期的に行なう。ゼミの最終週には、次年度に向けての計画について報告会を開く。

### 【評価方法】

ゼミ活動への取り組みと発表内容から評価する

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 図書館情報学特殊演習 I

西荒井学

### 【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

### 【授業の目標】

各自が設定したシステム構築に必要な開発ツール、すなわちプログラム言語やアプリケーション・ソフトウェアに関する、より高度な知識の習得と基本設計までを実技を通して理解していく。

### 【授業計画】

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報教育センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合においては、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。また、4年次での卒業制作に関する中間発表は、卒業論文ゼミ学生と合同で実施するゼミ合宿（2泊3日）の場にて行う場合がある。

### 【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 図書館情報学特殊演習 I

三和義秀

### 【授業の概要】

インターネット上の情報検索システムの仕組みやその応用技術を理解し、既存の情報検索システムの機能を評価しながら本質的な問題点を探る。

具体的には、次の範囲内で各自の卒論テーマの決定に関わる指導を行う。

- (1) ハイパーテキストが応用されているシステム（CD-ROM百科事典、WWWなど）の機能の評価。
- (2) CGI (Common Gateway Interface)、またはJSP (Java Sever Pages) を採用してのサーバサイド・プログラミングによる情報検索システムの試作。
- (3) 感性情報を対象とした検索システムの試作と評価。

### 【授業の目標】

インターネット上の情報検索システムの仕組みやその応用技術、及び感性情報検索の技術を理解し、サーバサイド・プログラミングのスキルを習得する。

### 【授業計画】

講義及び実習で進める。

### 【評価方法】

レポートにて評価する

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 図書館情報学特殊演習 I

林 博司

### 【授業の概要】

生命現象の中心である自己複製、種の多様化、環境への適応等の現象を司っている情報を収集・整理・分析・評価するための手法を学習する。自然科学のレビュー誌、紹介記事等を元にデータベースの構築をする為の基礎を研究する。資料は国内紙に留めず英文のバイオ関係科学誌からも取り入れる。4年生時の特殊演習のための基礎を作る。

邦文・英文の生命科学雑誌・学術雑誌・レビュー誌の紹介。

現在の論文検索システムの紹介とその利用。

キーワードに依る検索とキーワードの設定。

遺伝子・ゲノム・タンパク質分子の機能等のデータベースの紹介。

遺伝情報の解読・セントラルドグマ等の理解。

古典進化学と分子進化の理解。

演習では情報の作成・情報の伝達等について広範な知識を習得し、それを基に、情報の整理と利用度の拡張・新方式の作成を行う為の基礎作りをする。そのために、これまでの講義の内容の復習も取り入れる。

### 【授業の目標】

仲間作り、議論、協議ができるようにする。

### 【授業計画】

講義以外は演習室を利用し、可能な限り実際のプロセスを楽しんでもらう。その為に文献を読む・整理する等に力を注ぐ。

### 【評価方法】

レポート、出席状況、論文・レビュー等の内容の把握努力で評価する。

意見の発表の頻度・内容を評価対象とする。

### 【テキスト】

特に定めない。

## 図書館情報学特殊演習 I

村主朋英

### 【授業の概要】

村主特演ゼミでは、歴史情報を用いた演習を行なう。個別テーマごとに、種々の情報源を活用した歴史の探求を行なう。

各自の研究テーマは、情報に関わる事項にとどまらず、科学技術・哲学・文学・芸術・芸能・音楽、また教育や法律など、人間の生活や社会活動に関わる任意の事象の中から、各自の意思にもとづいて決める。

3年次においては、辞典・事典等のレファレンスブックの調査を通じ、予備知識・基礎知識をかため、問題意識を育むための作業を行う。

### 【授業の目標】

各自の研究テーマについて、予備知識・基礎知識をかため、問題意識を育む。

### 【授業計画】

1. テーマの設定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 事象の調査(基本的事項の把握)
4. 基本文献リスト(書誌)の作成

### 【評価方法】

平常点(出欠、課題の提出状況)、最終報告書。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版(丸善)

## 図書館情報学特殊演習 I

山崎茂明

### 【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心とした未来論的アプローチ、レフェリーシステムに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。ゼミ参加者は情報学Ⅲ（科学コミュニケーション）と情報メディア論Ⅴ（科学技術情報）を履修し、そこで話されている内容に興味ある方が適切です。

3年時には、執筆、投稿、審査、編集、流通といったプロセスを、著名な総合科学雑誌NATURE誌を例にして、その歴史的な発展や電子化への取り組み、ニュースメディアとの関係、記事の種類と役割など、具体的に取あげます。また、レフェリーシステムの役割をロールプレイにより体験し、信頼性の高い学術情報がいかに形成されているかを理解してみましょう。実際に多くの学術雑誌を手に触れながら、どのような人が、どんな目的で発表し、読んでいるのか、科学研究世界への想像力を持って取り組みたい。

### 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

### 【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としたい。そのために、基本文献の概要と動向のまとめ（文献レビュー）、論文のまとめかたと会議でのプレゼンテーション（PowerPoint実習を含む）など、調査と発表のための基礎知識もとりあげます。

### 【評価方法】

総合研究報告、レポート。

### 【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

## 図書館情報学特殊演習 II

岡澤和世

### 【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

- オリエンテーション：情報環境
1. 情報環境とニューメディア
  2. 情報メディア
  3. 情報アクセス
  4. 情報不均衡
  5. 情報と知識を結ぶ鎖
  6. 記憶と情報
  7. ニューラル・ネットワーク
  8. 言語と会話
  9. 書物の歴史
  10. 女性と情報
  11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
  12. 情報の質
  13. 情報過多
  14. 情報と文化の関係
  15. 情報と漫画
  16. 情報と広告
  17. 情報とテレビ
  18. 情報の一極集中化
  19. 情報倫理
  20. 情報社会の展開過程と現状

### 【評価方法】

出席とレポート。

### 【テキスト】

情報学講義ノート〈2〉（岡澤和世 敬文堂）  
インフォ・リッチ：インフォ・プア（Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997）

## 図書館情報学特殊演習 II

伊藤真理

### 【授業の概要】

3年次に習得した電子情報資源の組織化（メタデータ）に関する知識を応用しながら、その利用・提供について考察する。各自（個人又はグループ）で特定のテーマを選び、メタデータの効果的な利用について学ぶ。

### 【授業の目標】

既存のメタデータプロジェクトやシステムについて理解し、それらのシステムにおけるメタデータの活用について把握し、批判的に考察ができるようになる。また、履修者自身でテーマ設定を行い、研究方法を検討する能力を養う。

### 【授業計画】

メタデータの利用・提供についてさまざまな事例を収集し、比較検討を行う。その考察を基にして、各自のプロジェクトのテーマの選定や研究方法を決定する。

### 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

### 【テキスト】

使用せず。その都度指定する。

## 図書館情報学特殊演習 II

菅野育子

### 【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員でガイドを共同作成する。ガイド作成は以下のような段階で行なう。

- (1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- (2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジメと口頭で発表する
- (3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- (4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- (5) ガイドの構成やレイアウトを検討する
- (6) ガイドに採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査を行なう
- (7) 作成したガイドを公表し、第三者による評価を行なう

### 【授業の目標】

研究テーマを決定し、関連する文献の収集や取材活動を行い、テーマに関する情報を収集し、理解し、文章化すること。

### 【授業計画】

3年次に講読した文献からのデータも参考にしながら、前半は取材活動を中心に行なう。この間も、文献の探索・講読や、ガイドの構成・内容についての話し合いを継続する。ガイド作成後は、第三者によるガイド評価を行ない、その結果も含めた最終報告書を作成する。

### 【評価方法】

ゼミ活動への取り組みとガイドの内容から評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 図書館情報学特殊演習Ⅱ

西荒井学

### 【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、その内容を演習形式で学習していく。

### 【授業の目標】

各自が設定したシステム構築に必要な一連のシステム開発作業を展開し、最終的にシステム評価までを実施することにより、具体的にシステム開発における問題点や課題を理解していく。なお同時に、システム開発作業を実施していく中で、各自のシステム開発作業に使用している開発ツールの有用性や操作性などについても併せて検討し、理解を深めていく。

### 【授業計画】

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報教育センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

### 【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 図書館情報学特殊演習Ⅱ

林 博司

### 【授業の概要】

3年後期に引き続き、生命科学を中心とした、自然科学情報のデータベース作成を目指す。階層構造の構成から、データのコンポーネントまで全員で検討し、わかりやすく、楽しく、役に立つデータベースの構築を成し遂げる。

### 【授業の目標】

制作のためのデータを収集する。

### 【授業計画】

目的を達成するために必要な指導を構成員のニーズに合わせて弾力的に展開する。

### 【評価方法】

各学生の作業への関わり方を総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて手交する。

## 図書館情報学特殊演習Ⅱ

野添篤毅

### 【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野における学術情報資源を探すための種々の手段（マニュアル、オンライン、インターネット）、デジタル化されたツールについて演習形式で学んでいく。

取りあげるテーマとしては、

- a. インターネットでアクセスできる生物医学関係の情報資源の調査・分析・評価（4年前期）
- b. インターネットによる情報発信の実習（ホームページの作成など）（4年後期）

など、を予定している。インターネットを使用するので情報科学教育センターでIDを取得すること。

### 【授業の目標】

デジタル情報資源の評価方法を学ぶ。

### 【授業計画】

上記のテーマについて演習を行い、レポートをまとめる。また、PowerPointなどを使って演習成果の発表会を各学期末に行う予定。

### 【評価方法】

演習への参加度およびレポート、発表会。

### 【テキスト】

その都度、指示する。

## 図書館情報学特殊演習Ⅱ

三和義秀

### 【授業の概要】

各自の研究テーマに関する先行研究を探索し、その内容を理解しながら、システム構築のためのプログラミングを行う。

### 【授業の目標】

卒業研究の具体的な方法を決定し、サーバサイド・プログラミングの技法を習得する。

### 【授業計画】

- (1) 各自の研究テーマに関連する先行研究文献の探索
- (2) 各自の研究テーマに即した個別指導
- (3) 各自の研究内容、及び進捗のプレゼンテーション

### 【評価方法】

レポートにて評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 図書館情報学特殊演習Ⅱ

村主朋英

### 【授業の概要】

3年次に引続き、歴史情報に関わる演習（卒業研究）を進める。

まず、各自のテーマに関する年表の作成に取り組む。多数の項目を設定し、広範囲の事象を有機的に組み合わせた年表をつくることを目指す。つぎに、それまでの調査を通じて生じた疑問点・関心事項について検討し、それをもとにテーマを明確化する。

### 【授業の目標】

質が高く、有意義な年表をつくる。また、テーマに関わる問題状況の掘り下げを通じて問題意識を深め、テーマを明確化する。

### 【授業計画】

1. 年表の計画
2. 年表のためのデータ収集
3. 年表の編集・調整
4. 問題の分析と仮説の設定
5. プレゼンテーション（テーマ概要発表）

### 【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）

### 【テキスト】

使用せず。

## 図書館情報学特殊演習Ⅱ

山崎茂明

### 【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心とした未来論的アプローチ、レフェリーシステムに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。4年次には、個人やグループで特定テーマを設定し、最終的には「特殊演習報告書、総合研究：学術雑誌」としてまとめることを目標にして、調査と発表をおこなっていきます。

### 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

### 【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としたい。文献検討だけでなく、訪問調査、見学なども取り入れ、実践的に考えていきたい。

### 【評価方法】

総合研究報告、レポート。

### 【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

## 図書館情報学特殊演習Ⅲ

伊藤真理

### 【授業の概要】

3年次に習得した電子情報資源の組織化（メタデータ）に関する知識を応用しながら、その利用・提供について考察する。各自（個人又はグループ）で特定のテーマを選び、メタデータの効果的な利用について学ぶ。

### 【授業の目標】

各自で決定したテーマの研究目的を達成するための方法を実践できる能力を養う。

### 【授業計画】

特殊演習Ⅱで決定したテーマや研究方法に基づいて、電子情報資源を対象としてメタデータを利用したレファレンスツールの作成を行う。

### 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

### 【テキスト】

使用せず。その都度指定する。

## 図書館情報学特殊演習Ⅲ

岡澤和世

### 【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報と漫画
16. 情報と広告
17. 情報とテレビ
18. 情報の一極集中化
19. 情報倫理
20. 情報社会の展開過程と現状

### 【評価方法】

出席とレポート。

### 【テキスト】

情報学講義ノート〈3〉（岡澤和世 敬文堂）

インフォ・リッチ：インフォ・プア（Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997）

## 図書館情報学特殊演習Ⅲ

菅野育子

### 【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員でガイドを共同作成する。ガイド作成は以下のような段階で行なう。

- (1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- (2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジュメと口頭で発表する
- (3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- (4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- (5) ガイドの構成やレイアウトを検討する
- (6) ガイドに採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査を行なう
- (7) 作成したガイドを公表し、第三者による評価を行なう

### 【授業の目標】

研究テーマに関する情報をWebサイトや冊子体の資料としてまとめ、他者からの評価を得て完成させ、発表会で活動報告と製作した資料を公開すること。

### 【授業計画】

3年次に講読した文献からのデータも参考にしながら、前半は取材活動を中心に行なう。この間も、文献の探索・講読や、ガイドの構成・内容についての話し合いを継続する。ガイド作成後は、第三者によるガイド評価を行ない、その結果も含めた最終報告書を作成する。

### 【評価方法】

ゼミ活動への取り組みとガイドの内容から評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 図書館情報学特殊演習Ⅲ

野添篤毅

### 【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野における学術情報資源を探すための種々の手段（マニュアル、オンライン、インターネット）、デジタル化されたツールについて演習形式で学んでいく。

取りあげるテーマとしては、

- a. インターネットでアクセスできる生物医学関係の情報資源の調査・分析・評価（4年前期）
- b. インターネットによる情報発信の実習（ホームページの作成など）（4年後期）

など、を予定している。インターネットを使用するので情報科学教育センターでIDを取得すること。

### 【授業の目標】

デジタル情報資源による情報の合成を試みる。

### 【授業計画】

上記のテーマについて演習を行い、レポートをまとめる。また、PowerPointなどを使って演習成果の発表会を各学期末に行う予定。

### 【評価方法】

演習への参加度およびレポート、発表会。

### 【テキスト】

その都度、指示する。

## 図書館情報学特殊演習Ⅲ

西荒井学

### 【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

### 【授業の目標】

各自が設定したシステム構築に必要な一連のシステム開発作業を展開し、最終的にシステム評価までを実施することにより、具体的にシステム開発における問題点や課題を理解していく。なお同時に、システム開発作業を実施していく中で、各自のシステム開発作業に使用している開発ツールの有用性や操作性などについても併せて検討し、理解を深めていく。

### 【授業計画】

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報教育センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

### 【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 図書館情報学特殊演習Ⅲ

林博司

### 【授業の概要】

3年後期に引き続き、生命科学を中心とした、自然科学情報のデータベース作成を目指す。階層構造の構成から、データのコンポーネントまで全員で検討し、わかりやすく、楽しく、役に立つデータベースの構築を成し遂げる。

### 【授業の目標】

作品の完成を目指す。

### 【授業計画】

目的を達成するために必要な指導を構成員のニーズに合わせて弾力的に展開する。

### 【評価方法】

各学生の作業への関わり方を総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて手交する。

## 図書館情報学特殊演習Ⅲ

三和義秀

### 【授業の概要】

各自の研究内容に即したシステムの設計、及びプログラミングを行う。

### 【授業の目標】

卒業レポートを完成する。また、各自の研究内容（システム）や方法について評価を行う。

### 【授業計画】

- (1) 各自の研究テーマに即した個別指導
- (2) 研究の進捗に関するプレゼンテーション
- (3) 卒業レポートの執筆要領の指導

### 【評価方法】

レポートにて評価。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 図書館情報学特殊演習Ⅲ

村主朋英

### 【授業の概要】

IおよびIIに引続き、歴史情報に関わる演習（卒業研究）を進める。IIにおいて明確化したテーマについて、情報源を探索し、得られる情報の分析を通じて課題の解決を進める。そして、研究の成果をまとめ、中間発表会と最終レポートの二つの形で表現する。

### 【授業の目標】

各自のテーマに関する研究を深め、成果をまとめて発表する。また、それら一連の作業を通じ、歴史情報を用いた問題解決について学ぶ。

### 【授業計画】

1. 情報源の網羅的探索
2. 情報源から得られる情報の分析・総合
3. 問題の解決
4. プレゼンテーション（中間発表、最終報告書）

### 【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終報告書

### 【テキスト】

使用せず。

## 図書館情報学特殊演習Ⅲ

山崎茂明

### 【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心とした未来論的アプローチ、レフェリーシステムに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。4年次には、個人やグループで特定テーマを設定し、最終的には「特殊演習報告書、総合研究：学術雑誌」としてまとめることを目標にして、調査と発表をおこなっていきます。

### 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

### 【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としたい。文献検討だけでなく、訪問調査、見学なども取り入れ、実践的に考えていきたい。

### 【評価方法】

総合研究報告、レポート。

### 【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

## プラクティカルイングリッシュ

山崎茂明

### 【授業の概要】

図書館員や情報専門家として働くときに必要と思われる英文資料や情報源を教材として取りあげ、読解力と背景となる事象へのアプローチを学ぶ。職業人として求められる身近な英語の文章を読んでいく。

### 【授業の目標】

海外の情報機関や情報専門家を訪問し、インターネットを通して必要な情報や知識を獲得し、広い視点で働くための基礎能力を育成する。

### 【授業計画】

辞書を引く、人と会う（名刺を読む）、図書館訪問（手紙、電子メール）、Bethesda公共図書館、Enoch Pratt Free Library、米国議会図書館、米国の医学図書館、図書館の組織とサービス、求職情報からみた図書館、ケネディ記念倫理研究所図書館の活動、書評を読むなど。参加者は、必ず英和辞典を持参すること。時間内での英訳や自宅での課題など予定している。

### 【評価方法】

訳読レポート、試験。

### 【テキスト】

課題文や資料を随時配付する。

## プロフェッショナルリーディング

村主朋英

### 【授業の概要】

専門的な外国語文献の効果的・効率的な読解・利用のための技能を養う科目である。主に、英米の情報学・図書館学のレファレンスブック・専門書・学術論文を題材とする。

専門的な文献ほど形式が整っており、また和文よりも英文の方が一般に明晰な文章が多い。また、専門用語を覚えれば覚えるほど、それに比例して専門的な文献は読みやすくなる。この授業では、演習を通じ、そうした点を応用した読解技法を追求する。

演習を中心に進める。(翻訳・要約などの作業課題を課する)

### 【授業の目標】

コツさえわかれば専門的な外国語文献は大変に読みやすいメディアであることを体感し、読み解くことの楽しさを覚えてほしい。

なお、演習を中心とし、平常点を重視するので、がんばってください。

### 【授業計画】

1. 論文の流れの掴み方  
文章の構造的・効率的な読解のテクニック/専門用語を憶えることの意義
2. 演習(1): 短文全訳で腕試し
3. 演習(2): 文脈のわかっている英文の読解
4. 演習(3): 長文の斜め読み
5. 演習(4): 異なる専門分野の英文
6. レジュメの作り方  
レジュメの要件/レジュメ作成演習

### 【評価方法】

以下の三つを組み合わせる。

- (1) 平常点 (出欠および宿題の提出状況)
- (2) 試験 (情報関連の専門用語、短文読解)
- (3) レポート (外国語論文を読んでレジュメを作成)

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善)

その他、各自英和辞典を持参すること。

## 情報学II (生命情報増幅)

林 博司

### 【授業の概要】

生命は多くの情報システムによって支えられている。ここでは後天的な情報システムである脳神経系の情報処理について学ぶ。

- 1: 脳科学の歴史
- 2: 脳の構造と機能
- 3: 神経細胞の成り立ちと神経回路
- 4: 脳の可塑性
- 5: 記憶のメカニズム
- 6: 意識・感情についての理解
- 7: 感覚系の進化
- 8: 情報とは何か

### 【授業の目標】

脳神経系の作動機構を理解し、コンピュータによる情報処理との異同を理解する。

### 【授業計画】

体験的、視聴覚的に学ぶ。

### 【評価方法】

出席率、発言、レポートなどを基に総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

情報生物学入門(鈴木英雄他著 培風館 2,427円)

## 情報学I (生命情報増幅)

林 博司

### 【授業の概要】

生命は多くの情報システムによって支えられている。原始生命以来存在する先天的な遺伝情報系について学ぶ。

- 1: 地球の誕生と生命の起源
- 2: 遺伝子とは何か
- 3: 核酸の構造と遺伝暗号
- 4: 遺伝情報の伝達と発現
- 5: タンパク質の構造と機能
- 6: 情報発現の制御機構
- 7: 遺伝子像の変遷
- 8: 遺伝子による生命現象の支配
- 9: 遺伝情報系と言語情報系

### 【授業の目標】

遺伝情報系のもつ情報システムとしての特異性を理解する。

### 【授業計画】

体験的、視聴覚的に学ぶ。

### 【評価方法】

出席率、発言、レポートなどを基に総合的に評価する。

## 情報学III (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

### 【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関(歴史の流れ)を取組む。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

### 【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション(Vickery著 税別定価3,800円)  
図書館情報学用語辞典(丸善)

## 情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

### 【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取る。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

### 【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代（1）学術情報流通システムの成立
2. #（2）知の環境化（百科事典、国立図書館、公共図書館）
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（Vickery 著 勁草書房）  
図書館情報学用語辞典（丸善）

## 情報処理概説Ⅰ（情報技術基礎Ⅰ）

### 【授業の概要】

情報処理に必要なコンピュータのハードウェアおよびソフトウェアに関する基礎知識の習得、ならびに情報処理機器の基本操作、技法をコンピュータ実習に重点を置きながら習得していく。特に、コンピュータ技術は日進月歩の勢いで変化してきているが、その原理・原則には不変、かつ共通している部分が少なくない。本授業では、情報のコンピュータ内部表現、コンピュータの基本機能など、ハードウェアならびにソフトウェアにおいて普遍的なコンピュータ技術基盤に焦点を絞って学習していく。

### 【授業の目標】

キーボード操作をはじめ日本語文書作成など、最も基礎的な操作技術習得を図ると共に、コンピュータ操作技術のみならず情報技術に関連する基礎的な知識を身に付ける。

### 【授業計画】

- 1) コンピュータの歴史的発展過程
- 2) 情報の表現と情報単位（1）
- 3) 情報の表現と情報単位（2）
- 4) コンピュータの仕組
- 5) キー・タイピング練習：実習
- 6) 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア
- 7) 基本ソフトウェアの操作・実習
- 8) 応用ソフトウェアの操作：ワープロ・ソフト基礎実習
- 9) 応用ソフトウェアの操作：ワープロ・ソフト応用実習
- 10) ネットワークの利用（電子メール）：実習
- 11) ネットワークの利用（WWW）：実習
- 12) 情報処理方式とシステム形態
- 13) 計測・制御システムの機能と特徴
- 14) 情報構造（ファイルとデータベース）
- 15) 情報処理技術の応用分野と今後の情報処理

講義と情報教育センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

### 【評価方法】

学期末試験ならびにコンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

情報技術基礎Ⅰ（西荒井学、三和義秀、小林久恵著 共立出版）

## 情報学Ⅴ（科学コミュニケーション）

山崎茂明

### 【授業の概要】

現在社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、そこで発生するコミュニケーションの実態を、情報メディアと研究者に着目して、具体的な事例をもとに検討したい。とくに、科学研究の不正行為に焦点をあて、科学コミュニケーションの生態と機能を明らかにし、全体像への理解を試みる。

1. 科学研究の目的
2. 研究資金、研究者、成果としての学術論文
3. 17-21世紀の科学研究
4. 科学は信頼されているか
5. 科学研究の不正行為
6. 不正行為の生態
7. 日本における事例
8. 海外での事例
9. 主要国における対応
10. レフェリースystemと不正行為
11. 学術論文の撤回と不正行為
12. 雑誌編集者の役割
13. 信頼できる科学コミュニケーションの確立

### 【授業の目標】

科学コミュニケーションの世界を実態として理解し、批判的にアプローチできる能力を育成する。

### 【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

### 【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

### 【テキスト】

科学者の不正行為（山崎茂明 丸善）

### 【参考文献・資料】

青信の科学者たち（Broad, W.他 化学同人）  
ORI研究倫理入門（Steneck, N. 丸善）  
アメリカの研究費とNIH（白楽ロックビル 共立出版）  
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明 中外医学社）  
論文投稿のインフォマティクス（山崎茂明 中外医学社）  
研究評価（根岸正光・山崎茂明 丸善）  
科学技術白書（<http://www.wpi.go.jp/>）

## 情報処理概説Ⅱ（情報技術基礎Ⅱ）

### 【授業の概要】

情報処理技術におけるソフトウェアの意義、ならびに有用性について、基礎的なプログラミング実習を通して、必要な基礎知識を習得していく。また、パッケージ系ソフトウェアとユーザー・ジョブ・プログラムの本質的な相違点を理解すると共に、ソフトウェア開発の本質的意義、および基本的な技法について学習していく。

なお、プログラミング実習については、VB（Visual Basic）を使用することから、VBの特徴、機能等についても併せて触れていく。

### 【授業の目標】

ソフトウェアの発展経緯や各種ソフトウェアの違いを正しく理解すると共に、ソフトウェアの応用方法を習得する。また、プログラミングの基礎技術を習得する。

### 【授業計画】

- 1) 開発系ソフトウェアの種類と歴史
- 2) パッケージ系ソフトとユーザー・ソフト
- 3) 表計算ソフトウェア基礎：実習
- 4) 表計算ソフトウェア応用：実習
- 5) プレゼンテーション・ソフト：実習
- 6) 情報処理ステップ
- 7) プログラム開発基礎手順（問題解析、開発）
- 8) VB（Visual Basic）の特徴と機能
- 9) プログラミングの前に、VBの起動、操作：実習
- 10) 演算処理、プロジェクトの保存／呼び出し：実習
- 11) 判断分岐、繰り返し処理：実習
- 12) 関数の利用、配列：実習
- 13) モジュールの追加、変数の共有：実習
- 14) VBアプリケーション開発練習1：実習
- 15) VBアプリケーション開発練習2：実習

講義と情報教育センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

### 【評価方法】

学期末試験ならびにコンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

未定

## ネットワークリテラシ（ネットワーク技術入門）

### 【授業の概要】

情報社会を形成する重要な社会技術のひとつであるネットワーク技術について、その機能の有用性と脆弱性を主に実習を積み重ねながら習得していく。特に、現在の重要な情報基盤であるインターネット環境に焦点を当て、情報の発信に際しての操作・作成技法を学習する。操作技法については、電子メールおよびWWW（World Wide Web）での応用操作技術、ならびに作成方法については、WWW上でのホームページを効果的に作成・運用していく技術、CGIプログラミングを通してのネットワーク構築、およびセキュリティ技術を本授業の中心課題とする。

なお、授業内容に準じて、ネットワーク技術利用の意義、作成する情報コンテンツに対する配慮や心構え、および情報倫理、セキュリティの問題についても触れていく。

### 【授業の目標】

コンピュータネットワークの意義、機能、及び技術動向を理解し、ユビキタス社会で活用できるネットワーク・リテラシーを身につける。

### 【授業計画】

- 1) コンピュータ技術とネットワーク技術の概要
- 2) インターネット環境の基礎
- 3) 電子メールの応用操作技術（1）：実習
- 4) 電子メールの応用操作技術（2）：実習
- 5) WWWの応用操作技術：実習
- 6) Webページの基本構造とHTMLタグ
- 7) Webページの作成（HTMLの記述1）：実習
- 8) Webページの作成（HTMLの記述2）：実習
- 9) Webページの作成（画像の貼り付け）：実習
- 10) CGIの仕組みと機能
- 11) CGIプログラミング（プログラミングの手順）：講義
- 12) CGIプログラミング（基本文法）：講義
- 13) CGIプログラミング（ネットワーク構築技術）：講義
- 14) CGIプログラミング（セキュリティ技術）：講義
- 15) まとめ（情報発信の意義と責任）

### 【評価方法】

出席回数、課題（プログラミング）、および定期試験により評価を行う

### 【テキスト】

ネットワークリテラシ ―ユビキタス社会におけるネットワーク活用のテクニック―  
（三和義秀 共立出版）

## プログラミング実習

三和義秀

### 【授業の概要】

プログラミングは、単なる机上の問題として理解していくことだけでは、残念ながら、真の意味での理解には繋がらない。本授業では、C言語とJavaを用いて、実際に手続き指向、並びにオブジェクト指向のプログラミング実習を重ねていくことにより、プログラミングの基礎能力を養うと共に、プログラミングの本質を理解していく。

提示するプログラミング実習課題に関して、問題の解析から最終的なコーディングに至るまでの一連の作業を繰り返していくことにより、基本的なプログラミング・テクニックを習得していく。なお、実習課題を解決するために必要な処理の概要ならびに技術的な問題については、適宜、補足的に説明していくこととする。

### 【授業の目標】

アルゴリズムの発想力とプログラミングの基礎スキルを身につける。

### 【授業計画】

- 1) プログラム制御（1）
- 2) プログラム制御（2）
- 3) プログラム制御（3）
- 4) 配列の考え方
- 5) 配列の処理（一次元）
- 6) 配列の処理（多次元）
- 7) アルゴリズムとプログラミング（1）
- 8) アルゴリズムとプログラミング（2）
- 9) アルゴリズムとプログラミング（3）
- 10) C言語による関数設計（1）
- 11) C言語による関数設計（2）
- 12) Javaによるクラス設計（1）
- 14) Javaによるクラス設計（2）
- 15) Javaによるクラス設計（3）

### 【評価方法】

出席回数、レポート、及び定期試験により評価を行う。

### 【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック（三和義秀 共立出版）

## プログラミング論（プログラミング入門）

### 【授業の概要】

適切な情報処理を実現するにあたって、ユーザー・ジョブ・プログラムの開発は、必要不可欠な場合が多い。このようなことから、本授業では、プログラミングの必要性、意義を理解すると共に、原則的なプログラム開発手順ならびにアルゴリズムを中心とするプログラム開発に必要な基礎知識を習得する。

なお、具体的なプログラム開発手順およびアルゴリズムを正しく理解していくために、本授業では、UNIX/Cを用いる際のプログラミングにおける問題点や考え方を例示していく。よって、プログラミングの問題点と共に、UNIXについても併せて触れていくこととする。

### 【授業の目標】

アルゴリズムの発想力、及びプログラミングの基礎スキルを身につける。

### 【授業計画】

- 1) アルゴリズム（1）
- 2) アルゴリズム（2）
- 3) プログラミングとコーディング
- 4) フローチャート
- 5) UNIXセッションとコマンド
- 6) UNIXのエディタ（1）
- 7) UNIXのエディタ（2）
- 8) C言語プログラムの開発手順（1）
- 9) C言語プログラムの開発手順（2）
- 10) 情報の表現方法（1）
- 11) 情報の表現方法（2）
- 12) 変数とデータ型（1）
- 13) 変数とデータ型（2）
- 14) 書式指定子
- 15) 算術演算子

### 【評価方法】

出席回数、レポート、及び定期試験により評価を行う。

### 【テキスト】

プログラミング入門（西荒井学 共立出版）

## プログラム設計応用 I（C）

三和義秀

### 【授業の概要】

構造化プログラミングの技法とUNIX/Cによるプログラミングを行う。さらにオブジェクト指向の考え方を学び、Visual C++によるプログラミングを行う。

### 【授業の目標】

C言語の文法、プログラム構造を理解し、アルゴリズムをC言語でプログラム化するスキルを身につける。

### 【授業計画】

- 第1回から第2回 記憶クラス
- 第3回から第4回 アドレスとポインタ
- 第5回から第6回 構造体
- 第7回から第8回 ファイル操作
- 第9回 オブジェクト指向プログラミング
- 第10回から第13回 Visual C++によるオブジェクト指向プログラミング

### 【評価方法】

定期試験、レポート及び欠席にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

### 【テキスト】

例題で学ぶC言語プログラミングのテクニック（三和義秀 共立出版）

## プログラム設計応用Ⅱ (COBOL)

西荒井学

### 【授業の概要】

近年、アプリケーション・ソフトウェアの中でも多様なパッケージ・ソフトウェアが提供されることが多くなってきている。しかしながら、提供されるパッケージ・ソフトウェアだけで、すべてを充足することは困難を極める場合が少なくない。本授業では、事務処理用言語であるCOBOLを使用して、実際のプログラム作成に関する基礎技術を学習していくことにより、プログラミングの本質を理解していく。プログラミングは、単なる机上の問題ではなく、実際にコンピュータ実習を重ねていくことにより、理解を一層深めていくことができる。よって、授業内では出来る限りCOBOLプログラムを数多く作成していくことにより、プログラミングの本質的な問題を理解していくと共に、COBOLというプログラム言語が持っている本質的な特徴を理解していく。なお、COBOLプログラミングの実習については、情報処理における基本的な処理プロセスを題材にした実習問題を解決していく。

### 【授業の目標】

COBOLというプログラム言語が持つ特徴とプログラム作成上の基本的なアルゴリズムを理解する。数多くのコンピュータ実習を体験することにより、プログラミング能力を養う。

### 【授業計画】

- 1) プログラミングの必然性と基本手順
- 2) COBOLの基本構造と特徴
- 3) 予約語、利用者定義語、コーディング書式
- 4) 識別部の役割とコーディング
- 5) 物理装置と論理装置に対する考え方
- 6) 環境部の役割とコーディング
- 7) ファイルの構造とレベル番号
- 8) データ部の役割とコーディング 1 (FILE記述、レコード記述)
- 9) データ部の役割とコーディング 2 (作業領域、出力編集)
- 10) 手続き部の役割とコーディング 1 (手続き名、入出力文)
- 11) 手続き部の役割とコーディング 2 (制御文、その他)
- 12) プログラミング実習 1 (実習問題A~H)
- 13) プログラミング実習 2 (実習問題A~H)
- 14) プログラミング実習 3 (実習問題A~H)
- 15) プログラミング実習 4 (実習問題I~)

全授業回数の内、前半はCOBOL言語に関する文法について解説していく。後半は、提示された課題プログラムの作成を各自実習形式で行なう。

### 【評価方法】

提出課題プログラム数、提出課題プログラムの内容、ならびに学期末試験にて総合評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず (プリント配布)

## プログラム設計応用Ⅲ (Java)

三和義秀

### 【授業の概要】

オブジェクト指向の考え方を学び、Javaを用いてオブジェクト指向プログラミングの基礎を習得する。

### 【授業の目標】

手続き型指向プログラミングとの違いを理解し、Javaを用いてアルゴリズムをプログラム化するスキルを身につける。

### 【授業計画】

- 第1回 オブジェクト指向のパラダイム、オブジェクト指向プログラミングとは
- 第2回 Javaの特徴とJavaプログラムの開発環境
- 第3回から5回 クラス設計とJavaのプログラム構造
- 第6回から9回 オブジェクトとコンストラクタ
- 第10回から第11回 クラスの継承と抽象クラス
- 第12回 アクセス制御
- 第13回 ファイル処理
- 第14回 ファイル処理
- 第15回 定期試験

### 【評価方法】

定期試験、レポート及び出席回数にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

### 【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック (三和義秀 共立出版)

## データ管理論Ⅰ (表計算と統計)

三和義秀

### 【授業の概要】

調査研究において収集したデータを整理・分類し、それらの性質や状態を数量的に表現して全体としての法則性を見つけ出すための手法と、どのようにコンピュータを統計処理に活用するかについて表計算ソフトExcelを使って学ぶ。

### 【授業の目標】

統計用語の意味とその仕組みを理解しながら、統計処理におけるExcelの活用方法を身につける。

### 【授業計画】

- 第1回 統計とは何か、度数分布表とヒストグラム
- 第2回 データ入力、表・グラフの作成
- 第3回 関数の使い方
- 第4回 統計量の求め方
- 第5回 度数分布表、ヒストグラムの作成
- 第6回 ドットプロット、クロス集計表の作成
- 第7回 平均値、範囲、最頻値、分散と標準偏差等の意味
- 第8回 代表値と散布度を求める
- 第9回 確率分布と正規分布
- 第10回 2項分布と標準正規分布
- 第11回 相関係数の求め方とその意味、回帰分析
- 第12回 散布図の作成、相関係数、回帰係数
- 第13回 検定の仕組みと方法

### 【評価方法】

定期試験、レポート及び出席回数にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

### 【テキスト】

第2版Excelで学ぶ“やさしい統計処理のテクニック” (三和義秀著 共立出版)

## データ管理論Ⅱ (DB構築)

原伸之

### 【授業の概要】

パソコン活用の3本の柱の1つである「データベース」を取り上げる。世の中のコンピュータ利用の大部分が、このデータベース利用であると言っても過言ではない。金融機関での預金の出し入れ、座席の予約さらにコンビニでの商品管理など。これらは、データベースの応用システムである。また、昨今日常生活にまで入り込んできた「インターネット」も、広い意味での「データベース」応用である。授業では、これらのシステムの核となっている「データベース」の理解・構築技法・利用方法を講義と実技で体験・習得する。

1. データベース概論  
…データベースとは  
データベースの理解  
カード型データベースと関係データベースのちがひ  
関係データベースの特徴
2. 関係データベース・ソフトウェア「ACCESS」  
データベースの定義  
データベースの構築  
データベースの利用
3. 関係データベースの構築 (ACCESSを使用して)  
…事例を作成・体験  
基本的なデータベース  
Wordで作成した文書のデータベース化  
インターネットから取り込んだ画像のデータベース化  
関数を使用したデータベース
4. 構築したデータベースの事例発表  
…習得したデータベースの構築技法を使って、身近なところで考えられるデータベースを構築し、その活用をレポートする。

### 【授業の目標】

「データベース」の理解と独自でAccessによる「データベース」の構築

### 【授業計画】

配布されたプリントに基づいて、講義・実習を行う。

### 【評価方法】

習得した技術および知識を基にして、各自が構築した「身近なところで考えられるデータベース」の内容を評価し、成績とする。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 情報システム設計基礎 I

西荒井学

### 【授業の概要】

情報システムの設計・開発に必要なシステム概念、システム設計の基本的枠組や基本的な設計手順、ならびに設計技法について学習していく。通常の住宅建設においても、施主の要望を十分に充足することができるように、種々の建築設計が行われ、各設計書に基づき実際に施工・工事がなされていく。このことは、システム構築においても、建築設計とは設計内容等の差異はあれ、決して例外ではない。本授業では、システムの具体的な設計内容に重要な影響を及ぼすシステム分析、要求定義ならびに基本設計に焦点を絞り、システム設計の考え方や設計技法について理解していく。

なお、コンピュータ技術の急速な進展に伴い、システムは巨大化、高度化してきた。この結果、システム技術においても専門化、多様化してきており、システム設計自体にも変化が見え隠れしてきている。このようなことから、授業内容に準じて、システム設計に関する技術背景や技術変遷等についても、その都度解説していく。

### 【授業の目標】

システムの定義や概念を正しく理解すると共に、システム構築に必要なシステム技術に関する基本的な知識を習得する。また、システム設計・開発作業の前半部分となるシステム分析から基本設計までの基礎的な知識を習得する。

### 【授業計画】

- 1) システム化の必然性と情報システムの種類
- 2) システムの定義と概念
- 3) システムの基本機能とシステムの階層性
- 4) システム設計手順の全体像
- 5) システム設計へのアプローチ
- 6) コンピュータ業務区分とSEの役割
- 7) SEの基本的要件
- 8) ソフトウェア開発の現状と問題
- 9) ソフトウェア工学（開発技法、開発工程）
- 10) コンピュータ・システムの処理形態
- 11) コンピュータ技術と通信技術の進展
- 12) システム分析の意義と内容
- 13) 要求分析の必然性
- 14) 環境調査から機能分析まで
- 15) 基本設計の内容と重要性

毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

### 【評価方法】

小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

### 【テキスト】

図解システム設計の基礎（加藤英雄 共立出版）

## 情報システム論 I（情報システム開発）

西荒井学

### 【授業の概要】

情報システム開発の骨格ならびに開発工程における技法や問題点について、実際にシステム開発手順を実習形式にて学習していくことにより習得していく。特に、情報ファイルの設計ならびに管理の問題、中でも電子化されていく情報ファイルの問題に焦点を当てて解説していく。また、最近の電子情報の多量化、文字情報からイメージ情報にまで拡大してきている現状を踏まえ、今後の電子情報ファイルが抱える課題や将来像についても触れていく。

なお、システム開発実習については、簡単な文書データ検索システムのサブ・システム構築を事例に取り上げるが、授業では個人単位でのシステム開発実習とグループ単位でのシステム開発実習を併せて実施していく。開発実習で利用するソフトウェアは、本来、プログラム言語の利用が望ましいが、本授業ではExcelのマクロ、あるいはVBA（Visual Basic for Application）を対象とする。

### 【授業の目標】

電子ファイリング・システムの機能や特徴を習得すると共に、システム開発の実習を通してシステム開発手順を正しく理解する。また、実習ではExcelのマクロやVBA（Visual Basic For Application）についての利用方法関しても併せて理解していく。

### 【授業計画】

- 1) システム開発の概要と意義
- 2) システム開発工程手順
- 3) 電子ファイリング・システムの必要性
- 4) 電子ファイリング・システムの機能と特徴
- 5) 画像イメージと記録媒体
- 6) 電子ファイリング・システムの適用分野
- 7) 事例：文書データ検索システムの機能と特徴
- 8) ExcelのマクロとVBAの概要
- 9) マクロの利用方法
- 10) システム開発実習1（個人別課題）
- 11) システム開発実習2（個人別課題）
- 12) システム開発実習3（グループ別課題）
- 13) システム開発実習4（グループ別課題）
- 14) システム開発実習5（グループ別課題）
- 15) システム評価

前半では、システム開発全般に関する問題について講義を実施する。後半では、受講者をグループに分け、簡単なシステムを実際に開発する。

### 【評価方法】

出席状況、課題レポート、実習課題の成果、ならびに学期末試験にて評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず（プリント配布）

## 情報システム設計基礎 II

西荒井学

### 【授業の概要】

情報システム設計は、究極的にはプログラム開発に至るまでの一連の情報システム構築手順において、重要な要素を担っている。システム設計の良し悪しが、情報システムの有効性、効率性、ならびに運用性の良否に帰結する。本授業では、情報システム設計手順における概要設計および詳細設計に焦点を絞り、具体的なシステム設計内容ならびに設計技法について学習していく。

なお、具体的な概要設計および詳細設計における考え方、方法を学習していくと共に、情報システム設計の成果であるソフトウェア・ドキュメントの意義や作成方法、および各システム設計段階における問題点についても解説していく。簡単な事例システムを取り上げ、実習形式を中心にして具体的に学習する。

### 【授業の目標】

システム設計・開発作業の後半部分となる概要設計ならびに詳細設計に関する基礎的な知識を習得する。なお、簡単なシステム設計作業を実習形式で行うことにより、システム設計に関する知識・技術を具体的に応用していく能力を養う。

### 【授業計画】

- 1) 情報システム設計の意義と役割
- 2) 基本設計、概要設計、詳細設計の3段階
- 3) コードの機能とコードの種類
- 4) コード設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 5) ユーザー・インターフェースについての考え方
- 6) 出力設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 7) 入力設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 8) ファイル設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 9) データベース設計への展開
- 10) 情報処理における基本処理パターン
- 11) プロセス設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 12) システム障害における障害対策・保守
- 13) 信頼性設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 14) ソフトウェア・ドキュメントの種類と特質
- 15) システムの評価、システム監査

毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

### 【評価方法】

小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

### 【テキスト】

図解システム設計の基礎（加藤英雄 共立出版）

## 情報システム論 II（情報ネットワーク）

野添篤毅

### 【授業の概要】

研究・教育活動を支援する大学・学術図書館における学術情報サービスの基盤となる情報ネットワークについて論じる。とくに、米国で構築されている、情報資源マネジメントを基礎とした医科大学における情報システム、そして米国国立医学図書館を中心とした医学・医療情報ネットワーク、インターネット上の仮想図書館であるデジタル図書館について考察する。また、「根拠に基づく医療EBM」の活動の発展とともに必要とされつつある新しい情報サービス、新しい情報専門職についても議論する。

### 【授業の目標】

学術研究分野における情報サービス、情報ネットワークの特性を学ぶ。

### 【授業計画】

1. 学術情報資源マネジメントの考え方
2. 情報マネジメントを基礎とした未来の図書館へのシナリオ
3. 組織内における情報ネットワークの構築
4. 統合型学術情報マネジメント・システムIAIMSの考え方
5. IAIMSの実現例、次世代のIAIMS
6. インターネットと情報サービス
7. 米国国立医学図書館を中心としたデジタル情報資源サービス・ネットワーク
8. デジタル情報資源の評価方法
9. Evidence Based Medicine（根拠に基づく医療）と情報活動
10. インターネット環境下の新しい情報専門職（Informationist）の活動

### 【評価方法】

レポート（2回程度）および小テスト。

### 【テキスト】

プリントを配布。

## 情報システム論Ⅲ (知識情報資源)

澁川雅俊

### 【授業の概要】

情報技術の急速な発展の下で、人びとの知の展開を支援する図書館を中心とする知識情報資源の新たな形成について議論する。

### 【授業の目標】

電子テキストの出現により図書館の構造と機能にいまのような変化が起こっているのかを理解し、人びとの日常生活における知の展開を今後どのようにサポートするかを考察する。

### 【授業計画】

- 1) 知的生活環境
- 2) 知識情報
- 3) 知識情報の生成
- 4) 知識情報のテキスト
- 5) 知識情報テキストのコスモロジー
- 6) 知識情報テキストのロジスティクス
- 7) 図書館における知識情報資源の形成
- 8) 図書館における知識情報テキストの選択
- 9) 図書館進化の方向
- 10) 電子テキストの進展
- 11) デジタルコンテンツとデータベース
- 12) 知識情報資源の構造化
- 13) デジタルライブラリーへの展望

### 【評価方法】

総合評価 (出席・レポート・期末試験)

### 【テキスト】

使用しない。講義シノプス

(<http://www.sfc.keio.ac.jp/~philobib/philobiblon/>に pdf 形式で掲示する。各自事前に取得すること)

### 【参考文献・資料】

講義シノプスの中で重要文献 (URL を含む) を提示する

## 情報サービス基礎論Ⅰ

逸村 裕

### 【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、図書館情報学の観点から現代社会における特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

### 【授業の目標】

変革期における情報のあり方と図書館を中心とするその対応について理解を深めることを目標とする。

### 【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
  2. 産業と職業における情報とITの意味
  3. 情報サービス事例1:メディア産業と通信
  4. 情報サービス事例2:通信と出版産業
  5. 情報サービス事例3:図書館情報
  6. 情報サービス事例4:マルチメディアリソース
  7. 情報サービス事例5:電子ジャーナル
  8. 情報サービス事例6:電子ブック
  9. 情報サービス事例7:情報分析・シンクタンク
  10. 情報産業と大学
  11. 情報化社会における知的所有権問題
  12. 情報化社会と情報倫理
  13. 情報産業における勤労観と職業倫理
- 講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を必ず受講しておくこと。

### 【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。詳細は初回講義の際に説明する。

### 【テキスト】

変わりゆく大学図書館 (逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005)

### 【参考文献・資料】

図書館情報学用語辞典 第2版 (丸善 2002)

## 情報サービス基礎論Ⅱ

逸村 裕

### 【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報通信技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス (奉仕・直接サービス)
  - A. 貸出閲覧
  - B. レファレンスサービス
  - C. 相互協力
  - D. 視聴覚資料
  - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス (資料組織・間接サービス)
  - A. 選書
  - B. 取書
  - C. 整理
  - D. 雑誌
  - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
  - A. 蔵書
  - B. 人的サービス
  - C. 図書館アメニティ
  - D. コンソーシアム
  - E. その他のサービス

### 【授業の目標】

変革期における情報のあり方と図書館を中心とするその対応について理解を深めることを目標とする。

### 【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を受講しておくこと

### 【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。詳細は初回講義の際に説明する。

### 【テキスト】

変わりゆく大学図書館 (逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005)

### 【参考文献・資料】

図書館情報学用語辞典 第2版 (丸善 2002)

## 情報メディア基礎論Ⅰ

菅野育子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない (プリント配布)。

## 情報メディア基礎論II

菅野育子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報メディア論II（デジタル情報の組織化）

三輪眞木子

### 【授業の概要】

この授業では、まず、デジタルライブラリーは、どのような展開をとり、現在どのような状況にあるのか、そして、デジタルライブラリーの中で情報の組織化はどのように位置づけられるのかを述べます。その後で、デジタル情報の組織化法について、ダブリン・コアを中心に説明するとともに、メタデータ構築演習を行います。受講者にACCESSの基礎知識があることが必須条件です。

ACCESS利用経験がない場合は、1学期に「情報技術基礎III」または「データ管理論II」を受講してください。

### 【授業の目標】

- ・受講者は、デジタルライブラリーの現状を説明できるようになる。
- ・受講者は、デジタルライブラリーにおけるメタデータの標準化動向を説明できるようになる。
- ・受講者は、ダブリン・コアに準拠してデジタル情報を組織化できるようになる。

### 【授業計画】

集中講義。前半は講義を主体としますが、後半のデータ項目の選定、メタデータ作成、語彙の管理については、授業内で演習を行います。

1. デジタルライブラリーとは
2. デジタルライブラリーの構成要素
3. メタデータ国際標準化の動向
4. メタデータの作成手順
5. 名前空間と語彙の選定
6. 語彙管理ツールとシソーラス
7. 演習1：メタデータ要素選定
8. 演習2：メタデータ設計
9. 演習3：索引記述
10. 演習4：ホームページのメタデータ作成
11. 演習5 語彙管理ツール作成
12. まとめ
13. 試験

### 【評価方法】

出席は取りません。しかし出席を取るかわりに5回にわたって演習の結果の提出を求めます。また、最後に試験を行います。提出物は、A、B、C、Dの4段階で評価を行い、これに試験の成績を加味して、総合評価を行います。提出物がない場合、試験を受けない場合は評価の対象とはしません。

### 【テキスト】

プリントを配布します。

## 情報メディア論I（マルチメディア）

三和義秀

### 【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信（ネットワーク）技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

### 【授業の目標】

現代社会における情報メディアの意義、機能、及び活用方法について理解を深める。

### 【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

### 【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により総合評価を行う。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

### 【参考文献・資料】

授業時に提示する。

## 情報メディア論III（医学情報メディア）

野添篤毅

### 【授業の概要】

科学分野での効果的な情報サービスを行うための基礎として自然科学分野の学術情報の発生から加工・利用までの一連の過程について学ぶ。とくに生物医学分野の学術情報の最新流れを中心に論じる。

### 【授業の目標】

医学・医療・健康分野における情報資源、情報サービスの特性を学ぶ。

### 【授業計画】

1. 自然科学分野の研究の広がり
2. 科学研究活動の指標
3. 研究活動と情報活動
4. 情報の発生・加工・利用のサイクル
5. 一次情報：論文構成からみた学術雑誌
6. 二次情報：一次情報とリンクしたデータベース
7. 主要な情報機関の活動・米国国立医学図書館
8. 文献データベースMEDLINE：入力から出力まで
9. わが国の学術情報サービスの動向
10. 学術情報サービスの最近のトピックス

### 【評価方法】

レポート（2回程度）および小テスト。

### 【テキスト】

プリントを配布

## 情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

菅野育子

### 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

### 【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

### 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  - 3.1 美術分野
  - 3.2 音楽分野
  - 3.3 文学
  - 3.4 ビジネス分野
  - 3.5 法律分野
  - 3.6 心理学
  - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

### 【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

専門資料論（JLA図書館情報学テキストシリーズ）（日本図書館協会）

## 情報メディア分析論

菅野育子

### 【授業の概要】

情報メディアの機能に関する基礎的な知識を学ぶために、学術情報だけでなく一般社会における情報の流通に関係する各種情報メディアについて概説する。

具体的には、新聞（新聞記事）、雑誌（雑誌記事）、図書、特許資料、絵画（美術作品）などを取り上げ、その特徴を概観する。

さらに、各情報メディアの分析を行ないながら、分析結果からどのような情報を得ることができるのかについて議論する。

### 【授業の目標】

情報メディア基礎論の講義で紹介した各種情報メディアの理解を深めること。

### 【授業計画】

- 1 情報メディアの機能
- 2 情報メディア（1）新聞
- 3 新聞記事の分析：新聞記事DBとの比較
- 4 情報メディア（2）雑誌
- 5 雑誌記事の分析：索引語付与と抄録作成
- 6 情報メディア（3）図書
- 7 図書の分析：主題分類と書誌記述
- 8 情報メディア（4）特許資料
- 9 特許資料の分析：技術動向調査
- 10 情報メディア（5）：絵画（美術作品）
- 11 絵画の分析：CDWAとAATソーラス
- 12 情報メディアの分析から得られる情報

### 【評価方法】

レポートと出席回数で評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

山崎茂明

### 【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オープンアクセスからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

### 【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

### 【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

### 【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

### 【テキスト】

論文投稿のインフォマティクス（山崎茂明著 中外医学社）

### 【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌（Lambert, J. 著 日本図書館協会）  
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W. 著 出版同人）  
歴史としての学問（中山茂著 中央公論社）  
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著 中外医学社）  
医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明著 日本医書出版協会）  
研究評価（根岸正光・山崎茂明著 丸善）

## 資料組織論

伊藤真理

### 【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

### 【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。

目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

### 【授業計画】

- 第1回 情報の組織化とは
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 メタデータ
- 第6回 各種目録規則
- 第7回 AACR 2 r, NCR
- 第8回 典拠コントロール
- 第9回 アクセス・ポイントの選定；標目形
- 第10回 各種記述フォーマット
- 第11回 主題目録概要
- 第12回 分類法
- 第13回 主要分類法、図書記号法
- 第14回 主要件名標目表

### 【評価方法】

レポート、試験

### 【テキスト】

初回時にテキスト配布。

### 【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題（国立国会図書館編 日本図書館協会、2002）  
文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著 勁草書房、1998）  
図書館ネットワーク書誌ユーティリティの世界（宮澤彰 丸善、2002）

## 資料組織演習

伊藤真理

### 【授業の概要】

演習を通して、「資料組織論」で学んだ理論について習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

### 【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
  - ISBD
  - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
  - アクセス・ポイントの選定
  - 典拠コントロール
- ・主題目録法
  - 分類：日本十進分類法
  - 主題件名標目表：基本件名標目表

### 【評価方法】

平常点、実習およびレポートの総合評価

### 【参考文献・資料】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A., 2003年)  
「資料組織論」で配布したテキスト

## 情報検索演習 I (情報探索入門)

伊藤真理

### 【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得することを目的とする。

なお、履修者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。

また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

### 【授業の目標】

情報資源の特徴を理解し、情報検索に活用することができる。  
情報検索の専門用語を理解し、学術情報収集のための基本的なスキルを習得する。

### 【授業計画】

- (1) 情報資源の種類および特徴を知る
  - ・一次資料と二次資料
  - ・書誌情報
- (2) 情報資源の探索法を知る
  - ・目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
  - ・各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利  
用法
    - ・論理演算
    - ・部分一致
- (3) 情報資源の評価
- (4) 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する
  - ・著作権
  - ・引用
  - ・書誌情報の書き方 (SIST02およびISO 690、690-2)

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず (配付資料)。

### 【参考文献・資料】

デジタル社会のリテラシー：「学びのコミュニティ」をデザインする (山内祐平  
東京 岩波書店 2003, 238p. ISBN 4-00-024004-8)

## レファレンスサービス論

佐藤義則

### 【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ (情報と文献の探索)」と相互に補完するものとして扱う。

### 【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開、利用者と担当者の関わり合い、今後のサービス展開について理解すること。

### 【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンス質問を起点とするレファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

### 【評価方法】

試験を実施する。出題形式等については、講義の中で説明する。

### 【テキスト】

レファレンスサービス：図書館における情報サービス (長澤雅男著 丸善)

### 【参考文献・資料】

講義において指示する。

## 情報検索演習 I (情報探索入門)

松井美紀

### 【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得することを目的とする。

なお、履修者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。

また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

### 【授業の目標】

情報資源の特徴を理解し、情報検索に活用することができる。  
情報検索の専門用語を理解し、学術情報収集のための基本的なスキルを習得する。

### 【授業計画】

- (1) 情報資源の種類および特徴を知る
  - ・一次資料と二次資料
  - ・書誌情報
- (2) 情報資源の探索法を知る
  - ・目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
  - ・各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利  
用法
    - ・論理演算
    - ・部分一致
- (3) 情報資源の評価
- (4) 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する
  - ・著作権
  - ・引用
  - ・書誌情報の書き方 (SIST02およびISO 690、690-2)

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず (配付資料)。

### 【参考文献・資料】

デジタル社会のリテラシー：「学びのコミュニティ」をデザインする (山内祐平  
東京 岩波書店 2003, 238p. ISBN 4-00-024004-8)

## 情報検索演習 I (情報探索入門)

櫻木貴子

### 【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得することを目的とする。

なお、履修者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前にならず受講しておくこと。

また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

### 【授業の目標】

情報資源の特徴を理解し、情報検索に活用することができる。

情報検索の専門用語を理解し、学術情報収集のための基本的なスキルを習得する。

### 【授業計画】

- 情報資源の種類および特徴を知る
  - 一次資料と二次資料
  - 書誌情報
- 情報資源の探索法を知る
  - 目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
  - 各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利用法
  - 論理演算
  - 部分一致
- 情報資源の評価
- 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する
  - 著作権
  - 引用
  - 書誌情報の書き方 (SIST02およびISO 690、690-2)

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず (配付資料)。

### 【参考文献・資料】

デジタル社会のリテラシー：「学びのコミュニティ」をデザインする (山内祐平 東京 岩波書店 2003, 238p. ISBN 4-00-024004-8)

## 情報検索演習 II (学術情報の探索)

伊藤真理

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。

さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

### 【授業計画】

- 情報検索とは
- 学術情報の検索
  - 学術論文の特徴
  - 抄録・索引誌
- CD-ROM検索
- シソーラス
- 各種オンライン情報検索システム
  - JDream
  - DIALOG
  - CSA
- テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず (プリント配布)。

## 情報検索演習 II (学術情報の探索)

松井美紀

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。

さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

### 【授業計画】

- 情報検索とは
- 学術情報の検索
  - 学術論文の特徴
  - 抄録・索引誌
- CD-ROM検索
- シソーラス
- 各種オンライン情報検索システム
  - JDream
  - DIALOG
  - CSA
- テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず (プリント配布)。

## 情報検索演習 II (学術情報の探索)

櫻木貴子

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。

さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

### 【授業計画】

- 情報検索とは
- 学術情報の検索
  - 学術論文の特徴
  - 抄録・索引誌
- CD-ROM検索
- シソーラス
- 各種オンライン情報検索システム
  - JDream
  - DIALOG
  - CSA
- テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず (プリント配布)。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

菅野育子

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

〔演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）〕

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、  
CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引  
CD-ROM版
2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索  
(DIALOG)
2. 3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE  
(DIALOG)
2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、  
PubMed (NLM/NCBI)
2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、  
WorldCat (OCLC FirstSearch)
2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

〔演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）〕

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、  
CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引  
CD-ROM版
2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索  
(DIALOG)
2. 3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE  
(DIALOG)
2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、  
PubMed (NLM/NCBI)
2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、  
WorldCat (OCLC FirstSearch)
2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

松井美紀

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

〔演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）〕

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、  
CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引  
CD-ROM版
2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索  
(DIALOG)
2. 3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE  
(DIALOG)
2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、  
PubMed (NLM/NCBI)
2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、  
WorldCat (OCLC FirstSearch)
2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報利用論Ⅰ（情報探索行動論）

岡澤和世

### 【授業の概要】

情報社会に関する史的展開、情報と知識の性質、コミュニケーションについて論じる。焦点は、情報とは何か、利用者の住む情報社会とはどんな社会か、情報と人、文化との相互関係、アクセス権利の倫理面、データ保護、個人のプライバシー、インターネットなど情報技術がもたらす諸問題についてである。これらを情報環境との関係から概説する。

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

- 1) 情報社会とは
- 2) 情報社会に至る史的展開
- 3) 情報と知識の性質
- 4) 情報の質と信頼性
- 5) 情報の理解とコミュニケーション
- 6) 情報、知識、文献の管理
- 7) 情報サービスへの応用
- 8) マーケティング/プランニング
- 9) 情報倫理・知的所有権とデータ保護
- 10) 情報社会と人間
- 11) 情報と文化的問題
- 12) 情報と経済的問題
- 13) 情報と政治的問題
- 14) 情報環境
- 15) 情報教育と未来

### 【評価方法】

出席とレポート

### 【テキスト】

マーケティング・プランニング (D.E.Weingrand 岡澤和世訳 敬文堂 1997)

その他配布資料

## 情報利用論II (情報探索行動論)

岡澤和世

### 【授業の概要】

教育を受けたいという強い希望、誰もが自由に情報を利用できるアクセス機会の平等を求める運動、民主主義の伝統、そして誰にも頼らない自主探索意欲が巧妙に入り混じってできたのが図書館である。そしてその理想は常に利用者の要求を満足させるところに置かれてきた。しかし、20世紀になると様々なテクノロジーが開発され、従来の図書館が大きく様変わりし始め、それに伴って情報を探す利用者の行動も変わり始めた。この講義では、情報行動について論じる。ニューメディア、インターネット、情報環境などについても概説する。

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

オリエンテーション

1. 情報の伝達と利用
  - 1) 情報の定義
  - 2) 情報の特質
2. 科学のコミュニケーション
3. 研究活動とインフォーマル・コミュニケーション
  - 1) インフォーマルコミュニケーションの研究
  - 2) 見えざる大学
4. 見えざる大学の調査研究について
5. 情報利用者調査と用語の説明
6. User Studyの概説とUser Studyの方法論
7. 方法の種類
8. 比較・検討
9. User Studyの調査例
10. 行政

### 【評価方法】

小テストで評価。

### 【テキスト】

情報学講義ノート〈3〉

## 情報学特殊III (情報史の探究)

村主朋英

### 【授業の概要】

情報史とは、Norman D. Stevensが約20年前に提案した概念である。彼の提案は、人類の歴史全体の中で情報が果たしてきた役割を考えるために、図書館史や情報検索の歴史を拡張・発展させ、コンピュータ史やコミュニケーション史・メディア史を統合するという壮大なものであり、歴史研究だけではなく情報学全体に対する見識を含む点も評価できるが、いまだその実現への道は遠い。そこで本講義では、彼の構想の実現へ向けて、情報学IIIおよびIVの歴史像を拡張・発展させ、さらに新たなトピックを加え、情報史の世界の全体像を探る。

### 【授業の目標】

情報史を探究することは、人間と情報とのかかわりを探究することに等しい。そこで、昔話をたどるだけに終わらず、情報やコミュニケーション過程に対する見方を磨き澄ますことを常に心がけながら受講してほしい。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：Stevensの情報史構想
2. トピック群（予定）
  - ・記号の初源／アレクサンドリアの灯火／『薔薇の名前』と書物
  - ・言語と翻訳／科学の言語（生物分類と化学記号）
  - ・通信と放送／表象の文化／Memexとインターネット
3. 情報史への道
  - 3.1 情報史の多面性
  - 3.2 総合的な情報史へ向けて：情報空間モデル

### 【評価方法】

平常点（小テスト形式の授業内レポートに基づく）

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（Vickery著 勁草書房）  
（情報学III/IVで使用しなかった部分を本講義で使用するか、本講義の前提知識の供給源となる）

## 情報学特殊IV (情報伝達論)

高井次郎

### 【授業の概要】

情報伝達行動として、人間のコミュニケーションのプロセスについて取り上げる。個人内コミュニケーションから国際コミュニケーションまでのさまざまなレベルについて説明するとともに、コミュニケーションの基礎をなしている言語および非言語コミュニケーションのあり方などについて教授する。

### 【授業の目標】

授業目標は、コミュニケーションの基礎的要素と、言語と非言語チャネルの役割の重要性を理解し、コミュニケーション過程における送信者と受信者の関係発展のプロセスについて検討し、円滑なコミュニケーションをはかるための能力の獲得を目指す。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 言語コミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 非言語コミュニケーション
6. 対人認知
7. 対人コミュニケーション
8. 対人コミュニケーション
9. 集団コミュニケーション
10. 組織コミュニケーション
11. マスコミュニケーション
12. マスコミュニケーション
13. 異文化コミュニケーション
14. コミュニケーション理論
15. 期末試験

### 【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業において適宜紹介する。

## 図書館経営論

小木曾眞

### 【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

### 【授業の目標】

図書館経営にかかわる組織・管理運営・各種計画について、実例を紹介しながら理解を深める。  
最近の経営環境の変化に合わせて、新しい考え方をできる限り紹介する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション・図書館運営の実際・最近起っている事
2. 図書館の経営論の意義・あり方
3. 自治体行政と図書館（「あなたにとつての図書館」レポート提出）  
関係法規、予算、議会の関係等
4. 図書館業務の理論と実際  
「図書館学の五原則」等
5. 図書館の組織  
「アウトソーシング」等
6. 図書館の職員  
「館長論」「専門的職員」等
7. 図書館の計画とマーケティング  
「図書館開設計画」「ファンドレイジング」等
8. 図書館の施設整備計画  
「スペース計画」「安全・快適・デザイン」等
9. 図書館ネットワークの形成  
「図書館相互協力」「インターネット」等
10. 図書館業務・サービスの評価（身近な事例についてのレポート提出）  
「パフォーマンス指標」「アンケート調査」等
11. まとめ  
※講義の中でレポート提出を指示します。2回程

### 【評価方法】

期末テスト実施—記述式。出席点、レポート、記述試験の総合評価。

### 【テキスト】

改訂図書館経営論（高山正也編著 樹村房）

### 【参考文献・資料】

図書館経営論（竹内紀吉著 教育資料出版会）  
図書館関係新聞記事等を適宜紹介する。

## 図書館学特殊 I

菅野育子 山崎茂明 三和義秀 伊藤真理

### 【授業の概要】

「図書館実習」を受講するための前提科目。  
各教員が実務的な内容を主としてオムニバス形式で上記担当教員が2回程度実施する。詳細日程は4月初提示する。

### 【授業の目標】

「図書館実習」に参加するために必要な、図書館業務及び図書館界の動向について理解すること。

### 【授業計画】

1. 図書館の勤務時間と勤務内容
2. 図書館の職階制と司書職制度
3. 学校図書館法上の司書教諭問題
4. 大学図書館における情報提供
5. 図書館統計の方法と問題点
6. 図書館におけるウェブ・アーカイブとメタデータ

### 【評価方法】

レポートとテストによる総合評価

### 【テキスト】

プリント配布

## 図書館学特殊III (児童サービス論)

近藤洋子

### 【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

### 【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。

図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

### 【授業計画】

- 1 公立図書館の児童サービス
  - (1) 子どもの読書と児童図書館
  - (2) 児童図書館の意義と歴史
  - (3) 児童用資料の種類と特性 (1) 絵本・文学
  - (4) 児童用資料の種類と特性 (2) ノンフィクション・その他
- 2 児童サービスの実際
  - (5) 児童室の企画・運営、児童室施設・設備、展示・広報活動
  - (6) 資料収集・蔵書構成、選書、貸出
  - (7) 予約・レファレンス、ブックトーク
  - (8) よみきかせ、ストーリーテリング、集会活動
- 3 児童サービスの対象
  - (9) 乳幼児・ヤングアダルト・一般・研究者
- 4 関係機関との連携
  - (10) 学校・保育園・幼稚園・病院・文庫等
- 5 児童図書館員の専門性
  - (11) 養成と採用 ボランティア
  - (12) 児童サービスの現在と今後 見学レポートによる
  - (13) 実習・ストーリーテリング

### 【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

### 【テキスト】

別に使用せず、そのつどプリントを用意する

### 【参考文献・資料】

児童サービス論 新訂版(堀川照代編著 日本図書館協会)  
児童サービス論(佐藤涼子編 教育史料出版会)  
児童図書館のあゆみ(児童図書館研究会編 教育史料出版会)

## 図書館実習

菅野育子 山崎茂明 三和義秀 伊藤真理

### 【授業の概要】

各図書館現場での実習を行う。  
前提科目として必ず「図書館学特殊 I」を受講すること。  
平成16年度は(1)から(3)それぞれ6日間程度の実習を行う。  
(1) 愛知県図書館他、受入実績のある図書館での実習  
(2) 自己開拓  
(3) 北京図書館実習(北京大学および北京国家図書館)  
(1)には定員枠がある。詳細は図書館学特殊 I 第一回講義にて述べる。

### 【授業の目標】

国内の公共図書館と大学図書館において、実際の業務を経験することから、学内の講義内容の理解を深めること。また、本学文学部提携校である北京大学の図書館などを見学し、海外の図書館事情を知ること。

### 【授業計画】

実習受入先の図書館の作成した実習カリキュラムに従い、実習受入館の指導者によって行う。

### 【評価方法】

実習受入先の図書館の評定に基づく。

### 【テキスト】

実習受入先の作成した資料による。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。  
(詳細は授業にて解説する。)

### 【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展  
生涯学習実践の課題  
生涯学習と社会  
生涯学習と人間  
社会教育の意義  
社会教育施設の概要  
社会教育の内容・方法・形態  
社会教育指導者  
総括

### 【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

## 知的所有権

辻田芳幸

### 【授業の概要】

人の創作活動の成果である著作物は、今日、創作者の人格の発露というばかりか、企業などによる投下資本の結晶という意味合いをも濃くし始めている。近時、情報技術（IT）の発達によってこのような傾向が顕著である。

そこで、この講義においては、情報社会における知的所有権の役割について、著作権法を中心に解説することとしたい。具体的には、情報社会においてどのような問題が生じ、それがどのようにして解決されるのか、情報の受信者のみならず発信者として、いかなる点に留意しなければならないかを探求する。

### 【授業の目標】

著作権法の基本的知識とその情報社会における役割を具体的に理解できるようにしたい。

### 【授業計画】

- 第1回 情報社会における知的所有権の役割
- 第2回 著作物
- 第3回 著作者
- 第4回 著作者人格権
- 第5回 著作物の自由利用（私的複製）
- 第6回 著作物の自由利用（その他）
- 第7回 Webへの写真掲載の問題点
- 第8回 出版契約
- 第9～12回 インターネットと法

### 【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

## 個人コミュニケーション論Ⅱ（認知心理学）

岩原昭彦

### 【授業の概要】

人間の脳の中にはさまざまな意識的・無意識的な処理過程が存在している。意識されない刺激情報も私たちの認知や行動に影響を及ぼしている。その事実やその脳内のプロセスを実験結果や脳損傷患者の症例から論じる。

### 【授業の目標】

ヒトの認知機能に関わる脳内機構について理解し、脳損傷患者あるいは脳機能が低下した高齢者などとの接し方を学ぶ。

### 【授業計画】

1. 幻覚
2. 認識と失認
3. 相貌失認
4. 注意機能障害
5. 情動の起源
6. 記憶障害
7. 記憶錯誤
8. 失語症
9. 分割脳と自己
10. ラテラルティナー
11. 意識と無意識

### 【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

### 【テキスト】

脳のはたらきと行動のしくみ（八田武志著 医歯薬出版株式会社）

## 個人コミュニケーション論Ⅰ（認知心理学）

岩原昭彦

### 【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかについても検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に説明していきたい。

### 【授業の目標】

ヒトの認知機能（情報処理形式）の特徴について理解する。また、ヒトをとりまく環境で生じる諸現象を科学的にとらえる思考力を養う。

### 【授業計画】

1. サプリメンタル・パーセプション
2. 沈黙の手がかり
3. 意識できない知識
4. 健忘症患者の隠された能力
5. なぜ、ずっと覚えていられないのか
6. 記憶の混乱と偽りの記憶
7. 嫌な出来事が忘れられない
8. 言葉と心
9. 言葉の働き
10. 言葉が失われるとき
11. 言葉が意識を生む
12. 自己意識の起源にせまる

### 【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 博物館概論

長谷川銑治

### 【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

### 【授業の目標】

学芸員として必要な基礎となる知識を学習する。

### 【授業計画】

- ア はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発端Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- カ 近代博物館の発端Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
  - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
  - ・国威の宣揚と博物館
  - ・通俗教育による教化と博物館
  - ・十五年戦争と博物館

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館概論

早川正一

### 【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組みないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

### 【授業の目標】

この科目は、後期におこなう「博物館学各論Ⅰ」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

### 【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性  
専門職員としての「学芸員」とは何か  
博物館と美術館の発達とその時代背景  
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性  
博物館の分類と現代性  
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮  
博物館の相互協力と情報の活用  
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。  
長谷川銹治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅰ

早川正一

### 【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

### 【授業の目標】

この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

### 【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。  
博物館や美術館の展示と陳列構造  
博物館がとり扱う資料の収集と保存  
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究  
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育  
文化財の種類と保護にかかわる諸問題  
生涯学習の必要性と博物館の関連事業  
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。  
博物館学論考（長谷川銹治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅰ

長谷川銹治

### 【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

### 【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

### 【授業計画】

- ア 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- イ 博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- キ 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
- コ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論Ⅱ

長谷川銹治

### 【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

### 【授業の目標】

学芸員として必要な基本となる事項を実践をとおして学習する。

### 【授業計画】

- ア 「物」が博物館資料と位置づけられることを考える。
- イ 博物館資料の実際について具体的に学ぶ。
  - 1 資料の収集
  - 2 資料の取扱い
    - ・掛軸
    - ・古文書 ・和装本
    - ・やきもの ・茶碗
    - ・瓦
    - ・刀、太刀
  - 3 資料の整理・保存
  - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理についてその実際を探る。
- エ 博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

### 【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的な事例や実習を取り入れながら学んでいく。

### 【授業の目標】

博物館において、「資料」とはどのような存在かを知り、その取り扱いと活用方法について学ぶことが目標である。

### 【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。  
やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。  
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

### 【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）  
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 博物館実習

長谷川銑治

### 【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

### 【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

### 【授業計画】

- ア 展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。
- 1 展示とは
  - 2 展示のポイント  
・動線・視線・照明・温度・湿度
  - 3 展示の施設
  - 4 展示のプロセス
  - 5 展示と保全
- イ 生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
- ウ 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
- 1 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
  - 2 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
  - 3 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
  - 4 県外実習……2、3に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

### 【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論（長谷川銑治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論Ⅱ

川合剛

### 【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

### 【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取り扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

### 【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術  
拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術  
掛け軸・巻子・和紙・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術  
ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

### 【評価方法】

実技を行う。出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

## 博物館実習

秋元悦子

### 【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

### 【授業の目標】

展示についての基礎的な手法を学び、その上で見学会を通して、様々な展示の手法や計画を知ることが目標の一つである。

また、自ら展示企画することで、博物館の展示ができあがるまでの流れをシミュレートすることを目標としている。

### 【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえて、学んでいく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の企画および実習……各自で企画した展覧会の計画書を作成し、また展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

### 【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

### 【テキスト】

新訂博物館学概論（長谷川銑治 戸谷印刷）  
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 【授業の概要】

「展示」は博物館における「顔」とも評されるが、最高の広報普及活動でもある。この授業では、さまざまな施設の見学を含め、「展示」の知識と実践を学ぶ。

## 【授業の目標】

博物館や美術館の専門知識を基礎とした鑑賞法を学ぶとともに、社会人として、ゆたかな教養をはぐむための「考え方・学び方」を習得してもらう。

## 【授業計画】

「展示」を疑似体験できるよう「実技」の時間をできるだけ多くとる。適宜、プリントを配付する。

- (a) 「展示」とは
  - (b) 展示のプロセス
  - (c) 展示の実際（仮想展覧会企画）
  - (d) 展示と解説
  - (e) 印刷物（ポスター、ピラ、図録）
  - (f) まとめ
- \* 1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
  - \* 2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
  - \* 3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
- ※ \* 2、\* 3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

## 【評価方法】

出席状況は重視する。意欲や、館務実習では必要な社会常識も評価の対象とする。

## 【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏑治 戸谷印刷）

## 教職入門

伊藤昭道

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業の目標】

中学校高等学校の教員の使命、求められる資質、教育活動の進め方、服務等について基本的な理解を図る

### 【授業計画】

- 1 現代の子どもの生活と学校
- 2 教師の歴史と教職観、教職の意義
- 3 教師の仕事と役割
  - (1) 教科指導
  - (2) 教科外指導
  - (3) 教育相談
  - (4) 進路指導
  - (5) 学級経営、学校経営と教師
  - (6) 教師と校務
- 4 教師の研修と服務及び身分
- 5 特別支援教育
- 6 教員養成と教職課程
- 7 まとめ

### 【評価方法】

レポート及び筆答試験による。

### 【テキスト】

授業時に紹介

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教職入門

後口伊志樹

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

### 【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

### 【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 近代学校教育制度の変遷
  - (1) 第一の教育改革
  - (2) 第二の教育改革
  - (3) 第三の教育改革
- 3 教師に求められる資質能力
  - (1) いつの時代にも求められる資質能力
  - (2) 今後特に求められる資質能力
- 4 教師の資質能力の形成諸段階
  - (1) 養成段階
  - (2) 採用段階
  - (3) 現職研修段階
- 5 教職員の職種・職務
- 6 教員の日・一学期・一年の仕事
- 7 まとめ

### 【評価方法】

コメント・カード、期末考査及び出席率を総合する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

## 教職入門

小栗正彦

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

### 【授業計画】

- 1 学生たちの被教育体験
- 2 「教職入門」が必修化された時代背景
- 3 教師の日、一年（教師の仕事）
- 4 いまの生徒たちが育ってきた社会とは
- 5 教育現場のいま（学級崩壊、いじめ、不登校など）
- 6 教職の意義とは何か
- 7 教員養成の歴史
- 8 学校、教師をとりまく諸制度
- 9 教育問題に関するいくつかの判例から学ぶ
- 10 教師になるためには（教員採用試験について）
- 11 生徒たちの進路と教師の役目（教科と教師）

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

「教育関係 基礎資料集」  
必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教師論

佐藤実芳

### 【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

### 【授業の目標】

日本の教員養成の歴史を理解した上で、現在の教員の養成、採用の仕組み及び教員に求められている資質や能力等について理解すること。

### 【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
  - (1) 教員養成の歴史と現在
  - (2) 教職課程の仕組
  - (3) 教員の採用
2. 教師について考える
  - (1) 教科指導
  - (2) 生徒指導
  - (3) 教員の研修
3. 種々な教師に学ぶ

### 【評価方法】

課題の提出、学習及び受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育原理

佐藤実芳

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業の目標】

- ・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

### 【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育  
動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3. 教育の本質  
注入主義(ソフィスト～本質主義)/開発主義(ソクラテス～進歩主義)
4. 教育の目的  
教育目的とは/教育目的の歴史の変遷(古代ギリシャ～現代)
5. 現代の教育

### 【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育思想史

梅村敏郎

### 【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

### 【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

### 【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ペスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

### 【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

## 教育原理

五島敦子

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業の目標】

教職教養課程の基礎科目として、主要な教育思想を理解して覚えるとともに、戦後日本の教育改革の理解を通じて、「学ぶ側」でなく「教える側」として学校教育をとらえる視点を養う。

### 【授業計画】

1. 教育をめぐる二つの考え方
2. 戦後日本の教育と社会
  - (1) 戦後新教育とその修正
  - (2) 高度経済成長と受験戦争・落ちこぼれ
  - (3) 校内暴力からいじめ・不登校へ
  - (4) 「普通の子」の事件・学級崩壊
3. 現代日本の教育問題
  - (1) ゆとりと新しい学力観
  - (2) 教育改革のモデル
  - (3) 問われる改革の内容

### 【評価方法】

定期試験、授業内小テスト、出席状況による総合評価

### 【テキスト】

やさしい教育原理(田嶋一他 有斐閣アルマ)

### 【参考文献・資料】

窓ぎわのトットちゃん(黒柳徹子 講談社)  
教育改革の幻想(畑谷剛彦 ちくま新書)  
不良少年の夢(義家弘介 光文社)

## 欧米教育文化史

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

### 【授業の目標】

西洋教育史の概要を子どもの生活との関連から理解する。

### 【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開(啓蒙思想と市民革命、産業革命)
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立
6. 欧米教育文化と今日の世界の教育

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

子どもの教育の歴史(江藤恭二他編 名古屋大学出版会)

### 【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史(森洋子 日本放送出版協会)  
歴史のなかの子どもたち(森良和 学文社)  
教養の復権(沼田裕之他 東信堂)

## 教育心理学 I

富安玲子

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

### 【授業の目標】

発達についての理解や行動形成への関わり方について、教育する立場に立って考えていくこと。

### 【授業計画】

1. 教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 生涯発達の視点
3. 障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
4. 発達段階と発達課題
5. 認知の発達を通しての人間理解
6. 学習の成立過程
7. 学習における知識の役割
8. 学習意欲を育てる

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育心理学 II

富安玲子

### 【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的としたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日的課題への理解を深めていきたい。

### 【授業の目標】

自分自身の自己形成のプロセスへの関心を深め、自己理解を促進すること。

### 【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育心理学 I

小池理穂

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

### 【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

### 【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
  - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
  - ・生涯発達の視点
  - ・障害の意味と発達可能性
  - ・発達段階と発達課題
  - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
  - ・学習の成立過程
  - ・学習における知識の役割
  - ・学習意欲を育てる
    - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 障害児の教育

加藤文字

### 【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害をもつ生徒への指導が、従来の特殊教育諸学校から、一般学級に在籍する障害児に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから障害児の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、今後教職に就く者にとって障害児の理解を深めていくことが大切である。

### 【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、障害の特殊性を理解し、個に応じた発達促進を計る為に学校教育では、どのように配慮する必要があるか理解する。

### 【授業計画】

- 1 現在の障害児教育の実際を概略理解する。
- 2 心身障害児の種類と障害の程度について理解
  - 特別支援教育諸学校に在籍する障害児について
  - 一般学級に在籍する障害児について
- 3 心身障害児の早期発見・早期教育の必要性について理解
- 4 社会自立に向けた後期中等教育の必要性とその実状について理解
- 5 まとめ

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

### 【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

## 教育制度

佐藤実芳

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

### 【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育の変遷
5. 現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6. 外国の学校教育制度

### 【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 学級経営

前田勝洋

### 【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

### 【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

### 【授業計画】

- 小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。
- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
  - (2) 生徒理解と学級担任の役割
  - (3) 共感的学級経営の実践
  - (4) 成就型教育観と参加型教育観
  - (5) 学級担任と言葉の問題
  - (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営
- 以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

### 【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

### 【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

## 教育制度

五島教子

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業の目標】

学校教育制度の類型を、世界の教育改革の進展状況を比較考察しながら理解するとともに、教育法規については、教員の服務と義務に焦点をあて、教員としてふさわしい行動に対する判断力を身につける。さらに、グループ・ワークを通じて、教育制度に関する関心を深め、意見をまとめて発表する力を養う。

### 【授業計画】

1. 教育制度の概観
  - (1) 学校教育制度の類型
  - (2) 教育段階とその課題
2. 諸外国の教育制度
  - (1) 欧米諸国の教育改革
  - (2) アジア諸国の教育改革
3. 教育法規と教育行政
  - (1) 日本国憲法・教育基本法・学校教育法
  - (2) 教員の服務と義務
4. グループ研究発表

### 【評価方法】

定期試験、レポート、グループ・ワークによる総合評価（出席を重視する）

### 【テキスト】

やさしい教育原理（田嶋一他 有斐閣アルマ）

### 【参考文献・資料】

世界の教育改革（佐藤三郎編 東信堂）  
「超」教育（グリーンバーク 一光社）

## 比較教育論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育制度と教育状況の比較を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

### 【授業の目標】

各国の教育制度や教育事情を日本との比較から検討し、日本の教育の特徴と課題を理解する。

### 【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

世界の学校：教育制度から日本の学校風景まで（二宮皓編著 学事出版）

### 【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）  
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）  
多文化教育（中島智子編著 明石書店）  
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）  
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）  
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）  
世界の教育開発（米村明夫 明石書店）

## 教育課程

後口伊志樹

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

### 【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

### 【授業計画】

- 1 教育課程とは
  - (1) 教育課程研究の重要性
  - (2) 教育課程の編成原理
- 2 教育課程の歴史の変遷
  - (1) 戦前の教育課程
  - (2) 戦後の教育課程
    - ア 学習指導要領第一次改訂
    - イ 学習指導要領第二次改訂
    - ウ 学習指導要領第三次改訂
    - エ 学習指導要領第四次改訂
    - オ 学習指導要領第五次改訂
    - カ 学習指導要領第六次改訂
- 3 改訂学習指導要領の普及化
  - (1) 伝達講習(ブロック、県、各学校)
  - (2) 実践研究指定校制度
- 4 現行学習指導要領総則編(小・中・高)
- 5 現行教育課程の事例検討(小・中・高)
- 6 教育課程編成の構成要件
- 7 教育課程研究と教師

### 【評価方法】

コメント・カード及び期末考査、出席率を総合する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

## 教育課程

小栗正彦

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

### 【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

### 【授業計画】

- 1 学生たちの経験した授業の数々
- 2 教育課程の哲学(思想)…アメリカにおける教育課程の考え方の歴史
- 3 教育課程の構造(編成)と法
- 4 近代日本の教育課程の歩み
- 5 戦後の教育課程変遷史(「学習指導要領」改訂の歴史)
- 6 新教育課程(1998年改訂の学習指導要領)を学ぶ
- 7 新教育課程の問題点1(ゆとり、学力低下問題、「生きる力」とは)
- 8 新教育課程の問題点2(「総合的な学習の時間」、「情報」)
- 9 新教育課程の問題点3(あたらしい実践の数々に学ぶ)
- 10 新教育課程の問題点4(小学校の英語教育を考える)
- 11 教育課程をどう編成するか(構成要件、基本原則)
- 12 各国にみる教育課程

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

「教育関係 基礎資料集」  
必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 国語科教育法 I

佐々木亜紀子

### 【授業の概要】

中学校学習指導要領には、「国語」の教科目標として、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。この目標を正しく理解して、高等学校あるいは中学校生徒にいかにかを教えるかを考える授業にしたい。具体的には、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、板書方法、授業の進め方、評価の方法などを学び、教育現場に対応し得る力を養う。

### 【授業の目標】

学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

### 【授業計画】

- 1 講 導入  
国語科教育の概観  
新・学習指導要領における国語科教育の目標
- 2 講 学習指導案の作成方法
- 3～5 講 「論説文」(中学校)の学習指導  
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法)
- 6～8 講 「短歌」(高等学校)の学習指導  
(同上)
- 9～10 講 古典導入教材の学習指導(中学校)  
(同上)
- 11～12 講 古文導入教材の学習指導(高等学校)  
(同上)

### 【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究(大田勝司他編 双文社)

### 【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編  
中学校学習指導要領解説 国語編

## 国語科教育法 II

佐々木亜紀子

### 【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語を正確に理解し、適切に表現する能力を高めるためにどのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

### 【授業の目標】

中学校学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

### 【授業計画】

- 1 講 導入 新・学習指導要領における中学校の国語科教育
- 2・3 講 「説明文」「俳句」教材の学習指導  
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究)
- 4～7 講 「評論」「ルポルタージュ」「随想」教材の学習指導  
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究と模擬授業)
- 8～10 講 「小説」教材の学習指導  
(同上)
- 11～12 講 「漢詩」教材の学習指導  
(同上)
- 13 講 「言語活動例」を用いた学習指導  
(同上)

### 【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究(大田勝司他編 双文社)

### 【参考文献・資料】

中学校学習指導要領解説 国語編

## 国語科教育法Ⅲ

佐々木垂紀子

### 【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語への関心を高め、表現力を伸ばし、日本の文化と伝統について理解を深める総合的な国語教育の在り方を求め、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

### 【授業の目標】

高等学校学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

### 【授業計画】

- 1 講 導入  
新・学習指導要領における高等学校の国語科教育
- 2～3 講 『国語総合』『小説』の学習指導  
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と研究)
- 4～7 講 『国語総合』古文教材の学習指導  
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究と模擬授業)
- 8～11 講 『古典』漢文教材の学習指導  
(同上)
- 12～13 講 「総合的な学習」と国語科  
(同上)

### 【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究 (大田勝司他編 双文社)

### 【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

## 英語科教育法Ⅱ

高橋美由紀

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

### 【授業の目標】

小学校英語教育の指導者を養成することを目標としている。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 中学校へ繋がる小学校英語教育・アジア諸国の小学校英語教育
10. 模擬授業の具体例と指導案
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

### 【評価方法】

テスト、出席状況、授業態度  
課題レポート

### 【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き (文部科学省 開隆堂出版)  
*Sunshine Kids Book 1* (山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)  
*Sunshine Kids Book 2* (高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)  
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

### 【参考文献・資料】

教材、教具作成のために、画用紙、色紙、マジックなどが必要である。

## 英語科教育法Ⅰ

松本青也

### 【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

### 【授業の目標】

日本の英語教育が直面する様々な課題と、その可能性について、主に理論的な側面から考察する。

### 【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史 (日本)
9. 教授法の歴史 (外国)
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. (模擬授業) 指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

### 【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

### 【テキスト】

未定。

## 英語科教育法Ⅲ

高橋美由紀

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

### 【授業の目標】

中学校英語教育の指導者を養成することを目標としている

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

### 【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

### 【テキスト】

*Sunshine Kids Book 1* (山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)  
*Sunshine Kids Book 2* (高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)  
*Sunshine 1・2・3* (松本青也他 開隆堂出版)  
中学校学習指導要領 外国語 (英語) (文部科学省)  
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

### 【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

## 英語科教育法Ⅳ

山森孝彦

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

### 【授業の目標】

高等学校で教育実習を行う際に必要な心構えと英語教授力の基礎を身につける。具体的目標は次の通りである。

- ・高校生が各学年でどれくらいの文法事項、語彙、英語力を身につけているかある程度予想することができる。
- ・与えられた教材を研究し、高校生に適した効果的な教授法を工夫し、授業案を作成することができる。
- ・考えた授業案にそって授業を行うことができる（発声、視線、発音、板書、生徒とのやりとり、落ち着きなど）。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと班分け（担当部分を決める）  
第2～5回 高校英語教師に求められる力、授業の組み立て方などについての講義  
第6～13回 模擬授業実習  
・数人1組で模擬授業を行う。（教材研究・授業案作り・授業）  
・発表者以外の学生は生徒役もしくは授業分析ノートをつける。  
・毎回授業に対するフィードバックとディスカッションを行う。  
・全員が授業評価シートを毎回提出する。  
第14～15回 教育実習生としての心得についての講義と課題レポート提出

### 【評価方法】

出席状況・作成した教案や毎回の提出物・模擬授業・授業への貢献度を総合して評価する。

### 【テキスト】

Unicorn 英語Ⅰ（文英堂）

### 【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 文部省

## 情報科教育法Ⅱ

松園重弘

### 【授業の概要】

本授業においては、情報科教育法Ⅰにおいて学習した事項について、授業者として、実際の学校の授業でどのように展開するかを学習することを目的として、効果的な授業を実施するために必要な、学習指導案、教材・教具の開発と活用、教育方法について、授業計画の作成と模擬授業を行ない実践的な学習を実施する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

### 【授業の目標】

専門教科「情報」の11科目についてその概要を理解する。

### 【授業計画】

1. 情報Aの指導法  
(1) 教育目標と教育計画  
(2) 教材・教具の活用と開発  
(3) 学習指導案の作成と模擬授業の実践
2. 情報Bの指導法  
(1) 教育目標と教育計画  
(2) 教材・教具の活用と開発  
(3) 学習指導案の作成と模擬授業の実践
3. 情報Cの指導法  
(1) 教育目標と教育計画  
(2) 教材・教具の活用と開発  
(3) 学習指導案の作成と模擬授業の実践
4. 専門教科「情報」の指導法  
(1) 教育目標と教育計画  
(2) 教材・教具の活用と開発  
(3) 学習指導案の作成と模擬授業の実践
5. 総合的な学習の時間と情報化教育について、情報機器を活用した効果的な授業の具体的な展開
6. 情報化技術の発展と学校における情報教育のあり方

### 【評価方法】

提出された学習指導案、レポート等により評価する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 海隆堂出版 2000）  
全員必須とする。（前期と同じテキストです。）

### 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 情報科教育法Ⅰ

松園重弘

### 【授業の概要】

本授業においては、高度情報化社会における学校教育における情報科教育の意義、役割を認識し、情報科の学習指導要領に示された教育の目的を理解するとともに、情報科担当者に要求される教育目標達成に必要な基礎的な知識、技能について実習を織りまぜながら学習する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。教育実習に参加する学生がある場合には、授業計画を変更することができる。

### 【授業の目標】

一般教科「情報A」、「情報B」、「情報C」の概要を理解する。

### 【授業計画】

1. 情報科教育の史的展開と意義の概観
2. 情報倫理、セキュリティの指導法  
(1) 情報科社会に正しく、主体的に参画する態度  
(2) 情報の受信と発信における個人の責任
3. 高度情報化社会における職業倫理、職業観の指導法  
(1) 高度情報化の進展と職業及び職業人としてのあり方  
(2) 情報に関するスペシャリストに求められる諸資格
4. コンピュータ及び情報に関する基本的な知識・技能の指導法
5. 情報システムの設計、管理、運用に関する知識・技能の指導法
6. 情報通信ネットワークの構築、運用管理、活用に関する知識・技能の指導法
7. マルチメディアを活用した表現・処理に関する知識・技能の指導法

### 【評価方法】

提出された報告書により評価する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 海隆堂出版 2000）  
全員必須とする。

### 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 道徳指導法

伊藤昭道

### 【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

### 【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、教育実習で行う「道徳の時間」の指導が適切に行えるよう、その実際を体得する。

### 【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史  
・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程  
・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際  
・道徳教育の目標  
・道徳教育の内容  
・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成  
・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴  
・まとめ

### 【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

講義資料を配布

### 【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介。

## 特別活動指導法

不破民由

### 【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。  
そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

### 【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。  
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

### 【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりと似て、特別活動の独自の価値を考える。
2. 特別活動の歴史の変遷…「どらまンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3. 学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げられない息苦しさというマイナス面を考察する。
4. 生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5. 学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する。  
(1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 等

以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題として取り入れる。

### 【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。出席・普段の授業の参加状況を参考にします。

### 【テキスト】

どらまンボウ青春記(北杜夫 新潮文庫)

### 【参考文献・資料】

特別活動(高取正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房)  
教科外活動の動向(折出健二他編 労働旬報社)  
<子供>の誕生(ワイルド・アリス 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房)  
教義主義の改竄(竹内洋 中公新書)  
立身出世主義(竹内洋 NHKライブラリー)  
立志・苦学・出世(竹内洋 講談社現代新書)  
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折(竹内洋 中央公論新書)  
近現代日本の教義論(渡辺かよ子 行路社)  
学級経営の歴史(志村廣明 三省堂)  
「勉強」時代の幕開け(江森一郎 平凡社)  
<学級>の歴史学(柳治男 講談社選書メチエ)  
運動と日本近代(吉見俊哉他編 青弓社)  
「校則」の研究(坂本秀夫 三一書房)  
教育には何ができないか(広田照幸 春秋社)  
教育がわかる事典(田中智志 日本実業出版社)  
教育に関する私の方法叙述(不破民由 新風舎)

他

## 教育方法

霜田一敏

### 【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。  
テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

### 【授業の目標】

人間回復の立場に立って、今日の教育状況を見直せる力量をつけ、具体的に学校や授業をどう展開したらよいか、その方法が考えられるようになる。

### 【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方  
(1) 中学・高校における学力論と教師論の検討  
(2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法  
(3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法  
(4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法  
(1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法  
(2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法  
(3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは  
(1) 多様化した生徒への対応の仕方  
(2) 中学校における個を生かす学習集団  
(3) 高等学校における個を生かす学習集団

### 【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

### 【テキスト】

子どもの側に立つ授業論(霜田一敏著 明治図書 2,370円)

## 教育方法

前田勝洋

### 【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。  
テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

### 【授業の目標】

具体的な小中高等学校の授業を検討することを中心にしながら、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。

### 【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方  
(1) 中学・高校における学力論と教師論の検討  
(2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法  
(3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法  
(4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法  
(1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法  
(2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法  
(3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは  
(1) 多様化した生徒への対応の仕方  
(2) 中学校における個を生かす学習集団  
(3) 高等学校における個を生かす学習集団

### 【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

### 【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

## 生徒指導(進路指導を含む)

小栗正彦

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。  
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。  
これらの学習をおとして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

### 【授業計画】

- 1 いま学校では…
- 2 いまの生徒たちが育ってきた社会を見てみよう
- 3 「生徒指導の手引き」を読む(生徒指導の意義、「積極的」生徒指導とは、生徒指導の課題、生徒指導の基礎としての人間観)
- 4 青年期の心理と生徒指導
- 5 校則と生徒指導
- 6 教科と生徒指導
- 7 教育問題をドキュメントしたビデオを見て
- 8 新しい「荒れ」やいじめ、不登校についてどう対応するか
- 9 中・高校生徒の進路指導について(フリーター、ニート)

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

「教育関係 基礎資料集」  
必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 生徒指導（進路指導を含む）

加納篤憲

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおり、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、非行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

### 【授業計画】

1. 現代日本における青年期の特徴と問題点
2. 日本における教育観の変遷と21世紀の教育観
3. 生徒指導の基本的観点と今日的課題
4. 生徒指導の方法——集団指導（HR指導を中心に）
5. 生徒指導の方法——個別指導・問題行動をもつ生徒の指導
6. 進路指導の基本的観点と進学・就職指導
7. 人間の在り方を求めて——ヨーロッパ・アジア・日本

以上の項目について学習するが、生徒たちが生きている日本や世界の情勢にも、常に関心を持つことが大切である。

### 【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

### 【参考文献・資料】

学期始めに課題図書数冊を指定。『教師をめざす若者たち』（大橋功）など。

## カウンセリング

富安玲子

### 【授業の概要】

人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。それらを体験的に理解し、傾聴について学ぶ。

### 【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

### 【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

### 【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

### 【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒-教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実践を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

### 【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師・生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 総合演習

小栗正彦 伊藤昭道 後口伊志樹 佐藤成哉 佐藤実芳  
霜田一敏 富安玲子 渡辺かよ子 羽場俊秀

### 【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の9テーマに別れて演習を行なう。（各テーマ20名以内）

- (1) 学校におけるクライシス・マネジメントの問題（後口伊志樹）
- (2) 福祉-障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて—（伊藤昭道）
- (3) みんなの学校問題（小栗正彦）
- (4) 人間と自然環境（佐藤成哉）
- (5) 社会と子育て（佐藤実芳）
- (6) 高齢者福祉の実態と未来（霜田一敏）
- (7) ジェンダーと教育（富安玲子）
- (8) 生涯学習における学校（渡辺かよ子）
- (9) 国際化を考える（羽場俊秀）

### 【授業の目標】

各先生方の示す課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する（プレゼンテーション能力）スキルを学ぶ。

### 【授業計画】

- ※印は後期日程（於 星が丘）
1. 全体、各テーマ別 8月11日 ※1月31日
    - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
    - (2) 各テーマの概要説明（各担当者）
    - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
    - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
  2. 8月29日 ※2月20日  
課題レポートの提出（必要部数の印刷）
  3. 各テーマ別 9月1日 ※2月23日
    - (1) 課題レポートについて報告（1人10～15分）
    - (2) 質疑応答、問題点について討議
  4. 各テーマ別 9月2日 ※2月24日
    - (1) 問題点について分析検討
    - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
  5. 全体 9月8日 ※3月2日
    - (1) グループ代表者の発表（1名15～20分）
    - (2) 担当教員の指導
    - (3) 感想文の作成と提出

### 【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

## 教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

伊藤昭道

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業の目標】

教育実習履修上の心構え、介護等体験実施上の心構えをしっかりと確立すると共に、教育技術・介護等体験の態度を習得する。

### 【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
  - ・前年度実習者からのアンケート結果
  - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
  - ・教育実習の領域
  - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
  - ・実習記録の意義
  - ・実習記録の方法
4. 授業研究
  - ・教材研究、教具の意義
  - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
  - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
  - ・特別支援教育諸学校教育の理解
  - ・障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

### 【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

### 【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布  
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

## 教育実習Ⅰ

伊藤昭道

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

### 【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

### 【授業計画】

- 実習校において、教師としての仕事を行う。
- (1) 学級担任として
    - 朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
    - また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
  - (2) 教科担任として
    - 前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
    - 後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
  - (3) 特別活動として
    - 学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

### 【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

### 【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

## 教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

宮部幸雄

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業の目標】

1. 教師の勤務や業務について理解し、学校教育における教師の役割について、体験的、総合的に理解を深める。
2. 教師として、生徒の指導に必要な、より实际的で専門的な知識と技能を習得する。
3. 教育実践上の研究方法や研究態度を習得する。

### 【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の内容と方法
3. 教育実習記録
  - ・教材研究、教具の意義
  - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
4. 授業研究
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導・事後指導

### 【評価方法】

授業内で発表する。

### 【テキスト】

教育実習を成功させよう 2006年版（小松喬生・次山信男編 一ツ橋書店）

## 教育実習Ⅱ

小栗正彦

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

### 【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

### 【授業計画】

- 実習校において、教師としての仕事を行う。
- (1) 学級担任として
    - 朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
    - また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
  - (2) 教科担任として
    - 前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
    - 後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
  - (3) 特別活動として
    - 学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

### 【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

### 【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。

(詳細は授業にて解説する。)

### 【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展  
生涯学習実践の課題  
生涯学習と社会  
生涯学習と人間  
社会教育の意義  
社会教育施設の概要  
社会教育の内容・方法・形態  
社会教育指導者  
総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

## 国際理解教育論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

### 【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

### 【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
  - (1) 近代化への萌芽
  - (2) 海外視察と帰国後の動向
  - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
  - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
  - (1) 学校教育における国際理解教育
  - (2) 海外留学生等の派遣と受け入れ

### 【評価方法】

レポートにより評価を行う。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 学校経営と学校図書館

小栗正彦

### 【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

### 【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

### 【授業計画】

1. 学校図書館の理念と教育的意義
  - (1) 学校教育における学校図書館の役割
  - (2) 館種別にみた図書館の世界
2. 学校図書館の発展と課題
  - (1) 学校図書館法の成立と展開
  - (2) 国内外の先進事例
  - (3) レファレンスサービスの実践
3. 教育行政と学校図書館
4. 学校図書館の経営  
学校図書館の経営組織のあり方
5. 司書教諭の役割とその課題
6. 学校図書館メディアの内容及構成
7. 学校図書館活動と社会のつながり

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 学習指導と学校図書館

加納篤憲

### 【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

### 【授業の目標】

学校図書館司書および司書教諭に必要な基礎的知識と心得を習得させるとともに、学習指導における学校図書館の重要性について認識させる。

### 【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と問題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

### 【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

### 【参考文献・資料】

特になし

## 学校図書館メディアの構成

中村和夫

### 【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

### 【授業の目標】

1. 学校図書館の各種メディアを特性を理解し、収集、選択する上での諸問題を考察する。
2. 学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
3. これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

### 【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
  - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
  - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
  - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
  - (1) 教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
  - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
  - (3) 「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
  - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
  - (2) FD、CD-ROM等の活字メディアに代わるもの
  - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4. 学校図書館メディアの組織化
  - (1) 分類の意義と分類作業の基本
  - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

### 【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）  
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）

## 読書と豊かな人間性

梅田卓夫

### 【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

### 【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、事例によって見ながら、学校図書館が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

### 【授業計画】

1. 読書のよこごび
  - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
  - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
  - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
  - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
  - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
  - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
  - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
  - (1) 家庭・友人間での読書、対話、読書会
  - (2) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
  - (1) 情報化時代の読書のあり方
  - (2) 愛読書、好きな作家

### 【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

## 【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

## 【授業の目標】

教育の情報化にあつて、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根底となる考え方に焦点を当てる。

## 【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
  - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
  - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
  - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
  - (2) インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
  - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
  - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
  - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
  - (4) 情報メディアの今後の動向とその対応

## 【評価方法】

授業内での課題及び試験による。

## 【テキスト】

使用しない。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。

(詳細は授業にて解説する。)

### 【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展  
生涯学習実践の課題  
生涯学習と社会  
生涯学習と人間  
社会教育の意義  
社会教育施設の概要  
社会教育の内容・方法・形態  
社会教育指導者  
総括

### 【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

## 図書館情報学概論Ⅰ

櫻木貴子

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

### 【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

### 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学/情報学/図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念  
概念・考え方・観点・立場  
定義の多様性と現象の多面性  
情報概念の歴史/情報・知識・データ  
定義の整理のための枠組み/構造的な理解  
認識・認知・ところ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注:「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善 3,800円税別定価)および配布資料

## 図書館情報学概論Ⅰ

村主朋英

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

### 【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

### 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学/情報学/図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念  
情報概念の歴史/定義の多様性と現象の多面性  
構造的な理解: 認知とところ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程
4. 情報の流通過程  
情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程

### 【評価方法】

定期試験

注1)「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の履修を認めない。

注2)「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第2版(丸善)

## 図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実践に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

### 【授業の目標】

「図書館情報学概論Ⅰ」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

### 【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの世界  
図書館の館種ごとの特質/情報システムとしての図書館
2. 協力と競合  
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
3. 図書館員と情報専門職の世界
4. 図書館情報学の未来

### 【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

注1)「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の履修を認めない。

注2)「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第2版(丸善)

## 図書館情報学概論Ⅱ

櫻木貴子

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

### 【授業の目標】

「図書館情報学概論Ⅰ」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

### 【授業計画】

1. 情報の流通過程  
情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2. 図書館・情報サービスの世界  
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合  
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「Ⅱ」の単位を認定しない。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

## 図書館経営論

松下 鈞

### 【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

### 【授業の目標】

図書館運営に基本にあるさまざまな基準と現状の問題点を理解するとともに、地域と情報支援をキーワードとする様々な活動の可能性を考え、それらを実現する方策を検討する。

### 【授業計画】

1. 図書館法成立までの動き
2. 21世紀の図書館界が直面している諸問題
3. 文化芸術振興基本法の動き
4. 総合法律支援法（司法ネット法）の動き
5. インフォームド・コンセントと医療情報支援の動き
6. 中小企業ビジネス支援ポータルサイトなどの動き
7. 生涯学習と図書館サービス
8. 指定管理者制度、PFI、アウトソーシングと図書館
9. 図書館員と労働裁判
10. 顧客満足、目標管理の図書館経営
11. 図書館活動の評価法
12. ネットワーキングとコンソーシアム
13. 学術情報政策と情報専門職の養成

### 【評価方法】

出席（30%）、小レポート（30%）、最終レポート（40%）

### 【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 図書館経営論

小木眞眞

### 【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

### 【授業の目標】

図書館経営にかかわる組織・管理運営・各種計画について、実例を紹介しながら理解を深める。  
最近の経営環境の変化に合わせて、新しい考え方をできる限り紹介する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション・図書館運営の実際・最近起っている事
2. 図書館の経営論の意義・あり方
3. 自治体行政と図書館（「あなたにとっての図書館」レポート提出）  
関係法規、予算、議会の関係等
4. 図書館業務の理論と実際  
「図書館学の五原則」等
5. 図書館の組織  
「アウトソーシング」等
6. 図書館の職員  
「館長論」「専門的職員」等
7. 図書館の計画とマーケティング  
「図書館開設計画」「ファンドレイジング」等
8. 図書館の施設整備計画  
「スペース計画」「安全・快適・デザイン」等
9. 図書館ネットワークの形成  
「図書館相互協力」「インターネット」等
10. 図書館業務・サービスの評価（身近な実例についてのレポート提出）  
「パフォーマンス指標」「アンケート調査」等
11. まとめ  
※講義の中でレポート提出を指示します。2回程

### 【評価方法】

期末テスト実施—記述式。出席点、レポート、記述試験の総合評価。

### 【テキスト】

改訂図書館経営論（高山正也編著 樹村房）

### 【参考文献・資料】

図書館経営論（竹内紀吉著 教育資料出版会）  
図書館関係新聞記事等を適宜紹介する。

## 情報サービス基礎論Ⅰ

逸村 裕

### 【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、図書館情報学の観点から現代社会における特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

### 【授業の目標】

変革期における情報のあり方と図書館を中心とするその対応について理解を深めることを目標とする。

### 【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
2. 産業と職業における情報とITの意味
3. 情報サービス事例1：メディア産業と通信
4. 情報サービス事例2：通信と出版産業
5. 情報サービス事例3：図書館情報
6. 情報サービス事例4：マルチメディアリソース
7. 情報サービス事例5：電子ジャーナル
8. 情報サービス事例6：電子ブック
9. 情報サービス事例7：情報分析・シンクタンク
10. 情報産業と大学
11. 情報化社会における知的所有権問題
12. 情報化社会と情報倫理
13. 情報産業における勤労観と職業倫理  
講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。  
「インターネット講習会」を必ず受講しておくこと。

### 【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。  
詳細は初回講義の際に説明する。

### 【テキスト】

変わりゆく大学図書館（逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005）

### 【参考文献・資料】

図書館情報学用語辞典 第2版（丸善 2002）

## 情報サービス基礎論 I

松下 鈞

### 【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論 I」では、社会の多様化と情報の多様化と膨大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

### 【授業の目標】

電子化する情報社会における図書館が直面する諸問題と図書館に期待されている情報サービスの多様性を理解し、21世紀の図書館と図書館員の活動の可能性を考える。

### 【授業計画】

1. イントロダクション「情報の自分史」
  2. 検索の達人をめざす
  3. 情報環境の変化と図書館
  4. こどもと図書館
  5. お年寄りと図書館
  6. 地域におけるビジネス情報支援
  7. 地域における医療情報支援
  8. 地域における法律情報支援
  9. 学術コミュニティと情報変革
  10. 大学図書館の諸問題
  11. 専門図書館の諸問題
  12. 指定管理者制度、アウトソーシング
  13. 求められる情報専門家
  14. 求められる情報専門家
- 授業は講義を中心とし、グループ学習を並行させて進めます。受講に先立って次のことをしておくこと。
- a) 「インターネット講習会」を受講しておくこと。
  - b) Googleの「ヘルプ」をよく読み、検索オプションなどさまざまな機能を試し、検索法などで初めて知り、驚いた機能に関して「Googleで目からウロコ」というテーマの感想文(1600字程度)を授業開始前に提出する。

### 【評価方法】

出席(25%)、提出物(25%)、グループ学習への積極的な参加(20%)、期末レポート(30%)

### 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 情報サービス基礎論 II

松下 鈞

### 【授業の概要】

「情報サービス基礎論 I」の履修を前提とする。  
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

これまで学んだ図書館情報学の断片的な知識を、ある図書館の建築計画を立案する過程を通して総合的に理解し、人々の図書館機能への期待を如何に具体化するかを考える。

### 【授業計画】

1. イントロダクション
  2. ある地域の地形、人口、産業などの構造
  3. ひとびとの生活、その地域の歴史と文化
  4. 競合する文化情報施設
  5. 建築計画立案の基本的な考え方と技術
  6. 情報サービス施設を設置する環境
  7. サービス内容と施設・設備
  8. バリアフリーとユニバーサル・デザイン
  9. 情報支援サービス
  10. 利用者像
  11. スタッフ像
  12. ランガタンの「図書館学の5法則」
- ある地域に住むひとびとのニーズに応えた情報サービス施設を立案します。  
その過程で机上の図書館情報学の学習では学べなかったことを自ら学ぶことが期待されます。授業はグループ学習を中心に行います。グループ編成は担当教員が行います。

### 【評価方法】

出席(25%)、グループ研究への積極的な参加(20%)、グループ発表(20%)、最終個人レポート(35%)

### 【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 情報サービス基礎論 II

逸村 裕

### 【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報通信技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス(奉仕・直接サービス)
  - A. 貸出閲覧
  - B. レファレンスサービス
  - C. 相互協力
  - D. 視聴覚資料
  - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス(資料組織・間接サービス)
  - A. 選書
  - B. 取書
  - C. 整理
  - D. 雑誌
  - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
  - A. 蔵書
  - B. 人的サービス
  - C. 図書館アメニティ
  - D. コンソーシアム
  - E. その他のサービス

### 【授業の目標】

変革期における情報のあり方と図書館を中心とするその対応について理解を深めることを目標とする。

### 【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。  
「インターネット講習会」を受講しておくこと

### 【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。詳細は初回講義の際に説明する。

### 【テキスト】

変わりゆく大学図書館(逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005)

### 【参考文献・資料】

図書館情報学用語辞典 第2版(丸善 2002)

## レファレンスサービス論

佐藤義則

### 【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習III(情報と文献の探索)」と相互に補充するものとして扱う。

### 【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開、利用者と担当者の関わり合い、今後のサービス展開について理解すること。

### 【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンス質問を起点とするレファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

### 【評価方法】

試験を実施する。出題形式等については、講義の中で説明する。

### 【テキスト】

レファレンスサービス: 図書館における情報サービス(長澤雅男著 丸善)

### 【参考文献・資料】

講義において指示する。

## レファレンスサービス論

櫻木貴子

### 【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

### 【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開、利用者と担当者の関わり合い、今後のサービス展開について理解すること。

### 【授業計画】

1. レファレンスサービスの特徴・機能・組織
2. レファレンスプロセス
  - ・質問の受付から内容の確認へ
  - ・質問内容の分析から探索の実行へ
  - ・質問回答とレファレンスプロセスの終結
3. レファレンスサービスのための情報源

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

### 【参考文献・資料】

講義において指示する。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。  
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
  - 学術論文の特徴
  - 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
  - JDream
  - DIALOG
  - CSA
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

伊藤真理

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。  
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
  - 学術論文の特徴
  - 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
  - JDream
  - DIALOG
  - CSA
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。  
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
  - 学術論文の特徴
  - 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
  - JDream
  - DIALOG
  - CSA
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

中島玲子

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索および情報活用における実践的なスキルを身につける。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索  
学術論文  
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス、統制語彙
5. オンライン情報検索システム
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技術を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

- [演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]
1. 文献探索と情報探索
  2. 各種情報源の特徴
  - 2.1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
  - 2.2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
  - 2.3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
  - 2.4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
  - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
  - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
  - 2.7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
  - 2.8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
  - 2.9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
  3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

菅野育子

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技術を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

- [演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]
1. 文献探索と情報探索
  2. 各種情報源の特徴
  - 2.1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
  - 2.2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
  - 2.3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
  - 2.4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
  - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
  - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
  - 2.7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
  - 2.8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
  - 2.9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
  3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

松井美紀

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技術を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

- [演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]
1. 文献探索と情報探索
  2. 各種情報源の特徴
  - 2.1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
  - 2.2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
  - 2.3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
  - 2.4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
  - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
  - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
  - 2.7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
  - 2.8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
  - 2.9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
  3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

# 情報メディア基礎論 I

菅野育子

## 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

## 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

## 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

## 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

## 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

# 情報メディア基礎論 II

菅野育子

## 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

## 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

## 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

## 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

## 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

# 情報メディア基礎論 I

櫻木貴子

## 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

## 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

## 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

## 【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

## 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

# 情報メディア基礎論 II

櫻木貴子

## 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

## 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

## 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

## 【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

## 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

菅野育子

### 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

### 【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

### 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  - 3.1 美術分野
  - 3.2 音楽分野
  - 3.3 文学
  - 3.4 ビジネス分野
  - 3.5 法律分野
  - 3.6 心理学
  - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

### 【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

専門資料論（JLA図書館情報学テキストシリーズ）（日本図書館協会）

## 情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

山崎茂明

### 【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オアサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

### 【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

### 【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

### 【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

### 【テキスト】

論文投稿のインフォーマティクス（山崎茂明著 中外医学社）

### 【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌（Lambert, J.著 日本図書館協会）  
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W.著 出版同人）  
歴史としての学問（中山茂著 中央公論社）  
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著 中外医学社）  
医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明著 日本医書出版協会）  
研究評価（根岸正光・山崎茂明著 丸善）

## 情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

松井美紀

### 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

### 【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

### 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  - 3.1 美術分野
  - 3.2 音楽分野
  - 3.3 文学
  - 3.4 ビジネス分野
  - 3.5 法律分野
  - 3.6 心理学
  - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

### 【評価方法】

平常点およびレポートによって評価する。

### 【テキスト】

三浦逸雄,野末俊比古編.専門資料論.東京,日本図書館協会, 2005.140p.(JLA図書館情報学テキストシリーズ,8). (ISBN : 4820405128)

この他に、配付資料。

## 情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オアサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

### 【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

### 【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

### 【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

### 【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌（Lambert, J.著 日本図書館協会）  
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W.著 出版同人）  
歴史としての学問（中山茂著 中央公論社）  
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著 中外医学社）  
医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明著 日本医書出版協会）  
研究評価（根岸正光・山崎茂明著 丸善）

## 資料組織論

伊藤真理

### 【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

### 【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。

目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

### 【授業計画】

- 第1回 情報の組織化とは
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 メタデータ
- 第6回 各種目録規則
- 第7回 AACR 2 r, NCR
- 第8回 典拠コントロール
- 第9回 アクセス・ポイントの選定；標目形
- 第10回 各種記述フォーマット
- 第11回 主題目録概要
- 第12回 分類法
- 第13回 主要分類法、図書記号法
- 第14回 主要件名標目表

### 【評価方法】

レポート、試験

### 【テキスト】

初回時にテキスト配布。

### 【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題（国立国会図書館編 日本図書館協会、2002）  
文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著 勁草書房、1998）  
図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界-（宮澤彰 丸善、2002）

## 資料組織演習

伊藤真理

### 【授業の概要】

演習を通して、「資料組織論」で学んだ理論について習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

### 【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

### 【授業計画】

- ・ 目録作業の概要
- ・ 記述目録法
  - ISBD
  - 書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
  - アクセス・ポイントの選定
  - 典拠コントロール
- ・ 主題目録法
  - 分類：日本十進分類法
  - 主題件名標目表：基本件名標目表

### 【評価方法】

平常点、実習およびレポートの総合評価

### 【参考文献・資料】

資料組織演習 改訂新版（北克一著 M.B.A., 2003年）  
「資料組織論」で配布したテキスト

## 資料組織論

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

### 【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。

目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

### 【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則
- 第6回 記述目録（1）AACR 2 r, NCR
- 第7回 記述目録（2）アクセス・ポイントの選定；標目形；典拠コントロール
- 第8回 記述目録（3）各種記述フォーマット
- 第9回 メタデータ
- 第10回 主題目録（1）概要
- 第11回 主題目録（2）分類法
- 第12回 主題目録（3）主要分類法
- 第13回 主題目録（4）主要件名標目表
- 第14回 期末テスト

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験

### 【テキスト】

初回時にテキスト配布。

### 【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題（国立国会図書館編 日本図書館協会、2002）  
文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著 勁草書房、1998）  
図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界-（宮澤彰 丸善、2002）

## 資料組織演習

松井美紀

### 【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

### 【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

### 【授業計画】

- ・ 目録作業の概要
- ・ 記述目録法
  - ISBD
  - 書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
  - アクセス・ポイントの選定
  - 典拠コントロール
- ・ 主題目録法
  - 分類：日本十進分類法
  - 主題件名標目表：基本件名標目表

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

### 【テキスト】

資料組織演習 改訂新版（北克一著 M.B.A., 2003年）

### 【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

## 資料組織演習

櫻木貴子

### 【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目指す。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

### 【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
  - ISBD
  - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
  - アクセス・ポイントの選定
  - 典拠コントロール
- ・主題目録法
  - 分類：日本十進分類法
  - 主題件名標目表：基本件名標目表

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

### 【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A., 2003年)

### 【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

## 情報学Ⅲ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

### 【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関(歴史の流れ)を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

### 【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (Vickery 著 税別定価3,800円)  
図書館情報学用語辞典 (丸善)

## 図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

近藤洋子

### 【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

### 【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的な資料にあたって学ぶ。サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。  
図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

### 【授業計画】

1. 公立図書館の児童サービス
  - (1) 子どもの読書と児童図書館
  - (2) 児童図書館の意義と歴史
  - (3) 児童用資料の種類と特性 (1) 絵本・文学
  - (4) 児童用資料の種類と特性 (2) ノンフィクション・その他
2. 児童サービスの実践
  - (5) 児童室の企画・運営、児童室施設・設備、展示・広報活動
  - (6) 資料収集・蔵書構成、選書、貸出
  - (7) 予約・レファレンス、ブックトーク
  - (8) よみかきかせ、ストーリーテリング、集会活動
3. 児童サービスの対象
  - (9) 乳幼児・ヤングアダルト・一般・研究者
4. 類似機関との連携
  - (10) 学校・保育園・幼稚園・病院・文庫等
5. 児童図書館員の専門性
  - (11) 養成と採用 ボランティア
6. (12) 児童サービスの現在と今後 見学レポートによる
7. (13) 実習・ストーリーテリング

### 【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

### 【テキスト】

別に使用せず、そのつどプリントを用意する

### 【参考文献・資料】

児童サービス論 新訂版 (堀川照代編著 日本図書館協会)  
児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)  
児童図書館のあゆみ (児童図書館研究会編 教育史料出版会)

## 情報学Ⅲ (図書館と情報検索の歴史)

松井美紀

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

### 【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関(歴史の流れ)を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

### 【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

### 【評価方法】

出席点と定期試験 ※出題形式については授業にて明示

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (勁草書房 税別定価3,800円)  
図書館情報学用語辞典 (丸善 税別定価3,800円)

## 情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱う。それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

### 【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

### 【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代（1）学術情報流通システムの成立
2. 〃（2）知の環境化（百科事典、国立図書館、公共図書館）
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（Vickery著 勁草書房）  
図書館情報学用語辞典（丸善）

## 個人コミュニケーション論Ⅰ（認知心理学）

岩原昭彦

### 【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかについても検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

### 【授業の目標】

ヒトの認知機能（情報処理形式）の特徴について理解する。また、ヒトをとりまく環境で生じる諸現象を科学的にとらえる思考力を養う。

### 【授業計画】

1. サプリミナル・パーセプション
2. 沈黙の手がかり
3. 意識できない知識
4. 健忘症患者の隠された能力
5. なぜ、ずっと覚えていられないのか
6. 記憶の混乱と偽りの記憶
7. 嫌な出来事が忘れられない
8. 言葉と心
9. 言葉の働き
10. 言葉が失われるとき
11. 言葉が意識を生む
12. 自己意識の起源にせまる

### 【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱う。それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

### 【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

### 【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代  
学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2. 図書館の世紀
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. 図書館学と情報学
7. 未来を求めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

### 【評価方法】

出席点と、定期試験 ※出題形式については授業にて明示

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房 税別定価3,800円）  
図書館情報学用語辞典（丸善 税別定価3,800円）

## 情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

三和義秀

### 【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るトウールの活用方法、情報メディアと情報通信（ネットワーク）技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

### 【授業の目標】

現代社会における情報メディアの意義、機能、及び活用方法について理解を深める。

### 【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

### 【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により総合評価を行う。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

### 【参考文献・資料】

授業時に提示する。

# 情報メディア論 I (マルチメディア)

松井美紀

## 【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

## 【授業の目標】

情報技術活用のための基礎知識を身につけることを目標とする。

## 【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

## 【評価方法】

- (1) 出席状況 (2) 定期試験 (またはレポート)
- 以上の結果により評価を行う。

## 【テキスト】

授業時に提示する。

## 博物館概論

長谷川銑治

### 【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

### 【授業の目標】

学芸員として必要な基礎となる知識を学習する。

### 【授業計画】

- ア はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発端Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- カ 近代博物館の発端Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
  - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
  - ・国威の宣揚と博物館
  - ・通俗教育による教化と博物館
  - ・十五年戦争と博物館

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論Ⅰ

長谷川銑治

### 【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

### 【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

### 【授業計画】

- ア 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- イ 博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- キ 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
- コ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館概論

早川正一

### 【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

### 【授業の目標】

この科目は、後期におこなう「博物館学各論Ⅰ」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

### 【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性  
専門職員としての「学芸員」とは何か  
博物館と美術館の発達とその時代背景  
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性  
博物館の分類と現代性  
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮  
博物館の相互協力と情報の活用  
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながるため、注意されたい。  
長谷川銑治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅰ

早川正一

### 【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

### 【授業の目標】

この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

### 【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。  
博物館や美術館の展示と陳列構造  
博物館がとり扱う資料の収集と保存  
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究  
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育  
文化財の種類と保護にかかわる諸問題  
生涯学習の必要性と博物館の関連事業  
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながるため、注意してほしい。  
博物館学論考（長谷川銑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅱ

長谷川 銑治

### 【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

### 【授業の目標】

学芸員として必要な基本となる事項を実践をとおして学習する。

### 【授業計画】

ア「物」が博物館資料と位置づけられることを考える。

イ 博物館資料の実際について具体的に学ぶ。

- 1 資料の収集
- 2 資料の取扱い
  - ・掛軸
  - ・古文書 ・和装本
  - ・やきもの ・茶碗
  - ・瓦
  - ・刀、太刀

3 資料の整理・保存

4 資料の保全

ウ 資料情報の管理についてその実際を探る。

エ 博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論Ⅱ

川合 剛

### 【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

### 【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

### 【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術  
拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術  
掛け軸・卷子・和本・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術  
ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

### 【評価方法】

実技を行う。出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

## 博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

### 【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

### 【授業の目標】

博物館において、「資料」とはどのような存在かを知り、その取扱いと活用方法について学ぶことが目標である。

### 【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取扱い……基本資料の取扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。  
やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。  
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

### 【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 博物館実習

長谷川 銑治

### 【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

### 【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

### 【授業計画】

ア 展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

- 1 展示とは
- 2 展示のポイント
  - ・動線 ・視線 ・照明 ・温度 ・湿度
- 3 展示の施設
- 4 展示のプロセス
- 5 展示と保全

イ 生涯学習が重要な課題である現代社会にあつて、博物館が果たす役割を考える。

ウ 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。

- 1 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
- 2 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
- 3 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
- 4 県外実習……2、3に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

### 【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論（長谷川 銑治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館実習

秋元悦子

### 【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

### 【授業の目標】

展示についての基礎的な手法を学び、その上で見学会を通して、様々な展示の手法や計画を知ることが目標の一つである。

また、自ら展示企画することで、博物館の展示ができあがるまでの流れをシミュレートすることを目標としている。

### 【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の企画および実習……各自で企画した展覧会の計画書を作成し、また展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

### 【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

### 【テキスト】

新訂博物館学概論（長谷川銆治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業の目標】

わが国のこれまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

### 【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展  
生涯学習実践の課題  
生涯学習と社会  
生涯学習と人間  
社会教育の意義  
社会教育施設の概要  
社会教育の内容・方法・形態  
社会教育指導者  
総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

## 博物館実習

松村冬樹

### 【授業の概要】

「展示」は博物館における「顔」とも評されるが、最高の広報普及活動でもある。この授業では、さまざまな施設の見学を含め、「展示」の知識と実践を学ぶ。

### 【授業の目標】

博物館や美術館の専門知識を基礎とした鑑賞法を学ぶとともに、社会人として、ゆたかな教養をはぐむための「考え方・学び方」を習得してもらう。

### 【授業計画】

「展示」を疑似体験できるような「実技」の時間をできるだけ多くとる。適宜、プリントを配布する。

- (a) 「展示」とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の実際（仮想展覧会企画）
- (d) 展示と解説
- (e) 印刷物（ポスター、ピラ、図録）
- (f) まとめ

- \* 1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
- \* 2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
- \* 3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
- ※ \* 2、\* 3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

### 【評価方法】

出席状況は重視する。意欲や、館務実習では必要な社会常識も評価の対象とする。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銆治 戸谷印刷）

## 視聴覚教育メディア論

藤井信

### 【授業の概要】

情報社会における視聴覚教育の特性や情報・視聴覚機器の持つ機能、宗教と視聴覚との関連、メディアリテラシーの観点から情報教育のあり方、更には、学芸員としての博物館・美術館等における視聴覚的展示や補助資料に関することを論じていきたい。

### 【授業の目標】

視聴覚教育の意義・役割を理解する。情報メディアの特性を把握し送り手と受け手の立場からメディアリテラシーを理解する。展示・解説等における視聴覚・情報メディアの活用を追求する。

### 【授業計画】

- 1 視聴覚教育の意義
  - 1-1 視聴覚教育の目標
  - 1-2 視聴覚教材の役割と特性
  - 1-3 情報機器・視聴覚機器と機能
- 2 宗教における視聴覚の役割
  - 2-1 宗教における荘厳
  - 2-2 宗教における音声
  - 2-3 宗教における絵画・彫刻
- 3 情報の活用とリテラシー
  - 3-1 情報とメディア
  - 3-2 情報の記録と保存
  - 3-3 情報の信憑性
  - 3-4 プレゼンテーションの意義と機能
  - 3-5 情報モラル
  - 3-6 マルチメディア リテラシー
- 4 博物館・美術館におけるプレゼンテーション
  - 4-1 展示の機能と効果
  - 4-2 補足資料

### 【評価方法】

レポートおよび期末テストで評価する

### 【テキスト】

特になし  
プリントを配布

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する

## 教育学概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の習得とそれに基づく具体的な諸問題について考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に重点を置いて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていくことにする。その際、取り上げる題材としてプリントやVTRを使用して理解を深めていきたい。

### 【授業の目標】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視点から理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

### 【授業計画】

- 1-2 教育学の概念
- 3-4 教育学の歴史
- 5 教育学の課題
- 6-8 学校と教育
- 9-11 社会と教育
- 12-14 家庭と教育
- 15 総括

### 【評価方法】

主に期末試験により評価するが、講義中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 美術史

高橋秀治

### 【授業の概要】

美術の歴史をつくってきた美術家たちはその生きた時代の動きと無関係に作品を生み出したのではなく、常にその背景と共にあります。美術が社会を映す鏡という視点に立ち、19世紀末から今日に至る西洋近現代美術のありさまを社会的、文化的あるいは思想や、政治、人々の生活などの背景と結びつけながら理解していきます。

### 【授業の目標】

美術作品を鑑賞するときに、単に表現上の技法や構成などを分析的に理解するにとどまらず、作品の生れた時代的、社会的あるいは文化的背景まで含めた幅広い視野の必要性を理解できるようになることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1~4 印象派からシュルレアリスムへ
  - ・産業革命と芸術
  - ・写真と絵画
  - ・時間表現
  - ・心理学
- 5~8 激動の時代と美術
  - ・第一次世界大戦
  - ・反芸術
  - ・第二次世界大戦
  - ・工業社会
- 9~12 アメリカ美術の時代
  - ・巨大絵画
  - ・アメリカン・ドリーム
  - ・文明の廃棄物
  - ・エコロジー
- 13~15 ニューメディアと美術
  - ・ニューメディア
  - ・身体表現

### 【評価方法】

出欠を確認し、評価に反映させる。ワークシートや感想・質問などを記すフィードバックシートなどを適宜配布、回収して出欠の確認に代えらるとともに内容を評価する。また、授業で自分の考えを表明したり質問をする姿勢もあわせて評価する。

### 【テキスト】

とくになし

### 【参考文献・資料】

必要により授業内で紹介する。

## 民俗学

谷沢 明

### 【授業の概要】

なにげなくかかしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

### 【授業の目標】

日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り返しにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

### 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と生活文化

### 【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

## 文化史

秋元悦子

### 【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用して文化的特質を考察してゆく。

また、学芸員課程の一環として各資料の所在調査の方法や活用法も紹介していく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料(ビデオ・OHCなど)を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

### 【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。

本講座では、日本の文化に多大な影響を与えた「中国」の文化を例として、その地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解説することができることを目標としている。

### 【授業計画】

1. 履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2. 歴史地理学概説
3. 中国と日本の自然地理を知る
4. 自然地理と歴史の関係概説 史前期から近代まで  
ユーラシア大陸の歴史と中国の王朝交代  
中国歴代王朝と都の位置
5. 中国人の地域概念  
『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
6. 古代中国の地域と現状  
夏殷周三代の歴史とその遺跡
7. 中国の気候変遷と歴史の関係
8. 地形図にみる地域と歴史  
中国地形図の種類と現状

### 【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価する。(毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。)期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

### 【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国(陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社)  
また、授業中に各種文献を紹介する。

## 【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを確認・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、即ち「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、即ち「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。このために、近年は自然科学的分野との共同研究が活発化している。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、民俗学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、学際的な道を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからである。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物を活用する際に必要不可欠な視点であると考えたい。

講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

## 【授業の目標】

多くの博物館・資料館では考古資料が収蔵・展示されていることから、学芸員として必要な考古学及び考古資料に関する基礎的な知識の修得を目的とする。

## 【授業計画】

- 1 考古学の理念と方法論
  - 2 日本考古学の発展 ア 原始
  - 3     "                  イ 古代・中世
  - 4     "                  ウ 近世以降
  - 5 文化財としての遺跡・遺物
- 随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

## 【評価方法】

出席状況、数回のミニ・レポートにより判定する。

## 【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

## 【参考文献・資料】

特になし。

## 英語海外セミナー I (米国)

担当者未定

### 【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は8月中旬から9月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2005年度実施研修プログラムにおける1日(9:00~15:20)の学習内容は、以下の通り:

- 午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
- 午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト(音楽/芸術・ニューズレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。)

### 【授業の目標】

- \* 英語表現能力を高めること。
- \* アメリカおよびウエスト・バージニア地方の文化・社会を理解すること。
- \* ウェスト・バージニア大学のアメリカ学生および各国留学生との交流により国際性を涵養すること。
- \* 海外生活を通して、自立性を養成すること。

### 【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。(全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞在しない。)

### 【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

### 【テキスト】

現地にて用意される。

### 【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

## 米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

### 【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG)との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

### 【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

### 【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

### 【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

### 【テキスト】

米国側提出の英文資料

### 【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

## 英語海外セミナー II (オーストラリア)

NORRIS, Harry T.

### 【Course description】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

### 【Course objectives】

This course hopes to improve student's fluency and confidence in using English. Being emerged in English, it is hoped students will stop translating and interpreting into Japanese, but to understand and think in English.

This ability will assist the students greatly in the listening comprehension section of the TOEIC test.

### 【Course schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and the interactive science museum "Questacon".

The course will conclude with a 4 day excursion to Jervis Bay and then on to Sydney, activities and sight seeing are preplanned.

### 【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

### 【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

## 中国語海外セミナー I (中国)

馮富榮

### 【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間の中国語研修を行う。
- ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
- ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
- ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
- ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
- ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論 I の講義内容と対応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

### 【授業の目標】

研修に参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って2ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の3級を取ることを目標とする。

### 【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

### 【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

### 【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

# 韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

キム ソヨン

## 【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

1. 韓国語研修
  - a. 梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
  - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
  - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
  - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2. 韓国文化研修
  - a. 芝居鑑賞
  - b. 板門店の訪問
  - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
  - a. 毎週1回程度の頻度
  - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
  - c. テーマ、「韓国と日本の大学生生活を語る」、「地域探訪(文化財踏査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

## 【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活に必要な意思疎通のための韓国語(サブバイバル韓国語)を身に付け、梨大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

## 【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月：数回の事前研修
- 8月：現地研修
- 9～11月：事後研修および報告書のまとめ

## 【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

## 【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部)中  
その他は特になし

# Japan's Global Interface I

藤井正志 森下允之 福本明子 真田幸光 JOLLY, James A.

## 【授業の概要】

本講義は、日本のビジネスの国際的側面を中心に議論し、日本社会・文化をより深く認識すると、および異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

The omnibus lectures will be conducted in English and mainly introduce the global aspect of Japanese business to students. Focusing on Japan's global interface, students will obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

This lecture is open to:

- Special Credit Auditors (exchange students only)
- Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture
- Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

## 【授業の目標】

日本のビジネスの国際的側面を中心とした英語の授業を通して、日本社会・文化をより深く認識すること、および異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える力を養うこと。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on the global aspect of Japanese business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

## 【授業計画】

Schedule

1	FUJII, Masashi	Introduction
2	FUJII, Masashi	Business Society in Japan
3	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
4	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
5	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
6	SANADA, Yukimitsu	East Asian Economy and Japan
7	SANADA, Yukimitsu	East Asian Economy and Japan
8	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
9	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
10	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
11	JOLLY, James	International Business and Law
12	JOLLY, James	International Business and Law
13	JOLLY, James	International Business and Law

## 【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

## 【テキスト】

To be announced

## 【参考文献・資料】

To be announced

# Japan's Global Interface II

藤井正志 太田浩司 宮田 Susanne ブイ チトルン  
國信潤子 梅田敏文 JOLLY, James A. 福本明子

## 【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan's global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: Special Credit Auditors (exchange students only) Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

## 【授業の目標】

国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマで英語で行われる授業を通して日本の文化、ビジネス、社会および異文化理解を深めることを目的とする。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on cultural exchange, international cooperation and international business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business and inter-cultural exchange.

## 【授業計画】

1	FUJII, Masashi	Introduction
2	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
3	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
4	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
5	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
6	BUI, Chi Trung	Intercultural Communication Through NPO Activities
7	KUNINOBU, Junko	Gender Relations in Japanese Society
8	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
9	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
10	FUKUMOTO, Akiko	History and Representations
11	FUKUMOTO, Akiko	History and Representations
12	JOLLY, James	Developing International Business Practices
13	JOLLY, James	Developing International Business Practices

## 【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

## 【テキスト】

To be announced

## 【参考文献・資料】

To be announced

# スポーツ特殊講座

松田秀子

## 【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

## 【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

## 【授業計画】

【ボウリング】

1. 実習日時 平成18年9月6日(水)・7日(木)・8日(金)  
11日(月)・12日(火)・13日(水)  
計6日間 9:30~12:40
2. 説明会 日時 平成18年7月5日(水) 12:30~13:15  
場所 長久手キャンパス体育館1階 多目的室  
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。  
参加できない場合は事前に長久手キャンパス  
健康科学教育センターに問い合わせること。  
説明会の欠席者は受講を認めません。
3. 場所 星ヶ丘ボウル
4. 実習費 6,000円  
(平成17年度のものでありますので変更する場合があります)
5. 定員 60名
6. 内容

- 1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
- 2日目 ボウリングの歴史、基本動作
- 3日目 ボールのコントロール、軌道調整
- 4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
- 5日目 レーンコンディションとボールの曲がり  
ストライクアングルの実践練習
- 6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

## 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## スポーツ特殊講座

松田秀子

### 【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

### 【授業の目標】

スケートの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

### 【授業計画】

〔スケート〕

1. 実習日時 平成19年2月7日(水)・8日(木)・9日(金)  
13日(火)・14日(水)・15日(木)  
計6日間 9:30~12:40
2. 説明会 日時 平成19年1月10日(水) 12:30~13:15  
場所 長久手キャンパス体育館1階 多目的室  
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。  
参加できない場合は事前に長久手キャンパス  
健康科学教育センターに問い合わせること。  
説明会の欠席者は受講を認めません。
3. 場所 名古屋スポーツセンター(大須)
4. 実習費 7,200円  
(平成17年度のものでありますので変更する場合があります)
5. 定員 40名
6. 内容  
1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、水上歩行・両足滑走  
2日目 自然滑走、正しい押し出し  
3日目 フォアスケータイング・カーブ滑走  
4日目 ストップ、バックスケータイングの基本  
5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン  
6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

### 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## 中級簿記(2級程度)A \* 商業簿記

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ(3時間)ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記(2級程度)Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本支店会計
- 第13回 総まとめ
- 第14回 単位認定試験第1回
- 第15回 単位認定試験第2回

### 【評価方法】

2回の単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 初級簿記(3級程度) \* 基礎総合

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。前期は2コマ(3時間)ずつ週2回のペースで、後期は2コマ(3時間)ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売買の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説(補助簿、試算表、伝票対策)
- 第7回 決算整理(売上原価)、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理(貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越)
- 第9回 決算整理(消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金)
- 第10回 直前総まとめ問題集解説(仕訳、精算表対策)
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記(2級程度)B \* 工業簿記

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ(3時間)ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記(2級程度)Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ
- 第14回 単位認定試験第1回
- 第15回 単位認定試験第2回

### 【評価方法】

2回の単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記（2級程度）C \*実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）B \*会計学

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。夏季集中授業時間に集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理I
- 第6回 一時差異等の会計処理II
- 第7回 本店支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結I
- 第10回 連結会計、取得後連結II
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）A \*商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買I
- 第3回 特殊商品売買II
- 第4回 特殊商品売買III
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産I
- 第7回 固定資産II
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金I
- 第10回 引当金II、退職給付会計I
- 第11回 退職給付会計II、社債I
- 第12回 社債II、資本I
- 第13回 資本II
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）C \*原価計算

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析I
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析II
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制I
- 第5回 予算統制II、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定I
- 第8回 業務的意思決定II
- 第9回 業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意決定I、設備投資の意決定
- 第11回 構造的意決定II
- 第12回 構造的意決定III
- 第13回 戦略的原価計算I、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）D \*工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。春季集中授業期間および春季特別授業期間に、集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会计学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算Ⅰ
- 第4回 部門別計算Ⅱ
- 第5回 実際総合原価計算Ⅰ、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算Ⅱ、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算Ⅲ、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
- 第11回 標準原価計算Ⅰ
- 第12回 標準原価計算Ⅱ、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算Ⅲ、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）E \*実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト